工　事 番　号						

設計年度	令和　6　年度	雨水排水ポンプ場耐水化工事（本郷第1雨水ポンプ場）　仕様書 公共下水道事業 三原市本郷南五丁目 仕　様　書
施工月日	令和　　年　　月　　日	
施工方法	請　　負	
工事期間		

工　事　概　要	起　工　理　由
本郷第１雨水ポンプ場耐水化工事 建築工事　　一式 機械設備工事　一式 電気設備工事　一式	

三　原　市

特　記　仕　様　書

第１章　総則

第１節　適　用

1　本特記仕様書は、三原市本郷南五丁目　雨水排水ポンプ場耐水化工事（本郷第１雨水ポンプ場）に適用する。

2　本特記仕様書に記載のない事項については、次によるものとする。

・土木工事共通仕様書　令和５年８月　（適用区分「広島」及び「広島県」）
　広島県の調達情報のページ（https://chotatsu.pref.hiroshima.lg.jp/）－「技術管理基準等」に掲載している。

・下水道土木工事必携(案)　2021 年度　公益社団法人日本下水道協会

・下水道用設計指針と設計標準図　平成 26 年度改訂版　三原市

・その他各工種特記仕様書による。

第２節　部分引渡し

建設工事契約約款第 39 条により、本工事の内、部分引渡しの必要が生じた場合は、当該部分の検査を受け部分引渡しを行うこと。

第３節　検査

三原市工事検査規程の定めるところによる。

第４節　情報共有システム

1　本工事は，受発注者間の情報を電子的に交換・共有することにより，業務の効率化を図る情報共有システムの対象である。なお，運用にあたっては「広島県工事中情報共有システム運用ガイドライン」（以下「ガイドライン」という。）に基づき実施すること。

2　本工事で使用する情報共有システムは次とする。
　広島県工事中情報共有システム　https://chotatsu.pref.hiroshima.lg.jp/asp/index.html

3　監督員及び受注者が使用する情報共有サービスのサービス提供者（以下「サービス提供者」という。）との契約は，受注者が行い，利用料を支払うものとする。

4　受注者は，監督員及びサービス提供者から技術上の問題点の把握，利用にあたっての評価を行うためアンケート等を求められた場合，協力しなければならない。

第５節　コリンズ（CORINS)への登録

受注者は、受注時又は変更時において工事請負代金額が 500 万円以上の工事について、工事実績情報システム（コリンズ）に基づき、受注・変更・完成・訂正時に工事実績データを作成し、発注機関確認担当者情報を入力した「事前確認のお願い」をコリンズから監督職員にメール送信し、監督職員の確認を受けたうえ、受注時は契約後、土曜日、日曜日、祝日等を除き 10 日以内に、登録内容の変更時は変更があった日から土曜日、日曜日、祝日等を除き 10 日以内に、完成時は工事完成後、土曜日、日曜日、祝日等を除き 10 日以内に、訂正時は適宜、コリンズに登録をしなければならない。

また、コリンズが発行する「登録内容確認書」は、コリンズ登録時に監督職員にメール送信される。

受注者は、登録作業及び内容確認については次のとおり対応する。

[1]受注者は、工事実績データの作成及び※発注機関確認担当者情報の入力後、コリンズ上で「メール送信で提出」を選択する。

[2]受注者は、[1]によりメール送信された「事前確認のお願い」について監督職員の確認を受ける。

[3]受注者は、コリンズから送信される、確認年月日を明記した「登録のための確認のお願い（監督職員が登録内容を承認した旨のメール）」を確認し速やかに、コリンズへ登録する。

[4]「登録内容確認書」については、コリンズから監督職員にメール送信されるため、 受注者による提示は必要ないものとする。

第 6 節　週休 2 日工事等

本工事は、「発注者指定型」による週休２日工事等の対象工事であり、実施にあたっては「三原市週休２日工事等実施要領」に基づき実施するものとする。

第 7 節　法定外の労災保険の付保

1　本工事において、受注者は法定外の労災保険に付さなければならない。

2　受注者は、建設工事請負契約約款第５４条に基づき、法定外の労災保険の契約締結したときは、その証券又はこれに代わるものを速やかに監督職員に提示しなければならない。

3　法定外の労災保険は、政府の労働災害補償保険とは別に上乗せ給付等を行うことを目的とするものであり、（公財）建設業福祉共済団、（一社）建設業労災互助会、全日本火災共済協同組合連合会、（一社）全国労働保険事務組合連合会又は保険会社との間で、労働者災害補償保険法に基づいて契約を締結しているものとする。

第8節　法令及び条例等の遵守

1　次の内容について、施工計画書の「その他」項目に記載すること。

(1) 工事の実施にあたり、発注者から明示された、又は、受注者が行うべき『法令及び条例等に基づく各種手続き及び許可承諾条件』

(2) 上記(1)の内容について『不測の事態等が生じた場合の対応方法』

(3) 上記(1)、(2)の内容について『現場作業に従事する者に対する周知の方法』

2 「施工方法」等の関連する項目に、許可承諾条件等を適切に反映すること。

3 『法令及び条例等に基づく各種手続き及び許可承諾条件』等の変更が生じた場合は、施工計画書の内容に重要な変更が生じたものとし、変更施工計画書を提出すること。

第９節　建設副産物

本工事における建設副産物については、土木工事共通仕様書 1-1-2-11 建設副産物のとおり取り扱うこととする。なお、「再生資源利用計画」、「再生資源利用促進計画」及び「実施書の提出」については、次のとおりとする。

1　再生資源利用計画及び再生資源促進計画

受注者は、コンクリート、コンクリート及び鉄から成る建設資材、木材、アスファルト混合物等を工事現場に搬入する場合には、法令に基づき、再生資源利用計画を作成し、施工計画書に含め監督職員に提出しなければならない。また、受注者は、建設発生土、コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、建設発生木材、建設汚泥又は建設混合廃棄物等を工事現場から搬出する場合には、法令に基づき、再生資源利用促進計画を作成し、施工計画書に含め監督職員に提出しなければならない。なお、その内容に変更が生じたときは、速やかに利用計画及び促進計画を変更し、監督職員に報告しなければならない。

2　計画の掲示及び公表

受注者は、１の再生資源利用計画及び再生資源利用促進計画を工事現場の見やすい場所に掲示（デジタルサイネージによる掲示も可）し、公衆の閲覧に供するとともに、インターネットの利用により公表するよう努めるものとする。

現場掲示様式については、次の URL を参考に作成すること。

https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/recycle/d03project/d0306/page_03060101credas1top.htm

3　実施書の提出

受注者は、再生資源利用計画及び再生資源利用促進計画を作成した場合には、工事完了後速やかに実施状況を記録した再生資源利用実施書及び再生資源利用促進実施書を監督職員に提出しなければならない。なお、受注者は、再生資源利用実施書及び再生資源利用促進実施書の作成後、工事完成から５年間保存しなければならない。

4　工事現場の管理体制

受注者は、再生利用の促進を行うため、工事現場における建設副産物責任者を置くことにより、管理体制を整備するとともに、当該責任者に対し、再生資源利用計画及び再生資源利用促進計画の内容について現場担当者の教育を十分行うこと及び、関係する他の施工者及び資材納入業者もこれを周知徹底することを指導するものとする。

5　建設発生土搬出に関する関係法令の手続きの確認及び確認結果票の作成

受注者は、再生資源利用促進計画の作成にあたり、建設発生土を工事現場から搬出する場合は、あらかじめ次に掲げる事項を確認し、また各事項の確認の結果を記載した書面（確認結果票）を作成しなければならない。

(1)　工事現場内の土地の掘削その他の土地の形質の変更が土壌汚染対策法（平成 14 年法律第 53 号）第３条第７項又は第４条第１項の規定による届出を要する場合にあっては、当該届出がされている。

(2)　再生資源利用促進計画に記載しようとする搬出先における建設発生土の搬入に係る行為に関する次に掲げる事項

ア　当該行為が宅地造成及び特定盛土等規制法（昭和 36 年法律第 191 号。以下「盛土規制法」という）第 12 条第１項、第 16 条第１項、第 30 条第１項又は第 35 条第１項の規定による許可を要する場合にあっては、当該許可を受けている。

イ　当該行為が盛土規制法第 21 条第１項、第 27 条第１項、第 28 条第１項又は第 40 条第１項の規定による届出を要する場合にあっては、当該届出がされている。

(3)　上記(1)、(2)に掲げる事項のほか、再生資源利用促進計画に記載しようとする搬出先が適正であることを確認するために必要な事項その他の建設発生土の搬出に関する事項

6　運搬業者への通知

受注者は、建設発生土の運搬を行う者に対し、再生資源利用促進計画及び確認結果票の内容を通知するものとする。またその内容に変更が生じたときには、速やかに運搬を行う者に通知するものとする。

7　確認結果票の掲示及び公表

受注者は、確認結果票を工事現場の見やすい場所に掲示（デジタルサイネージによる掲示も可）し、公衆の閲覧に供するとともに、インターネットの利用により公表するよう努めるものとする。

8　確認結果票の保管

受注者は、確認結果票を建設工事の完成後５年間保存するものとする。

9　建設発生土の搬出先に対する受領書の交付請求

受注者は、建設発生土を再生資源利用促進計画に記載した搬出先へ搬出したときは、速やかに当該搬出先の管理者（搬出先が工事現場である場合は、当該工事現場の受注者）に対し、次に掲げる事項を記載した受領書の交付を求めるものとする。

(1) 建設発生土の搬出先の名称（搬出先が工事現場である場合は、建設工事の名称。）及び所在地

(2) 建設発生土を搬出先の受注者の商号、名称又は氏名

(3) 建設発生土の搬出元の名称及び所在地

(4) 建設発生土の搬出量

(5) 建設発生土の搬出が完了した日

10　建設発生土の搬入元への受領書の交付

受注者は、建設発生土を利用計画に記載した搬入元から搬入したときは、速やかに当該搬入元の管理者（搬入元が工事現場である場合は、当該工事現場の受注者）に対し、前号に掲げる事項を記載した受領書を交付するものとする。

11　受領書の内容確認

受注者は、搬出先から受領書の交付を受けたときは、再生資源利用促進計画に記載した内容と一致することを確認する。

12　受領書の保管

受注者は、受領書又はその写しを建設工事の完成後５年間保存するものとする。

第２章　施工条件

第１節　工　程

1　本工事の施工において、工事順序・工程等についてあらかじめ監督員と協議、調整を行うこと。

第２節　用　地

1　借　地　　あらかじめ近隣住民に借地する目的、作業内容を充分説明し、同意を得て借地すること。

第３節　工事用道路

1　一般道路

搬入経路　　特に指定しない。

使用期間　　工事施工期間

使用時間　　８時３０分～１７時

工事中・後の処置　　随時　清掃、　工事後　舗装欠損部補修等（工事前・後の写真により監督員と協議すること。）

第４節　建設副産物

1　建設発生土（搬出）（建設発生土リサイクルプラント、建設発生土受入地又は建設発生土受入地（一時たい積））（指定処分（A））

当該工事により発生する建設発生土は、公の関与する埋立地、建設発生土処分先一覧表に掲載されている建設発生土リサイクルプラント、建設発生土受入地又は建設発生土受入地（一時たい積）のいずれかに搬出するものとする。

また、搬出先として、運搬費と受入費（平日の受入費用）の合計が最も経済的になる建設発生土リサイクルプラント、建設発生土受入地

又は建設発生土受入地（一時たい積）を見込んでいる。したがって、正当な理由がある場合を除き残土処分に要する費用（単価）は変更しない。

搬出場所　　正栄工業残土処分地（本郷北 2-2266）

なお、工事発生後に明らかになったやむを得ない事情により、建設発生土処分先一覧表に掲載されている建設発生土リサイクルプラント建設発生土受入地又は建設発生土受入地（一時堆積）への搬出が困難となった場合は、発注者と受注者が協議の上、設計変更の対象とする。

2　産業廃棄物の場外保管

当該工事により発生する産業廃棄物を事業場の外（建設工事現場以外の場所）において 300m2 以上の面積で保管する場合には、保管場所を所管する都道府県知事又は政令市長に事前の届出を行うこと。また、届出事項を変更する場合は事前に変更届を、保管をやめたときは 30 日以内に廃止届を提出すること。

ただし、産業廃棄物処理業等の許可施設における保管は届出対象外とする。

第 5 節　石綿使用の有無

受注者は、建築物・工作物等の解体・改修工事を行う際、石綿（アスベスト）の使用の有無の「事前調査」を行わなければならない。石綿障害予防規則に基づく一定規模以上の工事にあっては「事前調査結果の報告」を所轄労働基準監督局に届出を行わなければならない。

第 3 章　工事損失等

本工事の施工に伴い、通常避けることのできない地盤沈下、振動等により建物等に損害等（以下「工事損失」という。）が発生した場合においては、次のとおりとする。

なお、工事損失に伴う補償費用は、設計で現場管理費に見込んでいる。

(1) 原因調査　　監督員と協力して行なうものとする。

(2) 補償交渉　　監督員と協力して処理解決に当るものとする。

(3) 応急処置　　監督員から応急処置を講じる必要があると指示された場合は、直ちに応急処置を講ずるものとする。

(4) 補償費用負担割合　　発注者は、工事損失に伴う補償費用のうち、請負代金額の１００分の１を超える額を負担する。

第 4 章　工事保険等

第 1 節　工事保険等

受注者は、本工事において第三者に与えた損害を補填する保険又はその他必要とする建設工事に関連する保険等に加入しなければならない。

また、加入した保険等については、保険証券の写し（保険以外の場合はそれに代わるもの）を監督員に提示しなければならない。

なお、加入に必要な保険料等は、設計で現場管理費に見込んでいる。

第２節　法定外の労災保険の付保

1　本工事において、受注者は法定外の労災保険に付さなければならない。

2　受注者は、建設工事請負契約約款第５４条に基づき、法定外の労災保険の契約締結したときは、その証券又はこれに代わるものを速やかに監督員に提示しなければならない。

3　法定外の労災保険は、政府の労働災害補償保険とは別に上乗せ給付等を行うことを目的とするものであり、（公財）建設業福祉共済団、（一社）建設業労災互助会、全日本火災共済協同組合連合会、（一社）全国労働保険事務組合連合会又は保険会社との間で、労働者災害補償保険法に基づいて契約を締結しているものとする。

第５章　その他

本工事内及び近接する地域住民、企業等には工事内容等を十分に周知・調整したうえで、苦情やトラブルのないよう施工に努めること。

また、特記仕様書及び設計図書に明示していない事項、または、その内容に疑義が生じた場合は、監督員の指示を受けること。

本 工 事 費 内 訳 書

費　目	工　種	種　　別	細　　別	単 位	数 量	単 価	金　額	摘　　要
		雨水排水ポンプ場耐水化工事（本郷第1雨水ポンプ場）						
		建築工事費		式	1.0			
		機械工事費		式	1.0			
		電気工事費		式	1.0			
		小計						
		消費税相当額	10%	式	1.0			
		本工事費						

特　記　仕　様　書

工事名称　雨水排水ポンプ場耐水工事（本郷第１雨水ポンプ場）
工事場所　三原市本郷南五丁目
工事内容　本郷第１雨水ポンプ場を耐水化する。
［工事概要］
(1)防水改修
(2)外壁改修
(3)建具改修
(4)内装改修
(5)塗装改修
(6)塗装改修
(7)躯体改修
(8)屋外排水設備

準　　則　公共建築工事標準仕様書(建築工事編・電気設備工事編・機械設備工事編)、公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編・電気設備工事編・機械設備工事編)、建築物解体工事共通仕様書　（各 令和４年版　国土交通省官房官庁営繕部監修）下水道施設計画・設計指針と解説、その他関係法規に基づき施工する。

関係法令等　本工事については、次の関係法令その他の規定等に基づき施工すること。
・建築基準法、同施行令、同施行規則
・消防法、同施行令
・廃棄物の処理及び清掃に関する法律、同法施行令、同法施行規則
・労働安全衛生法、同法施行令、同法施行規則
・建設業法、同施行令、同施行規則
・建設工事公衆災害防止対策要綱
・石綿障害予防規則
・大気汚染防止法、振動規制法及び土壌汚染対策法
・建設工事に係る再資源化等に関する法律、同法施行令
・その他関係法令

疑義変更　本設計図書は、設計の大要を示すものであり、詳細部等について技術的必要事項は明記なくとも完全に施工すること。
別途工事の設計図書について、取り合いなどの整合を確認すること。
施工に際して疑義が生じた場合、または軽微な変更を必要とする場合には、速やかに監理者と協議後、監督員の指示により施工すること。ただし、これらに於いて請負金額の増減はなきものとする。
本設計図書と不整合が確認されて設計変更（増額）が必要な場合は、その変更数量が確認できる根拠としての写真などの記録が存在し、かつ監督員に承認されたもの以外は認められない。

提出書類　施工に先立ち、工事工程表、仮設計画図及び監督員の指示する書類を提出し、監督員の承認を受けること。
商品名及び製造者名が記載された材料については、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は、監督員の承諾を受けること。
設計図書に定める品質及び性能を有することについて、証明となる資料を提出して監督員の承諾を受けること。

留意事項
・入札に先立ち、現地調査を十分に行うこと。質疑がある場合は入札前に確認すること。
・図面について、設計者からの設計意図等の説明が必要な場合は申し出ること。
・図面に明示されていない事項であっても、工事上必要とされる事は工事範囲とする。
・着手にあたり、工事着手前の周辺道路や近隣敷地の状況を写真等により記録しておくこと。
・近隣住民等の安全はもとより、丁寧な説明と施工により、関係者の理解と協力を得ながら実施すること。苦情等が発生した場合には誠意をもってこれに対応すること。
・工事関係者等の作業に関わる全員については、周辺住民への心遣いとして挨拶を徹底すること。
・近隣において、その他の工事が行われている場合は、取り合い工事及び工程等の調整を行うこと。
・近隣住民等への支障を最小限とするため、騒音・振動・粉塵等の対策については最大限配慮した施工方法を採用

すること。
・使用する建設機械については、原則、「低騒音型、低振動型建設機械」として国土交通省の指定を受けた機械を選定して使用すること。これが確認できる資料を施工計画書で示すこと。なお、事情により使用が難しい場合は監督員との協議を行うこと。
・解体工事・アンカー工事等の騒音・振動・粉じん等の発生が予想される工種については、施工時間及び施工方法等を最大限配慮した計画により作業を行うこと。
・粉塵の発生が予想される工事は、確実に散水を行う等して、周辺環境への粉塵飛散がないように作業をすること。
・施工箇所周囲の備品・機器等については、粉塵対策として養生及び清掃等を確実に行うこと。養生や移動を行う場合は、事前に施設管理者または所有者に連絡すること。
・近隣家屋・敷地または周辺道路に対して、工事による汚れ・損傷・粉じん等を与えた場合は、受注者が責任をもって、速やかに清掃及び補修等を行うこと。誠意をもって対応し、原状復旧に努めること。
・周辺道路の保全及び清掃については常に注意を払って監視をし、定期的に清掃を行うこと。
・第三者災害防止及び飛散防止対策のために、必要に応じて監督員が指示する範囲にバリケード等を設置すること。
・工事車両の通行については、近隣住民及び通学児童等の安全を最優先すること。
・工事車両は、幅員の広い道路の通行を基本とし、住宅地内などの狭い道を抜け道として使用しないこと。工事車両の周辺の通行経路については、工事着手前に発注者の了承を得ること。
・特殊車両の搬出入の有無については、工事着手前に発注者と確認すること。
・工事区域内の残置する設備配管・配線等については、事前に位置を確認してから作業を行うこと。事前調査記録を作成すること。
・受注者事務所、休憩所及び便所等は関係法令に従って設けること。
・仮囲い、足場、山留、型枠支保工、構台等の仮設については、施工者が計算により責任を持って決定し、計画通りに施工すること。仮設設置期間は日常点検を行い、記録に残すこと。
・図面等に示されている仮設等についても、必ず受注者で安全性や施工性等を検証すること。受注者が責任をもって施工すること。
・足場設置期間中は、シート等の飛散が無いように定期的に点検を行うこと。
・台風等の強風等異常気象が見込まれる場合は、事前に足場等の養生シートを折りたたむなど対策を施すこと。また、必要に応じて現場巡視と災害防止対策を行うこと。
・足場については、交差筋交い及び外部シートとは別に、高さ15センチメートル以上の幅木を外部・内部の両側に設置すること。（※労働安全衛生法の基準以上の足場とし、安全に配慮する。）
・足場については、必要に応じて朝顔を設置すること。
・足場については「手すり先行工法等に関するガイドライン」における「手すり先行工法等に関する基準」、「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する施工方法にて設置、解体をすること。（親綱は手摺とは扱わない。）
・外部足場等に過剰な宣伝広告はしないこと。
・工事に係る電気、水道及び下水道料金等は受注者の負担とする。
・工事の要求に必要な仮設は、工事に含むものとする。
・配筋検査は、受注者による自主検査を行ったうえ、監理者及び監督員による検査を受検すること。なお、これらの検査は、種類・径・数量についての全数検査を行うこと。
・配筋検査前に、上記内容はもとより、継手定着長さ・位置、かぶり厚さ、鉄筋のあき寸法など、設計図書通りに施工されていることを確認してから検査に臨むこと。
・コンクリートの調合は、標準仕様書に基づき構造体強度補正を見込む。（原則、外構工事を含む。無筋コンクリートは除く。）
・コンクリート打設後の所定期間中は、散水等による湿潤養生を適切に行うこと。
・地盤改良工事や杭工事で、セメント系の材料を使用する場合は六価クロム溶出試験を行い、溶出量が土壌環境基準を満足するものを選定すること。六価クロム溶出試験費を見込む。材料は粉体の発塵抑制の配慮と六価クロムの溶出低減がなされたものを見込む。
・雨水の浸入を防止する部分、屋根、外壁又はこれらの開口部に設ける戸、枠その他の建具周り等からの雨水の浸入に関する瑕疵については、引渡しの日の翌日から10年間責任を負うこと。
・その他、工事に伴う官公庁等への手続きは、受注者により遅滞なく行うこと。この時、各種申請手数料等が発生した場合は受注者の負担とする。
・本工事の外注資材、労務等の調達については、極力、三原市内に主たる営業所を有する業者に発注すること。困難な場合は、あらかじめ理由を添えて発注者の承認を受けること。
・工事完了後、完成図として製本図面（A3縮小版・二つ折り）を３部提出すること。

本 工 事 費 内 訳 書(建築)

費　目	工　種	種　　別	細　　別	単 位	数 量	単 価	金　額	摘　　要
		雨水排水ポンプ場耐水化工事（本郷第1雨水ポンプ場）						
		直接工事費		式	1.0			工事費内訳書より
		共通仮設費		式	1.0			
		小計（純工事費計）						
		現場管理費		式	1.0			
		小計（工事原価）		式	1.0			
		一般管理費等		式	1.0			
		契約保証費		式	1.0			
		計（工事価格）		式	1.0			

本 工 事 費 内 訳 書

平均価格(円)

費　目	工　種	種　　別	細　　別	単 位	数 量	単 価	金　額	摘　　要
建築工事								
1	直接仮設			式	1.0			
2	防水改修			式	1.0			
3	外壁改修			式	1.0			
4	建具改修			式	1.0			
5	内装改修			式	1.0			
6	塗装改修			式	1.0			
7	躯体改修			式	1.0			
8	運搬・処分費			式	1.0			
建築設備工事								
1	屋外排水設備			式	1.0			
		直接工事費　計						［複合工費］

図　面　目　録

（本郷第１雨水ポンプ場　土木建築工事編）

番号	図面名称	縮尺
A － 1	建築改修工事特記仕様書 (1)	—
A － 2	建築改修工事特記仕様書 (2)	—
A － 3	建築改修工事特記仕様書 (3)	—
A － 4	建築改修工事特記仕様書 (4)	—
A － 5	建築改修工事特記仕様書 (5)	—
A － 6	建築改修工事特記仕様書 (6)	—
A － 7	建築改修工事特記仕様書 (7)	—
A － 8	建築改修工事特記仕様書 (8)	—
A － 9	建築改修工事特記仕様書 (9)	—
A － 10	建築改修工事特記仕様書 (10)	—
A － 11	建築改修工事特記仕様書 (11)	—
A － 12	構造関係改修工事　共通事項	—
A － 13	位置図・配置図	1/2000,1/200
A － 14	仕上表 (1)	1/100
A － 15	仕上表 (2)	1/100
A － 16	配置図兼1階平面図（改修前）	1/100
A － 17	配置図兼1階平面図（改修後）	1/100
A － 18	立面図（改修前）	1/100
A － 19	立面図（改修後）	1/100
A － 20	断面図 (1)（改修前）	1/100
A － 21	断面図 (1)（改修後）	1/100
A － 22	断面図 (2)（改修前）	1/100
A － 23	断面図 (2)（改修後）	1/100
A － 24	改修詳細図 (1)	1/50
A － 25	改修詳細図 (2)	1/50
A － 26	改修詳細図 (3)	1/50
A － 27	改修詳細図 (4)	1/50
A － 28	改修詳細図 (5)	1/50
A － 29	改修詳細図 (6)	1/50
A － 30	改修詳細図 (7)	1/50,1/20

番号	図面名称	縮尺
A － 31	改修詳細図 (8)	1/50,1/20
A － 32	改修詳細図 (9)	1/50,1/20
A － 33	改修詳細図 (10)	1/50
A － 34	部分詳細図	1/20
A － 35	建具リスト（改修前）	1/50
A － 36	建具リスト（改修後）	1/50
A － 37	地下1階ポンプ開口部仮蓋詳細図	1/30,1/10
A － 38	建具枠廻り詳細及び記号（参考図）	—
A － 39	仮設計画図（参考図）	1/100
AM － 1	排水設備改修平面図	1/100

Ⅰ.工　事　概　要

1. 工事名称：雨水排水ポンプ場耐水化工事(本郷第1雨水ポンプ場)　　仕　様　書
2. 工事場所：三原市本郷南五丁目
3. 敷地面積：　1,944.59 ㎡
4. 構造規模：　RC造 ／ 地上2階建、地下1階

5. 工事種目：　改修工事（耐水化）
6. 別途工事：　機械設備工事、プラント工事（設備架台新設　等）
7. 調査協力について

本工事は工事中及び竣工後，次の調査を行うため，発注者より連絡があれば対応すること。
（1）公共事業労務費調査…工事中に実施（調査票等の記入提出，発注者の調査実施への協力等）
（2）契約不適合調査…建設工事請負契約約款第４６条の５に定める期間内
（3）公共建築物木材利用事例調査票…工事中に実施（調査票の記入提出，発注者の調査実施への協力等）

8. 公衆災害防止措置

（1）工事に際し，工事関係者以外の第三者の生命，身体及び財産の危機，並びに迷惑を防止するために必要な措置をとること
（2）上記について，「建設工事公衆災害防止対策要綱（平成５年１月１２日付　建設事務次官通達）」に基づき実施すること

9. 現状復旧

工事に際し，隣接建物等に損傷を与えた場合は，速やかに現状復旧を行うこと

10. 主要資材等

（1）主要資材を購入しようとする場合は，極力広島県内に営業所・本店を有する業者に発注するものとし，予め購入先の名称・所在地及び資材名等を発注者に通知するものとする
（2）当該工事に使用する砂については，海砂（県外産を含む）を使用しないこと
（3）この工事の施工に際し，やむを得ず工事の一部（主体的部分を除く）を第三者に請け負わせようとする場合は，原則として広島県内に主たる営業所・本店を有する業者に発注するものとする

Ⅱ.建築改修工事仕様

1. 図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部制定「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（令和４年版）」（以下、「改修標準仕様書」という。）による。
図面、本特記仕様書及び改修標準仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部制定「公共建築工事標準仕様書（建築工事編（令和４年版）」以下、「標準仕様書」という。）による。
2. 特記仕様
（1）項目は番号に○印のついたものを適用する
（2）特記事項は⊙印のついたものを適用する
⊙印のつかない場合は、※印のついたものを適用する
⊙印と　◎　印のついた場合は共に適用する
（3）項目に記載［　　］の内表示番号は、改修標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。
（　）の内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。
（4）工事施工上必要な官公署その他への諸手続き及び届出は、全て受注者の負担において遅滞無く行うこと
（5）関係法令の改正等により（条例を含む）、工事内容が法令等に抵触する恐れがあることを認識した場合には、その対応等について、監督職員と協議すること。
（6）材料及び製造所等の記載は順不同である

章		項　目	特　記　事　項
① 一般共通事項	①	適用基準等	※公共建築工事標準仕様書（建築工事編）　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修（最新版） ※建築工事標準詳細図　国土交通省官房官庁営繕部監修（最新版） ※建築工事公衆災害防止対策要綱　※建設副産物適正処理実施要領（広島県土木局制定） ※建築工事安全施工技術指針　※再生資源利用促進実施要領（広島県土木局制定） ※県産木材の利用促進に関する指針 図面，本特記仕様書，標準仕様書及び改修標準仕様書に記載のない事項は次による。 ※建築物解体工事共通仕様書　令和４年版　国土交通省大臣官房官庁営繕部
	②	電気保安技術者 ［1．3．3］	※配置する
	③	工事実績情報の登録 ［1．1．4］	受注者は、受注時又は変更時において請負金額が５００万円以上の工事について，工事実績情報サービス（ＣＯＲＩＮＳ）に基づき，受注，変更，竣工，訂正時に工事実績情報として「工事実績データ」を作成し，監督職員の確認を受けた後に登録機関に登録申請し，登録機関発行の「登録内容確認書」を監督職員に提出しなければならない。また，途中変更時の登録が必要な場合とは，工期の変更，技術者の変更があった場合とする。
	④	施工条件 ［1．3．5］	下記以外は現場説明書による。 ・施工時間帯　（※指定あり　　） ・部位別の施工順序　（※図示　・　　） ・工事車両の駐車場所　（※図示　・　　） ・資機材置場　（※図示　・　　） ・建設発生土仮置場　（※図示　・　　）
	⑤	工事安全計画書	建築工事安全施工技術指針及び建設工事公衆災害防止対策要綱（建築工事編）を参考に、工事の施工に先立ち工事現場の安全対策に関する具体的な工事安全計画書を監督職員に提出する
	⑥	発生材の処理等 ［1．3．12］	・引渡しを要するもの（　　） ・特別管理産業廃棄物（　　） 処理方法（　　） ・現場において再利用を図るもの（　　） ⊙再生資源化を図るもの ⊙コンクリート塊　・アスファルトコンクリート塊　・建設発生木材 ・PCB含有シーリング材の処理 ・第一次判定 現場にてサンプルを採取し、シーリング材種及び分析の要否を判定する。 採取箇所数　計　箇所 採取箇所　※図示　・ ・第二次判定 専門分析機関にてPCB含有量の分析を行う。 分析個数　計　箇所 ・除去処理工事 除去範囲　※図示　・ ・せっこうボードの処理 ・石綿含有せっこうボード　改修特記仕様書第８章環境配慮改修工による ・ひ素・カドミウム含有せっこうボード ・製造業者に回収委託 ・埋立処分（管理型最終処分場） ⊙石綿含有、ひ素・カドミウム含有以外のせっこうボード ⊙再生資源化（再資源化施設）　・最終処分（管理型最終処分場） （1）本工事で発生した建設廃棄物は，広島県（環境県民局）及び保健所設置政令市等（広島市，呉市，福山市）が廃棄物処理法に基づき許可した適正な施設（許可対象とならない中間処理施設にあっては，廃棄物処理法に定められた基準に従った適正な施設）で処理すること ただし，建設廃棄物が破砕等（選別を含む）により有用物となった場合，その用途に応じて適切に処理すること（原則，県内処分） （2）本工事における再資源化に要する費用（運搬費を含む処分費）は，前記（1）に掲げる施設のうち受入れ条件が合うものの中から，運搬費と受入れ費（平日の受入れ費用）の合計が最も経済的になるものを見込んでいる。従って，正当な理由がある場合を除き，再資源化に要する費用（単価）は変更しない （3）本工事で発生する建設廃棄物のうち，広島県内の最終処分場に搬入する建設廃棄物については，広島県産業廃棄物理立税が課税されるので適正に処理すること。なお，広島県産業廃棄物理立税は見込んでいる
	⑦	建設発生土	※　現場説明書の施工条件明示による ・構内指示場所に堆積 ・構内指示場所に敷き均し
	⑧	環境への配慮 ［1．4．1］	化学物質を放散させる建築材料等 本工事の建物内部に使用する建築材料等は、設計図書に規定する品質及び性能を有すると共に、次の（1）から（4）を満たすものとする （1）合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、ＭＤＦ、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗材、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しない又は発散が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する （2）接着剤及び塗料にトルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する （3）接着剤は、可塑剤（フタル酸ジ－ｎ－ブチル及びフタル酸ジ－２－エチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑剤を除く）が添加されていない材料を使用する （4）（1）の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類等は、ホルムアルデヒド、アセアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分において、「規制対象外」 とは次の①又は②に該当する材料を指し、同区分「第三種」とは次の③又は④に該当する材料を指す。 ①建築基準法施行令第２０条の第７第１項に定める第一種、第二種及び第三種ホルムアルデヒド発散建築材料以外の材料 ②建築基準法施行令第２０条の第７第４項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料 ③建築基準法施行令第２０条の第７第１項に定める第三種ホルムアルデヒド発散建築材料 ④建築基準法施行令第２０条の第７第３項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料 国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（平成１２年法律第１００号）に基づき制定された「広島県グリーン購入方針」に掲載されている品目については、他の特記事項及び図面表記の範囲内で、環境負荷を低減できる材料を優先的に選定するよう努めるものとする
	⑨	材料の品質等 ［1．4．2］	材料・機材等の品質及び性能 （1）本工事に使用する材料は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする （2）備考欄に商品名が記載された材料は、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は監督職員の承諾を受ける。 （3）標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする （4）本工事に使用する材料のうち、（5）に指定する材料の製造業者等は、次の①～⑥の事項を満たすものとし、その証明となる資料（外部機関が発行する証明書の写し）を監督職員に提出して承諾を受けるものとする。ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合はこの限りではない ①品質及び性能に関する試験データを整備していること ②生産施設及び品質の管理を適切に行っていること ③安定的な供給が可能であること ④法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること ⑤製造又は施工の実績があり、その信頼性があること ⑥販売、保守等の営業体制を整えていること。 （5）製造業者等に関する資料の提出を定める材料

床型枠用鋼製デッキプレート	オーバーヘッドドア
鉄骨柱下無収縮モルタル	防水剤
無収縮グラウト材	現場発泡断熱材
乾式保護材	フリーアクセスフロア
既調合モルタル	可動間仕切
既調合目地材	移動間仕切
ルーフドレン	トイレブース
吸水調整材	天井点検口
錠前類	床点検口
クローザ類	グレーチング
自動扉機構	屋上線化システム
自閉式上吊り引戸機構	トップライト
重量シャッター	ポリマーセメントモルタル
軽量シャッター	鋳鉄製ふた

10	石綿含有建材の調査 ［1．5．1］	調査 ※ 石綿含有建材の事前調査 工事着手に先立ち、あらかじめ関係法令に基づき、石綿含有建材の事前調査を行う。 貸与資料（　　） ・ 分析による石綿含有建材の調査 分析対象 アクチノライト、アモサイト、アンソフィライト、クリソタイル、クロシドライト、トレモライト 分析方法

材料名	分析方法（定性） JIS A 1481-1又はJIS A 1481-2	分析方法（定量） JIS A 1481-3、JIS A 1481-4 又はJIS A 1481-5
	・　箇所	・　箇所
	・　箇所	・　箇所
	・　箇所	・　箇所

材料が仕上塗材の場合は、層ごとの分析を行うこと
サンプル数　1箇所あたり３サンプル
採取箇所　・図示　・

11	施工数量調査 ［1．6．2］	調査範囲　※外壁（庇，笠木共）　・屋根　・図示 調査方法　※テストハンマーによる打診及び目視　・図示 外壁調査は、外壁改修フローに対応する外壁面のひび割れ、浮き、欠損部、内部まで貫通したひび割れ及び雨漏りの有無についての位置及び数量（幅、長さ、面積）の調査を行う 屋根調査は、防水面のひび割れ、浮き、欠損部、目地欠損部及び雨漏りの有無についての位置及び数量（幅、長さ、面積）の調査を行う。 また、その報告書は、結果を立面図等に記載し集計表を添えて監督職員に２部提出する（必要に応じ写真等を添付する）
12	調査のための破壊部分の補修 ［1．6．3］	補修方法　※図示 補修範囲　※図示
⑬	技能士 ［1．7．2］	

工事種目	技能検定職種	技能検定作業
仮設工事	とび	とび作業
防水改修工事	防水施工	アスファルト防水工事作業 ウレタンゴム系塗膜防水工事作業 アクリルゴム系塗膜防水工事作業 合成ゴム系シート防水工事作業 塩化ビニル系シート防水工事作業 セメント系防水工事作業 シーリング防水工事作業 改質アスファルトシートトーチ工法防水工事作業 ＦＲＰ防水工事作業
外壁改修工事	樹脂接着剤注入施工	樹脂接着剤注入工事作業
	左官	左官作業
	タイル張り	タイル張り作業
建具改修工事	サッシ施工	ビル用サッシ施工作業
	ガラス施工	ガラス工事作業
	自動ドア施工	自動ドア施工作業
	ガラス用フィルム施工	建築フィルム作業
塗装改修工事	塗装	建築塗装作業
内装改修工事	タイル張り	タイル張り作業
	建築大工	大工工事作業
	建築板金	鋼製下地工事作業 内外装板金作業
	左官	左官作業
	内装仕上施工	プラスチック系床仕上げ工事作業 カーペット系床仕上げ工事作業 ボード仕上げ工事作業
	表装	壁装作業
耐震改修工事	とび	とび作業
	鉄筋施工	鉄筋組立作業
	型枠施工	型枠工事作業
	コンクリート圧送施工	コンクリート圧送工事作業
	鉄工	構造物鉄工作業
環境配慮改修工事	配管	建築配管作業
	路面表示施工	溶融ペイントハンドマーカー工事作業 加熱ペイントマシンマーカー工事作業
	造園	造園工事作業

※技能士においては、積極的な活用を図ること。

14	化学物質の濃度測定 ［1．7．9］	測定対象室及び測定箇所数は図示による。 （1）ホルムアルデヒド・トルエン・キシレン・スチレン・エチルベンゼンの室内濃度を測定し、厚生労働省が定める指針値以下であることを確認し、監督職員に報告する 測定箇所は仕上表により、施工方法は施工条件明示による パッシブ型採取機器を用いて測定を行う場合には、次の要領で測定及び分析を行う ①３０分間換気 測定対象室のすべての窓及び扉（造り付け家具、押し入れ等の収納部分の扉を含む）を開放し、３０分間換気する ②５時間閉鎖 ①の後、測定対象室のすべての窓及び扉を５時間閉鎖する ただし、造り付け家具、押し入れ等の収納部分の扉は開放したままとする ③測定 イ　②の状態のまま測定する ロ　測定時間は、原則として２４時間とする。ただし工程等の都合により、２４時間測定が行えない場合は、８時間測定とする。なお、８時間測定の場合は、午後２時～３時が測定時間帯の中央となるよう、１０時３０分～１８時３０分までの時間帯で測定する ハ　測定回数は１回とし、複数回の測定は不要とする ④分析 測定対象化学物質を採取したパッシブ型採取機器を分析機関に送付し、濃度を分析する ⑤その他 監督職員から測定方法に関する注意事項等の指示を受けること （2）木材の防腐・防蟻処理剤は、クロルピリホス、ダイアノジン及びフェノブカルブを含有しない薬剤と、加圧式防腐・防蟻処理等は工場で行い十分乾燥させた後現場に搬入する （3）保温材、断熱材、緩衝材については、ホルムアルデヒドを発散しないか発散が極めて少ないＦ☆☆☆☆等級のものとする （4）塗料、壁紙、仕上塗材、合板、接着剤等で屋内に面するものについては、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないＦ☆☆☆☆等級のものとする （5）屋内に面して用いる材料は、上記（2）～（4）に適合した上で、揮発性有機化合物の発散が無い若しくは極めて少ないものを選択するように努め、（1）の規定を満たすこと
⑮	中間技術検査 ［1．8．2］	※行う（回数及び時期については監督職員の指示による）　・行わない
⑯	工事写真等	下記のものを監督職員に提出する。工事中写真及び完成写真の撮影は国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の「営繕工事写真撮影要領」によるものとする （1）工程写真 工事の進捗に伴い工事全体状況及び主要工程の写真（カラー・サービス版）を期間別工事工程報告書に添付するものとする （2）工事中写真 水中又は地下に埋設される部分，その他完成後外部から検査・確認する事が出来なくなる部分，及びその他監督職員が指示する箇所は，Ａ４版写真台帳にまとめて完成検査日までに提出するものとする 【提出部数】：１部 （3）完成写真 【撮影箇所】建物外観各方向，主要箇所，主要室内その他監督職員が指示する箇所 【規格・提出部数】※Ａ４版クリアファイル　部　・Ａ４版写真台帳　部 （4）その他の写真 隣接建物等に損傷のおそれがある場合は，施工前・施工後の写真（カラー・キャビネ版）を監督職員の指示により提出するものとする （5）保管 工事写真のデータは，受注者において工事完成後２年間保管すること
⑰	完成時の提出図書	※提出を要する　完成図書：１部 竣工図の種類（※全て　・　） 竣工図の作成方法　CAD（ＣＡＤデータの提出（※要　・不要）） 原図　・普通紙　※ 不要 竣工図　二つ折製本（・ A1版　部　・A2版　部　・ A3版　部） 竣工図は原則としてCADにて修正を行い、施工図・保全に関する資料で必要なものの提出は監督職員の指示による なお，１８　電子納品で対象工事である場合は，加えて電子成果品を　２部提出すること 工事完了時の建物仕様に関する資料（保全マネジメントシステム） ・建物基本情報 ・型式台帳 工事完了時の建物使用に関する資料は，監督職員が指定する様式で作成する。
⑱	電子納品	※電子納品対象工事とする 電子納品とは，「調査，設計，工事などの各業務段階の最終結果を電子データで納品すること」をいう。ここでいう電子データとは，「営繕工事電子納品要領（以下，要領という）」に基づいて作成されたものを指す 成果品については，「要領」に基づいて作成した電子成果品を電子媒体で提出する。「要領」で特に記載がない項目については，原則として電子データを提出する義務はないが，「要領」の解釈に疑義がある場合は監督職員と協議の上，電子化の是非を決定する また，成果品提出の際には，ウイルス対策を実施したうえで提出すること
⑲	工事中情報共有システム	（1）本工事は，受発注者間の情報を電子的に交換・共有することにより，業務の効率化を図る情報共有システムの対象である。なお，運用にあたっては「広島県工事中情報共有システム運用ガイドライン」に基づき実施すること （2）本工事で使用する情報共有システムは次とする 広島県工事中情報共有システム（http://chotatsu.pref.hiroshima.lg.jp/asp/index.html） （3）監督職員及び受注者が使用する情報共有システムのサービス提供者（以下「サービス提供者」という）との契約は，受注者が行い，利用料を支払うものとする （4）受注者は，監督職員又はサービス提供者から技術上の問題点の把握，利用にあたっての評価を行うためのアンケート等が求められた場合，協力しなければならない
⑳	施工図及び施工計画書	提出した施工図及び施工計画書の著作に係る当該建物に限る使用権は、発注者に委譲するものとする
㉑	設備工事との取合い	設備機器の位置、取り合い等が検討できる施工図を提出して、監督職員の承諾を受ける
㉒	撤去部分	コンクリート、モルタル等の撤去部分の境目は、原則としてダイヤモンドカッター切りとする
㉓	適用区分	建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる 基準風速　Ｖｏ＝　32 ｍ／ｓ 地表面粗度区分　・Ⅰ　・Ⅱ　⊙Ⅲ　・Ⅳ 積雪区分　平成12年5月31日建設省告示第１４５５号　別表（ 34 ）
㉔	騒音・振動の防止	「低騒音型・低振動型建設機械指定要領」に基づき指定された建設機械を使用する
㉕	施工中の安全確保	⊙同一場所で別契約の関連工事が行われる場合は，労働安全衛生法第３０条第２項に基づき，当該工事について，同条第１項に規定する措置を講ずべき者として本工事現場代理人を指名する ・労働安全衛生法第１５条に基づく統括安全衛生責任者を選任したときは，本契約後直ちに「統括安全衛生責任者選任届出書」（任意様式）を提出すること
㉖	実施工程表 ［1．2．1］	工事期間は建築設備を含んだ期間とし，工事全体を把握して作成し，監督職員の承諾を受ける
㉗	工程報告	別紙様式による期間別工事工程報告書を毎月２回１部提出すること
㉘	保証書	次の工事について保証書を提出すること

工事区分	材　料　名	保証年数	備　考
⊙防水改修工事	・アスファルト防水	年	漏水の場合等
	・改質アスファルトシート防水	年	漏水の場合等
	・合成高分子ルーフィング防水	年	漏水の場合等
	・塗膜防水	年	漏水の場合等
	⊙シーリング材	3　年	漏水の場合等

㉙	コンクリートの試験 （6.9.1~6）	※コンクリートの強度試験 公的機関又はこれに準ずる機関で行う。ただし，調合管理強度の管理試験用及び型枠取外し時期の決定用については，生コン工場試験室でもよい
② 仮設工事	① 騒音・粉じん等の対策	騒音・粉じん等の対策　・防音パネル　・防音シート　［2．1．3］ 防音パネル、防音シートを取り付ける足場の設置範囲 ※ 工事に必要な範囲　・
	② 足場等	［2．2．1］［表2．2．1］ 「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙１手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の(2)手すり据置き方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行う。 外部足場　⊙設置する（範囲　※ 工事に必要な範囲　・　　）　・設置しない 防護シート　⊙設置する（範囲　※ 工事に必要な範囲　・　　）　・設置しない 内部足場　⊙設置する（ ※ 脚立、足場板等　・　　）　・設置しない 材料、撤去材等の運搬方法　・ A種　※ B種　・ C種　・ D種　・ E種 C種：利用可能なエレベーター（　　） D種：利用可能な階段（　　）
	③ 既存部分の養生	養生方法等　［2．3．1］ ⊙既存部分の養生方法　※ ビニルシート、合板等による　・ ⊙既存家具、既存設備等の養生方法　※ビニルシート等　・ ・ 既存ブラインド、カーテン等の養生方法　※ ビニルシート等（取外し再取付を行う） 保管場所　※ 構内既存施設内　・ ・ 固定された家具等（備品、机、ロッカー等）・の移動　※ 行う（図示）　・ 既存部分に汚染又は損傷を与えるおそれのある場合は養生を行う。また、万一損傷等を与えた場合は、受注者の責任において速やかに修復等の処置を行う。
	④ 仮設間仕切り	仮設間仕切り及び仮設扉の設置箇所　※ 図示　・　［2．3．2］［表2．3．1］ 仮設間仕切りの種別と材質等 ・ A種　※ B種　・ C種　・ 図示 A、B種の仕上げ材 ※ せっこうボード（GB-R 厚さ9.5mm）　・ 合板（普通合板 厚さ9mm） A、B種の片面への塗装等　※ 行わない　・ 行う A種のグラスウールの充填 ※行う（ＪＩＳ　Ａ　６３０１グラスウール吸音材３２Ｋ厚５０mm） ・行わない 仮設扉の種別　※木製（合板張り程度）　・
	⑤ 監督職員事務所等	・ 設ける　※ 設けない　［2．4．1］ 現場に設置する備品等は、現場説明書の施工条件明示による
	⑥ 工事用水	構内既存の施設　※ 利用できる（ ※ 有償　・ 無償）　・ 利用できない
	⑦ 工事用電力	構内既存の施設　※ 利用できる（ ※ 有償　・ 無償）　・ 利用できない
	⑧ 仮囲い等の安全施設	別紙設計図による
	⑨ 工事現場の表示	現場の見えやすい位置に、監督職員が指示する次の表示板を設置する ※工事名等の表示板（900mm×600mm）　・工事概要等の説明看板（900mm×600mm）
	⑩ 交通誘導員	※配置する　⊙配置しない ※大型車両進入時　（　）人／日　・常時配置　（　）人／日 ・（　　）作業期間　（　）人／日
	11 快適トイレモデル工事	本工事は快適トイレモデル工事（※発注者指定型　・受注者希望型）であり，「快適トイレモデル工事試行要領（令和４年６月１日一部改正）」に基づき実施するものとする。 快適トイレチェックシートの様式は，「広島県の調達情報」の「様式集＞建設工事関係_その他の契約関係の様式」に掲載している。 また，完成検査までに提出するアンケートは，「広島県の調達情報」の「入札・契約制度＞入札・契約制度関係要綱」に掲載している。

雨水排水ポンプ場耐水化工事(本郷第1雨水ポンプ場)			
事 業 名	公共下水道事業		
工事場所	三原市　本郷南五丁目		
図面番号	A-1	縮尺	－
図面名：	建築改修工事特記仕様書(1)		
三　原　市			

③ 防水改修工事

① 降雨等に対する養生方法

※ 改修標準仕様書3.1.3(5)(7)～(9)による。 [3.1.3]
・

2 既存防水の処理

既存保護層の撤去 ・ 行う（範囲 ※ 図示 ・ ） [3.1.4] [3.2.3、4、6]
・ 行わない
既存防水層の撤去 ・ 行う（範囲 ※ 図示 ・ ）
・ 行わない
既存露出防水層表面の仕上げ塗装の除去
・ 行う（ ・ M4AS ・ M4ASI ・ M4C ・ M4DI ・ L4X）
・行わない

3 既存下地の処置

既存下地の補修箇所の形状、長さ、数量等 ※ 図示 ・ [3.2.6]
POS工法及びPOSI工法（機械的固定工法）の既存保護層を撤去し防水層を非撤去とした立上り部等の処置 ※ 改修標準仕様書3.2.6(4)(9)(g)①～③による ・
設備機器架台、配管受部、パラペット、貫通パイプ回り、手すり・丸環の取付け部、塔屋出入口部等の欠損部及び防水層末端部の納まり部の処理
※ 図示。ただし、図示が無いものは監督職員と協議する ・

4 アスファルト防水

屋根保護防水 [3.3.2～5]
防水層の種別

工法	種別	施工箇所	断熱材 ☐	絶縁用シート	立上り部の保護
・P2A	・A－1 ※A－2 ・A－3			※ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上又はフラットヤーンクロス70／m2程度	・乾式保護材 ・コンクリート押え ・れんが押え ※JIS R 1250 ・
・P1B	・B－1 ※B－2				
・P2AI	・AI－1 ※AI－2 ・AI－3		（材質） JISA9521に基づく押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種ｂA（スキン層付き） （厚さ）(mm) ※25 ・50 ・	※フラットヤーンクロス70／m2程度 ・	
・P1BI	・BI－1 ※BI－2				

改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※ 改修標準仕様書表3.3.5から表3.3.6による
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分 ・
材料構成による区分 ※ R種
厚さ （ mm以上）

部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※ 改修標準仕様書表3.3.3から表3.3.4による ・
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分 ・
材料構成による区分 ※ R種
厚さ （ mm以上）
平場の保護コンクリートの厚さこて仕上げ
こて仕上げ ※ 水下 80mm以上 ・
床タイル張り ※ 水下 60mm以上 ・
乾式保護材
窯業系パネル：無石綿の繊維質原料等を主原料として、板状に押出成形しオートクレーブ養生したもの。
金属複合板：金属板と樹脂を積層一体化したもの。

（品質・性能）

分類・規格		・ 窯業系パネルⅠ類（寒冷地仕様）	・ 窯業系パネルⅡ類（一般地仕様）	・ 金属複合板
寸法（mm）	厚さ（mm）			
	幅（mm）			
寸法の許容差		厚さ：＋10%、－5%、幅：±1%		
出荷時の含水率		出荷時において10%以下		－
曲げ強さ・曲げモーメント（N・cm）（スパン40cmにおける単位幅1cmあたりの曲げモーメント）	標準時	550以上	450以上	300以上
	凍結融解完了時（試験サイクル数）	400以上（300）	320以上（200））	250以上（300）
吸水率（%）		20以下	20以下	1以下
吸水による長さ変化率(%)		0.07以下	0.07以下	0.01以下
難燃性		不燃	不燃	表面材は不燃
耐凍結融解性能		３００サイクル後、著しい割れ、剥離がなく、外観上の異常がないこと。	２００サイクル後、著しい割れ、剥離がなく、外観上の異常がないこと。	３００サイクル後、著しい割れ、剥離がなく、外観上の異常がないこと。（明らかに吸水しないと認められるものは耐凍結融解試験を省略できる。）
耐衝撃性能		質量500（窯業系パネルⅠ類は1,000）のなす形おもりを高さ1.0mから試験体の弱点部に落としたとき、裏面に達する穴があかないこと。		質量500のなす形おもりを高さ1.0mから試験体の弱点部に落としたとき、裏面に達する穴があかないこと。残留変形量1/100以下。
剛性（E×I）（スパン40cm幅30cmの中央曲げ時に荷重720Nの時、たわみ4mm以下となる剛性）		－	－	80,000N・cm2以上

（試験方法）
（1）寸法の測定方法
（厚さ）供試体の周辺から20mm以上内側の四隅を0.05mmまで測定できる測定器で測り、4点の平均値を求めてパネルの厚さとする。
（幅）供試体を平らな台に置き、供試体のほぼ中央１箇所の幅寸法を、JIS B 7512「鋼製巻尺」に規定する目量が1mmの1級コンベックスルール又は、JIS B 7516「金属性直尺」に規定する目量が1mmの1級直尺を用いて測定する。
（2）曲げ強度試験は、JIS A 1408「建築用ボード類の曲げ及び衝撃試験方法」による。試験体は3号試験体とする。幅及び厚さは製品寸法とし、支持スパン長さは400mmとする。試験方法は試験体の表面からスパン中央全幅に集中荷重を載荷し、試験体が破壊した時の最大荷重を測定する。同時に破壊時の中央部のたわみ量について、変位計を用いて測定する。測定項目については、凍結融解試験前、同試験100、200、300サイクル完了後の合計4項目に亘って測定する。（窯業系パネルⅡ類は200サイクルまでとする。）なお、荷重を加える時の平均速度は、1～3分間で予想最大荷重に達する程度とする。
（3）吸水率試験は、JIS A 5430「繊維強化セメント板」に準じて行う。
（4）難燃性試験は、JIS A 1321「建築物の内装材料及び工法の難燃性試験方法」に準じて行う。
（5）吸水による長さ変化率試験は、試験体（幅40mm×長さ160mm×素材厚さ）を乾燥機に入れ、その温度を60±3℃に保ち24時間経過した後取り出してJIS K 8123「塩化カルシウム（試薬）」に規定する塩化カルシウム又は JIS K 1464「工業用乾燥剤」に規定する品質に適合するシリカゲルで調湿したデシケータに入れ、常温まで冷却する。次に、試験片の標線間隔が140mmになるように標線を刻む。その後、1/150mm以上の精度をもつコンパレータを用いて標線間の長さを測定し、それを基準（L1）とする。次に試験片の長さ方向を水平にこば立てし、その上端が水平下約30mmとなるように保持して、常温の水中に浸せきする。
24時間経過した後、試験片を水中から取り出して湿布で表面に付着した水を拭き取り、再び標線間の長さ（L2）を測る。
吸水による長さ変化率（ΔL）は、次式によって求める。
（ΔL）＝（L2－ L1）／ L1×１００ ΔL ：吸水による長さ変化率（%）
L1：乾燥時の標線間の長さ（mm） L2 ：吸水時の標線間の長さ（mm）
（6）耐凍結融解性能試験は、JIS A 5422「窯業系サイディング」の気中凍結水中融解法によって行う。100、200、300各サイクル完了時の曲げ強度測定及び外観の状態を観察する。（窯業系パネルⅡ類は200サイクルまでとする。）
凍結融解操作の試験条件は、試験片の切断小口面をあらかじめシールし、5～25℃の清水中に24時間浸せきさせた後、凍結融解試験装置の棚内に設置し、-20±3℃の気中で約3時間の凍結20±3℃の水中で約1時間の融解を行う約3時間を1サイクルとする。
（7）耐衝撃性能試験は、JIS A 1408「建築用ボード類の曲げ及び衝撃試験方法」の衝撃性試験に準じて行う。試験体の支持装置は、記号S２対辺単純支持方法による。
試験体の大きさは、4号（長さ400mm、幅300mm）とする。おもりは、鋼製のなす形おもりとし、記号（W１－1000）、質量1,000gとする。試験体を支持装置で支持して、堅固な床に水平に置き、おもりを試験体のほぼ中央の鉛直上1.0mから試験体の弱点部に自然落下させ、裏面に達する穴の「有・無」を確認する。金属複合板の残留変形量は、最大くぼみ深さを測定する。

屋根露出防水 防水層の種別

工法	種別	施工箇所	断熱材	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	高日射反射率の防水	備考
・M4C	・C-1 ※C-2 ・C-3 ・C-4			・	・ ※製造所の仕様	・適用する	
・M3D ・P0D	・D-1 ※D-2			・	・ ※製造所の仕様	・適用する	脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドレン ・設ける ・設けない
・P0DI ・M3DI ・M4DI	・DI-1 ※DI-2		JIS A 9521(建築用断熱材)に基づく発泡プラスチック断熱材 (種類) ※硬質ウレタンフォーム断熱材２種２号 ・ （厚さ）(mm) ※25 ・50 ・	・	・ ※製造所の仕様	・適用する	脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドレン ・設ける ・設けない

改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※ 改修標準仕様書表3.3.7から表3.3.9による ・
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分 ・
材料構成による区分 ※ R種
厚さ （ mm以上）
・
部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※ 改修標準仕様書表3.3.8から表3.3.9による ・
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分 ・
材料構成による区分 ※ R種
厚さ （ mm以上）
・
脱気装置の種類 ※ アスファルトルーフィング類の製造所の指定 ・
脱気装置の設置数量 ※ アスファルトルーフィング類の製造所の指定 ・ （個）

屋根露出防水絶縁断熱工法の場合の、ルーフドレン回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置 ※ 図示 ・
屋内防水

工法	種別	施工場所	保護層
・ P1E	・ E－1		・ 設ける
・ P2E	※ E－2		・ 設けない

E－1の場合で工程３を行う部位（ ※ 貯水槽、浴槽等常常時水に接する部位 ・ ）
保護層 ・ 設ける（ ※ 図示 ・ ） ・設けない
立上り部の押え金物の材質、形状及び寸法
※ アルミニウム製 L-30×15×2.0mm程度 ・
屋上排水溝 ・ 図示 ・

5 改質アスファルトシート防水

屋根露出防水
防水層の種別 [3. 4. 2、3]

工法	種別	施工箇所	断熱材	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	高日射反射率の防水	備考
・M4AS	・AS-T1 ・AS-T2 ・AS-J2			・	・ ※製造所の仕様	・適用する	
・M3AS ・P0AS	・AS-T3 ・AS-T4 ・AS-J1 ・AS-J3			・	・ ※製造所の仕様	・適用する	脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドレン ・設ける ・設けない
・M3ASI ・M4ASI ・P0ASI	・ASI-T1 ・ASI-J1		JIS A 9521(建築用断熱材)に基づく発泡プラスチック断熱材 (種類) ※硬質ウレタンフォーム断熱材２種２号 ・ (厚さ) ※25mm ・50mm ・	・	・ ※製造所の仕様	・適用する	脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドレン ・設ける ・設けない 防湿層 ・設ける ・設けない

改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※ 改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による ・
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分 ・
材料構成による区分 ※ R種
厚さ （ mm以上）
・
粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※ 改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による ・
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分 ・
材料構成による区分 ※ R種
厚さ （ mm以上）
・
部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※ 改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による ・
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分 ・
材料構成による区分 ※ R種
厚さ （ mm以上）
・
脱気装置の種類 ※ 改質アスファルトシートの製造所の指定 ・
脱気装置の設置数量 ※ 改質アスファルトシートの製造所の指定 ・ （個）

立上り部の押え金物の材質、形状及び寸法
※ アルミニウム製 L-30×15×2.0mm程度 ・
絶縁断熱工法の防水湿シート
・設置する
・設置しない

6 合成高分子系ルーフィングシート防水

[3. 5. 2～4] [表3. 5. 1～3]
防水層の種別

工法	種別	施工箇所	断熱材	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	高日射反射率防水	備考
・POS ・S4S	・S-F1			・	・ ※製造所の仕様	・適用する	脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドレン ・設ける ・設けない
	・S-F2					・適用する	
	・S-M1			・	・ ※製造所の仕様	・適用する	
	・S-M2					・適用する	
・S3S	・S-F1			・	・ ※製造所の仕様	・適用する	脱気装置 ・設ける ・設けない
	・S-F2					・適用する	
・M4S	・S-M1			・	・ ※製造所の仕様	・適用する	脱気装置 ・設ける ・設けない
	・S-M2					・適用する	
・POSI ・S3SI ・S4SI ・M4SI	・SI-F1		改修標準仕様書3.5.2(3)(ｴ)(b)による (種類) ※硬質ウレタンフォーム断熱材２種２号 ・ (厚さ)(mm) ※25 ・50	・	・ ※製造所の仕様	・適用する	脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドレン ・設ける ・設けない
	・SI-F2					・適用する	
	・SI-M1		改修標準仕様書3.5.2(3)(ｴ)(a)による (種類) ※硬質ウレタンフォーム断熱材２種２号 ・ (厚さ)(mm) ※25 ・50	・	・ ※製造所の仕様	・適用する	
	・SI-M2					・適用する	

S－F１、S－M１、S－F２、S－M２の仕様
※ 非歩行用 ・ 軽歩行用
SI－F１、SI－F２、SI－M１及びSI－M２における防湿用フィルムの設置
※ 設置しない ・ 設置する
SI－M２の絶縁用シートの材種
※ 発泡ポリエチレンシート ・
S－M２及びSI－M２の立上り部の工法
※ 接着工法（立ち上がり面のシートの厚さ ※ 1.5mm ・ ） ・ 機械的固定工法

7 塗膜防水

屋内防水
防水層の種別

種別	施工箇所	保護層 平場のモルタル塗り 塗厚	保護層 平場のモルタル塗り 工法	保護層 立上り部の保護モルタルの塗厚
・ S－C1	・	・	・ 床塗り ・ 下地モルタル塗り ・	※ 7mm以下 ・

屋内防水で平場を保護コンクリート仕上げとする場合の厚さ ・
合成高分子系ルーフィングシートの種類及び厚さ
※ 改修標準仕様書表3.5.1から表3.5.3による ・
・JIS A 6008に基づく種類及び厚さ
用途による区分 ・
材料構成による区分 ※ R種
厚さ （ mm以上）
・
固定金具の材質及びけつ出形状
※ 防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板又はそれらの鋼板の片面若しくは両面に樹脂を積層加工したもので、厚さ0.4mm以上のもの
・
脱気装置の種類及び設置数量
接着工法の場合の脱気装置の種類 ※ ルーフィングシートの製造所の仕様 ・
接着工法の場合の脱気装置の設置数量 ※ ルーフィングシートの製造所の仕様 ・ （個）
プレキャストコンクリート部材下地の目地処理（接着工法の場合）
・ 行う（ ・ 図示 ・ ） ・ 行わない
プレキャストコンクリート部材の入隅部の増張り（種別S-F1、SI-F1の場合）
・ 行う（ ・ 図示 ・ ） ・ 行わない
機械的固定工法の場合の一般部のルーフィングシートの張付け
1章 17 適用区分による風圧力の（ ・ 1 ・ 1.15 ・ 1.3）倍の風圧力に対応した工法

7 塗膜防水

防水層の種別 [3. 6. 2、3]

工法	種別	施工箇所	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	高日射反射率防水	備考
・P0X	※X－1 ・X－2 ・X－1H ・X－2H		※2成分形アクリルウレタン樹脂系 ・ふっ素樹脂系 ・アクリルシリコン樹脂系 ・	※主材料の製造所の仕様 ・	・適用する	脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドレン ・設ける ・設けない
・L4X	※X－1 ・X－2 ・X－1H ・X－2H			※主材料の製造所の仕様 ・	・適用する	脱気装置 ・設ける ・設けない
・P1Y	※Y－2					保護層 ・設ける ・設けない
・P2Y	※Y－2					保護層 ・設ける ・設けない

X－1（絶縁工法）の脱気装置の種類 ※ 主材料の製造所の仕様 ・
X－1（絶縁工法）の脱気装置の設置数量 ※ 主材料の製造所の仕様 ・ （個）

⑧ シーリング

シーリング改修工法の種類 [3. 7. 2、3、3. 7. 7]
⊙シーリング充填工法
⊙シーリング再充填工法
・ 拡幅シーリング再充填工法
・ ブリッジ工法
ボンドブレーカー張り ・ 適用する ・ 適用しない
エッジング材張り ・ 適用する ・ 適用しない
シーリング材の種類、施工箇所
下表以外は、改修標準仕様書表3.7.1による

施工箇所	シーリング材の種類（記号）
外壁シーリング	MS-2
建具シーリング	PU-2

仕上げを行わない施工箇所
・ 図示による ・ 打継目地
シーリング材の目地寸法 ※ 改修標準仕様書3.7.3(1)による ・
接着性試験 ※ 簡易接着性試験 ・ 引張接着性試験

⑨ とい

といの材種 ・ 配管用鋼管 [3. 8. 2、3]
⊙硬質ポリ塩化ビニル管
・ ルーフドレン
・ 表面処理鋼板（表面及び裏面の塗膜の種類 ・ ）

ルーフドレン

種別	施工箇所
・ ろく屋根用（ ・ 縦型 ・ 横型）	
・ バルコニー用	
・ バルコニー中継用	

雨水排水ポンプ場耐水化工事（本郷第1雨水ポンプ場）			
事 業 名	公共下水道事業		
工事場所	三原市 本郷南五丁目		
図面番号	A-2	縮尺	－
図面名：	建築改修工事特記仕様書(2)		
三 原 市			

10 アルミニウム製笠木

とい受け金物及び足金物の材種、形状及び取付け間隔
※ 改修標準仕様書表3.8.2により、溶融亜鉛めっきを行ったもの
・
多雪地域 ・適用する ○適用しない
防露材のホルムアルデヒド放散量
※ F☆☆☆☆ ・
既存のといその他の撤去及び降雨等に対する養生方法 ※ 図示
鋼管製といの防露巻き ※ 改修標準仕様書表3.8.4による ・
たてどい受金物の取付け ※ 図示 ・

[3.9.2、3]

種類 ・オーブン形式（ ・ 押出250形 ・ 押出300形 ・ 押出350形 ）
・ 板材折曲げ形（ ・オーブン形式 ・ シール形式）
本体幅（ ）mm 板厚（※ 2.0mm ・ mm）
表面処理 種別（ ）種
色合等 ・標準色（ ） ・特注色（ ）
既存笠木等の撤去 ・行う（範囲 ※ 図示 ・ ）
・ 行わない
下地補修の工法 ※ 図示 ・
板材折曲げ形の笠木の取付方法 ※ 図示 ・
笠木の固定金具の工法等
1章 17 適用区分による風圧力の（ ・ 1 ・ 1.15 ・ 1.3）倍の風圧力に対応した工法

防水改修フロー及び数量
・ 既存保護層の補修及び処置

防水面調査（施工数量調査）

- ひび割れ部補修
  - アスファルト防水工事用シール材（幅2mm未満） 0m
  - Uカットのうえポリウレタン系シーリング材（幅2mm以上） 0m
  - ポリマーセメントモルタル補修 0m
- 欠損部改修
  - ポリマーセメントモルタル補修 0m2
- 浮き部補修
  - 撤去のうえ、ポリマーセメントモルタル補修 0m2
- ぜい弱部補修
  - ケレン等のうえ、ポリマーセメンペースト補修 0m2
- 既存目地欠損部補修
  - アスファルト防水工事用シール材 0m
  - ポリマーセメントモルタル補修 0m
- 既存目地欠損部補修（脱気に利用する場合）
  - 既存目地撤去のうえポリウレタン系シーリング材 0m

シーリング改修
シーリング再充填工法
mm× mm 0m
mm× mm 0m

4-1 外壁改修工事（共通事項）

1 ポリマーセメントモルタル

（品質・性能） [4.2.2]

項目		品質・性能
だれ	下がり量（mm）	5以内
	表面の状態	ひび割れの発生が無いこと。
曲げ強さ（N/mm2）		6.0以上
圧縮強さ（N/mm2）		20.0以上
接着強さ（N/mm2）	標準条件	1.0以上
	特殊条件 湿潤時	0.8以上
	特殊条件 低温時	0.5以上
透水性		裏面のぬれ、水滴の付着が無いこと。
その他		1) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 2) 高分子エマルションは、常温常湿において製造後6か月保存しても、変質しないこと。

2 ポリマーセメントスラリー

（品質・性能） [4.2.2]

広がり速度（cm/s）	長さ変化率（収縮）（%）	引張接着性（材齢28日）（N/mm2）	曲げ性能（材齢28日）（N/mm2）	吸水性（72時間）（%）	耐久性（劣化曲げ強さ）（N/mm2）
3以上	3以下	0.5以上	5.0以上	15以下	5.0以上

保水係数 0.35～0.55
粘調係数 0.50～1.00

3 吸水調整材 改修標準仕様書表4.3.2による [4.3.5]

4 既調合モルタル [4.3.5]

モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。

（品質・性能）

項目	品質・性能	項目	品質・性能
保水率	70.0%以上	長さ変化率	0.20%以下
単位容積質量	1.80kｇ/Ｌ以上	曲げ強さ	4.0N/mm2以上
接着強さ・ 標準時	0.60N/mm2以上		
接着強さ・ 温冷繰り返し後	0.40N/mm2以上		

（試験方法）
（1）試料の調製
製造業者の定める、正味質量と標準練り上がり量より換算して、所定量の試料を練り上げるのに要する材料と練り混ぜ水を計算して用意する。
練り混ぜは、JIS R5201「セメントの物理試験方法」の10.2に規定する練り混ぜ機を使用し、練りばちに用意した水を入れ、攪拌しながら30秒間に材料を投入し、3分間練り混ぜて試料とする。
（2）保水率の試験方法
JIS R3202「フロート板ガラス及び磨き板ガラス」に規定する磨き板ガラス（縦150mm、横150mm、厚さ5mm）の上にJIS P3801「ろ紙（化学分析用）」に規定する5 Aろ紙（直径11ｃｍ）をのせ、その中央部に真ちゅう製リング型わく（内径50mm、高さ10mm、厚さ３mm）を設置し、（1）で調製した試料を平滑に詰込む。
その後、直ちにリング型わく上部にガラス板を当てて上下を逆さまにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。 60分後にろ紙へにじみ出した水分の広がりが最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さをノギスを用いて、１mmの単位まで測定する。
試験は３回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。
保水率＝50／平均値×100 （注） 50：リング型わくの内径 mm
（3）単位容積質量の試験方法
JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」に準ずる。
（4）接着強さ（標準時）の試験方法
イ）適用タイルが「モザイクタイル」の場合
（試験体の作製）JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板N−300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに（1）で調製した試料を厚さ5mmになるように塗付ける。直ちにJIS A 5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押出し又はプレス成形による施ゆうの「50角ユニットタイル（外のり寸法約300mm×300mm）」を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。
（試験方法）JIS A6909「建築用仕上塗材」の7.10付着強さ試験に準じて行う。試験体をダイヤモンドカッターを用いて、タイル周辺に沿って下地板に達するまで切り込みを入れ、シ樹脂接着剤で鋼製アタッチメントを接着し、引張試験機を用いて接着強さエポキ試験を行う。なお、接着強さの測定箇所は、試験体の中からまんべんなく5箇所を選び抜き取る。
（全てが0.6N/mm2以上を確保していること）
また、試験後の部材破断位置の表示を下記の中から選び明記する。
T ：タイルの母材破断
TM：既調合モルタルとタイルの界面破断
M ：既調合モルタルの母材破断
MG：既調合モルタルと下地板の界面破断
G ：下地板の母材破断
ロ）適用タイルが「小口タイル・二丁掛けタイル」の場合
（試験体の作製）JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板N−300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに（1）で調製した試料を厚さ7mmになるよう塗付ける。直ちに JIS A 5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押出し又はプレス成形による施ゆうの「小口タイル 108mm×60mm×12mm」を4枚2列、計8枚を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。
（試験方法）「モザイクタイル」の場合と同様に行う。
（5）接着強さ（温冷繰返し後）の試験方法
（試験体の作製）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々（4）接着強さ（標準時）の試験方法の「試験体」と同様とする。
（温冷繰返し試験）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々JIS A6909「建築用仕上塗材」に規定する7.11温冷繰返し試験に準じて行う。
試験の手順は、試験体を20±2℃の水中に18時間浸せきした後、直ちに−20±2℃の恒温器中で3時間冷却し、次いで50±3℃の別の恒温器中で3時間加温し、この24時間を１サイクルとする操作を10回繰返した後、試験室に2時間静置し、ひび割れ及び膨れの有無を目視によって調べる。
（温冷繰返し後の接着強さ試験方法）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々温冷繰返し試験完了後の試験体を標準状態で2日間養生した後、標準時の接着強さ試験方法と同様に行う。（全てが0.4N/mm2以上を確保していること）
（6）長さ変化率の試験方法
JIS A6203「セメント混和用ポリマーディスパージョン及び再乳化形粉末樹脂」9.9 長さ変化率に準ずる。
（7）曲げ強さの試験方法
JIS A6916「建築用下地調整塗材」の7.11 曲げ強さ試験に準ずる。
試験室の状態：試験室は温度20±2℃、湿度65±10%とする。

4-2 外壁改修工事（コンクリート打放し仕上げ外壁）

1 ひび割れ部改修工法

※ 樹脂注入工法 [4.1.4][4.2.4、5、6、7]

工法の種類	ひび割れ幅（mm）	注入口間隔（mm）	注入量（mL／m）
※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	200～300	※40 ・
	0.3以上0.5未満		※40 ・
	0.5以上1.0未満		※70 ・
・ 手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	50～100	※40 ・
・ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	100～200	※70 ・
	0.5以上1.0未満	150～250	※130 ・

注入状況の確認方法 ※ 注入量により確認 ・コアの抜取りを行う ・
コア抜取りの場合の個数 ※ 長さ500mごと及びその端数につき1個 ・
コア抜取りの場合の抜取り部の補修方法 ※ポリマーセメントモルタル充填 ・ 図示
・ Uカットシール材充填工法
・シーリング材
充填材料 ※１成分形又は２成分形ポリウレタン系 ・
シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 ※ 行う ・ 行わない
※ 可とう性エポキシ樹脂
・ シール工法
※ パテ状エポキシ樹脂 ・ 可とう性エポキシ樹脂

2 欠損部改修工法

※ 充填工法 [4.1.4][4.2.4、8]
・ エポキシ樹脂モルタル ・ ポリマーセメントモルタル
・

4-3 外壁改修工事（モルタル塗仕上げ外壁）

1 ひび割れ部改修工法

※ モルタルを撤去しないで改修 [4.1.4][4.3.5、6、7、8]
※ 樹脂注入工法

工法の種類	ひび割れ幅（mm）	注入口間隔（mm）	注入量（mL／m）
※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	200～300	※40 ・
	0.3以上0.5未満		※40 ・
	0.5以上1.0未満		※70 ・
・ 手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	50～100	※40 ・
・ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	100～200	※70 ・
	0.5以上1.0未満	150～250	※130 ・

注入状況の確認方法 ※ 注入量により確認 ・コアの抜取りを行う ・
コア抜取りの場合の個数 ※ 長さ500mごと及びその端数につき1個 ・
コア抜取りの場合の抜取り部の補修方法 ※ポリマーセメントモルタル充填 ・ 図示
・ Uカットシール材充填工法
・シーリング材
充填材料の種類 ※ １成分形又は２成分形ポリウレタン系 ・
シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 ※ 行う ・ 行わない
※可とう性エポキシ樹脂
・ シール工法
※ パテ状エポキシ樹脂 ・ 可とう性エポキシ樹脂
・ モルタルを撤去して改修
モルタル撤去後のコンクリート部分の改修は、4-2 外壁改修工事（コンクリート打放し仕上げ外壁）による
モルタル撤去後のモルタル欠損部の補修は、 2 欠損部改修工法による

2 欠損部改修工法 [4.1.4][4.3.9、10]

※ 充填工法（欠損部の面積が0.25m2／箇所程度以下の場合）
充填材の種類 ※ ポリマーセメントモルタル ・ エポキシ樹脂モルタル
・ モルタル塗替え工法
モルタルの材料 ※ 現場調合材料 ・ 既調合材料
既製目地材 ・ 使用する（形状
仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の措置 ※ 図示 ・

3 浮き部改修工法

※ モルタルを撤去しないで改修 [4.1.4][4.3.11～16]
・ アンカービニング部分エポキシ樹脂注入工法
・ アンカービニング全面エポキシ樹脂注入工法
・ アンカービニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法
※ 注入口付アンカービニング部分エポキシ樹脂注入工法
・ 注入口付アンカービニング全面エポキシ樹脂注入工法
・ 注入口付アンカービニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法

4-4 外壁改修工事（タイル張り仕上げ外壁）

アンカービンの材質 ※ ステンレス鋼（SUS304）呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工をしたもの
・
注入口付アンカービンの材質 ※ ステンレス鋼（SUS304）呼び径外径6mm
・
・ モルタルを撤去して改修
モルタルの材料 ※現場調合材料 ・ 既調合材料
・ 充填工法 ・ エポキシ樹脂モルタル ・ ポリマーセメントモルタル
・ モルタル塗替え工法 既製目地材 ・ 使用する（形状 ）
仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の措置 ※ 図示 ・

4 外壁複合改修構工法

平成７年度建設省告示第１８６０号による「外壁複合改修構工法の開発」において、建設大臣の技術評価を取得した工法とする

1 タイルの形状、寸法等

タイル部分張替え工法及びタイル張替え工法用接着剤の種類 [4.4.5、8]
・ JIS A 5557による一液反応硬化形の変成シリコーン樹脂系
タイルの形状、寸法等

施工箇所	形状/寸法（mm）	再生材料の適用	吸水率による区分 I類	II類	III類	うわぐすりの施ゆう	役物 有	無	色 標準	特注	耐凍害性 有	無	耐滑り性	備考
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

耐滑り性：JIS A 1509-12（セラミックタイル試験方法ー第12部：耐滑り性試験方法） で規定する C.S.R値は0.4～1.0とする。
役物の使用箇所

内 装	出隅	天端
外 装	出隅、窓台、マグサ（標準ー体成型品以外は接着成型品とする）	

見本焼き
・行う（施工箇所： ） ※行わない
試験張り
・行う（施工箇所： ） ※行わない

2 ひび割れ部改修工法 [4.1.4][4.5.5、6]

※ タイルを撤去して改修
下地モルタルまで撤去後のコンクリート部分の改修は、4-2 外壁改修工事（コンクリート打放し仕上げ外壁）による
モルタルを存置した場合のモルタル部分の改修は、4−3 外壁改修工事（モルタル塗仕上げ外壁）による
タイル撤去後のタイル欠損部の補修は、 3 欠損部改修工法による
・ タイルを撤去しないで改修

※ 樹脂注入工法

工法の種類	ひび割れ幅（mm）	注入口間隔（mm）	注入量（mL／m）
※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	200～300	※40 ・
	0.3以上0.5未満		※40 ・
	0.5以上1.0未満		※70 ・
・ 手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	50～100	※40 ・
・ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	100～200	※70 ・
	0.5以上1.0未満	150～250	※130 ・

注入状況の確認方法 ※ 注入量により確認 ・コアの抜取りを行う ・
コア抜取りの場合の個数 ※ 長さ500mごと及びその端数につき1個 ・
コア抜取りの場合の抜取り部の補修方法 ※ ポリマーセモルタル ・ 図示

・ Uカットシール材充填工法
・ シーリング材
充填材料の種類 ※１成分形又は２成分形ポリウレタン系 ・
シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 ※ 行う ・ 行わない
※ 可とう性エポキシ樹脂

3 欠損部改修工法 [4.1.4][4.5.7、8]

・ タイル部分張替え工法（欠損部の面積が0.25m2／箇所以下の場合及び下地モルタルがある場合）
接着剤の種類 ・ ポリマーセメントモルタル ・ 外装タイル接着剤張りの接着剤
・ タイル張替え工法（下地モルタルを撤去する場合）
貼付けモルタルの材料 ※ 現場調合材料 ・ 既調合材料
伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地の位置 ※ 改修標準仕様書表4.4.2による ・
外装タイル張り下地等の下地モルタル及び下地調整材塗りの接着力試験 ・ 行う ・ 行わない
・ セメントモルタルによるタイル（セラミックタイル）張り
タイル張りの工法 ・ 外装タイル（ ・ 密着張り ・ 改良圧着張り ・ 改良積上げ張り）
・ ユニットタイル（ ・ マスク張り ・ モザイクタイル張り）
・ 有機系接着剤によるタイル（セラミックタイル）張り
目地詰め ※行う ・行わない
下地モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理
※ 目荒し工法 ・
シーリング材の種類 打継ぎ目地及びひび割れ誘発目地 ※ ポリウレタン系 ・
伸縮調整目地その他の目地 ※ 変成シリコーン系 ・

4 浮き部改修工法 [4.1.4][4.4.5、9～15][4.5.9～15]

・ アンカービニング部分エポキシ樹脂注入工法
・ アンカービニング全面エポキシ樹脂注入工法
・ アンカービニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法
※ 注入口付アンカービニング部分エポキシ樹脂注入工法
・ 注入口付アンカービニング全面エポキシ樹脂注入工法
・ 注入口付アンカービニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法
・ 注入口付アンカービニング全面エポキシ樹脂注入タイル固定工法
注入口付アンカービン本数 ・
アンカービンの材質 ※ ステンレス鋼（SUS304）呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工をしたもの
・
注入口付アンカービンの材質 ※ ステンレス鋼（SUS304）呼び径外径6mm程度

・ タイル部分張替え工法
接着剤の種類 ・ ポリマーセメントモルタル ・ 外装タイル接着剤張りの接着剤
・ タイル張替え工法（下地モルタルを撤去する場合）
貼付けモルタルの材料 ※ 現場調合材料 ・ 既調合材料
伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地 位置 ※ 改修標準仕様書表4.5.1による ・
外装タイル張り下地等の下地モルタル及び下地調整材塗りの接着力試験 ・ 行う ・ 行わない
・ セメントモルタルによるタイル（セラミックタイル）張り
タイル張りの工法 ・ 外装タイル（ ・ 密着張り ・ 改良圧着張り ・ 改良積上げ張り）
・ ユニットタイル（ ・ マスク張り ・ モザイクタイル張り）
・ 有機系接着剤によるタイル（セラミックタイル）張り
下地モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理
※ 目荒し工法 ・
シーリング材の種類 打継ぎ目地及びひび割れ誘発目地 ※ ポリウレタン系 ・
伸縮調整目地その他の目地 ※ 変成シリコーン系 ・

5 目地改修工法 [4.1.4][4.5.5、16]

・ 目地ひび割れ部改修工法
・ 伸縮調整目地改修工法 伸縮調整目地の位置及び寸法 ※ 図示 ・

6 外壁複合改修構工法

平成７年度建設省告示第１８６０号による「外壁複合改修構工法の開発」において、建設大臣の技術評価を取得した工法とする

4-5 外壁改修工事（仕上塗材仕上げ外壁）

1 既存塗膜等の除去、下地処理及び下地調整 [4.5.4]

工法	処理範囲	下地面の補修
・ サンダー工法	※既存仕上げ面全体 ・ 図示	4-2 外壁改修工事（コンクリート打放し仕上げ外壁）、4-3 外壁改修工事（モルタル塗仕上げ外壁）による
・ 高圧水洗工法 吐出圧力 ・ 30MPa～50MPa ・ 50MPa～100MPa ・100MPa以上	※既存仕上げ面全体 ・ 図示	
・ 塗膜はく離剤工法	※既存仕上げ面全体 ・ 図示	
・ 水洗い工法	※サンダー工法、高圧水洗工法、塗膜はく離剤工法の処理範囲以外の既存仕上面全面 ・ 図示	
石綿含有仕上げ塗材の除去は、９章環境配慮改修工事による		

2 下地調整材 ※ 下地調整塗材 ・ ポリマーセメントモルタル [4.5.2]

3 仕上塗材仕上げ [4.1.5][4.5.2][表4.5.1]

建物内部に使用する塗料のホルムアルデヒド放散量
※ F☆☆☆☆ ・
仕上塗材の種類
・ 薄付け仕上塗材

呼び名	仕上げの形状	工法	防火材料
※ 外装薄塗材E			・
・			・

・ 厚付け仕上塗材

呼び名	仕上げの形状	工法	上塗り材	防火材料
			・ 適用する	・
			・ 適用する	・

○ 複層仕上塗材

呼び名	仕上げの形状	工法	上塗り材の種類	耐候性	防火材料
※ 複層塗材E ○ 複層塗材RE	ゆず肌	ローラー塗	溶媒 ※ 水系 ・ 樹脂 ※ アクリル系 ・ 外観 ※ つやあり ・	※ 耐候形3種 ・	・

軽量骨材仕上塗材

呼び名	防火材料
	・
	・

4 マスチック塗材塗り [4.1.5][4.6.2][表4.6.1]

種別 ・ A種 ・ B種

5 外壁用塗膜防水材塗り [4.1.5][4.7.2、3][表4.7.1]

仕上げの形状 ・
工法 ・
仕上塗材の耐候性 ・ 耐候形1種 ・ 耐候性2種 ・ 耐候性3種
下地挙動緩衝材 ・ 適用する ・ 適用しない
模様材の種類 ・
仕上塗料の種類 ・

雨水排水ポンプ場耐水化工事（本郷第1雨水ポンプ場）	
事業名	公共下水道事業
工事場所	三原市 本郷南五丁目
図面番号	A-3 縮尺 -
図面名：	建築改修工事特記仕様書(3)
三 原 市	

外壁改修フロー及び数量

・コンクリート打放し仕上げ外壁の場合

既存仕上げ材の処理範囲　※ 既存仕上げ面全体　・ 図示

外 壁 調 査 （ 施 工 数 量 調 査 ）

- ひび割れ部改修
  - 樹脂注入工法（注１）
    - A）0.2以上0.3未満　0m
    - A）0.3以上0.5未満　0m
    - A）0.5以上1.0未満　0m
    - B）0.2以上0.3未満　0m
    - C）0.3以上0.5未満　0m
    - C）0.5以上1.0未満　0m
  - Uカットシール材充填工法　0m
  - シール工法　0m
- 欠損部改修
  - 充填工法　100×300×30mm程度　0ヶ所
  - 鋼鉄筋部補修工法（改修標準仕様書4.3.3(b)）幅100mm程度　0m

下地調整材の施工範囲　※ 既存仕上げ面全体　・ 図示

仕上塗材仕上げ施工範囲　※ 既存仕上げ面全体　・ 図示

・モルタル塗り仕上げ外壁の場合

既存仕上げ材の処理範囲　※ 既存仕上げ面全体　・ 図示

外 壁 調 査 （ 施 工 数 量 調 査 ）

- ひび割れ部改修
  - 樹脂注入工法（注１）
    - A）0.2以上0.3未満　0m
    - A）0.3以上0.5未満　0m
    - A）0.5以上1.0未満　0m
    - B）0.2以上0.3未満　0m
    - C）0.3以上0.5未満　0m
    - C）0.5以上1.0未満　0m
  - Uカットシール材充填工法　0m
  - シール工法　0m
- 欠損部改修
  - 充填工法　0m2　カッター切り　0m
  - モルタル塗替え工法　0m2　カッター切り　0m
  - （工法名）　一般部分　0m2　指定部分　0m2
- 浮き部改修
  - モルタル撤去　・ しない　・ する
  - アンカーピンニング注入工法

下地調整材の施工範囲　※ 既存仕上げ面全体　・ 図示

仕上塗材仕上げ施工範囲　※ 既存仕上げ面全体　・ 図示

・タイル張り仕上げ外壁の場合

外 壁 調 査 （ 施 工 数 量 調 査 ）

- ひび割れ部改修
  - 樹脂注入工法（注１）
    - A）0.2以上0.3未満　0m
    - A）0.3以上0.5未満　0m
    - A）0.5以上1.0未満　0m
    - B）0.2以上0.3未満　0m
    - C）0.3以上0.5未満　0m
    - C）0.5以上1.0未満　0m
  - Uカットシール材充填工法　0m
  - タイル部分張替工法　0m2　カッター切り　0m
  - タイル張替工法　0m2　カッター切り　0m
  - （工法名）　一般部分　0m2　指定部分　0m2
- 欠損部改修
- 浮き部改修
  - タイル撤去　・ する　・ しない
  - アンカーピンニング注入工法
- 目地改修
  - 目地ひび割れ改修　mm×　mm　0m
  - 伸縮目地改修　mm×　mm　0m

（注１）4-2.1、4-3.1及び4-4.2のひび割れ部改修工法における樹脂注入工法の種類を示す
A）自動式低圧エポキシ樹脂注入工法、B）手動式エポキシ樹脂注入工法、C）機械式エポキシ樹脂注入工法

⑤ 建具改修工事

① 改修工法　[5．1．3]

建具の種類		かぶせ工法	撤去工法	適用箇所
⊙アルミ製建具		・	⊙	※ 建具表による　・
・樹脂製建具		・	・	※ 建具表による　・
・鋼製建具	・外部	・	・	※ 建具表による　・
	・内部	・	・	※ 建具表による　・
・鋼製軽量建具		・	・	※ 建具表による　・
⊙ステンレス製建具		・	⊙	※ 建具表による　・

新規に建具を設ける場合
壁部分の開口の開け方　※ 図示　・
新規建具周囲の補修工法及び範囲　※ 図示　・

2 防火戸　・ 適用する　指定箇所（ ※ 建具表による　・　）　[5．1．4]
防火戸の自動閉鎖機構及び防火戸とヒューズ装置、熱感知器又は煙感知器との連動
※連動させる　適用箇所（・建具表による　・　）
・連動させない

3 見本の製作等　建具見本の製作　・行う（建具符号：　）　・行わない　[5．1．5]
特殊な建具の仮組　・行う（建具符号：　）　・行わない

4 防犯建物部品　・ 適用する　適用箇所（ ※ 建具表による　・　）　[5．1．7]

⑤ アルミニウム製建具　性能値等　[5．2．2～5]［表5．2．2］
⊙耐風圧性の等級（　S-4　）、気密性の等級（ A-3　）、水密性の等級（ W-4　）
※ 改修標準仕様書表5.2.1による種別
外部に面する建具の種別　◯A種（建具符号：・全て　・建具表による　・　）
・B種（建具符号：・全て　・建具表による　・　）
・C種（建具符号：・全て　・建具表による　・　）
防音ドア、防音サッシ　遮音性の等級（　）
（建具符号：・ 建具表による　・　）
断熱ドア、断熱サッシ　断熱性の等級（　）
（建具符号：・ 建具表による　・　）
耐震性能
建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による
ステンレス鋼板の材料　※ SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1　・
形状及び仕上げ
枠の見込み寸法　※ 建具表による　・
表面処理
外部に面する建具　種別　・BB-1種　・BB-2種　・
色合等　※ 標準色（　）　・ 特注色（　）
屋内の建具　種別　・BC-1種　・BC-2種　・
色合等　※ 標準色（　）　・ 特注色（　）
結露水の処理方法　※ 図示　・
取付工法
水切り板、ぜん板　※ 図示　・
木下地の場合の内付け建具　・ 適用しない　・ 適用する

6 網戸等　[5．2．3][5．3．3]

種類	材質	線径	網目
・ 防虫網	※ 合成樹脂製 ・ ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ ステンレス（SUS316）製	※ 0.25mm以上 ・	※ 16～18メッシュ ・
・ 防鳥網	ステンレス（SUS304）線材	1.5mm	網目寸法15mm

7 樹脂製建具　[5．2．2][5．3．2～5]
性能値等
・ 耐風圧性の等級（　）、気密性の等級（　）、水密性の等級（　）
※ 改修標準仕様書表5.3.1による種別
外部に面する建具　・ A種（建具符号：・ 全て　・建具表による　・　）
・ B種（建具符号：・ 全て　・建具表による　・　）
・ C種（建具符号：・ 全て　・建具表による　・　）
防音ドア、防音サッシの遮音性の等級　・ T－1　・ T－2　・
（建具符号：・ 建具表による　・　）
断熱ドア、断熱サッシ　の断熱性の等級　・ H－4 ・ H－5 ・ H－6 ・ H－7 ・ H－8
（建具符号：・ 建具表による　・　）
外部に面する建具の日射熱取得性の等級
・
形状及び仕上げ
枠の見込み寸法　※ 建具表による　・
表面色　※標準色　・ 特注色
取付工法
水切り板、ぜん板　※ 図示　・
木下地の場合の内付け建具　・ 適用しない　・ 適用する
ガラス　※ 複層ガラス　・

8 鋼製建具　[5．2．2][5．4．2～4]［表5．4．2］
性能値等（建具符号：・ 建具表による　・　）
簡易気密型ドアセット　気密性の等級　・ A－3
水密性の等級　・ W－1
外部に面する面する建具の耐風圧性　・ S－4
・ S－5
・ S－6
防音ドア、防音サッシ　遮音性の等級（　）
断熱ドア、断熱サッシ　断熱性の等級（　）
耐震ドア　面内変形追従性の等級（　）
耐震性能
建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による
ステンレス鋼板の材料　※ SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1　・
形状及び仕上げ
鋼板類の厚さ　※ 改修標準仕様書表5.4.2による　・
使用箇所（　）
標準型鋼製建具の形状及び寸法　※建具表による

9 鋼製軽量建具　[5．2．2][5．5．2～4]
性能値等（建具符号：・ 建具表による　・　）
簡易気密型ドアセット　・適用する
防音ドア、防音サッシ　遮音性の等級（　）
断熱ドア、断熱サッシ　断熱性の等級（　）
耐震ドア　面内変形追従性の等級（　）
耐震性能
建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による
鋼板の材料　※ 亜鉛めっき鋼板　・ ビニル被覆鋼板　・ カラー鋼板　・ ステンレス鋼板
ステンレス鋼板の材料　※ SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1　・
形状及び仕上げ
鋼板類の厚さ　※ 改修標準仕様書表5.5.1による　・
使用箇所（　）
召合せ、縦小口包み板の材質　※ 鋼板　・
標準型鋼製建具の形状及び寸法　※建具表による

⑩ ステンレス製建具　[5．2．2][5．4．2][5．6．2～5]
性能値等（建具符号：◯建具表による　・　）　[5．7．2、3]
簡易気密型ドアセット　・ 適用する
外部に面する面する建具の耐風圧性　◯S－4
・ S－5
・ S－6
防音ドア、防音サッシ　遮音性の等級（　）
断熱ドア、断熱サッシ　断熱性の等級（　）
耐震ドア　面内変形追従性の等級（　）
耐震性能
建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による
ステンレス鋼板の材料　※ SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1　・
くつずりの仕上げ
ステンレス鋼板を用いる場合　※ ＨＬ以上
形状及び仕上げ
表面仕上げ　※ ＨＬ　・ 鏡面仕上げ　・
工法
ステンレス鋼板の曲げ加工　※ 普通曲げ　・ 角出し曲げ（・ａ角　・ ｂ角　・ ｃ角）

⑪ 建具用金物
金物の種類及び見え掛り部の材質等
※ 改修標準仕様書表5.7.1及び適用は建具表による　・
金属製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ　※ 改修標準仕様書表5.8.2による　・
樹脂製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ　※ 標準仕様書表5.8.3による　・
木製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ　※標準仕様書表5.8.4による
木製建具に使用する戸車及びレール　※標準仕様書表5.8.5による
握り玉及びレバーハンドル、押板類、クレセントの取付け位置　※ 建具表による　・

錠前類
【シリンダ箱錠及びシリンダ本締まり錠】
（品質）
デッドボルトの出寸法は17mm以上とする。 鍵付きのものはマスターキー、グランドマスターキー、コンストラクションキーなどのキーシステムが構築できるものとする。
（性能）
〈使用頻度による性能〉
1）（シリンダ箱錠のみ）ラッチボルトの開閉繰り返し試験（40万回）を行った後、ハンドルでの開閉操作力及びラッチングが試験前の2倍未満であり、動作に支障がない。
2）キーによるデッドボルトの施解錠繰り返し試験（10万回）を行った後、 試験前の回転トルクの2倍未満であり、施解錠操作に支障がない。（シリンダ本締り錠のみ）シリダ単体の施解錠繰り返しの評価は、シリンダ だけの回転トルクが10N・ｃｍ以下とする。
3）キーによる施錠機構の施解錠繰り返し試験（10万回）を行なった後、 試験前の回転トルクの2倍未満であり、施解錠操作に支障がない。
4）キーの抜き差し繰り返し試験（10万回）を行なった後、キーの抜き差 しに要する荷重は10N以下である。また、未使用の合鍵でシリンダが回転でき、かつ、1箇所1段差浅い刻みをもつ異なるキーでは、シリンダが回転しないこと。（キーに加えるトルクは、150N・ｃｍとする）
〈外力に対する性能 〉
1）デッドボルトの押込み強度試験（10ＫＮ）を行なった後、荷重を除い ときのデッドボルトの出寸法は8mm以上であること。
2）デッドボルトの側圧強度試験（10ＫＮ）を行なった際、加圧板がデッドボルトを通過しない。
3）デッドボルトの押込み強度（衝撃荷重）試験（58.8Ｊ）の衝撃荷重を加えたとき、解錠状態（デッドボルトの突出量が8mm未満）にならないこと。
4）デッドボルトの側圧強度（衝撃荷重）試験（58.5Ｊ）の衝撃荷重を加えたとき、解錠状態（加圧板がデッドボルトを通過した状態）にならないこと。
5）（シリンダ本締り錠はグレード3以上の影込錠の場合）ストライクプレートの厚さ1.5mm以上のステンレス鋼製とし、トロヨケは厚さ1.6mm以上の鋼製の一体絞りとする。又はストライクの強度と同等以上の強度をもつものとする。
〈使用扉の質量に対する性能（シリンダ箱錠のみ）〉
1）ラッチボルトの側圧強度試験（4ＫＮ）を行い、荷重を除いたとき、ハンドル操作及びラッチングに支障がない。
2）レバーハンドルのねじり強度試験（3.5ＫＮ・ｃｍ）を行なった後、トルクを除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。
3）握り玉のねじり強度試験（3ＫＮ・ｃｍ）を行なった後、トルクを除いたとき、握り玉が正常に作動していること。また、施錠時握り玉が固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。
4）ハンドルの引張強度試験（2ＫＮ）を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。
5）ハンドルの垂直荷重強度試験（2ＫＮ）を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。
<鍵>
1）かぎ（鍵）数は、1.5万以上とする。ただし、異なるキーウェイ形状であっても、共通のキーセクションが存在する場合は、有効かぎ（鍵）違い数とみなさないものとする。
2）同一タンブラーの使用数は、60%以下とする。また、６本タンブラーにおいては、キーの同一刻みは、最大2連続までとしていること。
試験方法は、JIS A 1541-1（建築金物－錠－第１部：試験方法）による。

【レバーハンドル】
（性能）
<ねじり強度>
レバーハンドルのねじり強度試験（3.5ＫＮ・ｃｍ）を行なった後、トルクを除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がないこと。
<引張り強度>
ハンドルの引張強度試験（2ＫＮ）を行い、荷重を除いたとき、ハンドル が正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、 施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がないこと。
<垂直荷重強度>
ハンドルの垂直荷重強度試験（2ＫＮ）を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障が ないこと。
試験方法は、JIS A 1541-1（建築金物－錠－第１部：試験方法）による。

クローザー類
（品質・性能）

性能試験項目 ＼ 区分			① ドアクローザー		② ヒンジクローザー		③ フロアヒンジ	
初期値	閉じ力及び効率による区分（注1・注2）	Grade2	番手	閉じモーメント（N・m）	効率（%）	閉じモーメント（N・m）	効率（%）	閉じモーメント（N・m）	効率（%）
			1	5以上	30以上	5以上	30以上	5以上	30以上
			2	10以上	30以上	10以上	30以上	10以上	30以上
			3	15以上	35以上	15以上	35以上	15以上	35以上
			4	25以上	40以上	25以上	40以上	25以上	40以上
			5	35以上	45以上	35以上	45以上	35以上	45以上
			6	45以上	45以上	45以上	45以上	45以上	45以上
	閉じ速度（秒）		常温（5～35℃）無風状態において、開扉（70°）から全閉（0°）までの時間を5～8秒に調整できること。					
	温度依存性（℃）		緩衝油の流動点は、JIS K 2269（原油及び石油製品の流動点並びに石油製品量り点試験方法）により測定し、－15℃以下であること。					
	ストップ力	ストップ入力	60N・m以下 但し、コンシールド型は200N・m以下		100N・m以下		100N・m以下	
		ストップ解除力	8N・m以上		3N・m以上		10N・m以上	
	バックチェック性能（秒）（バックチェック機能を有する機種のみ適用）		ドア開扉方向に荷重60N/m2を開扉50°から負荷する。バックチェック開始角度（70～85°）から更に20°まで開く間の時間は0.8秒以上としていること。		―		―	
	ディレードアクション性能（秒）ディレード アクション解除角度（60～75°）（ディレードアクション機能を有する機種のみ適用）		開扉90°の位置からディレードアクション解除角度までの時間が10秒以上確保でき、また、その時間の調整が可能であること。		―		―	
	戸の閉鎖位置（中心吊り込み両自由のみに適用）		―		―		±3mm以内	
耐久性	繰返し開閉後の閉じモーメント（N・m）	Grade2	耐久試験後も上記初期値を満足していること。		耐久試験後も上記初期値を満足していること。		耐久試験後も上記初期値を満足していること。	
	繰返し開閉後の効率（%）	Grade2	耐久試験後も上記初期値を満足していること。		耐久試験後も上記初期値を満足していること。		耐久試験後も上記初期値を満足していること。	
	繰返し開閉後の閉じ速度（秒）		耐久試験後も上記初期値を満足していること。					
	繰返し開閉後のバックチェック性能（秒）		耐久試験後も上記初期値を満足していること。		―		―	
	繰返し開閉後のディレードアクション性能（秒）		耐久試験後も上記初期値を満足していること。		―		―	
	繰り返し開閉後の戸閉鎖位置（mm）		―		―		耐久試験後±6mm以内	
耐久性の試験回数（繰り返し開閉回数）		Grade2	20万回		10万回		30万回	

注１．パラレル取付けは、右記の閉じモーメントの70%程度までとする。
注２．コンシールド型は右記の閉じモーメントの50%程度までとする。
Grade1を選定する場合は、図示による。
（試験方法）
1）性能試験は、JIS A 1510-3（建築用ドア金物の試験方法－第３部：フロアヒンジ、ドアクローザ及びヒンジクローザ）に規定する試験方法による。
2）試験ドアの質量は、1番手は25ｋ、2番手は40ｋ、3番手は60ｋ、4番手は80ｋ、5番手は100ｋ、6番手は120ｋとする。

⑫ 鍵　[5．8．4]
マスターキー　※ 製作する（　組）　・ 製作しない　・既存に組込む
鍵の製作本数　※ 各室３本１組（室名札付き）　・
鍵箱　・ 設ける（　個用　組）　・設けない

13 自動ドア開閉装置　[5．9．2、3]
引き戸用駆動装置
性能値
・
※ 改修標準仕様書表5.8.1による
種類　・ SSLD-1　・ SSLD-2　・ DSLD-1　・ DSLD-2

14 自閉式上吊り引戸装置
多機能トイレ出入口引き戸用駆動装置
性能値
・
※ 改修標準仕様書表5.9.2による
引き戸用検出装置の種類は、多機能トイレスイッチとする
引き戸用検出装置
性能値
・
※ 改修標準仕様書表5.9.3による
種類　・ 光線（反射）センサー　・ 熱線センサー　・ 音波センサー　・ 光電センサー
・ 電波センサー　・ タッチスイッチ　・ 押しボタンスイッチ
戸の開閉方式　※ 建具表による　・
防鎖　・ 適用する　・ 適用しない
凍結防止措置　・ 適用する　・ 適用しない
性能値等　※ 標準仕様書表5.10.1による　・　[5．10．3]
（試験方法）
（1）耐久性（開閉繰り返し）試験
閉については外力によらず、試験体の自閉装置及び制御装置のみにより戸を開端位置から閉端位置までの作動を確認できる試験を行う。同試験に用いる試験体は片引戸とし、開口内法有効高さ2,000mm、幅は最大寸法とする。適用戸総質量の区分毎に試験を行う。自閉装置、制御装置は10万回以上の時点で1回のみ調整を行えるものとし、また、その他の制御装置についてはメーカーの耐久性能試験成績書において2万回以上の耐久性能を確認することで、試験に代えることができるものとする。
（2）耐衝撃性試験
落下高さ17ｃｍにて、ドアの中央部にドアが外れる方向に衝撃を与える。
耐衝撃性試験に用いる試験体は片引戸、開口内法有効寸法は高さ2,000mm、幅900mmとする。
適用戸総質量の区分毎に試験を行う。
（3）気密性能試験
JIS A 1516「建具の気密性試験方法」による。

15 重量シャッター　[5．11．2、3]
シャッターの種類　・ 管理用シャッター
・ 外壁用防火シャッター
・ 屋内用防火シャッター
・ 防煙シャッター
外壁開口部に設ける重量シャッターの耐風圧強度（　）Pa
開閉方式の種類　※ 上部電動式（手動併用）　・ 上部手動式
安全装置
急降下制動装置、急降下停止装置を設けた電動シャッターの設置箇所
※ 図示　・
障害物感知装置を設けた電動シャッターの設置箇所　※ 図示　・
屋内用防火シャッター若しくは防煙シャッターの危害防止機構の設置箇所
※「防火区画に用いる防火設備等の構造方法を定める件」（昭和48年12月28日建設省告示第2563号）に定める基準に適合するもの
・
管理用シャッターのシャッターケース　・ 設ける　・ 設けない
スラット及びシャッターケース用鋼板
鋼板の種類　※ JIS G 3302（溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）
・ JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき及び鋼帯）
めっきの付着量　※ Z12又はF12を満足するもの　・
ガイドレール、まぐさ、雨掛りに用いる座板及び座板のカバー、雨掛りに用いるスイッチボックス類のふたの材質
ステンレス鋼板の材料　※ SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1　・

16 軽量シャッター　[5．12．2～4]
開閉方式の種類　※ 手動式　・ 上部電動式（手動併用）
耐風圧強度　（　）N／m2
障害物感知装置を設けた電動シャッターの設置箇所
※図示　・
スラットの材質の種類
※ JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼板）
めっきの付着量（ ※ Z06 又はF06を満足するもの　・　）
・ JIS G 3312（塗装溶融５５％アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板及び鋼板）
めっきの付着量（ ※ AZ90を満足するもの　・　）
スラットの形状　※ インターロッキング形　・ オーバーラッピング形
シャッターケース　※ 設ける　・ 設けない
ガイドレール（中柱共）の材質　※ ステンレス鋼板（SUS304）　厚さ1.0mm
・
座板の材質（屋外の場合）　※ ステンレス製既製品　・

17 オーバーヘッドドア　[5．13．2、3]

セクション材料による区分	耐風圧性能区分	開閉方式による区分	収納方式による区分	ガイドレールの材料
※スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバーグラスタイプ	・ 175 ・ 125 ・ 100 ・ 75 ・ 50	※バランス式 ・チェーン式 ・電動式	・スタンダード形 ・ローヘッド形 ・ハイリフト形 ・バーチカル形	※溶融亜鉛めっき鋼板 ・ステンレス鋼板

電動式タイプで障害物感知装置を設ける箇所　※図示　・

18 木製建具　[5．7．2～4]
建具材の加工、組立時の含水率　※ Ａ種　・
建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量
※ F☆☆☆　・
・ フラッシュ戸
表面材のホルムアルデヒド放散量等　※標準仕様書16.7.2(2)(ｴ)(a)による
表面材の合板の種類

合板の種類	規格等	備考
・ 普通合板	表面の樹種 生地、透明塗料塗り（ ※ ラワン合板程度　・　） 不透明塗料塗り（ ※ しな合板程度　・　） 板面の品質（　・ 広葉樹１等　・　） 接着の程度（　・ 1類　・ 2類 ）	
・ 天然木化粧合板	樹種名（　） 接着の程度（　・ 1類　・ 2類 ）	
・ 特殊加工化粧合板	化粧加工の方法（　・オーバーレイ　・プリント　・塗装） 表面性能（　）タイプ 接着の程度（　・ 1類　・ 2類 ）	
・ ミディアムデンシティファイバーボード（ＭＤＦ）	表裏面の状態による区分（　） 曲げ強さによる区分（　） 接着剤による区分（　） 難燃性による区分（　）	

表面板の厚さ　※改修標準仕様書表5.7.6による
・
引戸の召合せかまちのいんろう付きの適用
・ 適用する　・ 適用しない
・ かまち戸
かまち樹種（　）
鏡板樹種（　）
見込み寸法　※建具表による　・

雨水排水ポンプ場耐水化工事（本郷第1雨水ポンプ場）			
事 業 名	公共下水道事業		
工事場所	三原市　本郷南五丁目		
図面番号	A-4	縮尺	－
図面名：	建築改修工事特記仕様書(4)		
三　原　市			

⑲ ガラス

・ふすま
張りの種別（・Ⅰ型　・Ⅱ型）
上張り（押入等の裏側以外）　・鳥の子　・新鳥の子又はビニル紙程度
縁仕上げ　・塗り縁　・生地縁（素地）　・生地縁（ウレタンクリヤー塗装）
見込み寸法　※ 建具表による　・
・戸ぶすま　見込み寸法　※ 建具表による　・
・紙張り障子　見込み寸法　※ 建具表による　・
枠の材料　※ 木製枠（6章内装改修工事による）
・鋼製枠（※亜鉛めっき鋼板　・ビニル被覆鋼板　・カラー鋼板　・ステンレス鋼板）
くつずりの材料　・ステンレス鋼板　・木製（3．7、5．13．2～4）（図5．14．1）

下記のガラス以外の品種、厚さの呼びによる種類等
※建具表による　・
合わせガラスの材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに合わせガラスの合計厚さ及び特性による種類　※ 下記以外は建具表による　・

材料板ガラスの種類、組合せ	落球衝撃はく離特性並びにショットバック衝撃特性による種類
・フロート板、フロート板合わせガラス	・Ⅰ類　・Ⅱ－1類 ・Ⅱ－2類　・Ⅲ類

強化ガラスの形状による種類、材料板ガラスの種類による名称及び特性による種類
※ 下記以外は建具表による　・

材料板ガラスによる種類による名称	材料板ガラス	破片の状態及びにショットバック衝撃特性による種類
・フロート強化ガラス ・	・フロート板ガラス ・ ・	・Ⅰ類　・Ⅲ類

熱線吸収板ガラスの板ガラスによる種類、厚さによる種類及び性能による種類
※ 下記以外は建具表による　・

材料板ガラスによる種類	性能による種類	色　調
・熱線吸収フロート板ガラス ・熱線吸収網入り磨き板ガラス	・1種　・2種	・グリーン　・

複層ガラスの材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに複層ガラスの厚さ
※ 下記以外は建具表による　・

断熱性による区分	乾燥気体の種類
・T1　・T2　・T3　・T4　・T5　・T6	・空気　・アルゴン　・

日射取得性、日射遮蔽性による区分	乾燥気体の種類
・G　・S	・空気　・アルゴン　・

熱線反射ガラスの材料板ガラスの種類及び厚さによる種類
※ 下記以外は建具表による　・

材料板ガラスによる種類	日射熱遮蔽性による区分	耐久性による区分
・ 色調（・ブルー　・グレー　・　）	・1種	A類
	・2種	・A類　・B類
	・3種	B類

反射皮膜面　・内面　・外面
映像調整　・行わない　・行う

ガラスの留め材及び溝の大きさ

建具の種類	ガラス留め材	ガラス溝の大きさ（mm）
アルミニウム製	※ シーリング材 ・ガスケット ・グレイジングチャンネル形 ・	※ 建具の製造所の仕様による ・
鋼製及び鋼製軽量	※ シーリング材 ・	※ 建具の製造所の仕様による ・
ステンレス製	※ シーリング材 ・	※ 建具の製造所の仕様による ・
樹脂製	※ シーリング材 ・ガスケット ・グレイジングチャンネル形 ・	※ 建具の製造所の仕様による ・

耐震性能
建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による

⑳ ガラスブロック積み

［5．14．5］

表面形状	呼び寸法（mm）	厚さ（mm）	色調 クリア	色調 乳白	目地幅(mm) 平積み	目地幅(mm) 曲面積み	伸縮調整目地位置(mm)	防火性能
⊙正方形	・160×160	・95 ・125	・	・	※8～15	外側 ※標準仕様書5.14.5(2)(ｳ)(a)② ・ 内側 ※標準仕様書5.14.5(2)(ｳ)(a)② ・	※6m以下ごとに幅10～25 ・図示 ・	・無し ⊙有り
	⊙200×200	⊙95 ・125	⊙	・				

壁用金属枠及び補強材の材質・形状　※ 図示　・

力骨　材質　※ ステンレス鋼（SUS304）　・
寸法　※ 径5.5mm　・
形状　※ はしご形状複筋及び単筋　・
化粧目地モルタルの色（　白　）
シーリングの種類　（　MS-2　）
金属製化粧カバー　材質　・ステンレス製　⊙アルミニウム製
寸法　※ 図示　・
形状　※ 図示　・
工法　1章 適用区分による風圧力の（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力に対応した工法
目地部の横力骨の納まり
※ガラスブロック製造所の仕様による　・図示　・

21 ガラス用フィルム

種　類	記号 内張り用	記号 外張り用	その他性能等
・日射調整フィルム	・SC－1	・SC－2	日射遮へい性能による区分 ・A　・B　・C　・D　・E
・低放射フィルム	LE		熱遮流率による区分 ・A　・B　・C　・D
・衝撃破壊対応ガラス飛散防止フィルム	・GI－1	・GI－2	
・相関変位破壊対応ガラス飛散防止フィルム	・GD－1	・GD－2	
・ガラス貫通防止フィルム	SF		ガラスの貫通防止性能による区分 ・A　・B

品質　JIS　A5759による

⑥ 内装改修工事

① 他の部位との取り合い等

［6．1．3］
※ 壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う　・図示
天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井の改修範囲
※ 壁面より両側600mm程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う　・図示
既存天井の撤去に伴う取り合い部の壁面の改修
※ 既存のまま　・図示

② 既存床の撤去及び下地補修

［6．2．2］
ビニル床シート等の撤去　※ 仕上材のみ（接着剤とも）
⊙下地モルタルとも（・⊙図示の範囲　・撤去範囲全て）
合成樹脂塗床材の除去工法　・機械的除去工法　・目荒し工法
既存のコンクリート又はモルタル面の下地処理に用いるポリマーセメントモルタル及びエポキシ樹脂モルタルは、4章外壁改修工事による。

3 既存壁の撤去及び下地補修

［6．3．2］
間仕切壁撤去に伴う他の構造体の補修
※ 改修標準仕様書4.3.10によるモルタル塗り
（仕上げ厚又は全塗厚25mmを超える場合の処置　※ 図示　・　）
・

4 製材

ホルムアルデヒド放散量　※ F☆☆☆☆又は標準仕様書6.5.2(1)(ｳ)(b)による　・
・JAS 1083-5 製材 － 第5部に基づく下地用製材　［6．5．2］

施工箇所	寸法（mm）	等級	含水率	保存処理	間伐材等の適用
		※2級 ・	※A種・B種 ・		・
		※2級 ・	※A種・B種 ・		

・JAS 1083-2 製材 － 第2部に基づく造作用製材

施工箇所	寸法（mm）	等級	含水率	保存処理	間伐材等の適用
見え掛り面		※上小節 ・	※A種・B種 ・		・
見え掛り面以外		※小節以上 ・	※A種・B種 ・		・

・JAS 1083-6 製材 － 第6部に基づく広葉樹製材

施工箇所	寸法（mm）	等級	含水率	保存処理	間伐材等の適用
		※1等 ・	※10%以下・A種 ・B種・		・
		※1等 ・	※10%以下・A種 ・B種・		・

・JAS 1083（製材）以外の製材

施工箇所	寸法（mm）	材面の品質	防虫処理	含水率	間伐材等の適用
		（　） 造作材の場合 （※A種　・B種）	・適用する ・適用しない	※A種 ・B種 ・	・

5 造作用集成材

［6．5．2］
ホルムアルデヒド放散量　※ F☆☆☆☆又は標準仕様書6.5.2(1)(ｳ)(b)による　・
・「集成材の日本農林規格」による造作用集成材

施工箇所	品名	樹種名	寸法（mm）	見付け材面	見付け材面の品質	間伐材等の適用
					※1等　・2等	・

・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり造作用集成材

施工箇所	品名	樹種名	寸法（mm）	化粧薄板の厚さ（mm）	見付け材面	見付け材面の品質	間伐材等の適用
		化粧薄板： 芯材：				※1等 ・2等	・

・「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法（mm）	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用
				※15%以下　・	

・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法（mm）	化粧薄板の厚さ（mm）	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用
	化粧薄板： 芯材：				※15%以下 ・	・

6 造作用単板積層材

［6．5．2］
ホルムアルデヒド放散量　※ F☆☆☆☆又は標準仕様書6.5.2(1)(ｳ)(b)による　・
・JAS 0701に基づく造作用単板積層材

施工箇所	品名	寸法（mm）	表面の化粧加工	防虫処理	間伐材等の適用
			・有り（加工：・天然木化粧加工　・塗装加工） ・無し（等級：　）	・適用する ・適用しない	・

・JAS 0701以外の造作用単板積層材

施工箇所	品名	寸法（mm）	表面の化粧加工	防虫処理	含水率	間伐材等の適用
			・有り （加工：・天然木化粧加工　・塗装加工） ・無し（　）	・適用する ・適用しない	※14%以下 ・	・

・JAS 3079に基づく直交集積板

施工箇所	品名	強度等級	種別	接着性能（使用環境）	樹種名	寸法（mm）	間伐材等の適用
							・

7 合板等

［6．5．2］
ホルムアルデヒド放散量　※F☆☆☆☆又は標準仕様書6.5.2(1)(ｳ)(b)による　・
・普通合板

施工箇所	厚さ（mm）	単板の樹種名	接着の程度	板面の品質	防虫処理	間伐材等の適用
	※5.5 ・		※1類 ・2類	広葉樹 ※2等以上　・1等 針葉樹 ※C-D以上　・	・適用する ・適用しない	・

・構造用合板

施工箇所	等級	単板の樹種名	接着の程度	板面の品質	厚さ（mm）	防虫処理	強度等級	間伐材等の適用
	※2級以上 ・1級		・1類 ・特類	※C-D 以上 ・	※12 ・	・適用する ・適用しない	・適用する （　） ・適用しない	・

・「合板の日本農林規格」による化粧ばり構造用合板

施工箇所	厚さ（mm）	単板の樹種名	接着の程度	防虫処理	間伐材等の適用
			※1類　・特類	・適用する ・適用しない	・

・「合板の日本農林規格」による天然木化粧合板

施工箇所	化粧板に使用する単板の樹種名	厚さ（mm）	接着の程度	防虫処理	間伐材等の適用
			※1類　・2類	・適用する ・適用しない	・

・「合板の日本農林規格」による特殊加工化粧合板

施工箇所	厚さ（mm）	接着の程度	表面性能	化粧加工の方法	防虫処理	間伐材等の適用
		※1類　・2類			・適用する ・適用しない	・

・パーティクルボード

施工箇所	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	耐水性による区分	難燃性による区分	厚さ（mm）
		※13タイプ ・	※P又はM ・		※15 ・

・JAS 0360に基づく構造用パネル

施工箇所	等級	寸法（mm）
	・1級　・2級　・3級　・4級	

・ミディアムデンシティーファイバーボード（MDF）

施工箇所	厚さ（mm）	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤による区分	難燃性による区分	間伐材等の適用

8 接合具等

［6．5．3］
造作材の化粧面の釘打ち
※隠し釘打ち　・釘頭埋め木　・つぶし頭釘打ち　・釘頭現し
雑金物
※かすがい、座金、箱金物、短冊金物
（標準仕様書 表6.5.3～5に示す程度の市販品 表8.20.1のF種程度）
・（形状：　寸法：　材質：　）

9 防腐・防蟻処理

［6．5．5］
・薬剤の加圧注入による防腐防蟻処理　・

適用部材	保存処理性能区分
	・K2　※K3　・K4
	・K2　※K3　・K4
	・K2　※K3　・K4

・薬剤の塗布等による防腐、防蟻処理

適用部材	処理の方法	薬剤の種類
	※ 薬剤の製造所の仕様による ・	※ JIS　K　1571に適合又は同等品 ・

・薬剤の接着剤への混入による防腐、防蟻処理
適用部位（　）
・合板等の加圧注入処理等の適用
適用部位（　）

10 内部開仕切り軸及び床組み

［6．5．6］
・間仕切軸組に用いる木材の樹木名（製材を用いる場合）
※杉又は松
・床組みに用いる木材の樹種名（製材を用いる場合）

11 窓、出入口その他

［6．5．7］
・窓、出入口その他に用いる木材の樹木名（製材を用いる場合）
※吊元枠、水掛りの下枠及び敷居はひのき、その他は杉又は松

12 床板張り

［6．5．8］
・縁甲板及び上がりこまちに用いる木材の樹種名（製材を用いる場合）
※ひのき

13 壁及び天井下地

［6．5．9］
・壁胴縁、野縁受桟、野縁及び吊木に用いる木材の樹種名（製材を用いる場合）
※杉又は松

14 軽量鉄骨天井下地

［6．6．2～4］
野縁等の種類
屋外（※ 25形　・　）　屋内（※ 19形　・25形）
・屋外の軒天井、ピロティ天井等
工法
1章 適用区分による風圧力の（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力に対応した工法
野縁受、つりボルト及びインサートの間隔　・図示　・
周辺部の端からの間隔　・図示　・
野縁の間隔　・図示　・
既存の埋込みインサート　・使用する　・使用しない
あと施工アンカーの施工後の確認試験
・行う（試験箇所数　※屋内の場合、当該階において3箇所　・　）
（確認強度　※改修標準仕様書6.6.4(1)(ｳ)による　・　）
・行わない

・つりボルトの間隔が900mmを超える場合
補強方法　※ 図示　・
・天井のふところが3.0mを超える場合
補強方法　※ 図示　・

・天井の下地材における耐震性を考慮した補強
補強箇所　※ 高さが6mを超える天井　・図示　・
補強方法　※「特定天井及び特定天井の構造耐力上安全な構造方法を定める件」（平成25年国土交通省告示第771号）第3第2項第二号に適合させる。
・図示
耐震性能
建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による

15 軽量鉄骨壁下地

［6．7．3、4］［表6．7．1］
※ 改修標準仕様書表6.7.1によるスタッドの高さによる区分に応じた種類　・図示
スタッドの高さが5.0mを超える場合　※ 図示
出入口及びこれに準ずる開口部の補強　※ 改修標準仕様書6.7.4.(5)による　・

16 ビニル床シート

［6．8．2、3］

種類の記号	色柄	特殊機能	厚さ（mm）	備考
※ FS ・	・無地 ・マーブル柄 ・柄物	・帯電防止 ・耐動荷重性 ・防滑性	※ 2.0 ・	

※目地処理（工法　※ 熱溶接工法　・　）　・突付け（施工箇所：　）
特殊機能
帯電防止　・帯電防止性能評価値（JIS A 1455）1.2以上～3.2未満
又は体積電気抵抗値（JIS A 1454）1×10 ~1×10 Ω程度
・

17 ビニル床タイル

［6．8．2］

種類の記号	色柄	寸法	特殊機能	厚さ（mm）	備考
※ KT ・TT　・FT ・FOA　・FOB	・無地 ・柄物	・300×300 ・450×450 ・500×500	・帯電防止 ・防滑性	※ 2.0 ・2.5 ・3.0	

特殊機能
帯電防止　・帯電防止性能評価値（JIS A 1455）1.2以上～3.2未満
又は体積電気抵抗値（JIS A 1454）1×10 ~1×10 Ω程度
・

18 接着剤

［6.5.3、4］［6.8.2］［6.9.3］［6.11.4、5］
接着剤は可塑剤（難揮発性の可塑剤を除く）が添加されていないものとする。
ホルムアルデヒド放散量
※ 規制対象外　・
施工箇所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合の接着剤の種別
・図示　・

19 ビニル幅木

［6．8．2］
材質の種類　※ 軟質　・硬質
高さ（mm）※ 60　・75　・100
厚さ（mm）※ 1.5以上　・

20 ゴム床タイル

［6．8．2］
種類　・単層品　・複層品
色柄（　）
厚さ（mm）・3.0　・4.5　・6.0　・9.0
寸法（mm）（　）

21 カーペット敷き

［6．9．2、3］［表6．9．1］
・織じゅうたん

織り方	パイルの形状	帯電性	備考
・ウィルトンカーペット ・ダブルフェースカーペット ・アキスミンターカーペット	・カットパイル ・ループパイル ・カット、ループ併用	・適用する ・適用しない	

色柄
※模様のない無地
パイル糸の繊維種等
※無地の織りじゅうたんの種別（・A種　・B種　・C種）
織じゅうたんの接合方法
※ ヒートボンド工法　・つづり縫い

・タフテッドカーペット

パイルの形状	パイル長さ（mm）	工法	帯電性	備考
・カットパイル ・ループパイル ・カット、ループ併用	・5～7　・ ・4～6　・ ・	※ 全面接着工法 ・グリッパー工法	・適用する ・適用しない	

タフテッドカーペット用接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆

・タイルカーペット

パイルの形状	種類	施工箇所	寸法（mm）	総厚さ（mm）	備　考
※ ループパイル	※ 第一種 ・第二種		※ 500×500	※ 6.5	
・カットパイル	・第一種 ・第二種		※ 500×500	※ 6.5	
・カット、ループ併用	・第一種 ・第二種		※ 500×500	※ 6.5	

タイルカーペット用接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆
タイルカーペットの敷き方　平　場　※ 市松敷き　・模様流し　・
平　場　※ 市松敷き・模様流し・
階段部分　※ 模様流し・市松敷き・

見切り、押え金物の材質、種類及び形状
※ 図示　・
下敷き材　※ 反毛フェルト（JIS L 3204）
の第2種2号　呼び厚さ 8mm　・

雨水排水ポンプ場耐水化工事（本郷第1雨水ポンプ場）			
事 業 名	公共下水道事業		
工事場所	三原市　本郷南五丁目		
図面番号	A-5	縮尺	－
図面名：	建築改修工事特記仕様書(5)		
三　原　市			

22 合成樹脂塗床 [6．10．2、3]

種別	施工箇所	工法	仕上げの種類
・厚膜型塗床材 弾性ウレタン樹脂系塗床			※ 平滑仕上げ ・ 防滑仕上げ ・つや消し仕上げ
・厚膜型塗床材 エポキシ樹脂系塗床		・薄膜流しのべ工法 ・厚膜流しのべ工法 ・樹脂モルタル工法	・平滑仕上げ ・防滑仕上げ
・薄膜型塗床材			※ 平滑仕上げ

塗料のホルムアルデヒド放散量 ※Ｆ☆☆☆☆ ・

23 防じん用塗床

材料 水性アクリル系樹脂塗材とし、製造所の指定する製品とする
工法 製造所の指定する工法とする
なお、上塗りは２回塗りとし、総塗布量は０．２５ｋ／ｍ2以上とする
仕上げの種類（ ※ 平滑仕上げ ・ 防滑仕上げ ）（ ※ 標準色 ・ ）
JIS K 5970に基づく塗料のホルムアルデヒド放散量 ※ Ｆ☆☆☆☆ ・

24 フローリング張り [6．11．2～6]

単層フローリング

種類	工法	樹種	厚さ（mm）	間伐材等の適用
・フローリングボード１等	・釘留め工法（根太張り）	※ なら ・	15	・
	・釘留め工法（直張り）	※ なら ・	・12 ・	・
	・接着工法	※ なら ・	・8 ・	・
・フローリングブロック１等	・接着工法	※ なら ・	15	・

複合フローリング

種類	工法	樹種	種別	厚さ（mm）	間伐材等の適用
・天然木化粧複合フローリング	・釘留め工法(根太張り) ・釘留め工法(直張り)	※ なら ・	・Ａ種 ・Ｂ種 ※ Ｃ種	・15 ・ ・12 ・ ・12 ・	・
	・接着工法	※ なら ・	・Ａ種 ・Ｂ種 ※ Ｃ種	・12 ・ ・12 ・ ・12 ・	・

フローリング及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ 改修標準仕様書6.11.2(2)による ・
各工法に使用する接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※Ｆ☆☆☆☆
接着工法の場合の裏面緩衝材 ※ 合成樹脂発泡シート
現場塗装仕上げ ・ 行う
※ ウレタン樹脂ワニス塗り
・ オイルステインの上、ワックス塗り
・ 生地のままワックス塗り
・ 行わない

25 畳敷き [6．12．2]

種別 ・Ａ種 ・Ｂ種 ・Ｃ種 ※Ｄ種（畳床：・KT-Ⅰ ・KT-Ⅱ ※KT-Ⅲ ・KT-K ・KT-N）
下地の種類 ・ 標準仕様書表12.6.1による床組
・ ポリスチレンフォーム床下地（ノンフロン ）
・
畳表及び畳床にはホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。
衝撃緩和型畳（畳表：・C1 ・C2）

㉖ せっこうボードその他ボード及び合板張り

MDF、パーティクルボード及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 [6．13．2、3]
※Ｆ☆☆☆☆
合板のホルムアルデヒド放散量
※標準仕様書19.7.2(2)(ｲ)のｳ)～(ｶ)のいずれか

種 類	JISの記号	厚さ（mm）、規格等
・硬質木毛セメント板	HW	・15 ・20 ・25 ・
・中質木毛セメント板	MW	・15 ・20 ・25 ・
・普通木毛セメント板	NW	・15 ・20 ・25 ・
・硬質木片セメント板	HF	・12 ・15 ・18 ・21 ・
・普通木片セメント板	NF	・30 ・
⊙けい酸カルシウム板	0.8FK 1.0FK	タイプ２（無石綿） ⊙6 ・ 8
・ロックウール化粧吸音板	DR	・ フラットタイプ（・ 9(不燃) ・ 12(不燃) ・ ） ・ 凹凸タイプ（・ 12(不燃) ・ 15(不燃) ・ ）
・ロックウール吸音ボード1号	RW-B	・25 ・
・グラスウール吸音ボード32K	GW-B	・25(ガラスクロス包) ・
・せっこうボード	GB-R	※ 12.5（不燃） ・ 15（不燃）
・不燃積層せっこうボード	GB-NC	9.5（不燃） 化粧無（下地張り用） 化粧有（トラバーチン模様）
・シージングせっこうボード	GB-S	12.5 （※不燃 ・準不燃）
・強化せっこうボード	GB-F	・ 12.5 （不燃） ・ 15 （不燃）
・せっこうラスボード	GB-L	9.5
・化粧せっこうボード（木目）	GB-D	12.5 （不燃）幅 440mm 程度 模様（・ 柾目 ・ 板目） 専用下地材有り
⊙化粧せっこうボード （トラバーチン模様）	GB-D	9.5（準不燃）
・普通合板		表板の樹種名 生地、透明塗料塗り （ ※ ラワン程度 ・ ） 不透明塗料塗り （ ※ しな程度 ・ ） 板面の品質（ ） 厚さ（mm）（ ） 接着の程度（ ・ 1類 ・ 2類 ） 防虫処理（ ・ 行う ・ 行わない）
・天然木化粧合板		樹種名（ ） 接着の程度（ ・ 1類 ・ 2類 ） 厚さ（mm）（ ） 防虫処理（ ・ 行う ・ 行わない）
・特殊加工化粧合板		化粧加工の方法（ ・オーバーレイ ・プリント ・塗装） 表面性能（ ）タイプ 接着の程度（ ・1類 ・ 2類 ） 厚さ（mm）（ ） 防虫処理（ ・ 行う ・ 行わない）
・メラミン樹脂化粧板		JIS K 6903 による厚さ （※ 1.2 ・ ）
・ポリエステル樹脂化粧板		
・ミディアムデンシティファイバーボード	MDF	・3 ・7 ・9 ・12 ・
・単板張りパーティクルボード		・ 無研磨板 ＶＮ ・ 研磨板ＶＳ ・10 ・12 ・15 ・18 ・
・化粧パーティクルボード		・ 単板オーバーレイ ＤＶ ・ プラスチックオーバーレイ ＤＯ ・ 塗装 ＤＣ ・10（難燃） ・12（難燃） ・
・ハードボード（素地）	HB	・ 無研磨板（ ・ スタンダード ・ テンパード ＲＮ） ・ 研磨板 （ ・ スタンダード ・ テンパード ＲＳ）
・ハードボード（化粧）		・ 内装用ＤＩ ・外装用ＤＥ ・2.5 ・3.5 ・5 ・7 ・
・インシュレーションボード	IB	A級（ ・ 天井仕上げ ・ 内装仕上げ ・ ） ・9 ・12 ・15 ・18 ・

天井のボード類（ロックウール吸音板を除く）の重ね張りを行う場合
※ 図示による ・
合板の張付け ・ A種 ・ B種
せっこうボードの目地工法 ・ 仕上表による ・

27 壁紙張り

ホルムアルデヒド放散量 ※ Ｆ☆☆☆☆ ・ [6．14．2、3]

施工箇所	壁紙の種類					防火性能	備考
	紙	繊維	プラスチック	無機質	その他		
	・	・	・	・	・	・不燃 ・準不燃 ・難燃	
	・	・	・	・	・	・不燃 ・準不燃 ・難燃	

モルタル・せっこうプラスター面の素地ごしらえの種別 ※ B種 ・
コンクリート面の素地ごしらえの種別 ※ B種 ・
せっこうボード面及びその他ボード面の素地ごしらえの種別 ※ B種 ・

㉘ モルタル塗り [6．15．3、5、6]

モルタル ※ 現場調合材料 ・ 既調合材料（材料 ）
既製目地材 ・ 設ける 施工箇所（ ） 形状（ ※ 図示 ・ ）
・ 設けない
床の目地 ・ 設ける（目地割り ※ ２ｍ2程度（最大目地間隔３ｍ程度 ・ ）
（種類 ※ 押し目地 ・ ）
・ 設けない
外装タイル張り下地等の下地モルタル塗り及び下地調整材塗りの接着力試験
・ 適用する ・ 適用しない
壁面の仕上げ厚又は全塗り厚が25mmを超える場合の下地処理
・図示による
建具回り等の充填モルタルに使用する防水剤
（品質・性能）
（試験方法）JIS A1404「建築用セメント防水剤の試験方法」による

項目	品質・性能
防水剤の種別	建築用のモルタルに用いるセメント防水剤
混合割合	セメント重量の5%以下
凝結及び安定性	（凝結時間）始発：1時間以上 終結：10時間以内 （安定性）収縮性、膨張性のひび割れ及びそりの有無について確認する。
曲げ及び圧縮強度比	防水剤を混入したもの、しないものの曲げ強度比及び圧縮強度比 70%以上
吸水比	防水剤を混入したもの、しないものの吸水比 95%以下
透水比	防水剤を混入したもの、しないものの透水比 80%以下 ただし、透水試験における水圧は、3.0×10 Ｐａとし1時間行う

29 タイル張り [6．16．2～4]

伸縮調整目地の位置 床タイル（ ※ 縦、横とも4m以内ごと ・ 図示 ・ ）
床タイル以外（ ※ 図示 ・ ）
・ セメントモルタルによるタイル（セラミックタイル）張り

施工箇所	形状/寸法(mm)	再生材料の適用	吸水率による区分 Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類	うわぐすり 施ゆう	無ゆう	役物 有	無	色 標準	特注	耐凍害性 有	無	耐滑り性	備考
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

耐滑り性：JIS A 1509-12（セラミックタイル試験方法ー第12部：耐滑り性試験方法） で規定する C.S.R値は0.4～1.0とする。
標準的な曲がりの役物は一体成形とする
試験張り ・ 行う ※ 行わない
見本焼き ・ 行う ・ 行わない

既調合モルタル
モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。

（品質・性能）

項目	品質・性能	項目	品質・性能
保水率	70.0%以上	長さ変化率	0.20%以下
単位容積質量	1.80ｋ/Ｌ以上	曲げ強さ	4.0N/mm2以上
接着強さ 標準時	0.60N/mm2以上		
接着強さ 温冷繰り返し後	0.40N/mm2以上		

（試験方法）
（1）試料の調製
製造業者の定める、正味質量と標準練り上がり量より換算して、所定量の試料を練り上げるのに要する材料と練り混ぜ水を計算して用意する。
練り混ぜは、JIS R5201「セメントの物理試験方法」の10.2に規定する練り混ぜ機を使用し、練りばちに用意した水を入れ、撹拌しながら30秒間に材料を投入し、3分間練り混ぜて試料とする。
（2）保水率の試験方法
JIS R3202「フロート板ガラス及び磨き板ガラス」に規定する磨き板ガラス（縦150mm、横150mm、厚さ5mm）の上にJIS P3801「ろ紙（化学分析用）」に規定する5 Aろ紙（直径11ｃｍ）をのせ、その中央部に真ちゅう製リング型わく（内径50mm、高さ10mm、厚さ３mm）を設置し、（1）で調製した試料を平滑に詰込む。
その後、直ちにリング型わく上部にガラス板を当てて上下を逆さまにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。 60分後にろ紙へにじみ出した水分の広がりが最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さをノギスを用いて、1mmの単位まで測定する。
試験は３回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。
保水率＝50／平均値×100 （注） 50：リング型わくの内径 mm
（3）単位容積質量の試験方法
JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」に準ずる。
（4）接着強さ（標準時）の試験方法
イ）適用タイルが「モザイクタイル」の場合
（試験体の作製）JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに（1）で調製した試料を厚さ5mmになるように塗付ける。直ちにJIS A 5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押出し又はプレス成形による施ゆうの「50角ユニットタイル（外のり寸法約300mm×300mm）」を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。
（試験方法）JIS A 6909「建築用仕上塗材」の7.10付着強さ試験に準じて行う。試験体をダイヤモンドカッターを用いて、タイル周辺に沿って下地板に達するまで切り込みを入れ、シ樹脂接着剤で鋼製アタッチメントを接着し、引張試験機を用いて接着強さエポキ試験を行う。なお、接着強さの測定箇所は、試験体の中からまんべんなく5箇所を選び抜き取る。
（全てが0.6N/mm2以上を確保していること）
また、試験後の影材破断位置の表示を下記の中から選び明記する。
Ｔ ：タイルの母材破断 Ｍ：既調合モルタルと下地板の界面破断
ＴＭ：既調合モルタルとタイルの界面破断 ：下地板の母材破断
Ｍ ：既調合モルタルの母材破断
ロ）適用タイルが「小口タイル・二丁掛けタイル」の場合
（試験体の作製）JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに（1）で 調製した試料を厚さ7mmになるよう塗付ける。直ちに JIS A 5209「セラミックタイル」 に規定するタイルで押出し又はプレス成形による施ゆうの「小口タイル108mm×60mm×12mm」を4枚2列、計8枚を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。
（試験方法）「モザイクタイル」の場合と同様に行う。
（5）接着強さ（温冷繰返し後）の試験方法
（試験体の作製）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々（4）接着強さ（標準時）の試験方法の「試験体」と同様とする。
（温冷繰返し試験）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々JIS A6909「建築用仕上塗材」に規定する7.11温冷繰返し試験に準じて行う。
試験の手順は、試験体を20±2℃の水中に18時間浸せきした後、直ちに−20±2℃の恒温器中で3時間冷却し、次いで50±3℃の別の恒温器中で3時間加温し、この24時間を１サイクルとする操作を10回繰返した後、試験室に2時間静置し、ひび割れ及び膨れの有無を目視によって調べる。
（温冷繰返し後の接着強さ試験方法）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々温冷繰返し試験完了後の試験体を標準状態で2日間静置養生した後、標準時の接着強さ試験方法と同様に行う。（全てが0.4N/mm2以上を確保していること）
（6）長さ変化率の試験方法
JIS A6203「セメント混和用ポリマーディスパージョン及び再乳化形粉末樹脂」9.9 長さ変化率に準ずる。
（7）曲げ強さの試験方法
JIS A 6916「建築用下地調整塗材」の7.11 曲げ強さ試験に準ずる。
試験室の状態：試験室は温度20±2℃、湿度65±10%とする。
既調合目地材
（品質・性能）

項目	品質・性能	項目	品質・性能
保水率	30.0%以上	吸水量	50以下
長さ変化率	0.2%以下（収縮）	単位容積質量	1.80ｋ/Ｌ以上

（試験方法）
（1）試験の条件
試験室は、温度20±2℃、湿度65±5% RHの標準状態とする。また、試験に使用する材料、器具などを、予め24時間以上標準状態に置いた後使用する。
（2）試料の調整
正味質量と標準練り上がり量より、1.0～1.2Ｌの試料を練り上げるのに要する材料に相当する量を計算して用意し、さらに標準加水量より用意した材料に相当する量の練り混ぜ水を計算して用意する。 練り混ぜは、JIS R 5201「セメントの物理試験方法」11.2に規定する練り混ぜ機を使用し、練りばちに用意した水を入れ、撹拌しながら30秒間に材料を投入し3分間練り混ぜて試料とする。
（3）保水性（ろ紙法）
JIS R 3202「フロート板ガラス及び磨き板ガラス」に規定する磨き板ガラス（縦200mm、横200mm、厚さ5mm）の上にJIS P 3801「ろ紙（化学分析用）」に規定する5 Aろ紙（直径18.5ｃｍ）をのせ、その中央部に真鍮製リング型わく（内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm）を設置し、2）で練り混ぜた試料を金ベらで平滑に詰め込む。その後、直ちにリング型わく上部にガラス板を当て上下を逆さにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。
10分後にろ紙へにじみ出した水分の広がりが最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さをノギスを用いて１mmまで測定する。 試験は3回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。
保水率（%）＝50／平均値×100 注）50：リング型わくの内径（mm）
（4）単位容積質量
（2）で練り混ぜた試料を、JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」の6.4に規定する方法で求める。
（5）長さ変化率
（2）で調整した試料を用いてJIS A 1171の7.8長さ変化率試験に従って行う。
（6）吸水量
（2）で調整した試料を用いてJIS A 1404「建築用セメント防水剤の試験方法」7.5に規定する方法で24時間の吸水量を求める。試験体数は3個とし、その平均値とする。
有機系接着剤によるタイル（セラミックタイル）張り
タイルの形状、寸法等

施工箇所	形状/寸法(mm)	再生材料の適用	吸水率による区分 Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類	うわぐすり 施ゆう	無ゆう	役物 有	無	色 標準	特注	耐凍害性 有	無	備考
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

標準的な曲がりの役物は一体成形とする
有機質接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ Ｆ☆☆☆☆ ・

30 セルフレベリング材塗り [6．17．2、3]

塗厚（mm） ※10mm程度 ・

7 塗装改修工事

1 材料 屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量 [7．1．3]
※ Ｆ☆☆☆☆ ・
防火材料 ※ 屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする
・ 次の箇所を除き防火材料とする（ ・ ）

2 下地調整、素地ごしらえ 塗替え種別がＲＢ種の場合の既存塗膜の除去範囲 [7．2．1～7]
※ 劣化部分は除去し、活膜部分は残す ・
下地調整、素地ごしらえ

下地面の種別	塗替え 下地調整の種別	新規 素地ごしらえの種別	ひび割れ部の補修
木部	※ＲＢ種 ・	・Ａ種 ・Ｂ種	－
鉄鋼面	※ＲＢ種 ・	Ｃ種	－
鉄鋼面（ＤＰ）	※ＲＢ種 ・	Ｂ種	－
亜鉛めっき面	※ＲＢ種 ・	・Ａ種 ・Ｂ種	－
モルタル面、せっこうプラスター面	※ＲＢ種 ・	・Ａ種 ・Ｂ種	・行う
コンクリート面（ＤＰ以外） ＡＬＣパネル	※ＲＢ種 ・	・Ｂ種	・行う
押出成形セメント板面（ＤＰ） コンクリート面	・ＲＢ種 ・ＲＣ種	・Ａ種 ・Ｂ種	・行う
せっこうボード面、その他ボード面	※ＲＢ種 ・	・Ａ種 ・Ｂ種	－

3 錆止め塗料塗り

錆止め塗料塗りの種別 [7．4．2、3]

塗 装 面			塗料の種別	工程の種別
鉄鋼面	ＳＯＰ	新規見え掛り		・Ａ種 ・
		新規見え隠れ		・Ｂ種 ・
		塗替え		・Ｃ種 ・
	ＥＰ−Ｇ	新規見え掛り	・Ａ種 ※Ｂ種	・Ａ種 ・
		新規見え隠れ		・Ｂ種 ・
		塗替え		・Ｃ種 ・
	ＤＰ	新規		・Ａ種 ・
亜鉛めっき鋼面	ＳＯＰ	新規鋼製建具等	※Ａ種 ・Ｂ種	・Ａ種 ・
		新規その他		・Ｂ種 ・
		塗替え		・Ｃ種 ・
	ＥＰ−Ｇ	新規鋼製建具等		・Ａ種 ・
		新規その他		・Ｂ種 ・
		塗替え		・Ｃ種 ・

4 仕上げ塗料塗り [7．5．2～7．13．2]

塗装の種類	塗装面	工程 塗替え	新規
・合成樹脂調合ペイント塗り（ＳＯＰ） 塗料の種類 ※１種 ・２種	木部屋外	※Ｂ種 ・	※Ａ種 ・
	木部屋内	※Ｂ種 ・	※Ｂ種 ・
	鉄鋼面	※Ｂ種 ・	・Ａ種 ※Ｂ種
	亜鉛めっき鋼面（鋼製建具以外）	※Ｂ種 ・	※Ｂ種 ・
	亜鉛めっき鋼面（鋼製建具）	※Ａ種 ・	※Ｂ種 ・
・クリアラッカー塗り （ＣＬ）	木部	・Ａ種 ※Ｂ種	・Ａ種 ※Ｂ種
・アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り（ＮＡＤ）		・Ａ種 ※Ｂ種	・Ａ種 ※Ｂ種
・耐候性塗料塗り（ＤＰ） 上塗り等級 ・１級 ・２級 ・３級	コンクリート面及び押出成形セメント板面	・Ａ−１種 ・Ｂ−１種 ・Ｃ−１種	・Ａ−１種 ・Ｂ−１種 ・Ｃ−１種
・つや有合成樹脂エマルションペイント塗り（ＥＰ−Ｇ）	コンクリート面	※Ｂ種 ・	・Ａ種 ・Ｂ種
	モルタル面	※Ｂ種 ・	・Ａ種 ・Ｂ種
	せっこうプラスター面	※Ｂ種 ・	・Ａ種 ・Ｂ種
	せっこうボード面	※Ｂ種 ・	・Ａ種 ・Ｂ種
	屋内木部	※Ｂ種 ・	※Ａ種 ・
	屋内鉄鋼面	※Ｂ種 ・	・Ａ種 ・Ｂ種
	屋内亜鉛めっき面	※Ａ種 ・	※Ａ種 ・Ｂ種
・合成樹脂エマルションペイント塗り（ＥＰ）		※Ｂ種 ・	・Ａ種 ・Ｂ種
・ウレタン樹脂ワニス塗り （ＵＣ）		・Ａ種 ※Ｂ種	・Ａ種 ※Ｂ種
・ステイン塗り		・ビグメントステイン塗り ・オイルステイン塗り（ＯＳ）	
・木材保護塗料塗り （ＷＰ）		・Ａ種 ※Ｂ種	・Ａ種 ※Ｂ種

つや有合成樹脂エマルションペイント塗り（コンクリート面、モルタル面、せっこうプラスター面、せっこうボード面、その他ボード面）の塗替えの場合のしみ止め
※ Ｂ種又はＣ種の場合は改修標準仕様書表7.9.1のエ程１の下塗りをしみ止めシーラーとする
合成樹脂エマルションペイント塗りの塗替えの場合のしみ止め
※ Ｂ種又はＣ種の場合は改修標準仕様書表7.10.1のエ程１の下塗りをしみ止めシーラーとする
・ 高日射反射率塗料塗り
下地調整（改修標準仕様書表7.2.2） ・ ＲＡ種 ※ ＲＢ種 ・ ＲＣ種

工程	塗料その他 規格番号	規格名称	種類	等級	塗付け量（k/m2）
塗料塗り	JIS K 5675	屋根用高日射反射率塗料	2種	・１級 ・ 2級 ・ 3級	塗料製造所の仕様による

クリアラッカー塗りＡ種の工程２の着色
・適用しない ・適用する（着色剤：・溶剤形着色剤 ・油性染料着色剤）
ウレタン樹脂ワニス塗りの工程１の着色
・適用しない
・適用する（着色剤：・ 油性顔料着色剤 ・ 溶剤形顔料着色剤）
オイルステイン塗りの工程等

⑧ 耐震改修工事

特記仕様書（構造関係）による

9 環境配慮改修工事

1 石綿含有建材の除去工事 調査 [9．1．1、3～5]
・ 石綿含有建材の事前調査
工事着手に先立ち、あらかじめ関係法令に基づき、石綿含有建材の事前調査を行う。
貸与資料（ ）
・ 分析による石綿含有建材の調査
分析対象
アクチノライト、アモサイト、アンソフィライト、クリソタイル、クロシドライト、トレモライト
分析方法

材料名	分析方法（定性）JIS A 1481-1又はJIS A 1481-2	分析方法（定量）JIS A 1481-3又はJIS A 1481-4
	・ 箇所	・ 箇所
	・ 箇所	・ 箇所
	・ 箇所	・ 箇所

材料が仕上塗材の場合は、層ごとの分析を行うこと
サンプル数 １箇所あたり３サンプル
採取箇所 ・ 図示 ・
・ アスベスト粉じん濃度測定
測定時期、場所及び測定点

適用	測定名称	測定時期	測定場所	測定点（各施工箇所ごと）
・	測定１	処理作業前	処理作業室内	・計 点
・	測定２		調査対象室外部の付近	・計 点
・	測定３	処理作業中	処理作業室内	・計 点
※	測定４		セキュリティゾーン入口	・計 点
※	測定５		集じん・排気装置の排出口（処理作業室外の場合）	出口吹出し風速１ｍ／ｓ以下の位置 ・計 点
※	測定６		処理作業室外 ・施工区画周辺 ・敷地境界	・計 点
※	測定７	処理作業後（シート養生中）	処理作業室内	・計 点
・	測定８	処理作業後（シート	処理作業室内	・計 点
・	測定９	撤去後１週間以降）	調査対象室外部の付近	・計 点

雨水排水ポンプ場耐水化工事（本郷第１雨水ポンプ場）			
事 業 名	公共下水道事業		
工事場所	三原市 本郷南五丁目		
図面番号	A-6	縮尺	－
図面名：	建築改修工事特記仕様書(6)		
三 原 市			

測定方法
・ 自動測定器による測定

測定名称	測定方法
・ 測定4 ・ 測定5 ・ 測定（　　）	粉じん相対濃度計(デジタル粉じん計)、パーティクルカウンター、繊維状粒子自動測定器(リアルタイムファイバーモニター)等の粉じんを迅速に測定できる機器を用いた測定

・ JIS K 3850-1に基づいた測定

測定名称	メンブレンフィルタ直径（mm）	試料の吸引流量（l/min）	試料の吸引時間（min）
・ 測定4 ・測定5 ・測定（　　）	25	5	30
・ 測定（　　）	47	10	120
・ 測定（　　）	47	10	240
・ 測定（　　）			

石綿含有建材の処理
・ 石綿含有吹付け材の除去
除去対象範囲　※ 図示　・
除去工法　※ 改修標準仕様書9.1.3(2)(ｱ)による
・
除去した石綿含有吹付け材等の飛散防止措置　※ 湿潤化　・ 固形化
除去した石綿含有吹付け材等の処分
・ 埋立処分（管理型最終処分場）　・ 中間処理（溶融施設又は無害化処理施設）

・ 石綿含有保温材等の除去
除去対象範囲　※ 図示
除去工法　※ 原形のまま、手ばらし　・ 破砕して除去
除去した石綿含有吹付け材等の飛散防止措置　※ 湿潤化　・ 固形化
除去した石綿含有保温材等の処分
・ 埋立処分（管理型最終処分場）　・ 中間処理（溶融施設又は無害化処理施設）

・ 石綿含有成形板（石綿含有けい酸カルシウム板第1種以外）の除去
除去対象範囲　※図示
除去した石綿含有成形板の処分
・ 石綿含有石こうボード
※ 埋立処分（管理型最終処分場）
・ 石綿含有せっこうボードを除くアスベスト含有成形板
・ 埋立処分（安定型最終処分場）
・ 中間処理（溶融施設又は無害化処理施設）

・ 石綿含有成形板（石綿含有けい酸カルシウム板第1種）の除去
除去対象範囲　※図示
養生方法
・
除去した石綿含有けい酸カルシウム板第1種の処分
・ 埋立処分（安定型最終処分場）
・ 中間処理（溶融施設又は無害化処理施設）

・ 石綿含有仕上塗材又は石綿含有成形板（下地調整材）の除去
下記以外は、改修標準仕様書9.1.1及び9.1.2による
除去工法　・
※ 石綿障害予防規則（平成十七年二月二十四日厚生労働省令第二十一号）第６条による措置と同等以上の効果を有する措置とされる工法
・ 集じん装置併用手工具ケレン工法
・ 集じん装置付き高圧水洗工法（15ＭＰａ以下、30～50ＭＰａ程度）
・ 集じん装置付き超高圧水洗工法（100ＭＰａ以上）
・ 超音波ケレン工法（ＨＥＰＡフィルター付き掃除機併用）
・ 剥離剤併用手工具ケレン工法
・ 剥離剤併用高圧水洗工法（30～50ＭＰａ程度）
・ 剥離剤併用超高圧水洗工法（100ＭＰａ以上）
・ 剥離剤併用超音波ケレン工法
・ 集じん装置付きディスクグラインダーケレン工法
除去対象範囲　※ 図示
作業場の隔離　※ 行わない　・ 行う
試験施工　※ 行わない　・ 行う
除去した石綿含有仕上塗材の処分
・ 埋立処分（安定型最終処分場）　・ 埋立処分（管理型最終処分場）
・ 中間処理（溶融施設又は無害化処理施設）
除去した石綿含有仕上塗材の保管、運搬及び処分
※ 改修標準仕様書9.1.3(3)による　・
確認及び後片付け　※ 改修標準仕様書9.1.3(4)の(ｱ)、(ｲ)、(ｴ)及び(ｵ)による

石綿含有建材除去後の仕上げ工事　※ 図示　・

2　外断熱改修工事

断熱材　［9．2．1～4］
断熱材の種類（　　）、断熱材の厚さ（　　mm）
施工箇所　・ 図示　・
ホルムアルデヒド放散量　※ Ｆ☆☆☆☆　・
外装材

種類	防火性能	備考
・		

既存外壁の処置
既存外壁仕上材の撤去　・ あり　・ なし
下地面の清掃　・ 行う　・ 行わない
欠損部がある場合の改修工法　※ ４章外壁改修工事にる　・

工法
1章適用区分による風圧力（ ・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法
不陸等の下地調整　・ 図示　・
通気層の有無　・ あり（　　mm）　・ なし
断熱材、外装材の施工及び外装材の外壁への取付け
※ 断熱材及び外装材製造所の仕様による　・

3　断熱・防露改修工事

［9．3．2～4］
フェノールフォーム断熱材又は保温材、接着剤のホルムアルデヒト放散量
※ Ｆ☆☆☆☆　・
・ 断熱材打込み工法

種類		厚さ（mm）	施工箇所
・ ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材		・ 25 ・	・
※ 押出法ポリスチレンフォーム断熱材（スキン層なし） ・	※ 2種ｂＡ ・	※ 25 ・	※ 外壁 ・
	※ 3種ｂＡ ・	※ 25 ・	※ スラブ ・
・ 硬質ウレタンフォーム断熱材		・ 25 ・	・
・ フェノールフォーム断熱材		・ 25 ・	・

施工箇所の詳細は、仕上表及び図示による

・ 断熱材現場発泡工法
断熱材の種類　※ Ａ種１　・ Ａ種１Ｈ
吹付け厚さ（mm）　・ 25　・ 30　・
施工箇所　※ 窓回り等の断熱材補修部分、ルーフドレン回りの床版下等、部分的に後張りとしなければならない箇所
・ 図示

現場発泡断熱材
（品質・性能）

項目	品質・性能
難燃性	下記のいずれかによっていること （1）JIS A 1321「建築物の内装材及び工法の難燃性試験方法」による難燃2級表面加熱試験又は難燃3級表面加熱試験に適合していること。 （2）法定準不燃材料、難燃材料の評価方法に使用している発熱性試験（コーンカロリー試験）に適合していること。
発熱性	準不燃材料試験の加熱時間は10分、難燃材料試験の加熱時間は5分において次の （1）～（3）に適合していること。 （1）総発熱量が8ＭＪ／m2以下であること。 （2）防火上有害な裏面まで貫通する亀裂及び穴がないこと。 （3）最高発熱速度が、10秒以上継続して200ＫＷ／m2を超えないこと。

（試験方法）
（1）原液試験（原液粘度試験）
JIS K 7117-1「プラスチック－液状、乳濁状又は分散状の樹脂－ブルックフィールド形回転粘度計による見掛け粘度の測定方法」による。
（2）発泡品試験
1）試料の作製は、JIS A 9526「建築物断熱用吹付け硬質ウレタンフォーム」の6.2.1による。
2）試料の状態調節は、JIS A 9526の6.2.2による。また、試験片の作製はJIS A 9526の6.2.3による。
3）試験場所は、JIS A 9526の6.2.4による。
4）圧縮強さ試験は、JIS A 9526の6.2.5による。
5）熱伝導率試験は、JIS A 9526の6.2.6による。
6）接着強さ試験は、JIS A 9526の6.2.7による。
7）透湿率試験は、JIS A 9526の6.2.8による。
（3）難燃性の試験は、下記のJIS A 1321に規定する表面試験及び発熱性試験による。
1）難燃性の試験については、JIS A 1321に規定する試験方法に準じる。
2）発熱性試験は、建築基準法に基づく指定性能評価機関が準不燃材料、難燃材料の評価方法に使用している試験方法に準じる。

・ 断熱材後張り工法
断熱材の種類（　　）
断熱材の厚さ（　　mm）
・ 断熱材にせっこうボード等を張り付けたパネル（材質　　厚さ　　mm）
・ 張り付け工法
断熱材の張り付け工法　・
断熱材へのボードの張り付け工法　・

4　屋上緑化改修工事

植栽基盤及び材料　［9．4．2～4］
屋上緑化軽量システム　・ 適用する　・ 適用しない
芝及び地被類の種類等　※ 図示
見切り材、舗装材、排水穴、マルチング材等　※ 図示　・

（品質・性能等）

項目	品質・性能
透水、排水層等構成材の主要材質	合成樹脂等で耐腐食性及び耐久性のあるものであること。 （保水層を有する場合は、保水層共）
透水層	目詰まりにより植物の生育に支障を生じることがなく、植え込み用土を流出させない構造であること。
排水層	植物の生育に必要な排水性能を持ち、通気性及び植込み土壌を支え、流出しない構造をもつこと。
排水層の鉛直方向の排水性能	240Ｌ／m2・ｈ以上
耐荷重性能（排水層の許容圧縮強度）	一般メンテナンス時の上部歩行に際し破壊しないこと。 3×10^4 Ｎ／m2以上の載荷重で破損・有害な変形がないこと。
耐根層	重ね合わせ部を含め、クマザサ等の地下茎伸長力の強い植物に対して３年以上の耐根性能を有し、かつ、耐腐食性及び耐久性のあるものであること。
耐根層保護層	材質は、合成樹脂等とし、耐腐食性及び耐久性を有し、かつ、施工中及び施工後の耐根層を保護するものであること。ただし、耐根層を保護コンクリート（絶縁シートも含む）の下に設ける場合は省略することができるものとする。

（試験方法）
（1）排水基盤の耐荷重性能
（イ）3×10^4N/m2の等分布荷重による加圧試験を行ない、排水層及び耐根層等に有害な変形・破壊の起きないことを確認する。また、その時の圧縮応力に対する歪み（%）を測定する。（保水層を有する場合は保水層も対象とする。）
（ロ）試験体は耐根層から透水層までを通常使用状態にセットした3体とする。
加圧速度は10mm／ｍｉｎ以下とする。

1章 適用区分による風圧力の（ ・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法
かん水装置　・ 設置する（種類　・　　）
既存保護層の撤去　・ 行う　・ 行わない

新植した芝及び地被類の枯補償の期間　※ 引き渡しの日から1年　・

5　透水性アスファルト舗装改修工事

［9．5．2～5、9］
下記以外は、１０章その他による

既存舗装の撤去及び再利用　※ 図示　・

⑩　その他

1　フリーアクセスフロア

（20．2．2）

構法	・ 置敷式	・ 支柱摺整式
所定荷重	※ 3,000Ｎ　・ 5,000Ｎ	※ 3,000Ｎ　・ 5,000Ｎ
耐震性能	・ 1.0　・ 0.6	・ 1.0　・ 0.6
パネル寸法（mm）		
高さ（mm）		
表面仕上材	※ タイルカーペット ・ 帯電防止床タイル	※ タイルカーペット ・ 帯電防止床タイル
施工箇所	※ 図示	※ 図示

寸法精度
※ 標準仕様書20.2.2(ｵ)(a)～(c)による　・

スロープ及びボーダー　※ 製造所の仕様による　・ 図示
配線用取り出しパネル
フリーアクセスフロア全体面積に対する設置割合　※ 製造所の仕様による　・ 20～30パーセント
配線取り出し開口　※ 製造所の仕様による
・ パネル枚につき、40mm×80mm程度の開口１箇所以上
・
空調用吹き出し（吸い込み）パネル　・ なし　・ あり（形式、施工箇所：※ 図示　・　　）

（性能）
（1）耐荷重性能　変形5.0mm以下　残留変形3.0mm以下
（2）耐衝撃性能　残留変形3.0mm以下及び損傷がないこと
（3）ローリングロード性能
所定荷重1,000Ｎ（5,000Ｎの積載荷重は1,000Ｎ以上で任意）による繰り返し試験後、残留変形3.0mm以下
（4）耐震性能

イ）固定台試験による耐震性能

項目	性能
①ベースプレート又はアンカーが耐力に達したとき又はコンクリート接着面が剥離したとき	水平荷重の1/2が下記の<適用地震時水平力>以上
②上記①以外の部分が耐力に達したとき	水平荷重の1/1.5が下記の<適用地震時水平力>以上
③適用地震時水平力を加力した時の支柱頂部の変位	構造床面からの高さの1/50以下

<適用地震時水平力>
3,000Ｎ 0.6タイプ 支柱一本が負担する床加重
｛（m2当り自重+3,000Ｎ）/m2当りの支柱本数｝×0.6
3,000Ｎ 1.0タイプ 支柱一本が負担する床加重
｛（m2当り自重+3,000Ｎ）/m2当りの支柱本数｝×1.0
5,000Ｎ 0.6タイプ 支柱一本が負担する床加重
｛（m2当り自重+5,000Ｎ）/m2当りの支柱本数｝×0.6
5,000Ｎ 1.0タイプ 支柱一本が負担する床加重
｛（m2当り自重+5,000Ｎ）/m2当りの支柱本数｝×1.0
ロ）振動台試験による耐震性能（設計床高さ≦300mmの場合のみ）
振動台試験において、パネルの脱落や使用上支障をきたす損傷、せり上がり、隙間及び水平移動がない。
（5）耐燃焼性能
建築基準法第２条第９号の規定に基づく不燃材料又は燃焼終了後の残炎時間が0秒
（6）帯電防止性能評価値（U）
0.6以上
（7）感電防止性能
漏えい抵抗(R)≧1×10^6Ω
（8）歩行感
通常の歩行において空洞音やがたつきがなく、歩行感に違和感がない
（9）メンテナンス性
交換が必要な部品については交換できるよう設計されている。
（試験方法）
（1）耐震性能
1）設計床高さ≦300mmの場合
試験体ユニット1000mm×2500mm程度
所定の重りの質量　3000Ｎ：200ｋ　5000Ｎ：350ｋ
加振　0.6：所定加速度600ｃｍ／S2　1.0：所定加速度1000ｃｍ／S2
2）300mm<設計床高さ≦600mmの場合
①固定台による耐震性能試験
イ、支柱摺整式－支柱分離型・支柱固定タイプの全てのタイプ共、下記の試験方法－１又は、試験方法－２による。
ロ、原則として、試験方法－１はパネル単体設置（Ａタイプ）に適用し、試験方法－２はパネル連結設置（Ｂタイプ）に適用するものとする。
②試験方法－１
イ、試験は、コンクリート（JIS A 5371プレキャスト無筋コンクリート製品 種類：N300）に接着した支柱の頂部に対し、水平方向に適用地震時水平力及び水平最大耐力まで加力し、各測定点における水平力、支柱頂部の変形量を測定する。
ロ、加力方向は、支柱要素に対して最も不利な方向とする。試験体数は、３個とする。
③試験方法－２
イ、試験は、コンクリート（JIS A 5371プレキャスト無筋コンクリート製品　種類：N300）に接着した数ユニットの支柱の頂部に対し、水平方向に数ユニット分相当の、適用地震時水平力及び水平最大耐力まで加力し、各測定点における水平力、支柱頂部の変形量を測定する。加力方向は、支柱要素に対して最も不利な方向とする。
ロ、最終的に水平力を支持する支柱の本数で除した値を、支柱１本当たりの水平力とする。又、800mm×800mmに荷重板1,900Ｎ（3,000Ｎ／１m2 相当）を１箇所設ける。試験体数は、１セットとする。
④零点補正及び測定記録
試験体と試験機の隙間等を除去するため、始めに適用地震時水平力の1／2程度の水平力を加力した後、速やかに除荷して"0"にした状態を零点とする。又、水平力による各測定点の荷重及び変形曲線を測定し記録する。
3）共通事項
試験に使用する表面仕上げ材
種類：タイルカーペット　繊維素材：ナイロン100 %
パイル携帯：ループパイル
パイル長：3.0mm～4.0mm　パッキング素材：塩化ビニル樹脂
全厚：6.0mm～7.0mm　単位質量：4.0ｋ/m2～6.0ｋ/m2
人体耐電圧：2KV以下

2　表示

（20．2．11）
案内用図記号はJIS Z 8210による。
誘導標識、非常用進入口等の表示　※消防法に適合する市販品　・
室名札、ピクトグラフ、案内板等の形状、寸法、材質、色、書体、印刷等の種別、取付け形式等
※ 図示　・

3　ブラインド

（20．2．14）

形式	操作方法	種類	スラットの材質	スラット幅（mm）	ボックス・レールの材種	幅・高さ・取付箇所
・横形	※手動	※ギア式 ・コード式 ・操作棒式	※アルミニウム合金製 □	※ 25 ・	※鋼製 ・	※図示 ・
	・電動	―				
・縦形	※手動	※２本操作コード式 ・１本操作コード式 ・	※アルミスラット ・クロススラット	・ 80 ・ 100	アルミニウム合金製	※図示 ・
	・電動	―				

アルミスラットの材質　焼付け塗装仕上げ
クロススラットの材質　消防法で定める防炎性能の表示がある特殊樹脂加工

4　ロールスクリーン

（20．2．15）

材種	操作方式	遮光性能	寸法（mm）	取付箇所	備考
・ ガラス繊維製 ・ 合成・天然繊維製 ・ 木製 ・	・ 電動式 ・ スプリング式 ※ チェーン式 ・	・ 1級 ・ 2級 ・ 3級 ・	※ 図示 ・	※ 図示 ・	

巻取りパイプ、ウェイトバー、操作コード又は操作チェーンその他の材料
※ 製造所の仕様　・

5　カーテン

（20．2．16）

形式		開閉操作	ひだの種類	生地の種別、品質、特殊加工等	取付箇所	備考
・シングル ・ダブル	・片引き ・引分け	・手引き ・ひも引き ・電動	・つまみひだ ・箱ひだ、片ひだ ・プレーンひだ		※図示 ・	
						（暗幕）

暗幕カーテンの両端、上部及び召合せの重なり　※ 300mm以上　・

6　カーテンレール

（20．2．16）
材料による区分　※ アルミニウム又はアルミニウム合金の押出し成型材
・ ステンレス製
強さによる区分　※ 10-90　・
仕上げ　※ アルマイト　・
形状　※ 角形　・

7　ブラインドボックス及びカーテンボックス

清幅×深さ（mm）　・ 90×150　・ 120×80　・ 120×150　・ 150×80　・ 図示
材質　・ 集成材（仕上げ：　　）
・ アルミニウム製　押出し型材（市販品）
表面処理　・ BC-1　・ BC-2（※標準色（　　）　・ 特注色（　　））
・ 鋼製（仕上げ：　　）

8　天井点検口

材種	寸法（mm）	形式		外枠	内枠
※ アルミニウム製	※ 450×450 ・ 600×600	※ 一般形	・ 屋内外用 ※ 屋内用	※ 額縁タイプ ・ 目地タイプ	※ 額縁タイプ ・ 目地タイプ
・	・	・ 気密形			

（品質・性能）
内外枠の材質　アルミニウム製
JIS H 4100 A6063S-5又は同等の性能を有するもの
表面処理　陽極酸化皮膜JIS H 8601(AA6)又は同等の性能を有するもの
（外部に用いる場合は、JIS H 8602のB種又は同等以上の性能を有するもの）
内枠及び外枠のコーナーピース
鋼板に亜鉛めっき等の防錆処理を行ったもの又は同等の性能を有するもの
外枠の取付け金物
鋼板に亜鉛めっき等の防錆処理を行ったもの又は同等の性能を有するもの
内枠の仕上げ材留付金物
アルミニウム及びアルミニウム合金押出形材、亜鉛めっき鋼板又は同等の性能を有するもの
耐久性能（繰り返し開閉試験）
（1）50回、100回、300回の内蓋の垂れ下がりが、0.5mm以内。
（2）開閉試験後、使用上支障をきたす異常がないこと。
枠の寸法許容差　±0.5mm以内
外枠と内枠のクリアランス　片側2.0mm以内
（試験方法）
内蓋（内枠）の繰り返し開閉試験
（1）試験体は、枠見込み40mm程度のものとする。
吊り金物は、外枠を天井下地取付用補強材に直接留付ける方式（天井ボードなどの仕上材を挟んで固定しない方式）とする。標準仕様書14章4節により製作した試験体固定用天井下地開口補強に試験体の天井点検口450mm×450mmを吊り金具4箇所にて各メーカー仕様に従い取付ける。なお、野縁の種類は、19形とし仕上げ材は、せっこうボード厚さ9.5mm（JIS A 6901「せっこうボード製品」のGB-Rの難燃2級又は発熱性２級以上）二重張りとする。
（2）試験は、内蓋を閉じた状態から自由開放状態にする動作を繰り返し行う。
（3）測定は、上記繰り返し試験において、各50回、100回、300回毎に内蓋の垂れ下がり状態を測定する。

雨水排水ポンプ場耐水化工事（本郷第１雨水ポンプ場）			
事業名	公共下水道事業		
工事場所	三原市　本郷南五丁目		
図面番号	A-7	縮尺	－
図面名：	建築改修工事特記仕様書(7)		
三　原　市			

9 床点検口

材種	寸法（mm）	形式		備考
・アルミニウム製 ・ステンレス製 ・鋼製	・450×450 ※ 600×600 ・	・一般形 ・密閉形	・屋内外用 ・屋内用	・鍵付き

密閉形とは、ボルト、ナット等メカニカル構造にパッキンを装着したものとする。
（品質・性能）

部材名	材質	屋内外用	屋内用
受枠材 蓋枠材	アルミニウム及びアルミニウム合金押出形材	JIS H 4100のA6063S -T5 （表面処理）JIS H 8602のB種又はJIS H 8601のAA15	
	ステンレス製	JIS G 4305のSUS304、SUS430J1L、SUS443J1 （表面処理）HL又は2B仕上げ程度	JIS G 4305のSUS430 （表面処理）HL又は2B仕上げ程度
	鋼製	－	標準仕様書表18.3.1及び表18.3.2のさび止め塗料塗り等の防錆処理を行ったもの
二重蓋の中蓋	鋳鉄	JIS G 5501のFC150、FC200	
	その他	塩化ビニル樹脂製等	
目地材	黄銅	JIS H 3100 のC2600、C2720、C2801 JIS H 3250 のC3602、C3604	
	ステンレス	JIS G 4305のSUS304、SUS430J1L又はSUS443J1 JIS G 4308のSUS304	
底板材コーナーピース底板補強材	ステンレス鋼板	JIS G 4305のSUS304、SUS430J1L、SUS443J1 JIS G 4308のSUS304	JIS G 4305のSUS430
	アルミニウム板	JIS H 4000(A1100P H24) 表面処理：陽極酸化塗装複合被膜 JIS H 8601(AA15) JIS H 8602(B)	－
	鋼材	－	鋼製又はJIS G 3313にメラミン樹脂焼付塗装若しくは、標準仕様書表18.3.1及び表18.3.2のさび止め塗料塗り等の防錆処理を行ったもの
パッキン材		塩化ビニル系ゴム、軟質塩化ビニル、クロロプレン、スポンジラバー、エチレンプロピレン等枠の材質、形状に適した弾力性、密着性を有するもの	
アンカー材		鋼製に電気亜鉛めっき又は防錆塗料を行ったもの	
取手		黄銅鋳鉄製、黄銅製、アルミニウム押出形材・合金鋳鉄製、ステンレス鋳鋼品、ステンレス製等 ステンレス鋼材、アルミニウム押出形材などで被覆した、合成樹脂製のものは、衝撃による変形・割れが生じないものとする	
鍵		黄銅製、ステンレス製、亜鉛合金製とする 施錠・開錠は、鍵又は開閉用ハンドル式とする	
蓋の耐荷重性能		蓋中央部が荷重値Pn=1,000Nにおいて残留たわみが点検口の有孔径の0.08%以内であること。 受け枠、蓋その他の使用上支障がないこと。 破壊荷重は、荷重値のPnの2倍以上であること 。	

受け枠寸法の許容差　±0.5mm以下
蓋付寸法の許容差　　±0.5mm以下
受け枠と蓋枠のクリアランス　片側2.0mm以内
（試験方法）
耐荷重試験
試験体は、強物用とし、600mm角程度、枠見込みは、40mm以下とする。
試験は、蓋枠の四隅を支持させ、蓋の中央部にφ50mmの加圧板を設置し、加圧する。
本試験前に200Nを加圧した後、本試験を行う。
本試験は、1,000Nで加圧、荷重除去を3回繰り返し行った後、その後試験体が破壊する（終局荷重）まで加圧する。
測定は、蓋中央部にかかる加圧を200N増す毎にたわみと受け枠の変形その他の異常について1,000Nまで3回繰り返す。

10 手すり

材質	表面仕上げ	直径（mm）	取付箇所
・集成材	・クリアラッカー　・	・35　・45　・	
・ステンレスパイプ	・HL程度　・		
・鋼製パイプ	・SOP　・EP-G		
・ビニル製ハンドレール			

11 天井見切り縁等

壁及び下がり壁と天井の取合いの見切縁（天井見切縁、下がり壁見切縁）の材種
※ アルミニウム既製品　　・ビニル既製品

12 視覚障害者用床タイル（視覚障害者誘導用ブロック）　（11．2．2、19．2．2）

施工箇所		種類	寸法（mm）	厚さ（mm）
屋内		・塩化ビニル製	※ 300×300　・	・7.0　・
		・セラミックタイル	※ 300×300　・	・
		・レジンコンクリート製	※ 300×300　・	・
		・コンクリート製		
屋外		・セラミックタイル	※ 300×300　・	・
		・レジンコンクリート製	※ 300×300　・	・
		・コンクリート製		

突起の形状、配列及び寸法は JIS T 9251による

⑬ 鉄筋

8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による　（5．2．1）（表5．2．1）

種類の記号	呼び名	備考
※ SD295A	※ D16以下	
※ SD345	※ D19以上	

⑭ 溶接金網

8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による　（5．2．2）

種類	網目寸法、鉄線の径（mm）	備考
※ 溶接金網		
・鉄筋格子		

⑮ 鉄筋の継手及び定着

8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による　（5．3．4）
鉄筋の継手の方法等
※ 重ね継ぎ手
・
鉄筋の重ね継手の長さ
※ 40dと標準仕様書表5.3.2の重ね継手の長さのうち大きい値とする
・
鉄筋の定着長さ
※ 柱に取り付ける梁の引っ張り鉄筋の直線定着長さは40d以上とし、それ以外は標準仕様書表5.3.4による
・
機械式定着工法
・適用する
適用箇所　・図示による　・
種類　・摩擦圧接接合　・螺合グラウト固定　・嵌合グラウト固定

⑯ コンクリートの気乾単位容積質量による種類及び強度等

8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による　（6．2．1～4）
※ 普通コンクリート

設計基準強度（Fc）［N／mm2］	スランプ（cm）	適用箇所
※ 24 ⊙ 21	※ 標準仕様書表6.2.2による ・	※ コンクリート全て（無筋コンクリートを除く） ・

⑰ セメント

種類　（6．3．1）
※ 普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種
・高炉セメントB種
・フライアッシュセメントB種

⑱ 型枠

8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による　（6．8．2）
せき板の材料　※ 合板　厚さ（ ※ 12mm　・　）
・メッシュ型枠
・断熱材を兼用した型枠　厚さ25mm以下かつ熱抵抗値1mh℃／kCal以上

⑲ 無筋コンクリート

8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による　（6．14．1）

種　類	設計基準強度（Fc）［N／mm2］	スランプ（mm）	施　工　箇　所
※ 普通コンクリート ・	※ 18 ・	※ 15 ・	※ 標準仕様書6.14.1(4)(ｱ)～(ｶ)による ・

種類
※ 普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種
・高炉セメントB種
・フライアッシュセメントB種

⑳ 床コンクリート直均し仕上げ　（8．1．4）（表8．1．5）

仕上げの平たんさは、図示以外は下記による

改修標準仕様書表8.1.5による平たんさの種別	施工箇所
a種	合成樹脂塗床、ビニル系床材張り、床コンクリート直均し仕上げ、フリーアクセスフロア（蓋敷式）　（　　）
b種	カーペット張り、防水下地、セルフレベリング材塗り（　　）
c種	タイル張り、モルタル塗り、フリーアクセスフロア（支柱調整式）（　　）

㉑ あと施工アンカー　（14．1．3）

6章内装改修工事　軽量鉄骨天井下地及び8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による
あと施工アンカー施工後の確認試験　※ 行う　・行わない

22 トイレブース　（20．2．5）

表面材の材料	脚部	ドアエッジ
	形状	材質
※ メラミン樹脂系化粧板 ・ポリエステル樹脂系化粧板	※ 幅木タイプ ・	※ アルミニウム製 ・ステンレス製 ・表面材と同材

（品質・性能）
（1）パネル

項目	品質・性能
表面材	メラミン樹脂系、ポリエステル樹脂系化粧板又はメラミン樹脂系単一材とする。
裏打材	JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質のうち、鋼材については、防食処理及び防錆処理を施した材料とする。ただし、メラミン樹脂系単一材の場合は適用しない。
心材	JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質とする。ただし、メラミン樹脂系単一材の場合は適用しない。
枠材	JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質のうち、鋼材については、亜鉛めっき
エッジ材	処理を施した材料とする。
小口	防水処理を施す。

（2）構造金物

項目	品質・性能
脚部（脚具、幅木）	JIS G 4305「冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯」に規定するSUS304、SUS430J1L、SUS443J1とし、仕上げはHL程度とする。

（3）付属金物

項目	品質・性能
ヒンジ	耐蝕性のあるものとする。
ラッチセット	
戸当り	腐蝕の恐れのある材料には防錆処理を施してあるものとする。 戸当り部のゴムは、使用に十分耐える材質であるものとする。

（4）外観は、JIS A 6512「可動間仕切」の5.b）による。

（5）パネル表面材の耐薬品性・耐汚染性・耐ひっかき性・開閉耐久性

項目	品質・性能	
	耐薬品性及び耐汚染性	耐引っかき性
メラミン樹脂系化粧板及びメラミン樹脂系単一材	JIS K 6903(2008)「熱硬化性樹脂高圧化粧板」の表8品質による耐汚染性（B法）の規定を満足していること。	－
低圧メラミン樹脂系化粧板	ポリエステル樹脂系加工化粧合板、ポリエステル樹脂系化粧MDF、ポリエステル樹脂系化粧パーティクルボードのいずれかの品質に適合していること。	
ポリエステル樹脂系加工化粧合板	JAS「合板の日本農林規格」第9条特殊加工化粧合板に示された耐汚染性B試験において、試験片の表面に色が残らないこと。	JAS「合板の日本農林規格」第9条特殊加工化粧合板に示された耐引っかき性B試験において、きずの深さの平均値が10μm以内であること。
ポリエステル樹脂系化粧MDF	JIS A 5905「繊維板」の表18の規定に適合していること。	
ポリエステル樹脂系化粧パーティクルボード	JIS A 5908「パーティクルボード」の表11の規定に適合していること。	

（試験方法）
（1）ヒンジは、JIS A 1510-2「建築用ドア金物の試験方法－第2部：ドア用金物」に規定する試験による。
（2）戸当りの衝撃試験は、JIS A 1510-2に規定する試験による。
パネル材料のホルムアルデヒド放散量　※ JIS A 6512によりF☆☆☆☆以上　・

雨水排水ポンプ場耐水化工事（本郷第1雨水ポンプ場）			
事 業 名	公共下水道事業		
工事場所	三原市　本郷南五丁目		
図面番号	A-8	縮尺	－
図面名：	建築改修工事特記仕様書(8)		
三　原　市			

建築非構造部材の耐震性能に係る標準的な特記事項

建築設計基準		項目	特記事項
外壁	帳壁	CW（メタルPCa）	CW工事 取付方法、性能等 地震力に対する安全性 設計用震度 設計用水平震度（Ｋｈ）※１．０ ・ 設計用鉛直震度（Ｋｖ）※０．５ ・ 帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能 設計用震度の地震力に対して、部材に生じる応力度が所定の応力度以内にあり、有害な残留ひずみが生じないこと。ただし、所定の応力度以内にあることの確認が困難な場合は、試験等により設計用震度の地震力に対して有害な残留ひずみが生じないことを確認する。なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。 所定の応力度は、短期許容応力度とし、短期許容応力度が定められていない材料については、関連基規準（製造者等により構成される協会等が定める指針等を含む。）が定める値とする。 構造体の層間変形に対する追従性 層間変形角 ・ １／１００ ・ １／２００ ・ 帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能 左記の層間変形角に対して、脱落しないこと 層間変形角１／３００に対して、ほとんど補修の必要がなく、継続使用に耐えること。
		ALCパネル	外壁パネルの耐震性 地震力に対する安全性 設計用震度 設計用水平震度（Ｋｈ）※１．０ ・ 設計用鉛直震度（Ｋｖ）※０．５ ・ 帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能 設計用震度の地震力に対して、部材に生じる応力度が所定の応力度以内にあり、有害な残留ひずみが生じないこと。ただし、所定の応力度以内にあることの確認が困難な場合は、試験等により設計用震度の地震力に対して有害な残留ひずみが生じないことを確認する。なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。 所定の応力度は、短期許容応力度とし、短期許容応力度が定められていない材料については、関連基規準（製造者等により構成される協会等が定める指針等を含む。）が定める値とする。 構造体の層間変形に対する追従性 層間変形角 ・ １／１００ ・ １／２００ ・ 帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能 左記の層間変形角に対して、脱落しないこと
		押出成形セメント板（ECP）	外壁パネルの耐震性 地震力に対する安全性 設計用震度 設計用水平震度（Ｋｈ）※１．０ ・ 設計用鉛直震度（Ｋｖ）※０．５ ・ 帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能 設計用震度の地震力に対して、部材に生じる応力度が所定の応力度以内にあり、有害な残留ひずみが生じないこと。ただし、所定の応力度以内にあることの確認が困難な場合は、試験等により設計用震度の地震力に対して有害な残留ひずみが生じないことを確認する。なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。 所定の応力度は、短期許容応力度とし、短期許容応力度が定められていない材料については、関連基規準（製造者等により構成される協会等が定める指針等を含む。）が定める値とする。 構造体の層間変形に対する追従性 層間変形角 ・ １／１００ ・ １／２００ ・ 帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能 左記の層間変形角に対して、脱落しないこと
外壁	仕上げ	石工事	－

扉	特定室等及び避難経路のある室等に設置する扉	ADSLSD	RC壁に設置する特定室等及び避難経路の扉 ・耐震ドア　面内変形追随性の等級（・　） （建具符号：※建具表による　・　） 重量がある扉 以下の設計用震度の地震力に対して、脱落が生じないものとする。なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。 設計用水平震度（Ｋｈ）※１．０ ・ 設計用鉛直震度（Ｋｖ）※０．５ ・ （建具符号：※建具表による　・　）
ガラス	ガラス	ガラス	構造体の層間変形に対する追従性 以下の構造体の層間変形角に対して、破損、脱落が生じないよう取り付けられているものとする。 構造体の層間変形角　・１／１００ ・１／２００ ・ ／
天井	特定天井	軽量鉄骨天井下地（特定天井）	範囲　※図示　・ 特定天井の設計用震度及びクリアランスは以下による。 特定天井告示（平成２５年国土交通省告示第７７１号）による特定天井の設計用震度 検証ルート（　） 室名 / 階 / 設計用水平震度（Ｋｈ） / 設計用鉛直震度（Ｋｖ） / クリアランス（mm） ・ / ・ / ・ ・
天井	特定天井以外の吊り天井で、全周にわたって壁面から水平方向に十分な離れのあるもの	軽量鉄骨天井下地（紙貼吊天井）	範囲　※図示　・ 標準仕様書１４．４．１～１４．４．４に加えて、天井下地材における耐震性を考慮した補強は、以下の１）～４）のとおりとする。 １）野縁受けは、相互にジョイントを差し込んだ上でねじ留め。 ２）野縁や野縁受けの隣り合うジョイントの位置は、互いに１ｍ以上離し、千鳥状に配置。 ３）野縁受けと吊りボルトの接合に用いるハンガーは、ねじ留め等の措置（関手止め）を講じる。 ４）野縁と野縁受けの接合に用いるクリップは、特定天井告示（平成２５年国土交通省告示第７７１号）第３第３項に適合する天井に用いられるもの又は耐震ピクリップ相当の緊結度合を「新たな特定天井の技術基準（天井と周囲の壁等との間に隙間を設けない仕様の追加）の解説（平成２８年７月版）」（国土交通省国土技術政策総合研究所他）の「付録１クリップの接合部の衝撃試験」により確認されたものを使用する。なお、当該クリップは、ＪＩＳＡ６５１７によらなくてもよいものとする。
天井	在来工法吊り天井	軽量鉄骨天井下地	－
天井	システム天井	システム天井	※グリッドタイプ　・システム天井 範囲　※図示　・ 耐震性 以下の設計用震度の地震力及び構造体の層間変形角に対して、脱落しないものとする。 なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。 設計用水平震度（Ｋｈ）※１．０ ・ 設計用鉛直震度（Ｋｖ）※０．５ ・ 構造体の層間変形角　・１／１００ ・１／２００ ・ ／
間仕切り	間仕切り	ALCパネル	間仕切りパネルの耐震性 地震力に対する安全性 設計用震度 設計用水平震度（Ｋｈ）※１．０ ・ 設計用鉛直震度（Ｋｖ）※０．５ ・ 帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能 設計用震度の地震力に対して、部材に生じる応力度が所定の応力度以内にあり、有害な残留ひずみが生じないこと。ただし、所定の応力度以内にあることの確認が困難な場合は、試験等により設計用震度の地震力に対して有害な残留ひずみが生じないことを確認する。なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。 所定の応力度は、短期許容応力度とし、短期許容応力度が定められていない材料については、関連基規準（製造者等により構成される協会等が定める指針等を含む。）が定める値とする。 構造体の層間変形に対する追従性 層間変形角 ・ １／１００ ・ １／２００ ・ 帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能 左記の層間変形角に対して、脱落しないこと
		押出成形セメント板（ECP）	間仕切りパネルの耐震性 地震力に対する安全性 設計用震度 設計用水平震度（Ｋｈ）※１．０ 設計用鉛直震度（Ｋｖ）※０．５ 帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能 設計用震度の地震力に対して、部材に生じる応力度が所定の応力度以内にあり、有害な残留ひずみが生じないこと。ただし、所定の応力度以内にあることの確認が困難な場合は、試験等により設計用震度の地震力に対して有害な残留ひずみが生じないことを確認する。なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。 所定の応力度は、短期許容応力度とし、短期許容応力度が定められていない材料については、関連基規準（製造者等により構成される協会等が定める指針等を含む。）が定める値とする。 構造体の層間変形に対する追従性 層間変形角 ・ １／１００ ・ １／２００ 帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能 左記の層間変形角に対して、脱落しないこと
		軽量鉄骨壁下地	－

その他の建築非構造部材	フリーアクセスフロア	フリーアクセスフロア	20章　フリーアクセスフロアの特記事項による
	エキスパンションジョイント金物	エキスパンションジョイント金物	材質 / 階区分 / 建築物間のクリアランス（mm） / 変位追従量（mm） / 耐火性能 / 断熱性能 / 備考 ・アルミニウム製 ・ステンレス製 / （ ）階～（ ）階 / ・５０ ・１００ ・１５０ ・ / （避難経路の床等）・　以上 （その他）・　以上 / ・有り（　） ・無し / ・有り（　） ・無し / 備考 ・アルミニウム製 ・ステンレス製 / （ ）階～（ ）階 / ・５０ ・１００ ・１５０ ・ / （避難経路の床等）・　以上 （その他）・　以上 / ・有り（　） ・無し / ・有り（　） ・無し / 備考 外部に設置するものは、防水型とする。 エキスパンションジョイントカバーには、脱落防止措置を講じる。
造作家具・造作工事	門扉・間仕切り等の作物	壁等に固定する家具	壁等に固定する家具	固定方法　・壁固定（図示） ・床固定（図示） 以下の設計用震度の地震による引抜き力に対して固定金具に生じる応力度が所定の応力度以内にあり、有害な残留ひずみが生じないものとする。ただし、所定の応力度以内にあたる事の確認が困難な場合は、試験等により設計用震度の地震による引抜き力に対して有害な残留ひずみが生じないことを確認する。なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。 所定の応力度は、短期許容応力度とし、短期許容応力度が定められていない材料については、関連基規準（製造者等により構成される協会等が定める指針等を含む。）が定める値による。 設計用水平震度（Ｋｈ）※１．０ ・ 設計用鉛直震度（Ｋｖ）※０．５ ・ 家具名称 / 設置場所 / 備考 ・ / ・ / ・ ・ / ・ / ・ ・ / ・ / ・ ・ / ・ / ・ ・軽量鉄骨壁下地等への補強　（　※図示　・　） ※収納物の散乱防止措置（ラッチ機構、ロック機構等）を講ずる。 ・

雨水排水ポンプ場耐水化工事（本郷第1雨水ポンプ場）			
事 業 名	公共下水道事業		
工事場所	三原市　本郷南五丁目		
図面番号	A-9	縮尺	－
図面名：	建築改修工事特記仕様書(9)		
三　原　市			

特記仕様書(構造関係)

⑧ 耐震改修工事 共通事項

① 適用範囲

※改修標準仕様書　8章　耐震改修工事
⊙改修標準仕様書において８章耐震改修工事以外の改修工事で８章を引用している部分

工事内容
・現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事
・鉄骨ブレースの設置工事
・柱補強工事　(溶接金網巻き工法又は溶接閉鎖フープ巻き工法)
・柱補強工事　(鋼板巻き工法又は帯板巻き付け工法)
・連続繊維補強工事
・耐震スリット新設工事
・免震改修工事
・制振改修工事
・土工事及び地業工事
⊙(耐水化改修工事に伴う鉄筋コンクリート及び無筋コンクリート部分)

② 既存部分の処理等

既存構造体の撤去　[8.21.2][8.22.2][8.23.2][8.24.4][8.25.2]
撤去範囲
※構造図による
はつり出した鉄筋及び鉄骨の処置
※露出部分は、錆止め塗料塗りを行う
既存構造体コンクリート面の目荒らしの程度及び範囲　[8.21.3][8.22.3][8.23.3]
既存柱、梁面
※打継ぎ面の15～30%程度に、平均深さ 2～5mm（最大7mm）程度の凹凸処理を施す。
・構造図による
既存壁
※打継ぎ面の10～15%程度に、平均深さ 2～5mm（最大7mm）程度の凹凸処理を施す。
・構造図による

既存杭の撤去等　[8.28.2]
・撤去範囲及び撤去方法　※構造図による

8-1 鉄筋工事

① 鉄筋

鉄筋の種類等　[8.2.1]

種類の記号	呼び名	備考
※　SD295	※　D16以下	
※　SD345	※　D19以上	
・		
・		

② 溶接金網

鉄線の形状等　[8.2.2]

種　類	種類の記号	網目寸法、鉄線の径（mm）	使用部位
※ 溶接金網		φ6 100x100	
・ 鉄筋格子			

③ 鉄筋の継手及び定着

鉄筋の継手の方法等　[8.3.4][8.4.2.3]

部　位	継手方法	呼び名
柱、梁の主筋	※ ガス圧接　・ 機械式継手 ・ 溶接継手	
耐力壁の鉄筋	※ 重ね継手　・	
その他の鉄筋（ HH立上り 等）	⊙ 重ね継手　・	

継手位置　[8.3.4]
※構造図による
・柱及び梁の主筋の重ね継手の長さ
※構造図による
耐力壁の重ね継手の長さ
※改修標準仕様書 8.3.4(3)(ｱ)による　[8.3.4]
・改修標準仕様書 表8.3.2
鉄筋の定着長さ　[8.3.4]
※改修標準仕様書 8.3.4(5),(6)による
・構造図による

機械式定着工法
・適用する
適用箇所
・図示による（　　）　・
種類
・摩擦圧接接合　・螺合グラウト固定
・嵌合グラウト固定　・
工法
※第三者機関の評定等を取得している工法とする
必要定着長さ
※評定等の評価内容による
補強筋形状
※評定等の評価内容による
かぶり厚さ
※評定等の評価内容による
品質確認
※評定等の評価内容による
検査
※評定等の評価内容による

④ 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔（溶接金網を含む）

最小かぶり厚さ　[8.3.5]
※改修標準仕様書 表8.3.6による
・軽量コンクリートを適用する場合
適用箇所（　　）
・最小かぶり厚さに加える厚さ　（　　）mm

・耐久性上不利な箇所がある場合（塩害を受けるおそれのある部分等）
適用箇所（　　）
・最小かぶり厚さに加える厚さ　（　　）mm

5 圧接完了後の圧接部の試験

超音波探傷試験　[8.3.8]
※行う（全圧接部）

6 機械式継手

適用箇所
※構造図による
H12建告第1463号に適合する性能　[8.4.2]
※A級　・（　　）
種類　[8.4.2]
・ねじ式鉄筋継手
充填方式
・無機グラウト方式　・有機グラウト方式　・
・端部ねじ加工継手
・モルタル充填式継手
・
工法
※第三者機関の評定等を取得している工法
鉄筋相互のあき
※評定等の評価内容による
品質の確認
※評定等の評価内容による
検査
※評定等の評価内容による
施工完了後の継手部の試験
・外観試験
試験対象
※全数
試験項目
・評定等の評価内容による　・
試験方法
・評定等の評価内容による　・
・超音波測定試験
試験対象
・抜取り
ロット
・1組の作業班が1日に行った継手箇所で、最大200箇所程度とする。
・
試験の箇所数
1ロットに対して（　　）箇所
・全数
試験項目
※挿入長さ
試験方法
※JIS Z 3064（鉄筋コンクリート用機械式継手の鉄筋挿入長さの超音波測定方法及び判定基準）による
不合格となった場合の措置　(5.5.5)
・

7 溶接継手

適用箇所
※構造図による
H12建告第1463号に適合する性能　[8.4.3]
※A級　・（　　）
溶接継手の工法　[8.4.3]
・図示による（　　）　・
鉄筋相互のあき
・標準仕様書5.3.5(4)による
・評定等の評価内容による
・図示による（　　）
施工完了後の溶接部の試験
・外観試験
試験対象
※全数
試験項目
・評定等の評価内容による　・
試験方法
・評定等の評価内容による　・
・超音波探傷試験
試験対象
・抜取り
ロット
・1組の作業班が1日に行った溶接箇所で、最大200箇所程度とする。
・
試験の箇所数
1ロットに対して（　　）箇所
・全数
試験項目
※内部欠陥の検出
試験方法
※JIS Z 3063（鉄筋コンクリート用異形棒鋼溶接部の超音波測定方法及び判定基準）による
不合格となった場合の措置　(5.6.5)
・

8 割裂補強筋

仕　様　[8.21.6][8.22.7]
形状
・スパイラル筋　・（　　）
種類の記号
・SR235またはSWM-P　・（　　）
呼び径、曲げ直径、ピッチ
・図示による

8-2 コンクリート工事

① コンクリートの種類

コンクリートの類別　[8.1.3]
※Ⅰ類（JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート）
・Ⅱ類（JIS A 5308に適合したコンクリート）

② コンクリートの気乾単位容積質量による種類及び強度等

※普通コンクリート　[8.1.3.4][8.2.5]

設計基準強度（N/mm²）	スランプ（cm）	気乾単位容積質量（t/m³）	適用箇所
・24 ⊙21	⊙改修標準仕様書8.1.2による ・	2.3程度	構造図による

構造体強度補正値　※改修標準仕様書表8.2.4による　・構造図による

・軽量コンクリート　[8.1.3.4][8.2.5][8.9.2]

設計基準強度（N/mm²）	スランプ（cm）	気乾単位容積質量（t/m³）	種類	適用箇所
・ ・	※21 ・	・ ・	・1種　・2種	構造図による

構造体強度補正値　※改修標準仕様書表8.2.4による　・構造図による

③ セメント

種　類　[8.2.5]
※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又は
フライアッシュセメントA種
普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210 に示された規定の他、水和熱が7日目で352J/g 以下、かつ28日目で 402J/g 以下のものとする
・高炉セメントB種 G　適用箇所（　　）
・フライアッシュセメントB種 G　適用箇所（　　）

④ 骨　材

アルカリシリカ反応性による区分　[8.2.5]
※A　・B

⑤ 混和材料

⊙混和剤　[8.2.5]
混和剤の種類
※改修標準仕様書 8.2.5(4)(a)による　・構造図による

⑥ 構造体用モルタル

圧縮強度（　Fm30　）　[8.2.6]
フロー値（　180mm未満　）

7 暑中コンクリート

構造体強度補正値　※6N/mm²　・構造図による　[8.10.2]

8 マスコンクリート

適用箇所　(6.13.1)
※構造図による
セメントの種類　(6.13.2)
・普通ポルトランドセメント
・中庸熱ポルトランドセメント
・低熱ポルトランドセメント
・高炉セメントB種 G
・フライアッシュセメントB種 G
・シリカセメント
・（　　）
混和材料
・混和剤　(6.13.2)
混和剤の種類
※標準仕様書6.13.2(2)(ｱ)による
・構造図による
・混和材　(6.13.2)
混和材の種類
※標準仕様書6.13.2(2)(ｲ)による
・構造図による
スランプ　(6.13.2)
※15cm　・（　）cm
構造体強度補正値　※標準仕様書表6.13.1による　・構造図による

⑨ 無筋コンクリート

コンクリートの種類
※普通コンクリート　・（　　）
設計基準強度　[8.11.1]
※18N/mm²・（　）N/mm²
スランプ　[8.11.1]
※15cm又は18cm　・（　）cm
セメントの種類
※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又は
フライアッシュセメントA種
・高炉セメントB種 G
・フライアッシュセメントB種 G
適用箇所
※構造図による

10 流動化コンクリート

適用箇所　(6.15.1)
※構造図による

① 打継ぎの位置、ひび割れ誘発目地、打継目地

打継ぎの位置　(6.6.4)(6.8.1)(9.7.3)[3.7.3]
⊙図示による（建具、HH改修位置）　・
目地寸法
・標準仕様書 9.7.3(1)(ｱ)による　⊙図示による
ひび割れ誘発目地の位置・形状・寸法
・図示による（　　）　・

⑫ 構造体コンクリートの仕上り

合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ　[8.1.4]
※意匠図による

コンクリートの仕上がりの平たんさ　[8.1.4]
※意匠図による

⑬ 打増し厚さ（打放し仕上げ部）

・打放し仕上げの打増し厚さ(外部に面する部分に限る)　[8.7.8]
・20mm　⊙(30) mm
・打放し仕上げの打増し厚さ(内部に面する部分に限る)
・10mm　・20mm　・（　）mm
・外装タイル後張り面の打増し処理
・20mm
・床型枠用鋼製デッキプレート梁側面部の打増し処理
プレートが支持される梁の側面について下記の打増しを行う
・10mm　・20mm　・（　）mm

⑭ 型枠

せき板の材料及び厚さ　[8.2.7]
※合板 G
厚さ　※12mm　・（　）mm
・メッシュ型枠（使用部位　※構造図による）
・床型枠用鋼製デッキプレート（施工範囲　※構造図による）

・断熱材を兼用した型枠材　(6.8.2)
使用箇所
※構造図による
・MCR工法用シート　(6.8.2)
適用箇所
※構造図による
打増し厚さ
・20mm　・（　）mm
打増し範囲
※構造図による
スリーブの材種・規格等　[8.2.7]
※構造図による

15 型枠の加工及び組立

シアコネクタをセパレーターとして使用　[8.7.8]
使用箇所　※構造図による

⑯ コンクリートの打込み工法等

コンクリートの打設工法の種類　[8.21.8] [8.23.5]

補強工法	打設工法	部位
⊙現場打ちコンクリート壁の増設工事	⊙流込み工法 8.21.8(1)(ｱ)(2)	・全ての増設壁　⊙構造図による
	⊙圧入工法　8.21.8(1)(ｲ),(3)	・全ての増設壁　⊙構造図による
	・	・
	・	・
・柱補強工事（溶接金網巻き及び溶接閉鎖フープ巻き工法）	・流込み工法 8.21.8(1)(ｱ),(2)	・全ての柱補強部分 ・構造図による
	・圧入工法　8.21.8(1)(ｲ),(3)	・全ての柱補強部分 ・構造図による
・	・	・
	・	・
⊙現場打ｺﾝｸﾘｰﾄ	⊙流込み工法 8.21.8(1)(ｱ),(2)	・
	・圧入工法　8.21.8(1)(ｲ),(3)	・
	・	・

鋼板巻き工法及び帯板巻き付け工法での型枠等　[8.23.6]
柱頭及び柱脚の隙間の寸法
※構造図による
柱頭及び柱脚の隙間部間の型枠
・発泡プラスチック保温材等を埋込む
・構造図による
既存柱外周部あと打ちコンクリート又は構造体用モルタルの厚さ
※構造図による
補強後の仕上げ　[8.23.7]
※構造図による

8-3 鉄骨工事

1 鉄骨製作工場

鉄骨製作工場の加工能力　[8.1.5]
※建築基準法 第68条の25に基づき国土交通大臣から構造方法等の認定を取得している鉄骨製作工場又は同等以上の能力のある工場
（　　）グレード以上
・監督職員の承諾する工場

2 鉄骨製作工場における施工管理技術者

※ 配置する　[8.1.6]
・ 配置しない

3 鋼　材

種類等　[8.2.8]

種類の記号	適用箇所（主要な部分）	規格
		※JIS規格による　・
		※JIS規格による　・
		※JIS規格による　・
		※JIS規格による　・
		※JIS規格による　・
		※JIS規格による　・

雨水排水ポンプ場耐水化工事（本郷第1雨水ポンプ場）			
事業名	公共下水道事業		
工事場所	三原市　本郷南五丁目		
図面番号	A-10	縮尺	－
図面名：	建築改修工事特記仕様書(10)		
三　原　市			

4 高カボルト

高カボルトの種類 [8.2.9]
※トルシア形高カボルト　2種（S10T）
・JIS形高カボルト　2種（F10T）
・（　　）
ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 [8.13.2]
※構造関係共通事項（鉄骨標準図）1-1 縁端距離及びボルト間隔
・構造図による
摩擦面の処理方法 [8.14.2]
※自然発錆（黒皮等を除去した後に自然放置して表面に赤さびが発生した状態）
・ブラスト処理（表面粗度50μmRz以上）
・すべり試験の実施
※すべり係数試験　・すべり耐力試験
試験方法等　※構造図による
すべり試験を実施する場合、改修標準仕様書8.14.2(1)(イ)による摩擦面の確認は、本試験で作成した対比試験片で行うこと。

5 溶融亜鉛めっき高カボルト

セットの種類
※1種（F8T）相当
ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 [8.13.2]
※構造関係共通事項（鉄骨標準図）1-1 縁端距離及びボルト間隔
・構造図による
摩擦面の処理方法等 [8.20.5]
※ブラスト処理(表面粗度50μmRz以上)又はりん酸塩処理
・構造図による
・すべり試験の実施
※すべり係数試験　・すべり耐力試験
試験方法等　※構造図による
すべり試験を実施する場合、改修標準仕様書8.14.2(1)(ア)又は(イ)による摩擦面の確認は、本試験で作成した対比試験片で行うこと。

6 普通ボルト

ボルトおよびナットの材料 (7.2.3)
※標準仕様書 表7.2.3(JIS附属書品)又は次による
ボルトの規格は、JIS B 1180とする。ボルトの種類を呼び径六角ボルト又は全ねじ六角ボルトとし、材料は鋼とする。ボルトの強度区分は、4.6又は4.8とする。なお、呼び径六角ボルトの軸径の最大寸法は、ボルトの径の値以下とする。ナットの規格は、JIS B 1181とする。ナットの種類は、六角ナット－Cとし、材料は鋼とする。
座　金 (7.2.3)
※JIS B 1256による　・構造図による
ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 [8.13.2]
※構造関係共通事項（鉄骨標準図）1-1 縁端距離及びボルト間隔
・構造図による
母屋又は胴縁の取付けに使用するボルトの孔径 (7.3.8)
※ねじの呼び径11.0mm
・構造図による

7 アンカーボルト

・構造用アンカーボルト (7.2.4)(7.3.2)
セットの種類（JIS B1220）
・ABR400　・ABR490　・（　　）
・建方用アンカーボルト
種類
・SS400　・（　　）
アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度
※標準仕様書　表7.2.3による
・構造図による
・標準仕様書7.2.4以外のアンカーボルト (7.3.2)
適用箇所
・図示による（　　）　・
種類
・SS400　・
アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度
※標準仕様書 表7.2.3による　・

ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等
※構造図による（構造関係共通事項（鉄骨標準図）1-1 縁端距離及びボルト間隔）

8 溶接材料

溶接材料 [8.2.10]
・改修標準仕様書 8.2.10(1)(2)による
・構造図による

9 スタッド

種類等 [8.2.11]

呼び名	呼び長さ（mm）	適用箇所
・16		
・19		
・22		

JIS B1198（頭付きスタッド）

10 製作精度

鉄骨の製作精度は、JASS 6 付則 6［鉄骨精度検査基準］に加えて、次による [8.13.3]
通しダイアフラムの突合せ継手の食い違いの寸法
・H12建告第1464号第二号イ(2)による
・構造図による
アンダーカットの寸法
・H12建告第1464号第二号イ(3)による
・構造図による
食い違い・仕口のずれの検査方法及び補強方法
・「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による
・構造図による

11 溶接作業を行う技能資格者の技量付加試験

試験の要領 [8.15.3]
※構造図による

12 溶接接合

開先の形状 [8.15.4]
※構造関係共通事項（鉄骨標準図）1-2
・鋼製エンドタブの切断する部分 [8.15.7]
切断する箇所
※構造図による
切断する範囲
・構造図による
・鋼製エンドタブ、裏当て金等は、梁フランジの端から5mm以下を残して直線状に切断する。なお、切断線が交差する場合は、交差部をアール状に加工する
切断面の仕上げ
※改修標準仕様書8.15.7(1)(カ)(b)②による
・構造図による
スカラップの形状 [8.15.7]
※構造関係共通事項（鉄骨標準図）1-4

13 入熱、パス間温度の溶接条件

鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件
※構造関係共通事項（鉄骨標準図）1-4
・構造図による
適用箇所
※柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶け込み溶接部
・構造図による

14 溶接部の試験

平12建告第1464号第二号に関する外観試験方法等 [8.15.12]
・「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」3.5.2　受入検査による
・抜き取り検査①
※抜き取り検査②

JASS 6 付則 6［鉄骨精度検査基準］の付表3「溶接」に関する試験方法等
・JASS 6 10.4[受入検査]e.溶接部の外観検査(1)から(5)までによる。ただし、完全溶込み溶接部の外観検査の抜取箇所は、超音波探傷試験の抜取箇所と同一とする。外観試験の不合格箇所は、すべて標準仕様書7.6.13による補修を行い、再試験する
完全溶込み溶接部の超音波探傷試験
・工場溶接の場合
※全数
・工場現場溶接の場合
※全数

15 錆止め塗装

塗料の範囲 [8.17.2]
・耐火被覆材の接着する面の塗装
範囲　※構造図による
・耐火被覆材の接着する面以外の塗装
範囲　※構造仕様書8.17.2（ア）～（オ）以外
・構造図による
塗料種別 [8.17.4]
下記以外の鉄鋼面は、7章［塗装改修工事］による
・鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブで鉄骨に溶接されたものの内側の錆止め塗料の種別
※A種
・B種
・耐火被覆材が接着する面の塗料の種別 [8.18.2~8]
・（　　）

16 耐火被覆

種類、材料、工法等

種　類	材料・工法	性能（耐火時間）	適用箇所（部位・部分）
・耐火材吹付け	・乾式吹付けロックウール		
	・半乾式吹付けロックウール		
	・湿式ロックウール		
	・		
	・		
・耐火板張り	・繊維混入けい酸カルシウム板		
	・		
・耐火材巻付け	・高断熱ロックウール		
	・		
・ラス張りモルタル塗り	―		
・耐火塗料	・		

17 アンカーボルト等の設置等

構造用アンカーボルトの形状及び寸法 (7.10.3)
※構造図による
構造用アンカーフレームの形状及び寸法 (7.10.3)
※構造図による
建方用アンカーボルトの形状及び寸法
※構造図による
建方用アンカーボルトの保持及び埋込み工法 (7.10.3)
種別
・A種　・B種
柱底均しモルタル厚さ及び工法の種別 (7.10.3)
厚さ　・（　　）
種別　※A種　・B種

18 鉄骨ブレース設置後の仕上げ

※意匠図による [8.22.9]

8-4 あと施工アンカー工事

① あと施工アンカー

材料等 [8.2.4]
⊙接着系アンカー
アンカーの種類　※カプセル方式回転・打撃式　・（　　）
接着剤の品質
⊙有機系　・無機系
アンカー筋の径及び埋込み長さ
※構造図による
アンカー筋の種類
⊙（　D19　）
アンカー筋の新設壁内への定着の長さ
※構造図による
⊙性能確認試験
試験方法及び試験数
※構造図による

・金属系アンカー
アンカー本体の径及び埋込み長さ
※構造図による
セット方式　※本体打込み式改良型　・（　　）
接合筋の種類、径、長さ
※構造図による
・性能確認試験
試験方法及び試験数
※構造図による

② 穿孔

埋込み配管等の探査方法 [8.12.4]
※鉄筋探知器（金属探知器）により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う
・はつり出しによる
・（　　）

③ 施工確認試験

試験方法 [8.12.7]
※引張試験機による引張試験
確認強度
※構造図による

④ 施工管理技術者

（社）日本建築あと施工アンカー協会が定める「あと施工アンカー技術管理士」の資格以上の能力を有する者とする。 [8.12.1]

8-5 グラウト工事

① 柱底均しモルタル及びグラウト材

・柱底均しモルタル [8.2.12]
※無収縮モルタル
・（　　）

⊙グラウト材 [8.2.11]
無収縮グラウト材の材質等

混和材砂	セメント系（酸化カルシウム及びカルシウム・サルフォ・アルミネート等によって膨張する性質を利用するもの）とする。
セメント	JIS R 5210「ポルトランドセメント」に適合した普通または早強ポルトランドセメントとする。
砂	土木学会コンクリート標準示方書に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する。 ただし、現場調合形に使用される砂の乾燥状態については、規定しない。

無収縮グラウト材の品質及び試験方法

コンシステンシー	Jロートによる流下時間 練混ぜ完了から3分以内の値　：　8±2秒
ブリージング	練り混ぜ2時間後のブリージング率　：　2.0%以下
凝結時間	凝結開始時間　：　1時間以上 終結時間　：　10時間以内
無収縮性	材齢　7日　収縮しない。
圧縮強度	材齢　3日　20.0 N/mm^{2}以上 材齢　28日　40.0 N/mm^{2}以上
塩化物量	0.30kg/m^{3}以下
試験方法	1）NEXCO試験方法　試験法 312-1999「無収縮モルタル品質管理試験方法」による。プレミックス形と現場調合形で混和材が同一の場合の試験はプレミックス形のみとする。 2）塩化物量の試験は、JIS A 1144「フレッシュコンクリート中の水の塩化物イオン濃度試験方法」による。

8-6 連続繊維補強工事

1 連続繊維シート

連続繊維の材料 [8.2.13]
・炭素繊維
・アラミド繊維
・（　　）

引張強度（含浸硬化後） [8.2.13]
・（　　）N/mm^2
ヤング係数（含浸硬化後）
・（　　）N/mm^2
・下地処理 [8.24.6]
・ひび割れ部改修
範囲
※構造図による
工法の種類
※構造図による
・柱及び梁の隅角部の面取りの大きさ [8.24.6]
※構造図による
連続繊維補強材の強度試験 [8.24.6]
・引張強度試験
※JIS A 1191（コンクリート用連続繊維シートの引張試験方法）による
・構造図による
試験数量
※構造図による
・付着強度試験 [8.24.6]
※JIS A 6909（建築用仕上塗材）による
・構造図による
試験数量
※構造図による

2 仕上げ

補強工事後の仕上げ [8.24.7]
※構造図による

8-7 耐震スリット新設工事

1 耐震スリットの方式、幅及び深さ

方式 [8.25.2]
・完全　・部分
幅及び深さ
※構造図による
設置箇所
※構造図による

2 耐震スリットの施工前の埋め込み配管等の探査

既存撤去部の埋込み配管等の探査方法 [8.12.4]
※鉄筋探査機（金属探知機）により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う
・はつりだしによる

3 耐震スリット充填材の挿入及び周囲補修等

・耐火材 [8.25.2]
使用箇所及び仕様
※構造図による

・遮音材 [8.25.2]
使用箇所及び仕様
※構造図による

撤去部の補修 [8.25.2]
※撤去材と同一材で補修
・構造図による

8-8 土工事及び地業工事

1 埋戻し及び盛土

埋戻し及び盛土の材料及び工法
※改修標準仕様書 8.28.3(2)(ウ)(b) 表8.28.1による [8.28.3]
・A種　適用場所（　　）
・B種　適用場所（　　）
・C種　適用場所（　　）　土質（　　）　受渡場所（　　）
・D種　適用場所（　　）
品質　細粒分（75μm以下）の含有率（重力百分率）の上限を50%未満とする
・材料（　　）　工法（　　）

2 山留めの撤去

鋼矢板等の抜き跡の処理 [8.28.3]
※直ちに砂で充填する　・意匠図による
山留めの存置
・行う
存置範囲　※現場説明書の施工条件明示による

3 杭地業

支持層の位置及び土質（基礎ぐいの先端位置含む） [8.28.4]
※構造図による
杭の材料、工法、寸法、施工方法等 [8.2.14][8.28.4]
※構造図による
・試験杭の位置、本数及び寸法並びに施工方法 [8.28.4]
※構造図による
・杭の継手の箇所数、材料、工法等 [8.2.14]
※構造図による
・杭の溶接継手 [8.28.4]
技能資格者の技量　※構造図による
溶接部の確認　※構造図による
・杭頭を処理する [8.28.4]
処理方法（切断にともなう補強方法含む）
※構造図による
・杭頭の中詰め材料 (4.3.7)
・基礎のコンクリートと同調合のもの　・構造図による
杭の精度 [8.28.4]
水平方法の位置ずれ　・杭径の1/4かつ100mm以下　・構造図による
杭の鉛直度　・1/100以内　・構造図による
記録する施工状況等 [8.28.4]
※構造図による

4 砂利地業

材料
・再生クラッシャラン [8.2.15]
・切込砂利又は切込砕石
砂利厚さ [8.28.4]
※60mm　・（　）mm

5 捨コンクリート地業

捨コンクリートの厚さ [8.28.4]
※50mm　・（　）mm
コンクリートの種類
※普通コンクリート　・（　　）
設計基準強度 [8.11.1]
※18N/mm^2　・（　）N/mm^2
スランプ [8.11.1]
※15cm又は18cm　・（　）cm

雨水排水ポンプ場耐水化工事（本郷第1雨水ポンプ場）			
事業名	公共下水道事業		
工事場所	三原市　本郷南五丁目		
図面番号	A-11	縮尺	－
図面名：	建築改修工事特記仕様書(11)		
三　原　市			

構造関係改修工事　一般事項

1．適用範囲
(a)耐震改修共通事項は、耐震改修工事における構造関係の共通的事項とする。
(b)耐震改修共通事項以外については、設計図及び監督職員の指示による。

2．設計図書の図面間で配筋方法に相違がある場合の優先順位は以下のとおりとする。
1.改修特記仕様書
2.図面　2-1　耐震改修標準図、構造関係共通事項（配筋標準図、鉄骨標準図）を除く図面
2-2　耐震改修標準図、構造関係共通事項（配筋標準図、鉄骨標準図）
3.国土交通省大臣官房官庁営繕部制定「公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)(平成31年度版)」

3．用語の定義
(a)異形鉄筋の径（本文、図・表において「D、d」で示す。）は、呼び名に用いた数値とする。
(b)長さ、厚さの単位は、特記なき限りmmとする。

4．設計図中で使用する記号は、表１．１、表１．２を標準とする。

表１．１　鉄筋の断面表示

記　号	●	×	◐	◑	◒	◓	◔	◕
異形鉄筋	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32

表１．２　各階伏図における記号

記　号	説　　明	記　号	説　　明
S*	スラブの配筋種別		杭の位置
	スラブ厚さ		試験杭の位置
	階段の配筋種別		打増しの範囲
DO	土間コンクリート		スラブ開口
	コンクリートブロック壁(ＣＢ壁)		ボーリング位置
	梁・スラブの上がり下がりの範囲	（±　）	FLからの上がり下がり

5．使用材料
(a)スパイラル筋　　ＪＩＳ　Ｇ　３１１２　　ＳＲ２３５

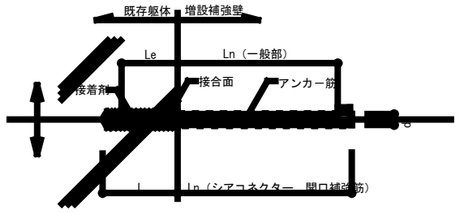
形状は下記による。

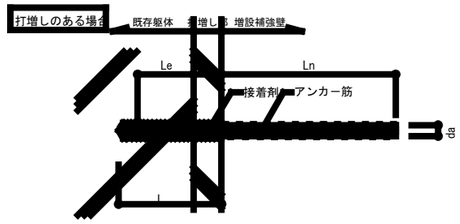
壁　厚	割裂防止筋
１５０	６φ@３５　直径：７０

6．注意事項
(a)改修工事に先立ち、補強構面毎に現場実測を行い、スパイラル筋、壁配筋等が確実に施工できるか確認を行うこと。
(b)増設部分と既存コンクリート躯体との接触面については既存コンクリート躯体面を目荒らしとし、コンクリート打設前に十分な水湿しを行う。
(c)直交雑壁が存在する部分は、壁筋のみを残して、増打ち壁厚分をはつり込みのこと。
(d)施工段階で納まり上、設計図通りの配筋が困難な場合は施工図等を用い、監督職員と協議すること。
(e)壁、スラブ、階段等の配筋種別は、標仕 別図 各部配筋（4.1）～（6.2）による。
(f)目地にシーリングがある場合の最小かぶり厚さは改修標仕（表8.3.6）の「仕上げなし」の項による。
(g)ＮＷ＃＃は新設耐震壁を示し、かぶり厚さ、定着長さ、継手長さは改修標仕による。
（＃＃は壁配筋の種別の数値又は符号示す。）
(h)既存壁に開口を設けてはならない。やむを得ず設ける場合は監督職員の承諾を受ける。
(i)割裂補強筋は、改修壁の柱・梁に接する面全てに配置する。
(j)割裂補強筋の継手は、2巻以上の重ねとする。
(k)あと施工アンカーの規定穿孔深さは、はつり出しや目荒らしの底面を基準とする。
(l)穿孔に使用する機械は、●ハンマードリル　・コアドリル]とし、金属検知により電源供給が停止出来る付属装置（メタルセンサーリール）を使用する。穿孔の際に鉄筋に当たった場合は、直ちに監督職員に報告し、指示を受ける。

あと施工アンカー

(1) 接着系アンカー





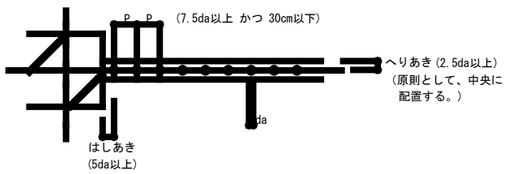
L　：　コンクリートの穿孔深さ
Le　：　アンカーの有効埋め込み長さ
Ln　：　有効埋め込み長さ・定着長さ
da　：　アンカー軸部の直径、アンカー筋の呼び名

※ 接着剤は、打増し部を含め、穿孔深さ全域にすき間なく充填すること

アンカー関係共通事項	
接着系アンカーの有効埋め込み長さ	一般部　：Le　=7da シアコネクター：Le　=7da 開口補強筋　：Le　=12da
接着系アンカーの有効定着長さ	一般部　：Ln　=20da シアコネクター：Ln　=増打壁厚－かぶり厚 開口補強筋　：Ln　=L1＋50 (=補強筋との継手長さ＋余長)
アンカー筋形状	一般部　：ナット付き異形棒鋼とし、ナットからねじ山が２山以上でること。 シアコネクター：ナットなし ただし、フォームタイを兼用する場合は、端部にナットを付ける。 開口補強筋　：ナットなし ※既存躯体側の先端形状は45°カットとする.

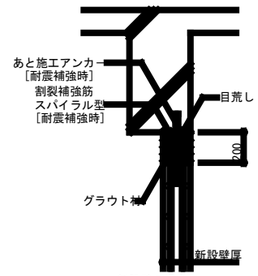
施工確認試験荷重	
アンカー筋呼び名（da）	荷　重　（ kN ）

(2) あと施工アンカーの位置と間隔

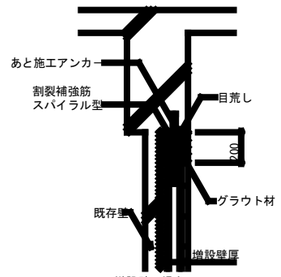


新設・増設壁・開口閉塞壁上部グラウト要領

1. 特記なき新設・増設壁上部は、グラウトを行う。

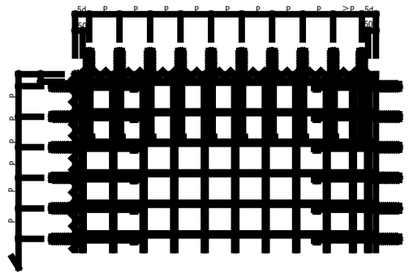


新設壁の場合



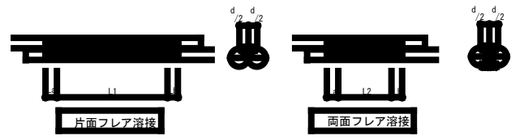
増設壁の場合

アンカ-筋ピッチ標準



鉄筋フレア溶接要領

1．特記なき鉄筋のフレア溶接は、下図の片面または両面とする。
2．鉄筋のフレア溶接の溶接長さは、ビードの始点(La)及び、クレーター(Lb)を除いた部分の長さとし、寸法は下表による. 但し、La 及び Lbは 1d以上とする.

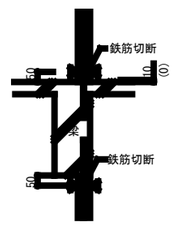


鉄筋径	L1	L2	d
9φ・D10		70	10
13φ・D13		95	13
D16			

既存壁等撤去要領図　S=1/30

注記）特記なき壁等の撤去は下図による。
注記）◀ 印は、コンクリートカッター位置を示し、カッター深さ30とする。
注記）鉄筋切断部には、錆止め塗装を行う。
注記）　　部は手ばつりを示す。

撤去壁-梁 取合部（撤去のみの場合）

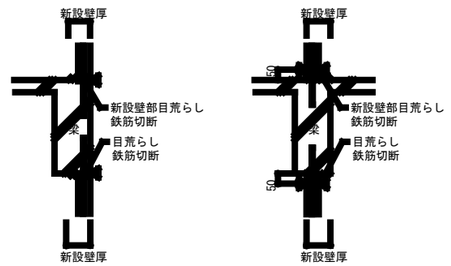


※(　)内の値は、直均し仕上げの場合の鉄筋切断位置を示す。

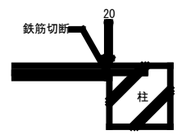
撤去壁-スラブ 取合部

※(　)内の値は、直均し仕上げの場合の鉄筋切断位置を示す。

撤去壁-梁 取合部（壁を新設する場合）

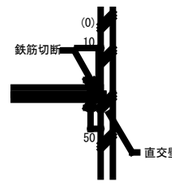


撤去壁-柱 取合部（撤去のみの場合）



※外気に面する部分の撤去は特記による。

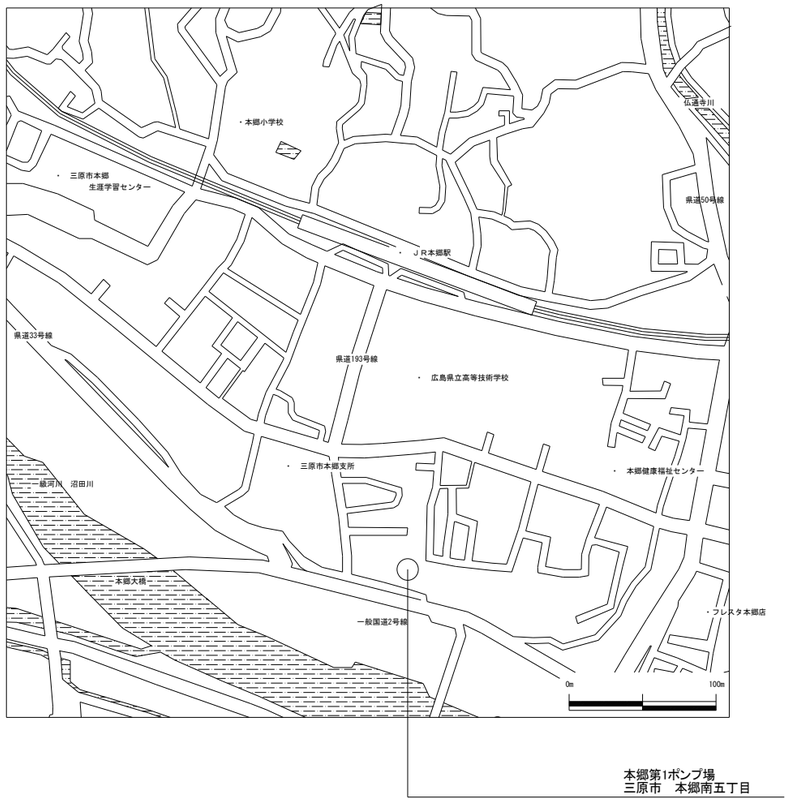
撤去壁-直交壁 取合部



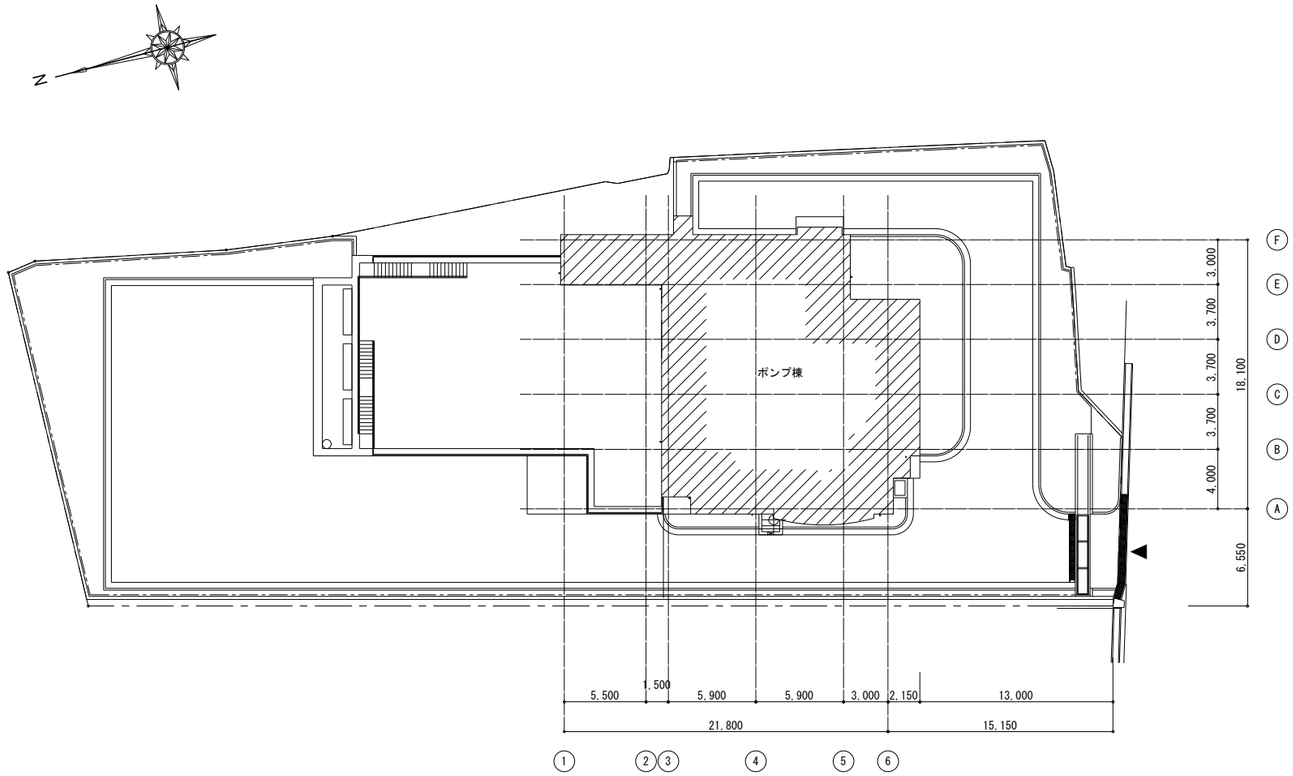
※(　)内の値は、直均し仕上げの場合の鉄筋切断位置を示す。

撤去壁-柱 取合部（壁を新設する場合）

工事名	図面名	縮尺	図面番号
雨水排水ポンプ場耐水化工事 本郷第１雨水ポンプ場	構造関係改修工事　共通事項	―	A－12



位　置　図　　1／2000



配置図　　S=1/200

雨水排水ポンプ場耐水化工事（本郷第1雨水ポンプ場）			
事 業 名	公共下水道事業		
工事場所	三原市　本郷南五丁目		
図面番号	A-13	縮尺	S=1/2000,1/200
図面名：	位置図・配置図		
三　原　市			

別　棟　仕　上　表

共　通　事　項

1. 外部仕上表及び内、外部付属物の適用分類、詳細番号は、⊙ 印のついたものを適用する。
2. 仕上表に記載の詳細番号のうち、（例）１－０２－３は建築工事標準詳細図（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修）を示す。
3. 特記以外の木、鉄部の塗装はＳＯＰとする。但し、和室回りは除く。
4. 付属物のうち、室名札、床点検口、掲示板、案内板、ピクトグラフ、階段表示板等は、平面図による。
5. 付属物のうち、カーテンボックス、ブラインドボックス、ブラインド、天井点検口等は天井伏図による。
6. ＰＦ板、木毛板等打込み箇所は、別図による。
7. 内壁の見え掛りとなるＰＦ板打込み部分は、ＧＢ厚１２．５直張り（継目処理工法）とし、塗装は、その部屋の壁面と同様とする。
8. 壁のボード張りは水平方向には原則として継手は設けない。
9. 天井仕上ボード張りのうち、ＧＢ－ＮＣ（ＮＴ）及びＤＲ（下地ＧＢ共）は突付け張りとし、天井回り縁は、アルミ製、天井付き目地とする。
10. 直接地業工事に接する内部床のコンクリート下地には、防湿層としてポリエチレンフィルム厚０．１５の敷込みを行う。ただし、床仕上げがビニル床タイル、ビニル床シート及び合成樹脂塗床、床用塗料の場合とする。
11. 打放し仕上げの出隅部分は、面取りを行う。

略　　号

C	コンクリート下地
CB	コンクリートブロック下地
W	木造下地
S	軽量鉄骨下地
ＡＬＣ	ＡＬＣ板
GB-R	せっこうボード
ＧＢ－ＮＣ（Ｎ）	不燃積層せっこうボード（化粧無し：下地張り用）
ＧＢ－ＮＣ（ＮＴ）	不燃積層せっこうボード（化粧有り：トラバーチン模様）
GB-D	化粧せっこうボード
GB-S	シージングせっこうボード
GB-F	強化せっこうボード
ケイカル板	けい酸カルシウム板（タイプ２）
DR	ロックウール化粧吸音板　トラバーチン模様
ＤＲ（凹凸）	**ロックウール化粧吸音板　凹凸模様**
ＤＲ（軒天）	ロックウール化粧吸音板　軒天井用：トラバーチン模様
ＤＲ（軒天凹凸）	ロックウール化粧吸音板　軒天井用：凹凸模様
ＰＦ板	押出法ポリスチレンフォーム保温材
木毛板	木質系セメント板
ＴＢ	テラゾーブロック
外装薄塗材（Ｅ）	外装合成樹脂エマルション系薄付け仕上塗材
内装薄塗材（Ｓｉ）	内装けい酸質系薄付け仕上塗材
内装薄塗材（Ｅ）	内装合成樹脂エマルション系薄付け仕上塗材
Ｃ（Ｂ）	コンクリート下地（打放シＢ）
Ｃ（Ｃ）	コンクリート下地（打放シＣ）
M	モルタル
軽量吹付	軽量骨材仕上塗材
複層塗材　（Ｅ）	合成樹脂エマルション系複層仕上塗材
複層塗材　（ＣＥ）	ポリマーセメント系複層仕上塗材
複層塗材　（ＲＥ）	反応硬化形合成樹脂エマルション系複層仕上塗材
複層塗材　（Ｓｉ）	けい酸質系複層仕上塗材
ＣＬ	クリアラッカー塗り
ＦＥ	フタル酸樹脂エナメル塗り
ＡＥ	アクリル樹脂エナメル塗り
ＤＰ（ＵＥ）	２液形ポリウレタンエナメル塗り
ＤＰ（ＡＳＥ）	アクリルシリコン樹脂エナメル塗り
ＤＰ（ＦＵＥ）	常温乾燥形ふっ素樹脂エナメル塗り
ＥＰ－Ｇ	つや有合成樹脂エマルションペイント塗り
ＥＰ	合成樹脂エマルションペイント塗り
ＥＰ－Ｍ	多彩模様塗料塗り
ＥＰ－Ｔ	合成樹脂エマルション模様塗料塗り
ＵＣ	ウレタン樹脂ワニス塗り
ＯＳ	オイルステイン塗り
ＳＯＰ	合成樹脂調合ペイント塗り
ＧＰ	グラファイトペイント塗り
ＡＣ	アクリル樹脂ワニス塗り（アクリル樹脂クリヤ塗り）
ＮＡＤ	アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り
ＬＥ	ラッカーエナメル塗り
WP	木材保護塗料塗り
ＴＰ	ポリプロピレン防錆被覆タラップ W=400
ＴＳ	ステンレスタラップ W=400

外部付属物及び詳細番号

- 屋上点検口　・５－２１－１
- 屋上管類貫通部　・５－２２－１
- クーリングタワー基礎・テレビアンテナ基礎　・５－２２－２　・５－２２－３
- 屋上換気塔　・５－２１－２　・図　示
- 煙　突　・図　示　・７－２１－１
- ⊙と　い　・５－３１，３２，３３　・図　示
- ⊙ルーフドレン　・５－３２－１　・５－３３－１　・図　示
- トップライト　・図　示
- ＥＸＰ．Ｊ金物　・既製品　・Ｓ－１３
- ⊙手すり　⊙アルミ　・ステンレス（図示）　・スチール（図示）
- 旗　竿　・図　示
- ⊙くつふきマット　・８－２１－１・２・３
- くつ洗い流し　・８－２２－１　・８－２２－２
- 電気用ハンドホール蓋・図　示
- 文字板　・図　示
- 庁名板　・図　示
- 郵便受　・図　示
- 目地　・図　示

内部付属物及び詳細番号

- 流し台　・６－１１－１　・図　示
- フード　・６－１１－２　・図　示
- コンロ台　・６－１１－１　・図　示
- 流し上部水切り　・６－１１－３　・６－１１－４　・図示
- つり戸だな　・６－１１－５　・図　示
- 水切りだな　・６－１１－５　・図　示
- 脱衣箱　・６－３２－１
- 天井点検口　・３－４２－２
- 床点検口　・既製品
- 一般便房　・既製品　・６－２２
- 車いす使用者簡易型便房　・６－２３－１・２・３
- オストメイト用便房　・６－２４－１・２・３・４
- 車いす使用者便房　・６－２５－１
- 多機能便所　・６－２６－１・２・３・４
- 便所手すり　・６－２８－１・２・３・４・５
- トラフ　・１－２１－
- くつふきマット　・８－２１－
- タラップ　・図　示
- グレーチング受枠　・図　示
- 浴室まわり　・６－３１－
- カーテンボックス　ブラインドボックス　・鋼　製　・３－３１－１・２　・アルミ製　・３－３２－５・６・７　・３－３１－３
- 屋内掲示板　・既製品
- 手すり　・アルミ　・図　示
- ⊙階段手すり　・アルミ　⊙図　示　・７－１２－
- 断熱材打込み　・７－０１－１
- 押　入　・６－４６－１　・図　示
- クレンガーダー　・図　示
- 搬入口　・図　示
- マンホール蓋　・図　示
- ⊙室名札　・８－４３－１
- ピクトグラム　・８－４４－１
- 庁舎案内板、各階案内板　・８－４２－１
- 下足箱　・図　示

外部仕上表（上段－改修前　下段－改修後）

	床 下地	床 仕上	詳細番号	改修内容	腰壁 下地	腰壁 仕上	詳細番号	改修内容	外壁 下地	外壁 仕上	詳細番号	改修内容
改修前	C	ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾃ押え(A)		D	C	C(B)		F	C	C(B)の上複層塗材(RE)		D
										特殊型枠打放仕上		F
改修後	C	ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾃ押え(A)		d					C	C(B)の上複層塗材(RE)		d
										特殊型枠打放仕上		f

	屋根 下地・防水層 下地	仕上	詳細番号	改修内容	屋根 押え・仕上 下地	仕上	詳細番号	改修内容
改修前	C	下地：ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾃ押え(B)		F	C	押え：無筋ｺﾝｸﾘｰﾄ t 80 補強用溶接金網 φ6-100x100		F F
		防水層：ｱｽﾌｧﾙﾄ防水(A-2)		F		仕上：ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾃ押え(B)		F
		絶縁材：ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｨﾙﾑ t0.15		F				
改修後								

	パラペット 下地	仕上	詳細番号	改修内容
改修前	C	笠木：ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾃ押え(A)の上複層塗材(RE) C(B)の上複層塗材(RE)		F F
		立上り：ｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ押えの上ﾓﾙﾀﾙ塗		F
改修後				

	バルコニー 床 下地	仕上	詳細番号	改修内容	手摺 下地	仕上	詳細番号	改修内容	備考	改修内容
改修前	C	防水ﾓﾙﾀﾙ塗		F	C	ｱﾙﾐ製既製品		F	掴み金物：SUS製既製品 靴ふきﾏｯﾄ：既製品 側溝蓋：鋼製ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ既製品	F F F
改修後										

庇

	上端 下地	仕上	詳細番号	改修内容	はな 下地	仕上	詳細番号	改修内容	軒天 下地	仕上	詳細番号	改修内容
改修前	M	防水層：ｳﾚﾀﾝ塗膜防水		F	C	C(B)の上複層塗材(RE) ｺﾝｸﾘｰﾄ直均し		F	C	C(C)の上複層塗材(RE)		F
改修後												

	屋根 下地・防水層 下地	仕上	詳細番号	改修内容	屋根 押え・仕上 下地	仕上	詳細番号	改修内容
改修前								
改修後								

	パラペット 下地	仕上	詳細番号	改修内容
改修前				
改修後				

	バルコニー 床 下地	仕上	詳細番号	改修内容	手摺 下地	仕上	詳細番号	改修内容	備考	改修内容
改修前										
改修後										

特記なき限り

改修後の仕上材料の厚さ

材料名	種別	壁(m/m)	天井(m/m)	備考	材料名	種別	壁(m/m)	天井(m/m)	備考
GB－R	仕上	１２．５	１２．５	NM－８６１９	けい酸カルシウム板（タイプ２）		１２	１０	NM－８５７８
	下地	１２．５			押出法ポリスチレンフォーム保温材(FP板)		３８	３８	
ＧＢ－ＮＣ（Ｎ）	下地		９．５	NM－８６１３又は同等	壁紙				
ＧＢ－ＮＣ（ＮＴ）			９．５						
ＧＢ－Ｄ（Ｗ）			１２．５	NM－８６１４					
ＤＲ			１２	NM－８５９９					

工事区分略号

＜　＞ Ｃ	：	土木工事
＜　＞ ＡＭ	：	建築機械設備工事
＜　＞ ＡＥ	：	建築電気設備工事
＜　＞ ＰＭ	：	プラント機械設備工事
＜　＞ ＰＥ	：	プラント電気設備工事

改修内容凡例

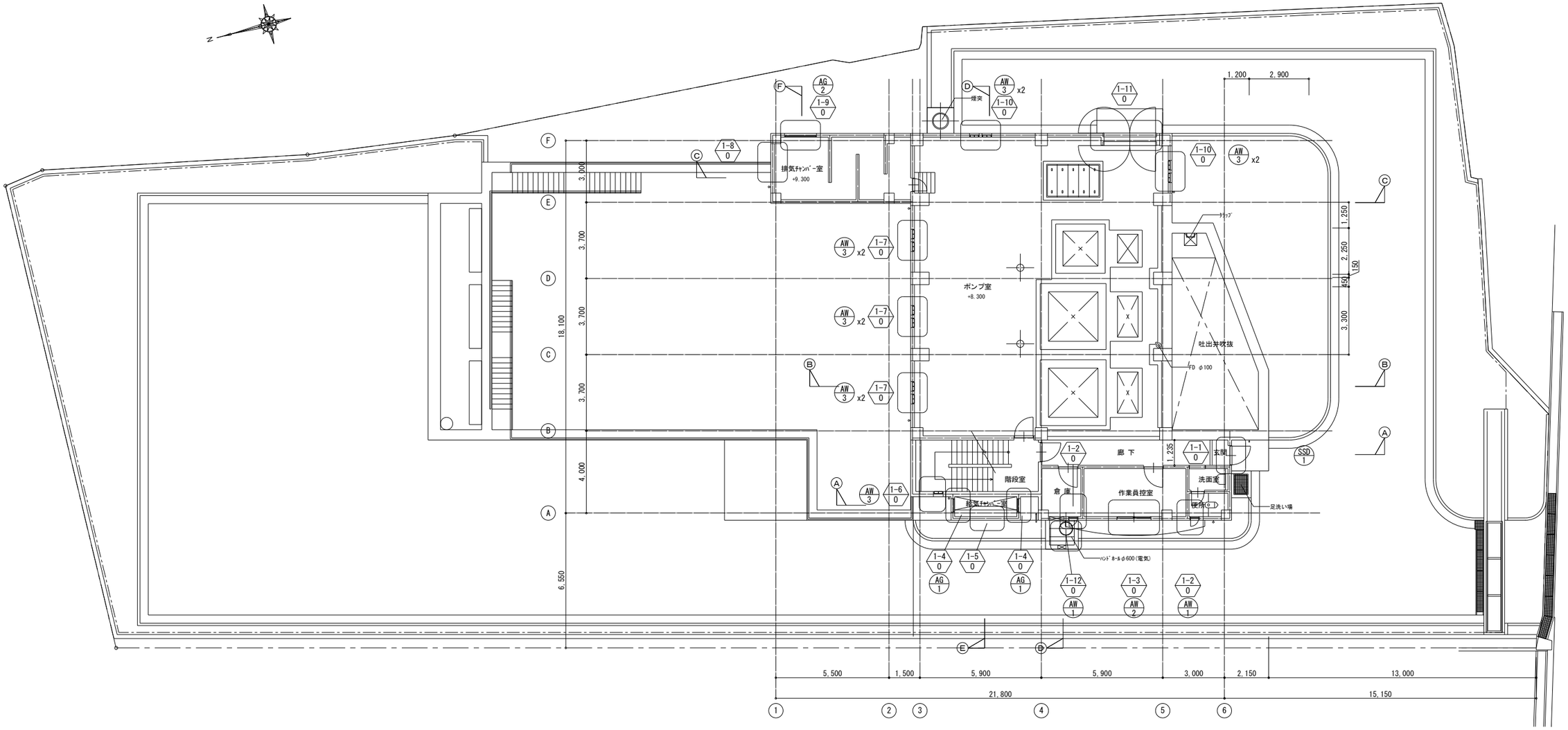
改修前	改修後
Ａ：　仕上撤去	ａ：　仕上新設
Ｂ：　図示の仕上撤去	ｂ：　図示の仕上新設
Ｃ：　下地共撤去	ｃ：　下地共新設
Ｄ：　図示の下地共撤去	ｄ：　図示の下地共新設
Ｅ：　図示の下地調整	ｅ：　図示の塗装塗り替え
Ｆ：　既存のまま	ｆ：　既存のまま

雨水排水ポンプ場耐水化工事(本郷第1雨水ポンプ場)		
事業名	公共下水道事業	
工事場所	三原市　本郷南五丁目	
図面番号	A-14	縮尺　S=1/100
図面名：	仕上表(1)	
三　原　市		

内部仕上表（上段－改修前　下段－改修後）

階	室名		床 下地	床 仕上	床 詳細番号	床 改修内容	幅木 下地	幅木 仕上	幅木 高さ	幅木 詳細番号	幅木 改修内容	腰壁 下地	腰壁 仕上	腰壁 高さ	腰壁 詳細番号	腰壁 改修内容	壁 下地	壁 仕上	壁 詳細番号	壁 改修内容	壁 柱型仕上	壁 詳細番号	壁 改修内容	天井 下地	天井 仕上	天井 詳細番号	天井 改修内容	天井 梁型仕上	天井 天井高	天井 改修内容	備考	備考 改修内容
1F	玄関	改修前	M	磁器質ﾀｲﾙ張		B	C	ﾓﾙﾀﾙ巾木+VP塗	100		B						C	ﾓﾙﾀﾙ塗 t20+EP塗		B				S	GB-D t9.5		B		2,700			
		改修後	M	長尺ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ張		b	C	ﾓﾙﾀﾙ巾木+EP塗	100		b						C	ﾓﾙﾀﾙ塗 t20+EP塗		b				S	GB-D t9.5		b		2,700			
	作業員控室	改修前	M	ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ張		F	M	ﾋﾞﾆﾙ巾木	75		F						C	ﾓﾙﾀﾙ塗 t20+EP塗		D	ﾓﾙﾀﾙ塗 t20+EP塗		F	S	GB-D t9.5		B		2,600		ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞﾎﾞｯｸｽ：ｱﾙﾐ製120x150 ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞ：既製品 換気扇枠：SOP塗	F F F
		改修後															C	ﾓﾙﾀﾙ塗 t20+EP塗		d				S	GB-D t9.5		b		2,600			
	洗面室	改修前	C	ﾓﾙﾀﾙ塗 t30の上床用塗料塗		F	C	ﾓﾙﾀﾙ巾木+VP塗	75		F						C	ﾓﾙﾀﾙ塗 t20+EP塗		F				S	ｹｲｶﾙ板 t6.5+EP塗		F		2,400			
		改修後																														
	便所	改修前	M	ﾓｻﾞｲｸﾀｲﾙ張		F											C	陶器質ﾀｲﾙ張		D	陶器質ﾀｲﾙ張		F	S	ｹｲｶﾙ板 t6.5+EP塗		B		2,400		天井点検口：ｱﾙﾐ製既製品	F
		改修後															C	陶器質ﾀｲﾙ張		d				S	ｹｲｶﾙ板 t6.5+EP塗		b		2,400			
	倉庫	改修前	C	ﾓﾙﾀﾙ塗 t30		F	C	ﾓﾙﾀﾙ巾木	75		F						C	C(B)		D	C(B)		F	C	C(C)			C(B)	—	F	建具周囲：ﾎﾞｰﾀﾞｰﾓﾙﾀﾙ塗 W100	F
		改修後															C	C(B)		d												
	ポンプ室	改修前	C (WC t300)	ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾃ押え(A)		F	C	ﾓﾙﾀﾙ巾木	300		F		ﾓﾙﾀﾙ塗 t20	2,700		D	C	ｸﾞﾗｽｳｰﾙ吸音板 t25		D	軽量骨材吹付 t5		F	C	軽量骨材吹付 t5		F	軽量骨材吹付 t5	直天	F	ｸﾚｰﾝｶﾞｰﾀｰ：鋼製SOP 開口履蓋：PC蓋2500x1500	F F
		改修後											ﾓﾙﾀﾙ塗 t20	2,700		d	C	ｸﾞﾗｽｳｰﾙ吸音板 t25		d												
	廊下	改修前	C	ﾓﾙﾀﾙ塗 t30の上床用塗料塗		F	C	ﾓﾙﾀﾙ巾木+VP塗	75		F						C	ﾓﾙﾀﾙ塗 t20+EP塗		F				S	GB-D t9.5		F		2,600		天井点検口：ｱﾙﾐ製既製品	F
		改修後																														
2F	電気室	改修前	C (WC t270)	ﾓﾙﾀﾙ塗 t30の上床用塗料塗		F	C	ﾓﾙﾀﾙ巾木+VP塗	100		F	C	ﾓﾙﾀﾙ塗 t20+EP塗	2,600		F	C	軽量骨材吹付 t5		F	軽量骨材吹付 t5		F	C	軽量骨材吹付 t5		F	軽量骨材吹付 t5	直天	F		
		改修後																														
共通	階段室	改修前	C	ﾓﾙﾀﾙ塗 t30		F	C	ﾓﾙﾀﾙ巾木+VP塗	75		F	S	ﾓﾙﾀﾙ塗 t20	2,100		D	C	C(B)		F				C	軽量骨材吹付 t5		F	軽量骨材吹付 t5	直天	F		
		改修後										S	ﾓﾙﾀﾙ塗 t20	2,100		d																
	給気・排気 チャンバー室	改修前	C	ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾃ押え(B)		F											C	ｸﾞﾗｽｳｰﾙ吸音板 t25		D	軽量骨材吹付 t5		F	C	ｸﾞﾗｽｳｰﾙ吸音板 t25		F	軽量骨材吹付 t5	直天	F		
		改修後															C	ｸﾞﾗｽｳｰﾙ吸音板 t25		d												

雨水排水ポンプ場耐水化工事（本郷第1雨水ポンプ場）	
事業名	公共下水道事業
工事場所	三原市　本郷南五丁目
図面番号	A-15　縮尺　S=1/100
図面名：	仕上表(2)
三　原　市	



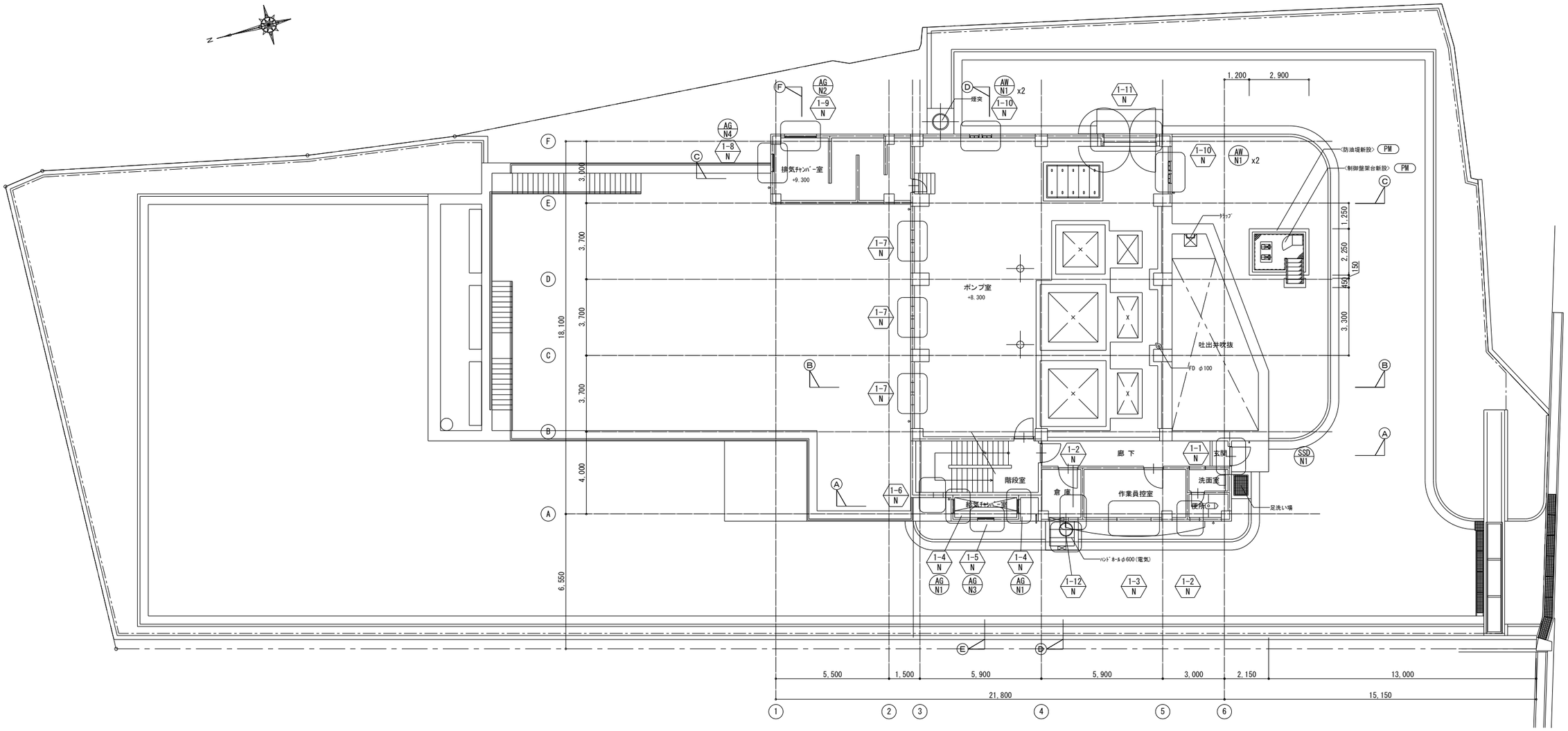
1階平面図　S=1/100

凡　例

1-2 / 0　改修前詳細番号を示す

改修箇所を示す

雨水排水ポンプ場耐水化工事(本郷第1雨水ポンプ場)			
事業名	公共下水道事業		
工事場所	三原市　本郷南五丁目		
図面番号	A-16	縮尺	S=1/100
図面名:	配置図兼1階平面図(改修前)		
三　原　市			

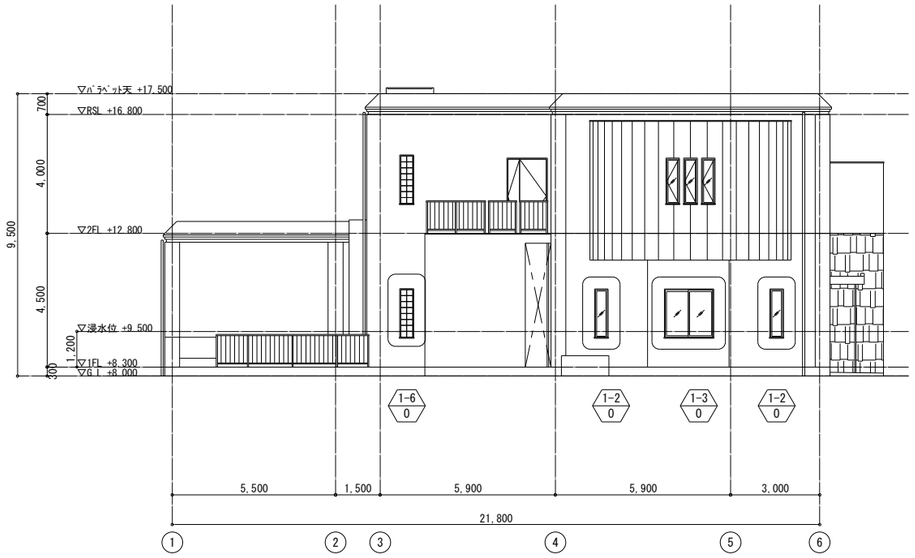


1階平面図　S=1/100

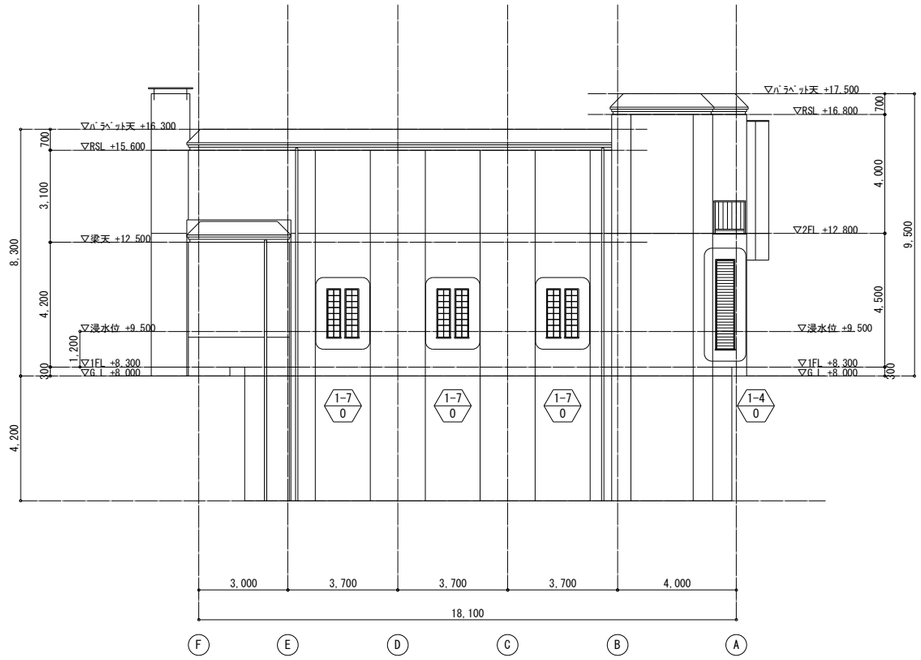
凡　例

1-2 N	改修後詳細番号を示す
	改修箇所を示す
PM	プラント機械設備工事を示す

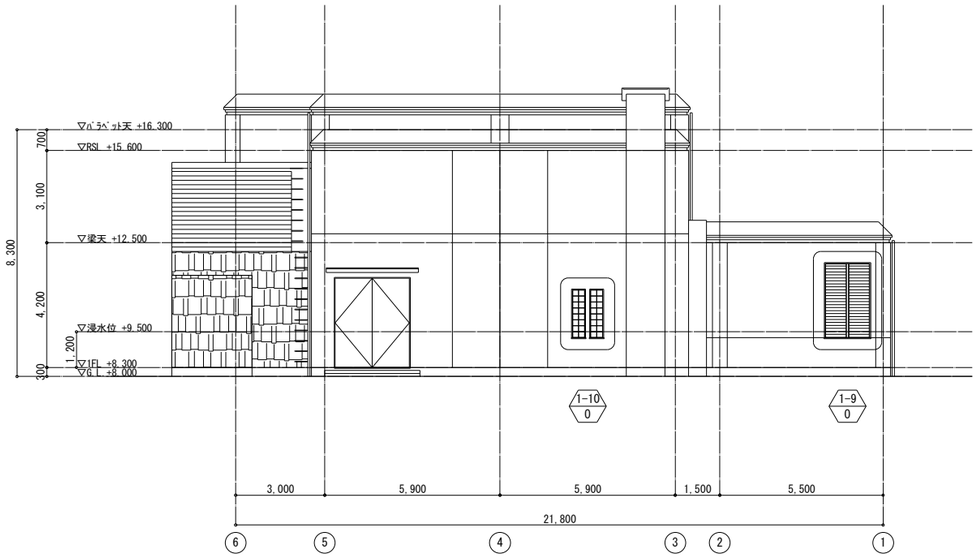
雨水排水ポンプ場耐水化工事(本郷第1雨水ポンプ場)			
事業名	公共下水道事業		
工事場所	三原市　本郷南五丁目		
図面番号	A-17	縮尺	S=1/100
図面名:	配置図兼1階平面図(改修後)		
三　原　市			



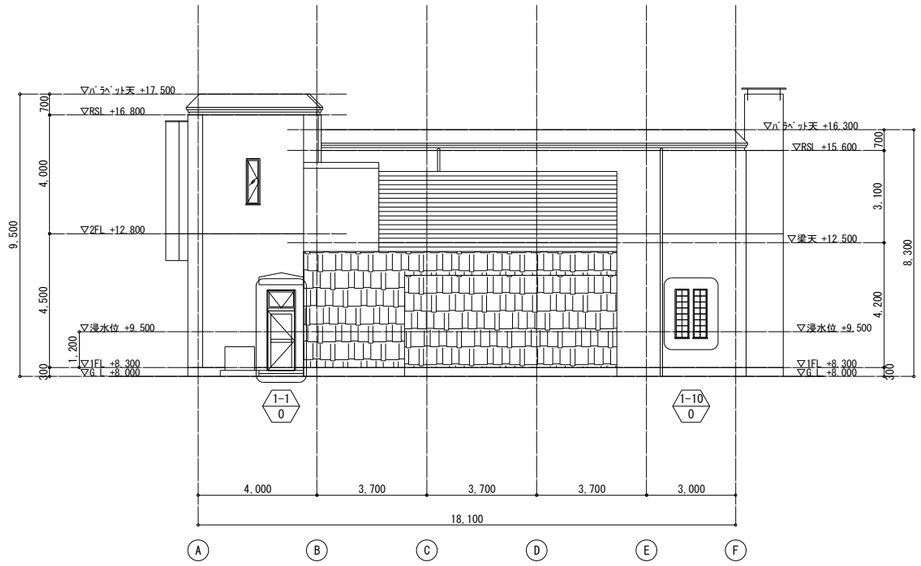
西立面図　S=1/100



北立面図　S=1/100



東立面図　S=1/100



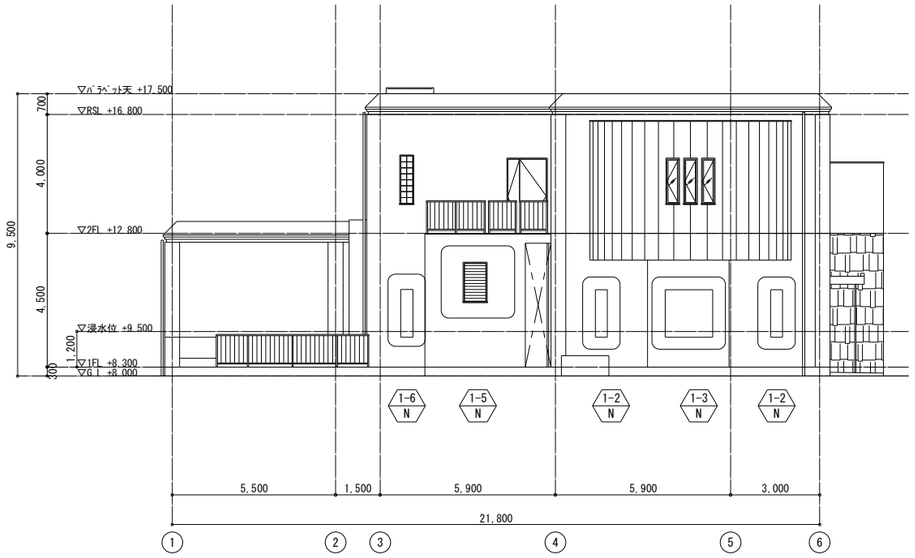
南立面図　S=1/100

凡　例

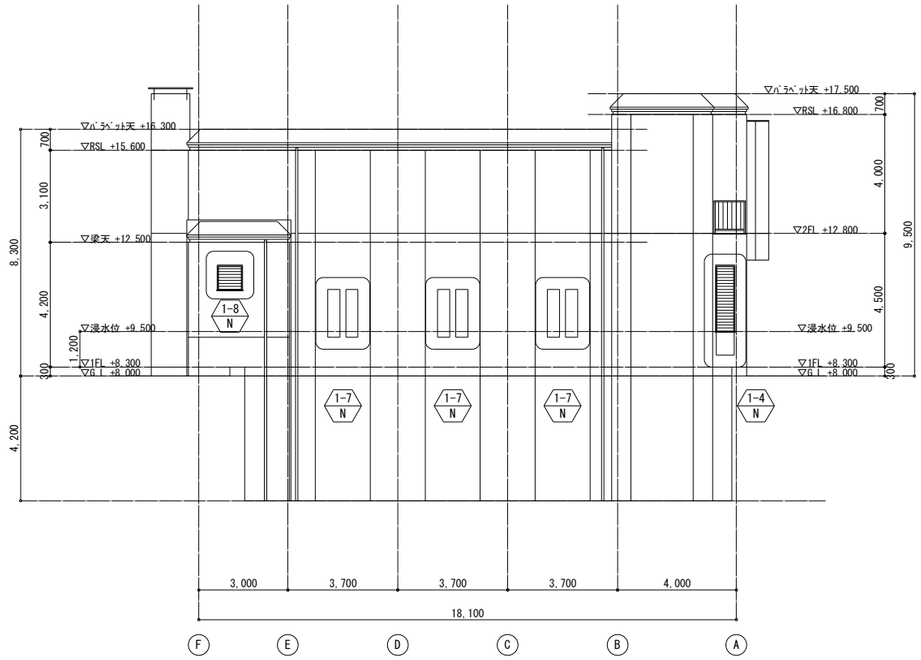
1-2 / 0　改修前詳細番号を示す

改修箇所を示す

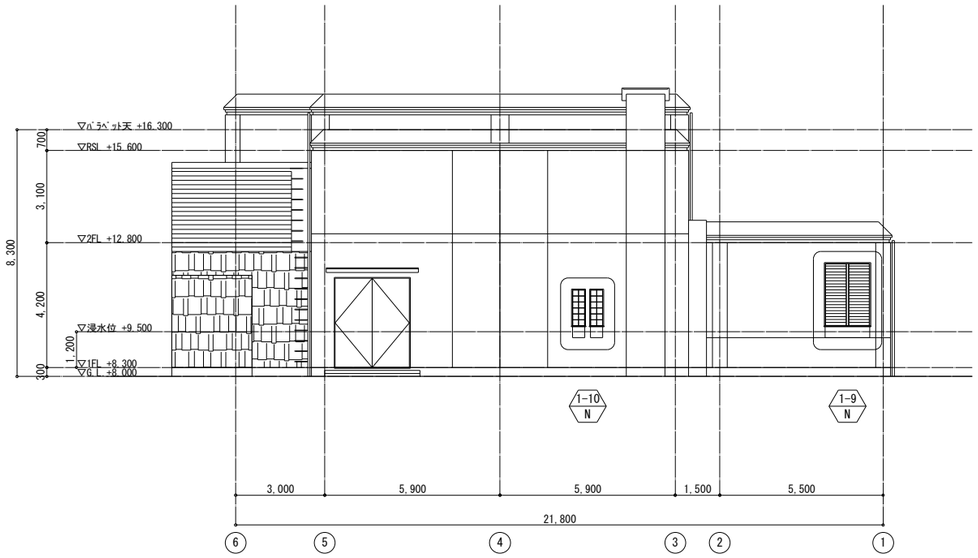
雨水排水ポンプ場耐水化工事(本郷第1雨水ポンプ場)			
事 業 名	公共下水道事業		
工事場所	三原市　本郷南五丁目		
図面番号	A-18	縮尺	S=1/100
図面名:	立面図(改修前)		
三　原　市			



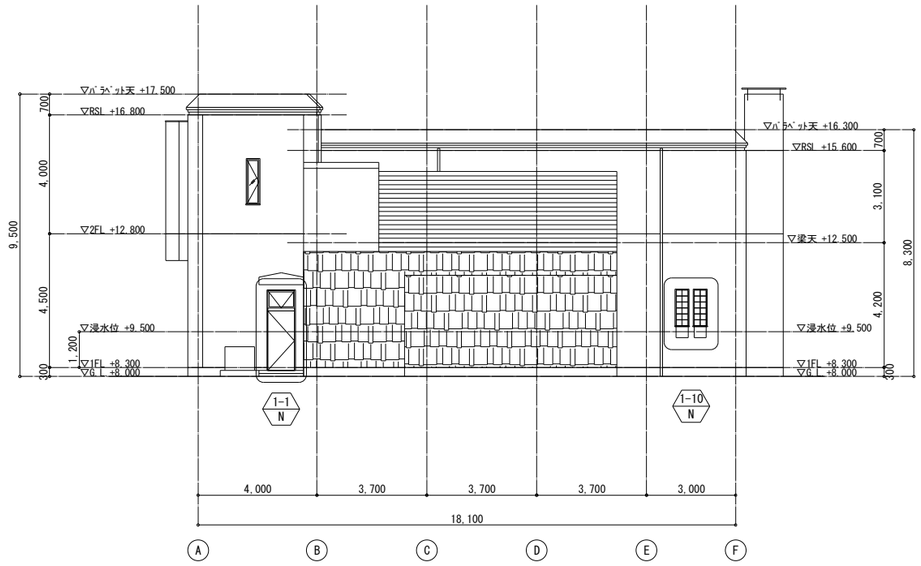
西立面図　S=1/100



北立面図　S=1/100



東立面図　S=1/100



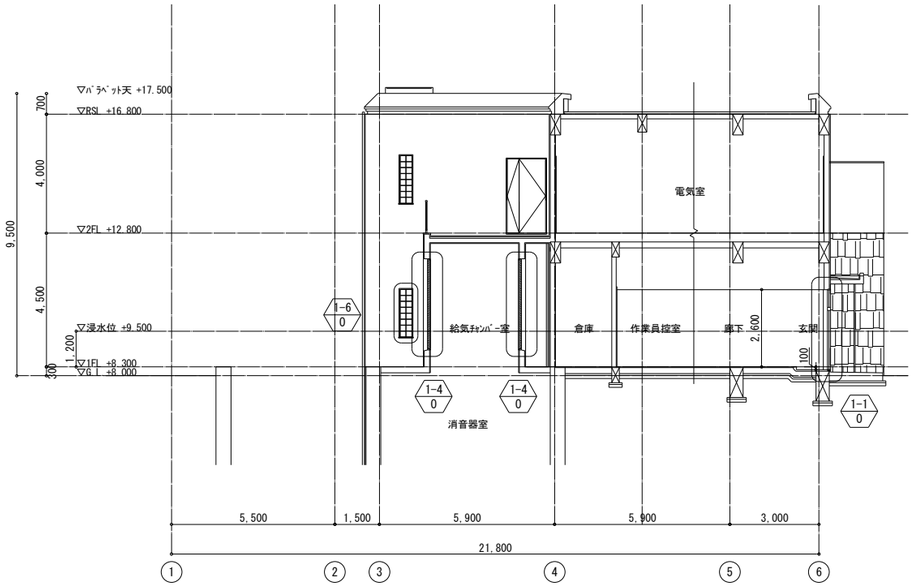
南立面図　S=1/100

凡　例

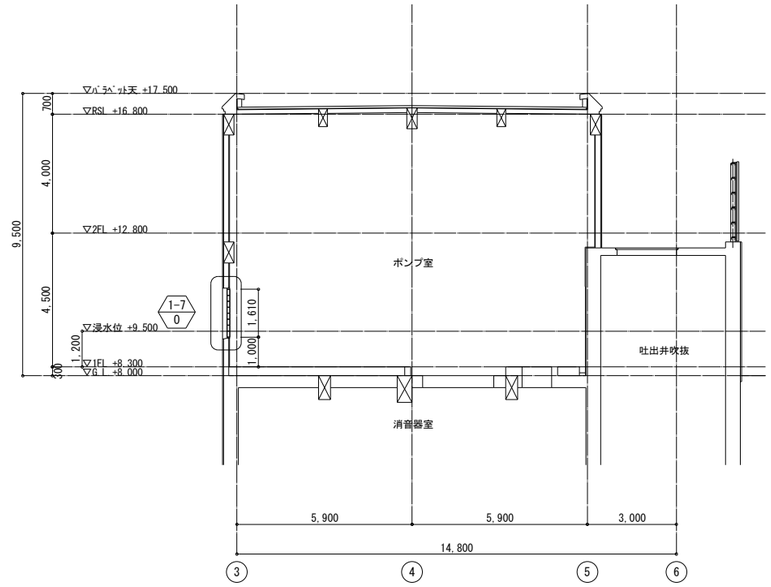
1-2 N　改修後詳細番号を示す

改修箇所を示す

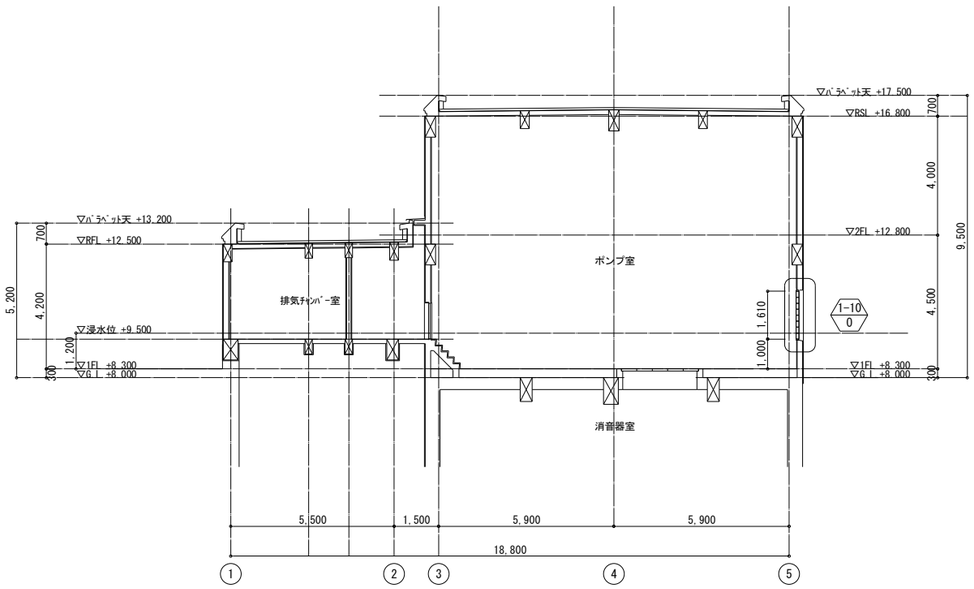
雨水排水ポンプ場耐水化工事(本郷第1雨水ポンプ場)計画詳細設			
事 業 名	公共下水道事業		
工事場所	三原市　本郷南五丁目		
図面番号	A-19	縮尺	S=1/100
図面名:	立面図(改修後)		
三　原　市			



A-A断面図　S=1/100



B-B断面図　S=1/100



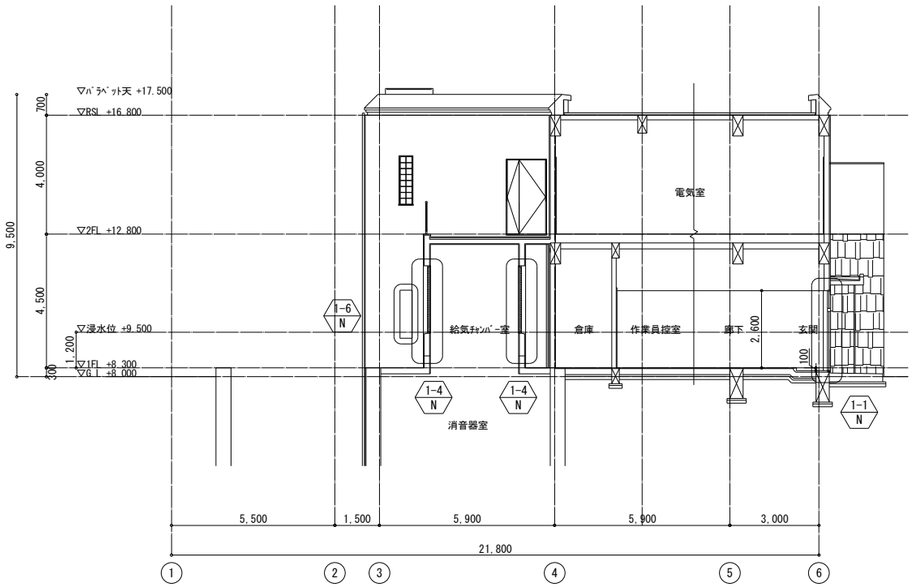
C-C断面図　S=1/100

凡　例

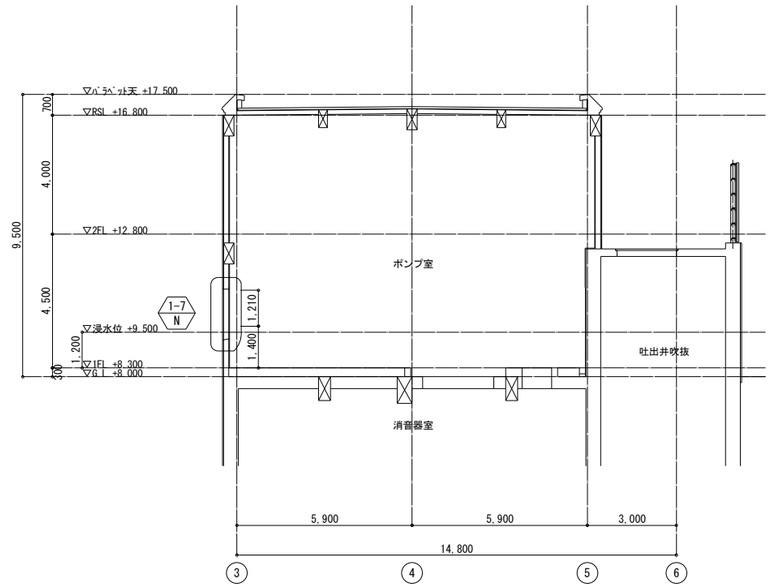
1-2 / 0　改修前詳細番号を示す

改修箇所を示す

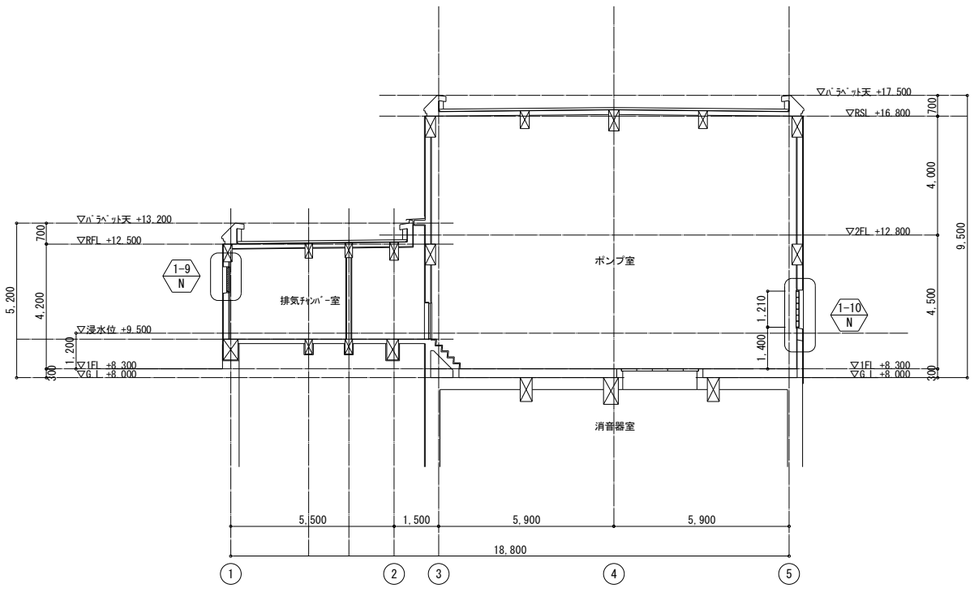
雨水排水ポンプ場耐水化工事(本郷第1雨水ポンプ場)			
事 業 名	公共下水道事業		
工事場所	三原市　本郷南五丁目		
図面番号	A-20	縮尺	S=1/100
図面名:	断面図(1)(改修前)		
三　原　市			



A-A断面図　S=1/100



B-B断面図　S=1/100



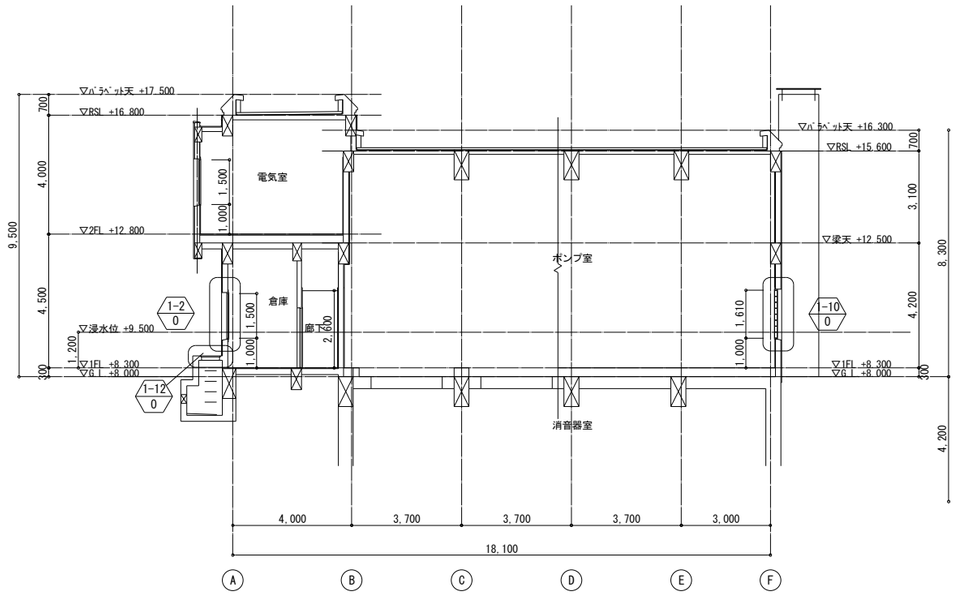
C-C断面図　S=1/100

凡　例

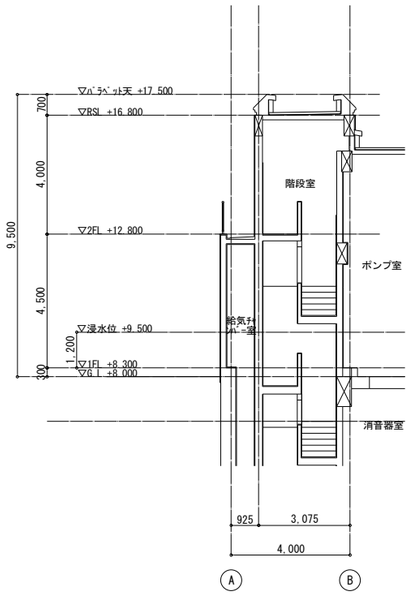
1-2 N　改修後詳細番号を示す

改修箇所を示す

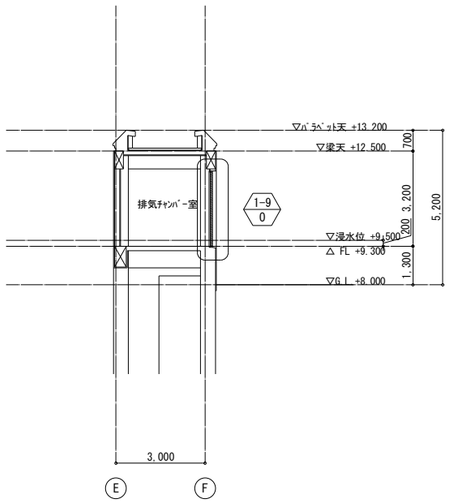
雨水排水ポンプ場耐水化工事(本郷第1雨水ポンプ場)			
事 業 名	公共下水道事業		
工事場所	三原市　本郷南五丁目		
図面番号	A-21	縮尺	S=1/100
図面名:	断面図(1)(改修後)		
三　原　市			



D-D断面図　S=1/100



E-E断面図　S=1/100



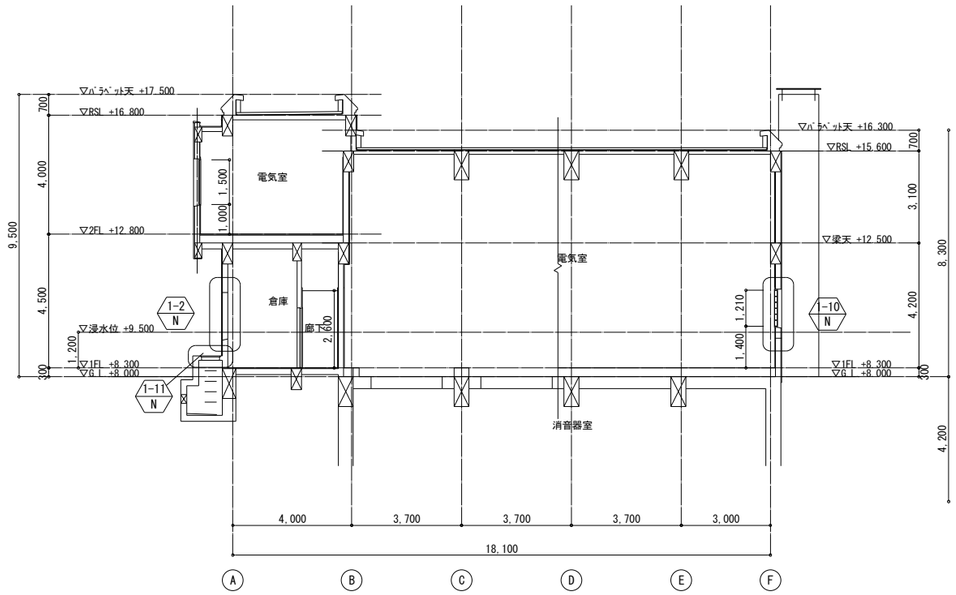
F-F断面図　S=1/100

凡　例

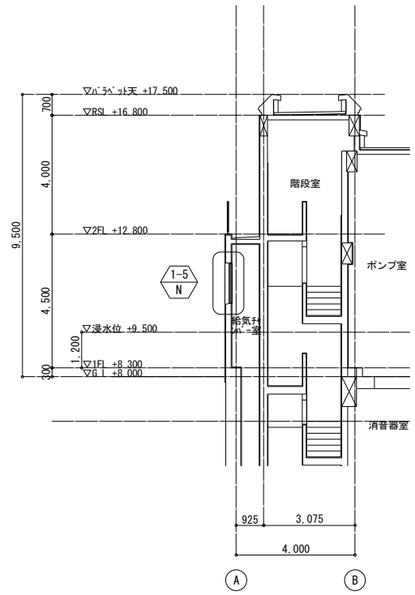
1-2 / 0　改修前詳細番号を示す

改修箇所を示す

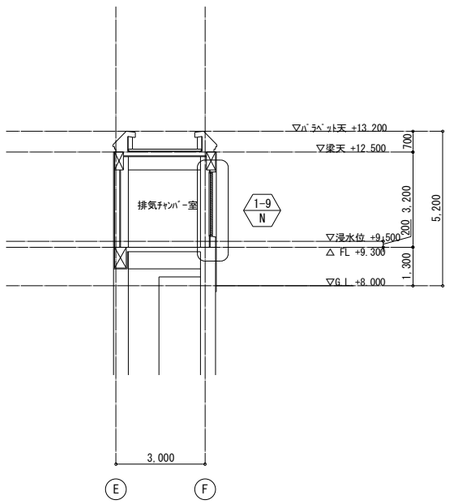
雨水排水ポンプ場耐水化工事(本郷第1雨水ポンプ場)			
事 業 名	公共下水道事業		
工事場所	三原市　本郷南五丁目		
図面番号	A-22	縮尺	S=1/100
図面名:	断面図(2)(改修前)		
三　原　市			



D-D断面図　S=1/100



E-E断面図　S=1/100



F-F断面図　S=1/100

凡　例

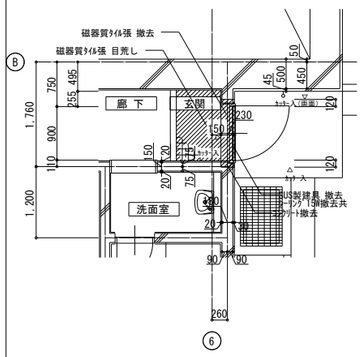
1-2 N　改修後詳細番号を示す

改修箇所を示す

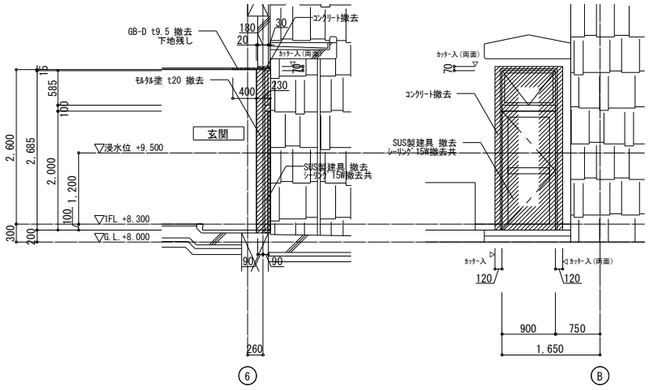
雨水排水ポンプ場耐水化工事(本郷第1雨水ポンプ場)			
事 業 名	公共下水道事業		
工事場所	三原市　本郷南五丁目		
図面番号	A-23	縮尺	S=1/100
図面名:	断面図(2)(改修後)		
三　原　市			

改修前

1-1 / 0　内部　配管室C-8通りハンドホール蓋改修



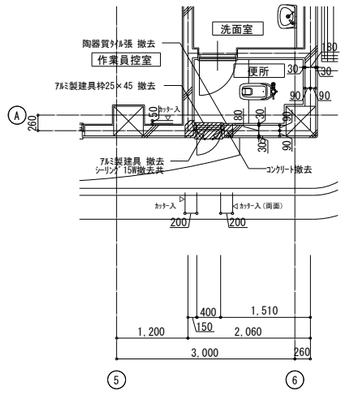
平面詳細図　S=1/50



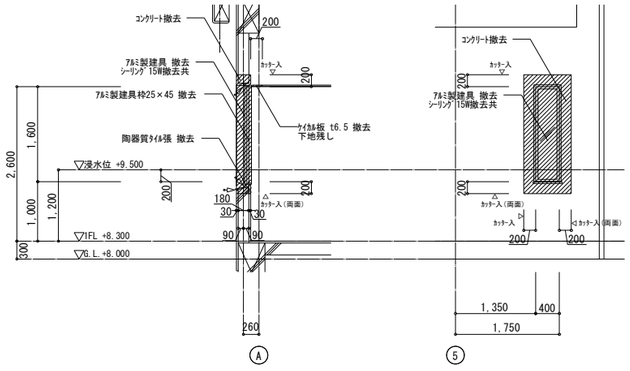
断面詳細図　S=1/50

正面図　S=1/50

1-2 / 0　外部　便所・倉庫　アルミ片開き窓　開口閉塞



平面詳細図　S=1/50



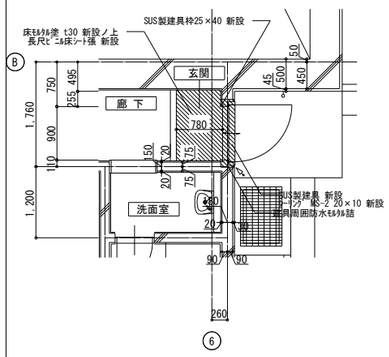
断面詳細図　S=1/50

正面図　S=1/50

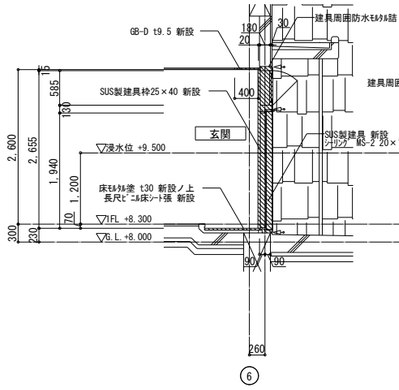
凡 例
撤去範囲を示す
シーリング撤去位置

改修後

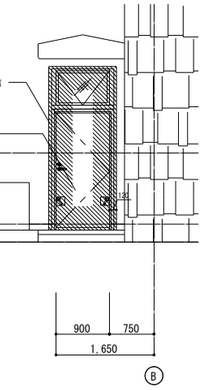
1-1 / N　内部　配管室C-8通りハンドホール蓋改修



平面詳細図　S=1/50

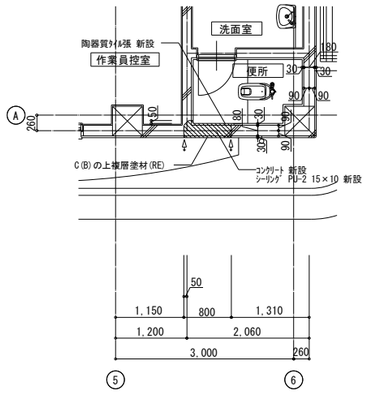


断面詳細図　S=1/50

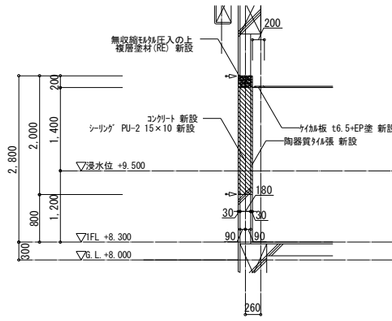


正面図　S=1/50

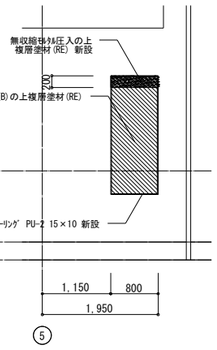
1-2 / N　外部　便所・倉庫　アルミ片開き窓　開口閉塞



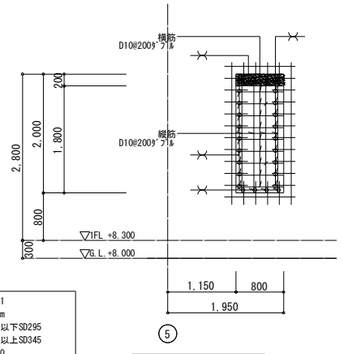
平面詳細図　S=1/50



断面詳細図　S=1/50



正面図　S=1/50



新設壁配筋図　S=1/50

・・・・幅止筋D10@1000を示す

凡 例
改修範囲を示す
シーリング新設位置

コンクリート	Fc21
スランプ	18cm
鉄 筋	D16以下SD295 D19以上SD345
無収縮モルタル	Fm30

雨水排水ポンプ場耐水化工事(本郷第1雨水ポンプ場)			
事 業 名	公共下水道事業		
工事場所	三原市　本郷南五丁目		
図面番号	A-24	縮尺	S=1/50
図面名:	改修詳細図(1)		
三　原　市			

共通事項

・打継面となる範囲の既存構造体コンクリート面については、目荒しを行うこと

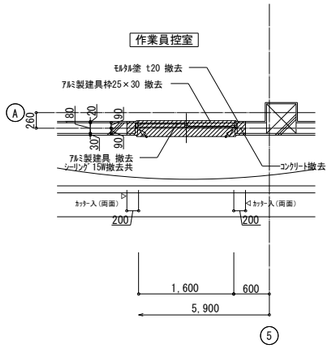
・新設する蓋廻りは防水モルタルを充填すること。

・蓋撤去部周囲は、コンクリート面にカッター入れを行う

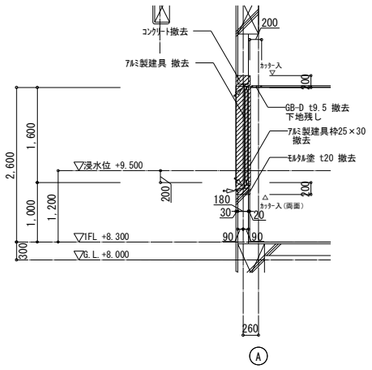
・納まり・大きさ等は現場にて着工後再度計測を行い、現場監督員と検討・協議の上決定すること

改修前

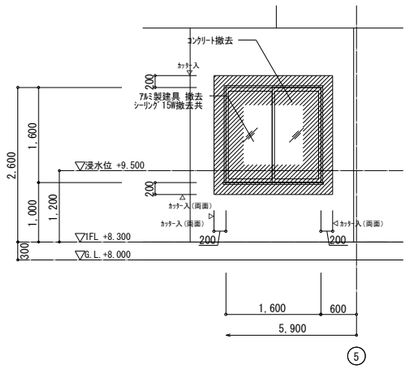
1-3 / 0　外部　作業員控室　アルミ引き違い窓　開口閉塞



平面詳細図　S=1/50



断面詳細図　S=1/50



正面図　S=1/50

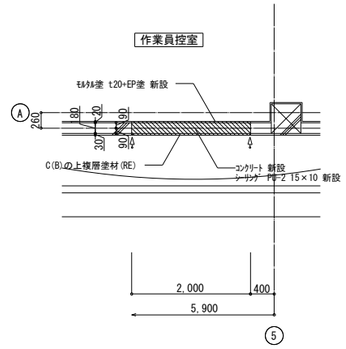
凡 例

撤去範囲を示す

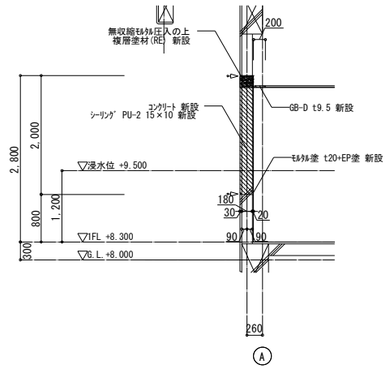
シーリング撤去位置

改修後

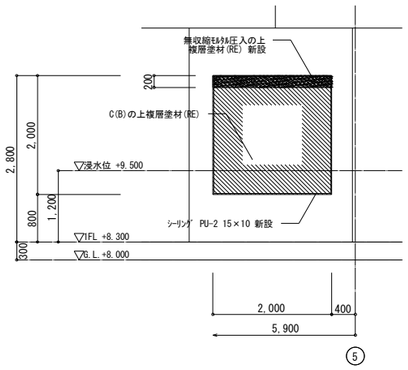
1-3 / N　外部　作業員控室　アルミ引き違い窓　開口閉塞



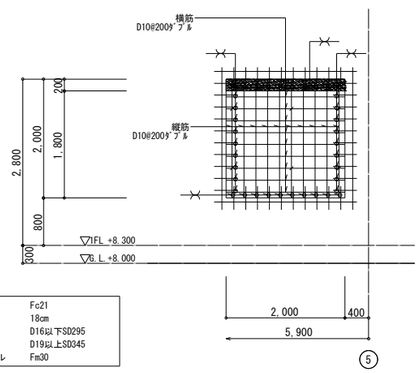
平面詳細図　S=1/50



断面詳細図　S=1/50



正面図　S=1/50



コンクリート	Fc21
スランプ	18cm
鉄　筋	D16以下SD295
	D19以上SD345
無収縮モルタル	Fm30

新設壁配筋図　S=1/50

／・・・幅止筋D10@1000を示す

凡 例

改修範囲を示す

シーリング新設位置

雨水排水ポンプ場耐水化工事(本郷第1雨水ポンプ場)			
事 業 名	公共下水道事業		
工事場所	三原市　本郷南五丁目		
図面番号	A-25	縮尺	S=1/50
図面名:	改修詳細図(2)		
三　原　市			

共通事項

・打継面となる範囲の既存構造体コンクリート面については、目荒しを行うこと

・新設する蓋廻りは防水モルタルを充填すること。

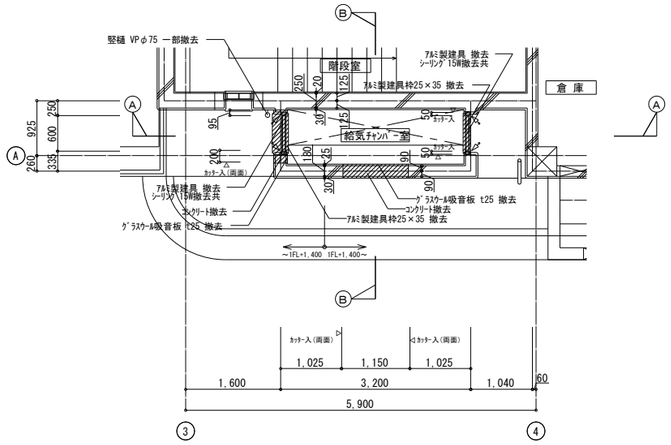
・蓋撤去部周囲は、コンクリート面にカッター入れを行う

・納まり・大きさ等は現場にて着工後再度計測を行い、現場監督員と検討・協議の上決定すること

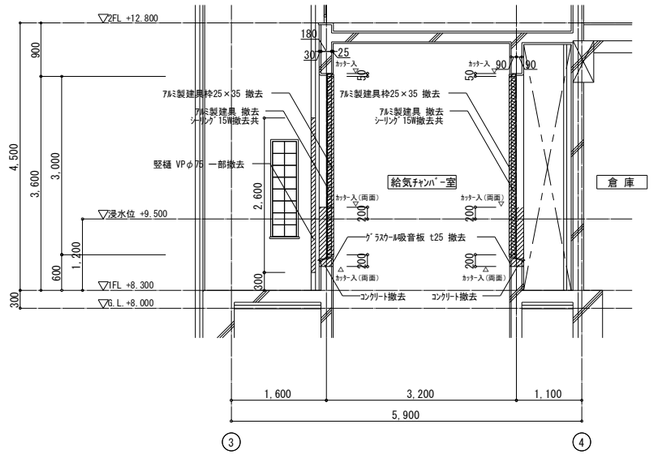
1-4 / 0　外部　給気チャンバー室　アルミガラリ　改修

1-5 / 0　外部　給気チャンバー室　躯体撤去

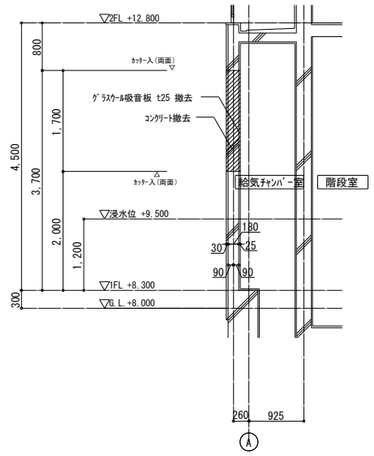
改修前



平面詳細図　S=1/50

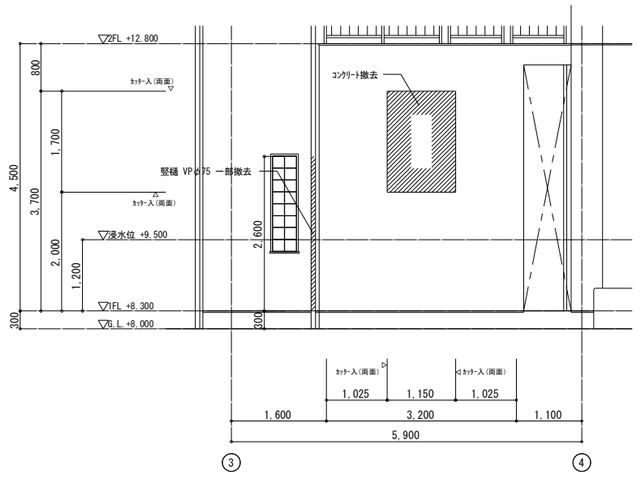


A-A断面

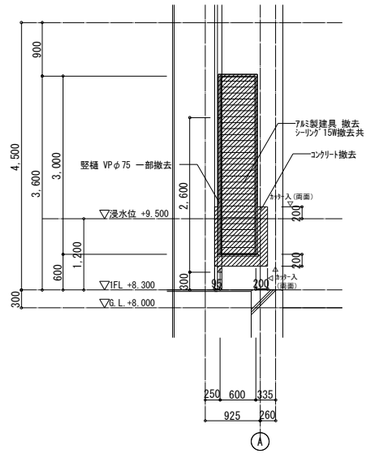


B-B断面

断面詳細図　S=1/50

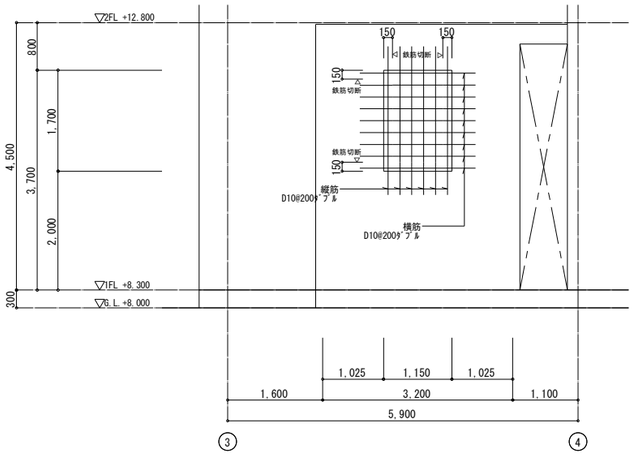


1-5工区



1-4工区

正面図　S=1/50



鉄筋切断位置図　S=1/50

凡 例

撤去範囲を示す

シーリング撤去位置

共通事項

・打継面となる範囲の既存構造体コンクリート面については、目荒しを行うこと

・新設する建具廻りは防水モルタルを充填すること。

・撤去部周囲は、コンクリート面にカッター入れを行う

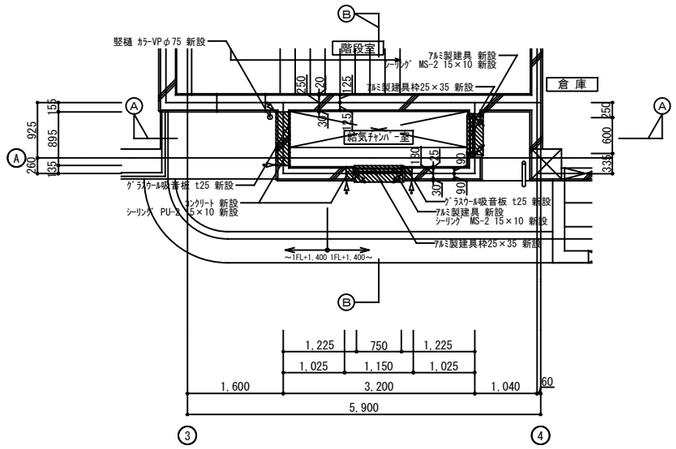
・納まり・大きさ等は現場にて着工後再度計測を行い、現場監督員と検討・協議の上決定すること

雨水排水ポンプ場耐水化工事(本郷第1雨水ポンプ場)			
事 業 名	公共下水道事業		
工事場所	三原市　本郷南五丁目		
図面番号	A-26	縮尺	S=1/50
図面名:	改修詳細図(3)		
三　原　市			

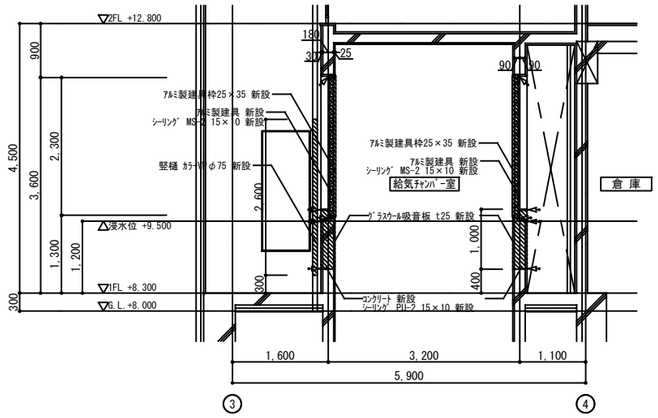
1-4 N　外部　給気チャンバー室　アルミガラリ　改修

1-5 N　外部　給気チャンバー室　アルミガラリ　新設

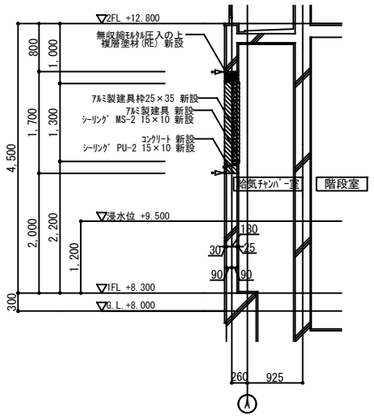
改修後



平面詳細図　S=1/50

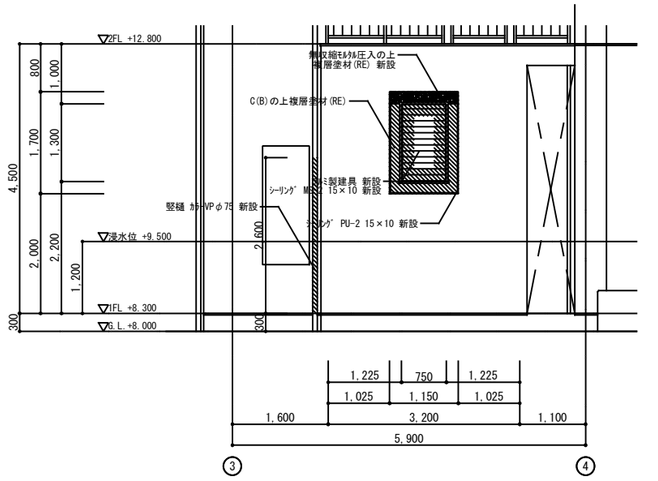


A-A断面

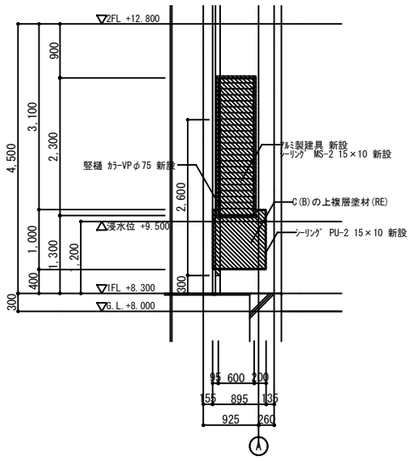


B-B断面

断面詳細図　S=1/50

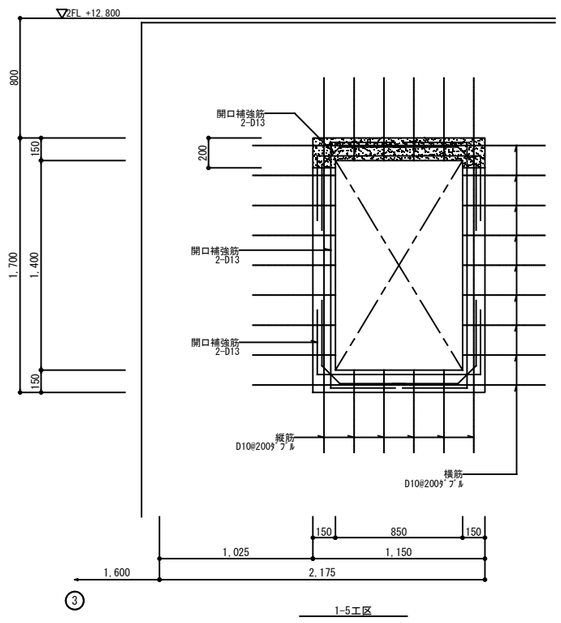


1-5工区



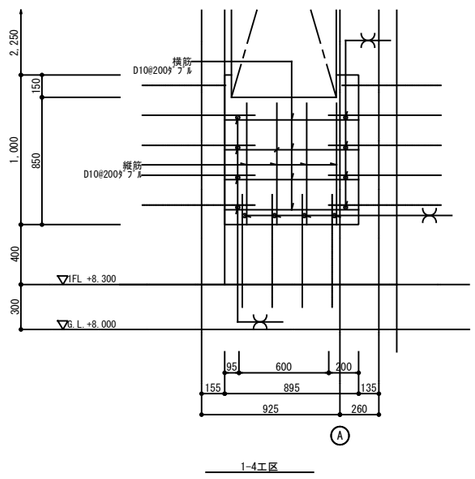
1-4工区

正面図　S=1/50



1-5工区

コンクリート	Fc21
スランプ	18cm
鉄　筋	D16以下SD295 D19以上SD345
無収縮モルタル	Fm30



1-4工区

新設壁配筋図　S=1/20

／・・・幅止筋D10@1000を示す

凡　例

- 改修範囲を示す
- モルタル圧入範囲を示す
- シーリング新設位置

共通事項

・打継面となる範囲の既存構造体コンクリート面については、目荒しを行うこと

・建具等撤去部周囲は、コンクリート面にカッター入れを行う

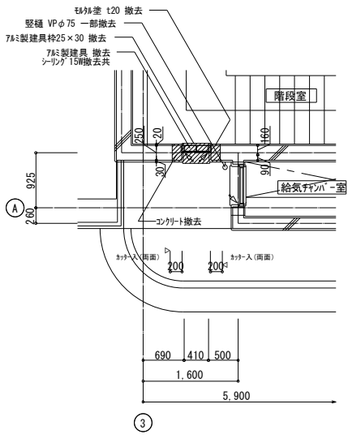
・納まり・大きさ等は現場にて着工後再度計測を行い、現場監督員と検討・協議の上決定すること

・新設する建具廻り等は防水モルタルを充填すること。

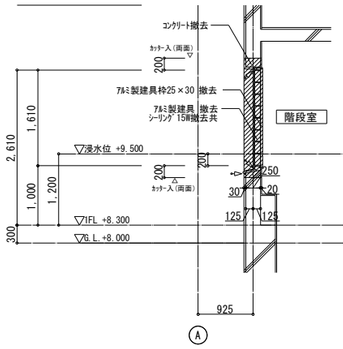
雨水排水ポンプ場耐水化工事(本郷第1雨水ポンプ場)			
事 業 名	公共下水道事業		
工事場所	三原市　本郷南五丁目		
図面番号	A-27	縮尺	S=1/50
図面名：	改修詳細図(4)		
三　原　市			

改修前

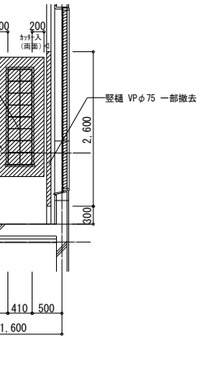
1-6 / 0　外部　階段室　アルミガラスブロック窓　開口閉塞



平面詳細図　S=1/50



断面詳細図　S=1/50

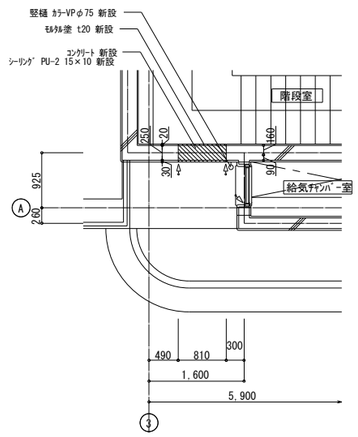


正面図　S=1/50

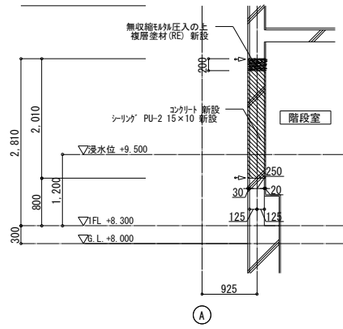
凡 例
撤去範囲を示す
シーリング撤去位置

改修後

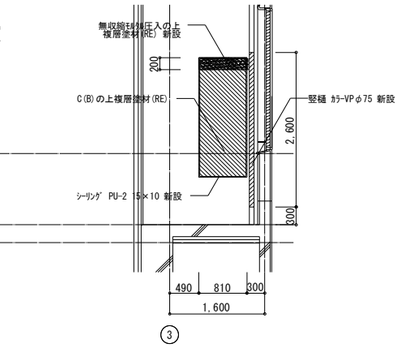
1-6 / N　外部　階段室　アルミガラスブロック窓　開口閉塞



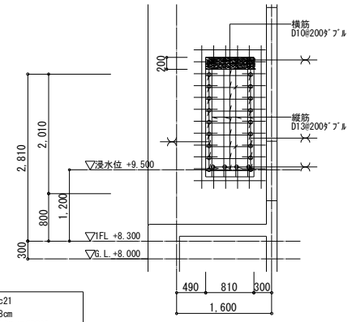
平面詳細図　S=1/50



断面詳細図　S=1/50



正面図　S=1/50



新設壁配筋図　S=1/50

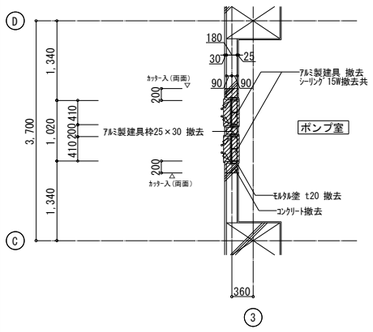
コンクリート	Fc21
スランプ	18cm
鉄　筋	D16以下SD295 D19以上SD345
無収縮モルタル	Fm30

／・・・幅止筋D10@1000を示す

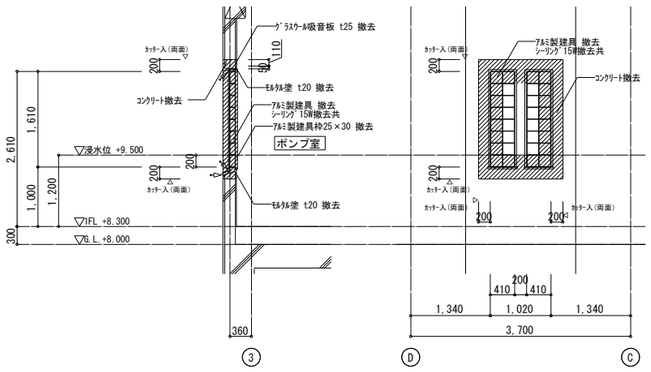
凡 例
改修範囲を示す
シーリング新設位置

改修前

1-7 / 0　外部　ポンプ室　アルミガラスブロック窓　開口閉塞



平面詳細図　S=1/50



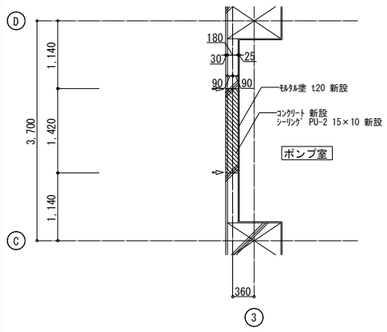
断面詳細図　S=1/50

正面図　S=1/50

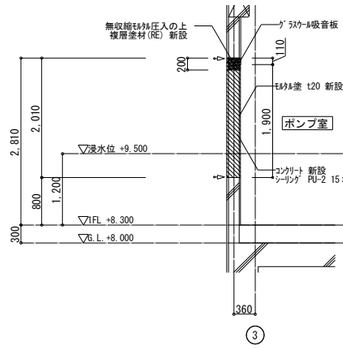
凡 例
撤去範囲を示す
シーリング撤去位置

改修後

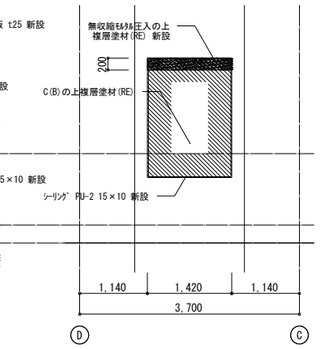
1-7 / N　外部　ポンプ室　アルミガラスブロック窓　開口閉塞



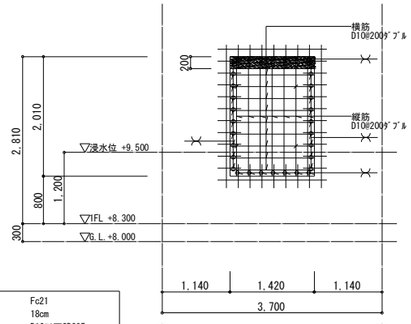
平面詳細図　S=1/50



断面詳細図　S=1/50



正面図　S=1/50



新設壁配筋図　S=1/50

コンクリート	Fc21
スランプ	18cm
鉄　筋	D16以下SD295 D19以上SD345
無収縮モルタル	Fm30

／・・・幅止筋D10@1000を示す

凡 例
改修範囲を示す
シーリング新設位置

共通事項

・打継面となる範囲の既存構造体コンクリート面については、目荒しを行うこと

・新設する蓋廻りは防水モルタルを充填すること。

・蓋撤去部周囲は、コンクリート面にカッター入れを行う

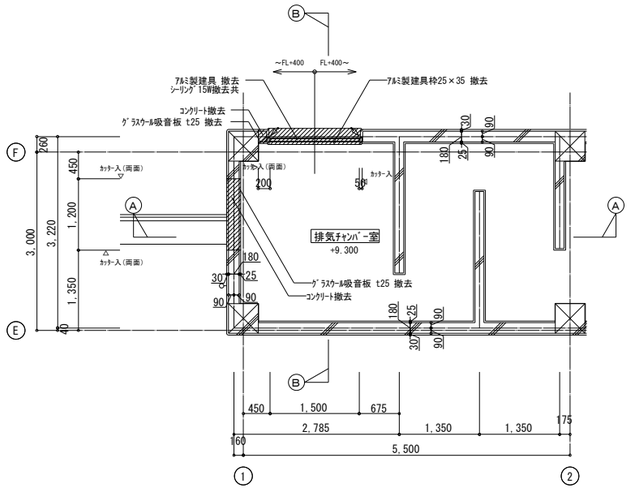
・納まり・大きさ等は現場にて着工後再度計測を行い、現場監督員と検討・協議の上決定すること

雨水排水ポンプ場耐水化工事(本郷第1雨水ポンプ場)			
事 業 名	公共下水道事業		
工事場所	三原市　本郷南五丁目		
図面番号	A-28	縮尺	S=1/50
図面名:	改修詳細図(5)		
三　原　市			

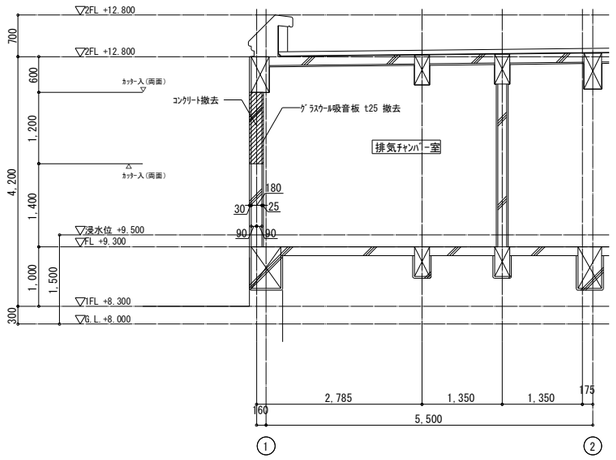
1-8 / 0　外部　排気チャンバー室　躯体撤去

1-9 / 0　外部　排気チャンバー室　アルミガラリ　改修

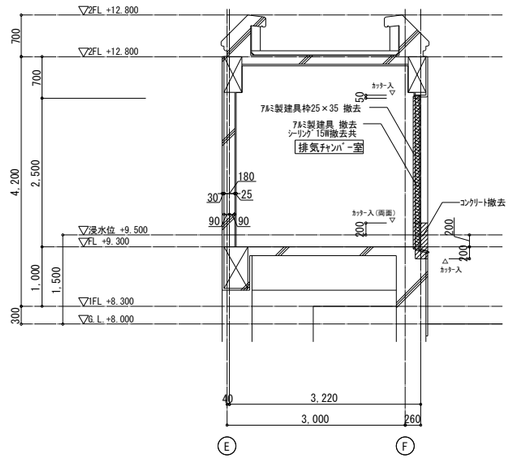
改修前



平面詳細図　S=1/50

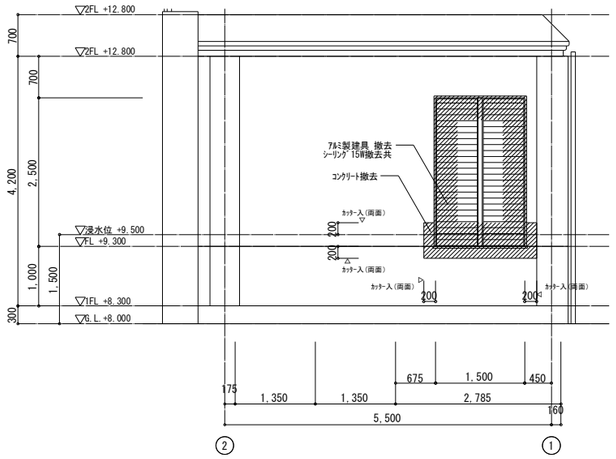


A-A断面

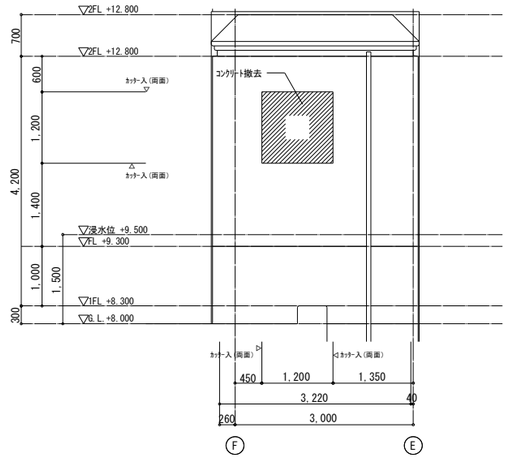


B-B断面

断面詳細図　S=1/50

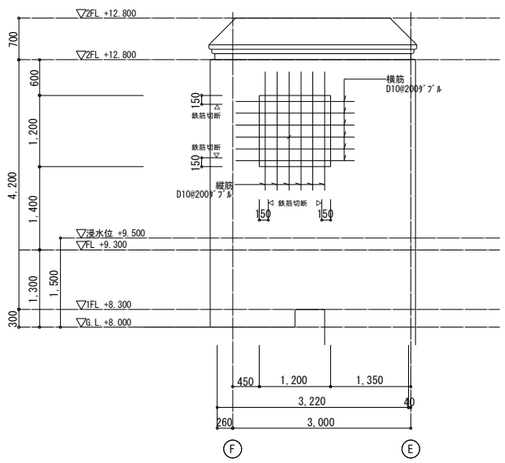


1-9工区



1-8工区

正面図　S=1/50



鉄筋切断位置図　S=1/50

凡 例

撤去範囲を示す

シーリング撤去位置

共通事項

・打継面となる範囲の既存構造体コンクリート面については、目荒しを行うこと

・撤去部周囲は、コンクリート面にカッター入れを行う

・納まり・大きさ等は現場にて着工後再度計測を行い、現場監督員と検討・協議の上決定すること

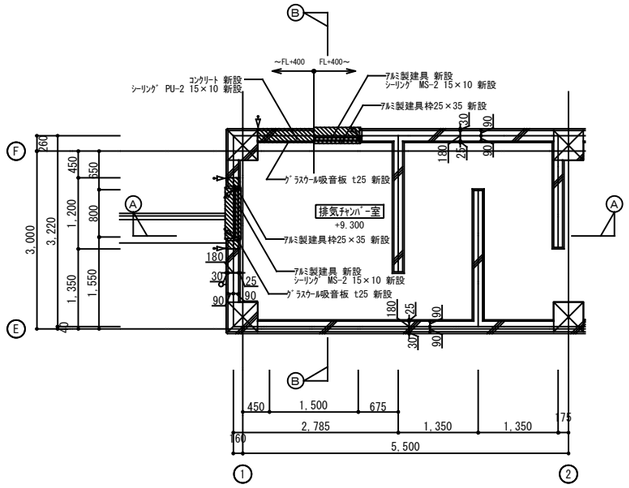
・新設する建具廻りは防水モルタルを充填すること。

雨水排水ポンプ場耐水化工事(本郷第1雨水ポンプ場)			
事 業 名	公共下水道事業		
工事場所	三原市　本郷南五丁目		
図面番号	A-29	縮尺	S=1/50
図面名:	改修詳細図(6)		
三　原　市			

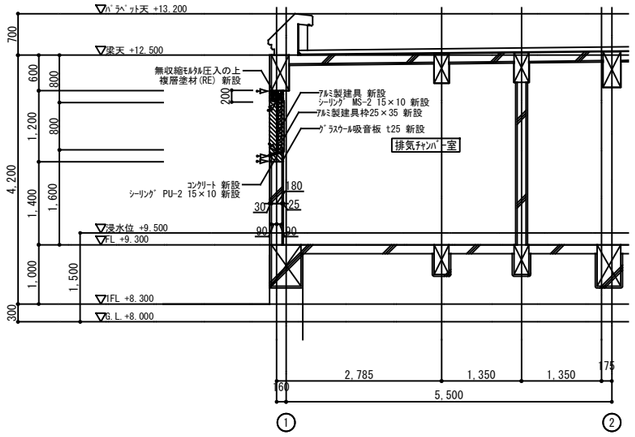
1-8 N 外部 排気チャンバー室 アルミガラリ 新設

1-9 N 外部 排気チャンバー室 アルミガラリ 改修

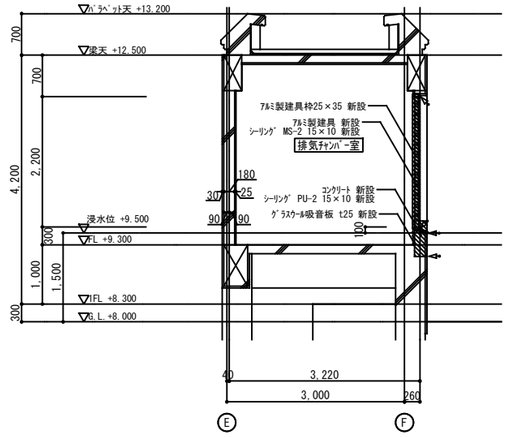
改修後



平面詳細図 S=1/50

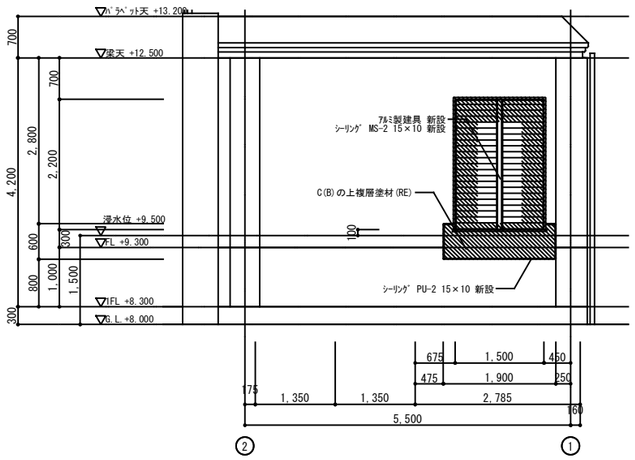


A-A断面

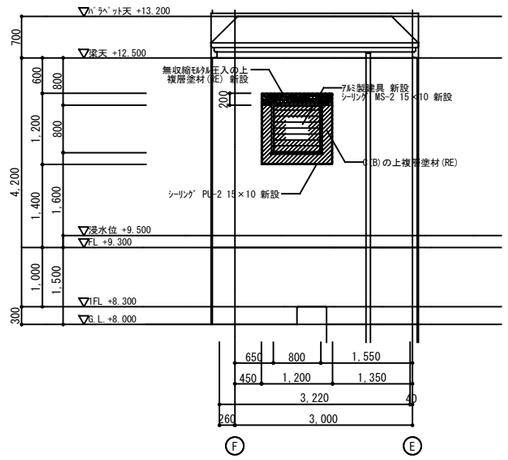


B-B断面

断面詳細図 S=1/50

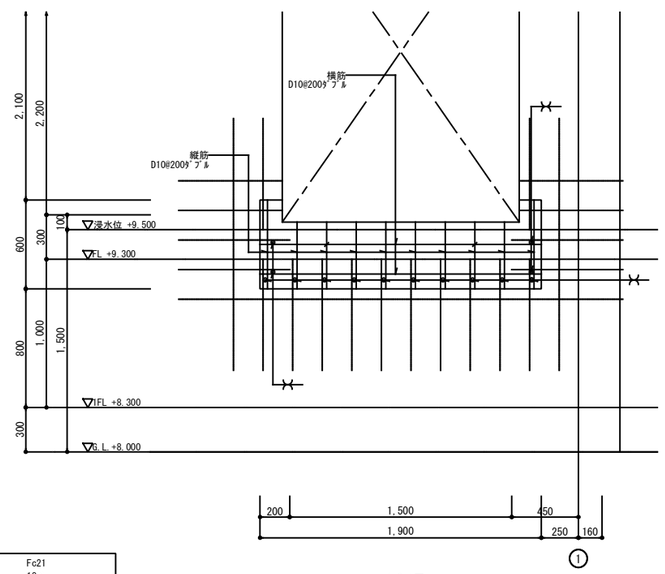


1-9工区

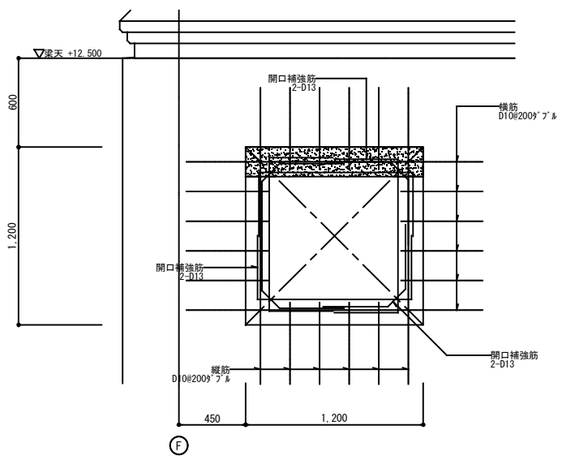


1-8工区

正面図 S=1/50



1-9工区



1-8工区

新設壁配筋図 S=1/20

・・・幅止筋D10@1000を示す

凡 例

- 改修範囲を示す
- モルタル圧入範囲を示す
- シーリング新設位置

コンクリート	Fc21
スランプ	18cm
鉄 筋	D16以下SD295 D19以上SD345
無収縮モルタル	Fm30

共通事項

・打継面となる範囲の既存構造体コンクリート面については、目荒しを行うこと

・建具等撤去部周囲は、コンクリート面にカッター入れを行う

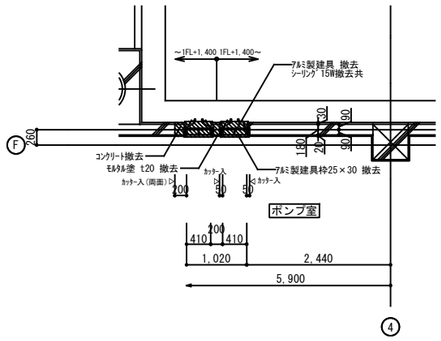
・納まり・大きさ等は現場にて着工後再度計測を行い、現場監督員と検討・協議の上決定すること

・新設する建具廻り等は防水モルタルを充填すること。

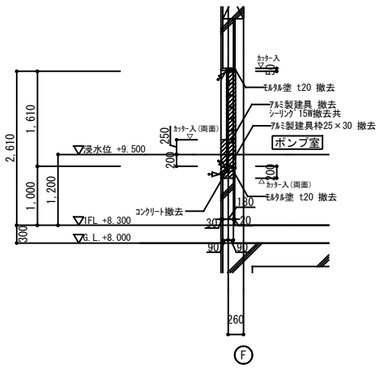
雨水排水ポンプ場耐水化工事(本郷第1雨水ポンプ場)			
事 業 名	公共下水道事業		
工事場所	三原市 本郷南五丁目		
図面番号	A-30	縮尺	S=1/50,1/20
図面名:	改修詳細図(7)		
三 原 市			

改修前

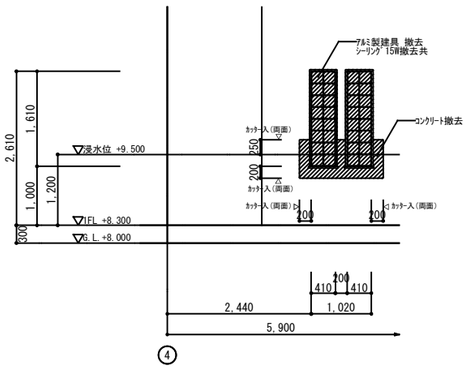
1-10 0　外部　ポンプ室　アルミガラスブロック窓　改修



平面詳細図　S=1/50



断面詳細図　S=1/50

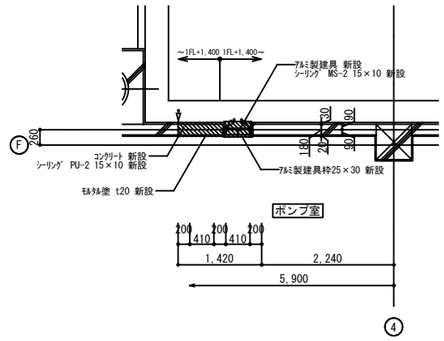


正面図　S=1/50

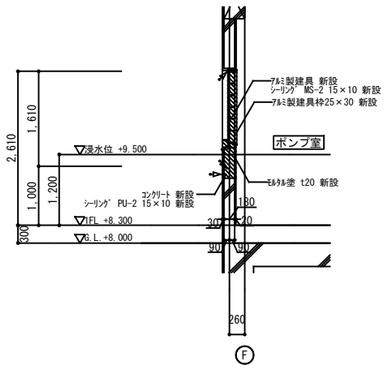
凡 例
撤去範囲を示す
シーリング撤去位置

改修後

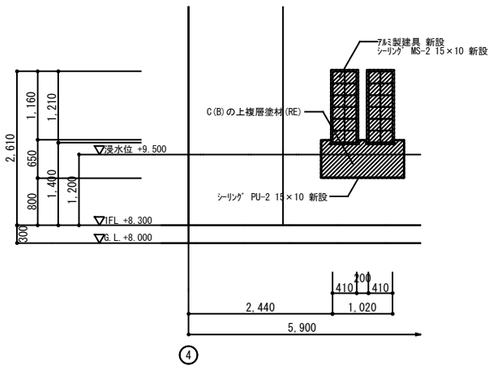
1-10 N　外部　ポンプ室　アルミガラスブロック窓　改修



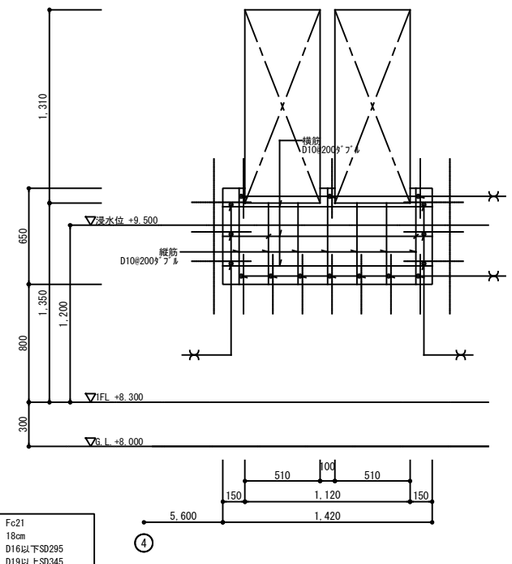
平面詳細図　S=1/50



断面詳細図　S=1/50



正面図　S=1/50



コンクリート	Fc21
スランプ	18cm
鉄　筋	D16以下SD295 D19以上SD345
無収縮モルタル	Fm30

新設壁配筋図　S=1/20

／・・・幅止筋D10@1000を示す

凡 例
改修範囲を示す
シーリング新設位置

共通事項

・打継面となる範囲の既存構造体コンクリート面については、目荒しを行うこと

・新設する建具廻り等は防水モルタルを充填すること。

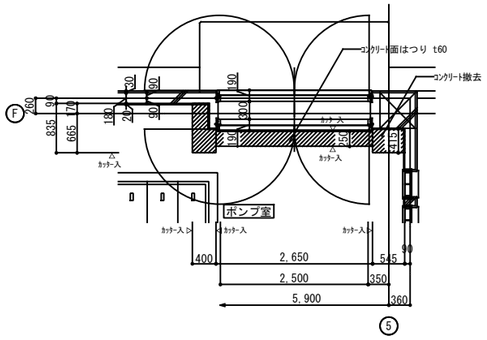
・建具等撤去部周囲は、コンクリート面にカッター入れを行う

・納まり・大きさ等は現場にて着工後再度計測を行い、現場監督員と検討・協議の上決定すること

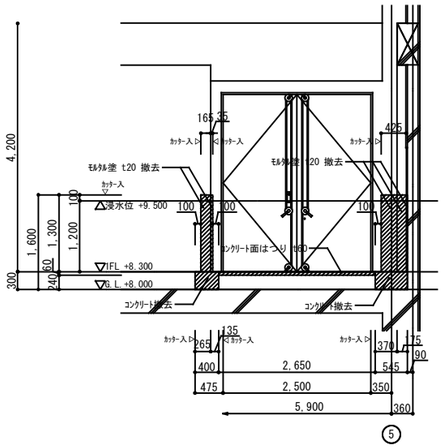
雨水排水ポンプ場耐水化工事(本郷第1雨水ポンプ場)			
事 業 名	公共下水道事業		
工事場所	三原市　本郷南五丁目		
図面番号	A-31	縮尺	S=1/50,1/20
図面名:	改修詳細図(8)		
三　原　市			

改修前

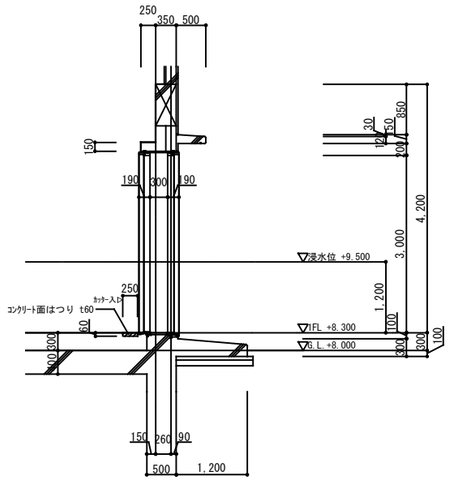
I-11 0 内部 ポンプ室 止水板 新設



平面詳細図 S=1/50



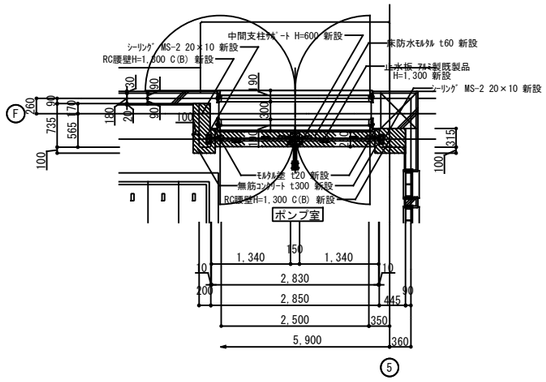
正面図 S=1/50



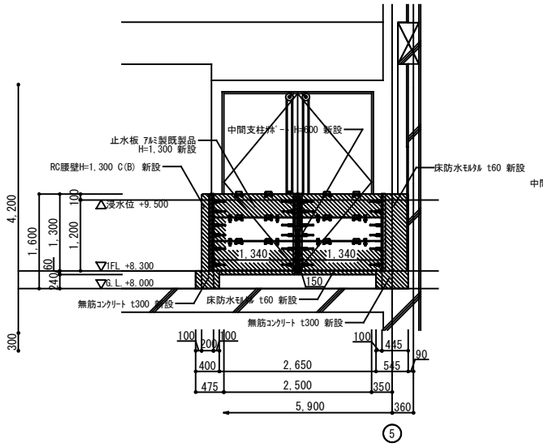
断面詳細図 S=1/50

改修後

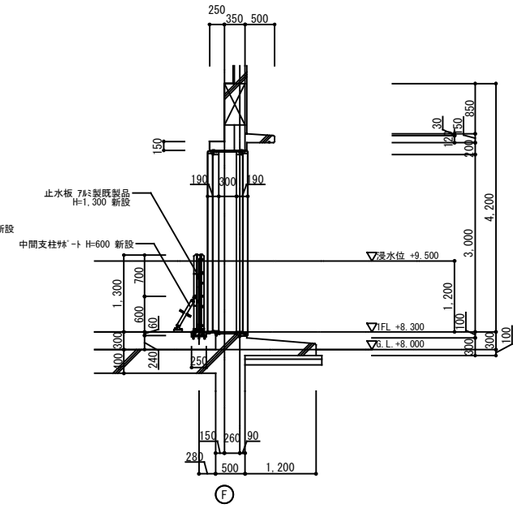
I-11 N 内部 ポンプ室 止水板 新設



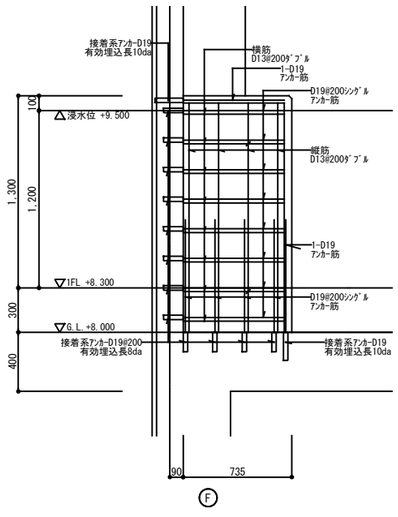
平面詳細図 S=1/50



正面図 S=1/50

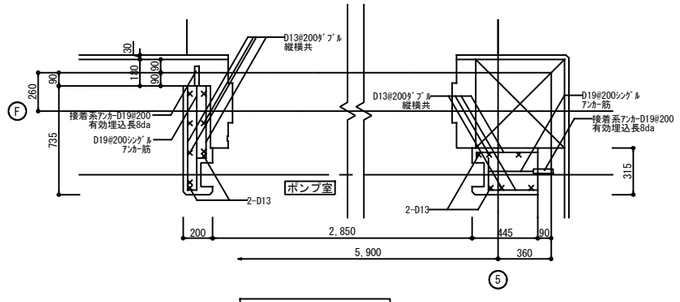


断面詳細図 S=1/50



新設壁配筋図 S=1/20

・・・幅止筋D10@1000を示す



新設壁配筋平面図 S=1/20

凡 例

撤去範囲を示す

シーリング撤去位置

改修範囲を示す

シーリング新設位置

コンクリート	Fc21
スランプ	18cm
鉄 筋	D16以下SD295 D19以上SD345
無収縮モルタル	Fm30

共通事項

・打継面となる範囲の既存構造体コンクリート面については、目荒しを行うこと

・新設する建具廻り等は防水モルタルを充填すること。

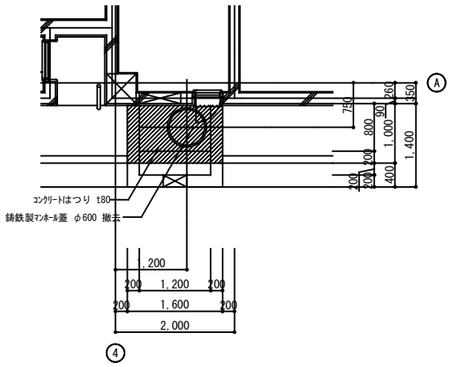
・建具等撤去部周囲は、コンクリート面にカッター入れを行う

・納まり・大きさ等は現場にて着工後再度計測を行い、現場監督員と検討・協議の上決定すること

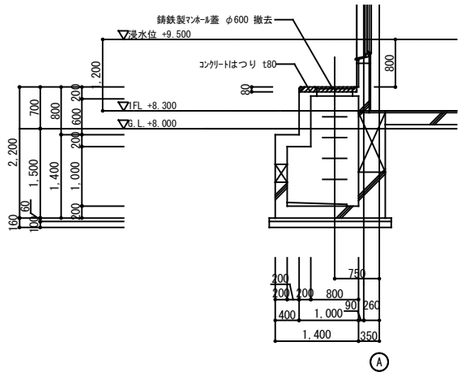
雨水排水ポンプ場耐水化工事(本郷第1雨水ポンプ場)			
事 業 名	公共下水道事業		
工事場所	三原市 本郷南五丁目		
図面番号	A-32	縮尺	S=1/50,1/20
図面名:	改修詳細図(9)		
三 原 市			

改修前

1-12 0　外部　電気ピットマンホール蓋　改修



平面詳細図　S=1/50



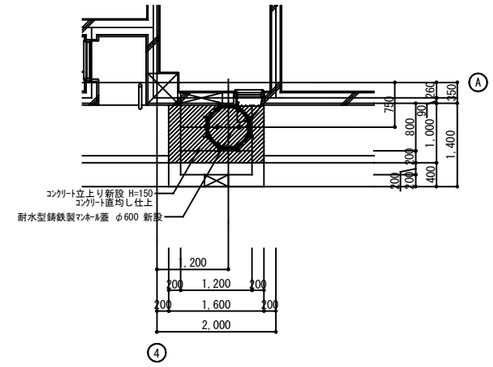
断面詳細図　S=1/50

凡　例

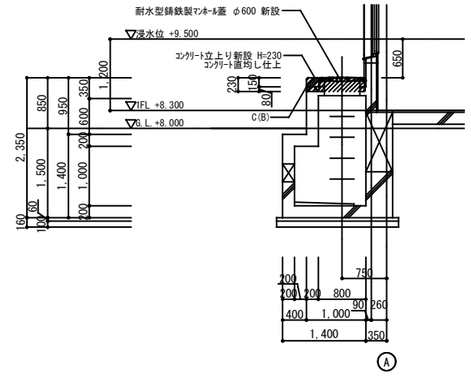
撤去範囲を示す

改修後

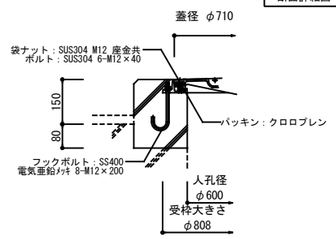
1-12 N　外部　電気ピットマンホール蓋　改修



平面詳細図　S=1/50



断面詳細図　S=1/50



枠廻り詳細図（参考図）　S=1/10

※納まり、形状等はメーカー仕様による

コンクリート	Fc21
スランプ	18cm
鉄　筋	D16以下SD295 D19以上SD345

立上り主筋・配力筋：D13@200シングル
あと施工アンカー：金属拡張アンカー 8-M12

凡　例

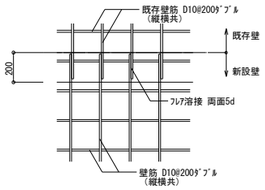
改修範囲を示す

共通事項

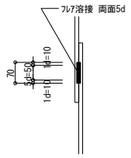
・打継面となる範囲の既存構造体コンクリート面については、目荒しを行うこと
・新設する蓋廻りは防水モルタルを充填すること。
・蓋撤去部周囲は、コンクリート面にカッター入れを行う
・納まり・大きさ等は現場にて着工後再度計測を行い、現場監督員と検討・協議の上決定すること

雨水排水ポンプ場耐水化工事（本郷第1雨水ポンプ場）			
事 業 名	公共下水道事業		
工事場所	三原市　本郷南五丁目		
図面番号	A-33	縮尺	S=1/50
図面名：	改修詳細図(10)		
三　原　市			

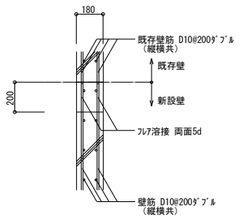
フレア溶接 配筋詳細図　1/20, 1/10



正面図 S=1/20

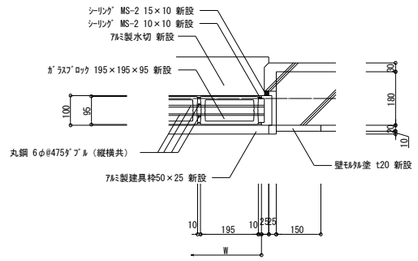


溶接要領 S=1/10

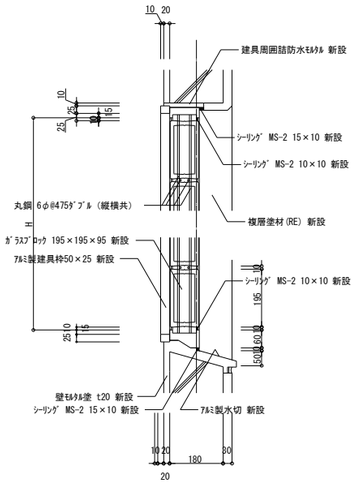


断面図 S=1/20

ガラスブロック納まり詳細図　1/10



平面詳細図



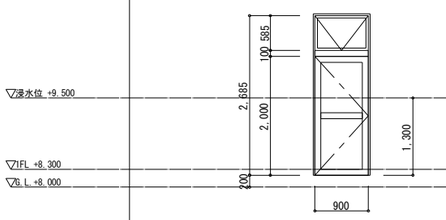
断面詳細図

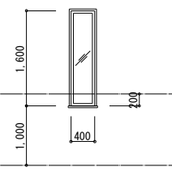
雨水排水ポンプ場耐水化工事（本郷第1雨水ポンプ場）	
事 業 名	公共下水道事業
工事場所	三原市　本郷南五丁目
図面番号	A-34　縮尺　S=1/20
図面名：	部分詳細図
三　原　市	

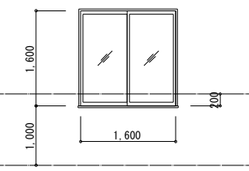
建具　リスト

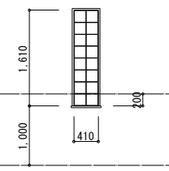
改修前

符号・名称・個数	SSD 1 ステンレス製製片開き戸 1		AW 1 アルミ製片開き窓 2	AW 2 アルミ製引違い窓 1	AW 3 アルミ製ガラスブロック窓 11
場所	1階　玄関		1階　便所・倉庫	1階　作業員控室	1階　階段室・ポンプ室
仕上（枠共）	SUS HL		B-1	B-1	B-1
建具 見込（ランマ）	40				
建具 硝子（ランマ）	NP t6.8		F	F	F
建具 ガラリ					
建具枠 見込取合　沓摺	100 SUS304 t 2.0		70	70	100
枠記号　沓摺（水切）記号	−		−	−	−
建具金物	丁番3枚、シリンダー本締り錠、握り玉ハンドル、ＤＣ　他付属金物一式		付属金物一式	付属金物一式	付属金物一式
その他	100 SUS304 t 2.0		ｱﾙﾐ製建具枠25×40(倉庫：25x30) 共	ｱﾙﾐ製建具枠25×30　共	ｱﾙﾐ製建具枠25×30　共
形状・寸法	撤去(枠共)		撤去(枠共)	撤去(枠共)	撤去(枠共)

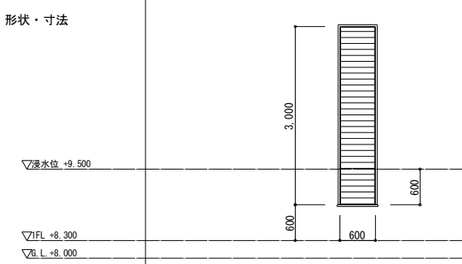


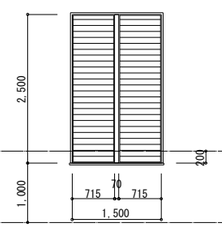






符号・名称・個数	AG 1 アルミ製ガラリ 2	AG 2 アルミ製ガラリ 1			
場所	1階　給気チャンバー室	1階　排気チャンバー室			
仕上（枠共）	B-1	B-1			
建具 見込（ランマ）					
建具 硝子（ランマ）					
建具 ガラリ	開口率30%	開口率30%			
建具枠 見込取合　沓摺	70	70			
枠記号　沓摺（水切）記号	−	−			
建具金物	付属金物一式	付属金物一式			
その他	ｱﾙﾐ製建具枠25×35 共	ｱﾙﾐ製建具枠25×35 共			
形状・寸法	撤去(枠共)	撤去(枠共)			





共通事項

1．特記なき限り外部はシリンダ箱錠（内部サムターン）とし内部は本締り付きモノロックとする。
　但し、押板、押棒の場合は、シリンダ本締り錠とする。
2．パイプスペース、ダクトスペースの点検扉の鍵はシリンダ本締り錠（特記なき限り同一キー）とする。
　（内部はサムターン付）
3．便所等の施錠を必要としない箇所は空錠とし、押板、押棒の場合は錠不要とする。
4．ＡＨ、ＦＨを除きＤＣの有無にかかわらず出入口には戸当り、あおり止め（防火戸を除く）をつける。
　壁仕上げボード類等の場合は床付とする。（但し、通行に支障のあるものは除く。）
5．特記なき限り外部に面するガラリは防鳥網付きとする。
6．アルミニウム製窓の締り金物、排煙口操作レバーの位置は床から１，５００以内とする。
7．大型、気密鋼製建具はシリンダ本締り錠付きとする。
8．特記なき限り内部建具ガラリはイ型とする。（枠廻り詳細による。）
9．特記なき限り鋼製戸の見込みは４０mmとする。
10．防火戸の位置は建具配置図による。
11．特記なき限り気密扉・簡易気密扉の吸音材の充填は行なわないものとする。
12階段室の施錠を必要としない箇所は空錠とする。
13特記なき限り両開きの防火戸は順位調整器付とする。
14特記なき限り扉の取手はレバーハンドルとする。
15ＡＴ－２、ＡＴ－４の補強材はアングル（Ｌ－５０×５０×６）の通し物とする。

建具略号

種別	戸	窓	ガラリ	オーバーヘッドドア	紙障子	ふすま	シャッター	網戸
アルミニウム製	AD	AW	AG	AOD			AS	aW
鋼製	SD	SW	SG	SOD			SS	
鋼製軽量	LD						LS	
ステンレス製	SSD	SSW	SSG				SSS	
木製	WD	WW	WG		P	H		

ガラス略号

F	型板ガラス
P	フロート板ガラス
N	網入型板ガラス
NP	網入みがき板ガラス

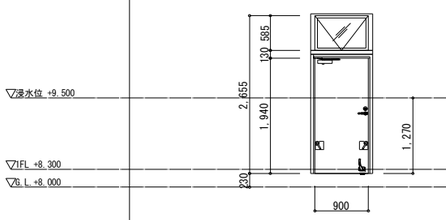
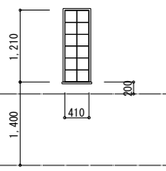
金物略号

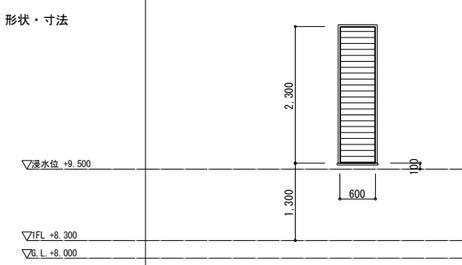
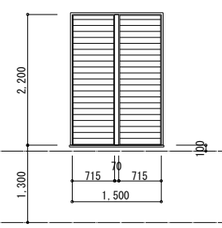
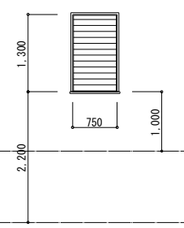
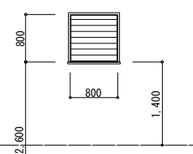
DC	ドアクローザー
AH	オートヒンジ
FH	フロアヒンジ
PH	ピボットヒンジ

雨水排水ポンプ場耐水化工事(本郷第1雨水ポンプ場)			
事業名	公共下水道事業		
工事場所	三原市　本郷南五丁目		
図面番号	A-35	縮尺	S=1/50
図面名:	建具リスト(改修前)		
三　原　市			

建具　リスト

改修後

符号・名称・個数	SSD N1 ステンレス製製片開き戸 1		AW N1 アルミ製ガラスブロック窓 4		
場所	1階　玄関		1階　ポンプ室		
仕上（枠共）	SUS HL		B-1		
建具 見込（ランマ）	40				
建具 硝子（ランマ）	NP t6.8		F		
建具 ガラリ					
建具枠 見込取合　沓摺	100 SUS304 t 2.0		100		
枠記号　沓摺（水切）記号	WP-1		ガラスブロック納まり詳細図		
建具金物	丁番3枚、シリンダー本締り錠、レバーハンドル、ＤＣ　他付属金物一式		付属金物一式		
その他	100 SUS304 t 2.0		ｱﾙﾐ製建具枠25×30　共		
形状・寸法	新設(枠共) 		新設(枠共) 		

符号・名称・個数	AG N1 アルミ製ガラリ 2	AG N2 アルミ製ガラリ 1	AG N3 アルミ製ガラリ 2	AG N4 アルミ製ガラリ 1	
場所	1階　給気チャンバー室	1階　排気チャンバー室	1階　給気チャンバー室	1階　排気チャンバー室	
仕上（枠共）	B-1	B-1	B-1	B-1	
建具 見込（ランマ）					
建具 硝子（ランマ）					
建具 ガラリ	開口率30%	開口率30%	開口率30%	開口率30%	
建具枠 見込取合　沓摺	70	70	70	70	
枠記号　沓摺（水切）記号	A-1 / a-1	A-1 / a-1	A-1 / a-1	A-1 / a-1	
建具金物	付属金物一式	付属金物一式	付属金物一式	付属金物一式	
その他	ｱﾙﾐ製建具枠25×35 共	ｱﾙﾐ製建具枠25×35 共	ｱﾙﾐ製建具枠25×35 共	ｱﾙﾐ製建具枠25×35 共	
形状・寸法	新設(枠共) 	新設(枠共) 	新設(枠共) 	新設(枠共) 	

共通事項

1．特記なき限り外部はシリンダ箱錠（内部サムターン）とし内部は本締り付きモノロックとする。
　但し、押板、押棒の場合は、シリンダ本締り錠とする。
2．パイプスペース、ダクトスペースの点検扉の鍵はシリンダ本締り錠（特記なき限り同一キー）とする。
　（内部はサムターン付）
3．便所等の施錠を必要としない箇所は空錠とし、押板、押棒の場合は錠不要とする。
4．ＡＨ、ＦＨを除きＤＣの有無にかかわらず出入口には戸当り、あおり止め（防火戸を除く）をつける。
　壁仕上げボード類等の場合は床付とする。（但し、通行に支障のあるものは除く。）
5．特記なき限り外部に面するガラリは防鳥網付きとする。
6．アルミニウム製窓の締り金物、排煙口操作レバーの位置は床から１，５００以内とする。
7．大型、気密鋼製建具はシリンダ本締り錠付きとする。
8．特記なき限り内部建具ガラリはイ型とする。（枠廻り詳細による。）
9．特記なき限り鋼製戸の見込みは４０mmとする。
10．防火戸の位置は建具配置図による。
11．特記なき限り気密扉・簡易気密扉の吸音材の充填は行なわないものとする。
12階段室の施錠を必要としない箇所は空錠とする。
13特記なき限り両開きの防火戸は順位調整器付とする。
14特記なき限り扉の取手はレバーハンドルとする。
15ＡＴ－２、ＡＴ－４の補強材はアングル（Ｌ－５０×５０×６）の通し物とする。

建具略号

種別	戸	窓	ガラリ	オーバーヘッドドア	紙障子	ふすま	シャッター	網戸
アルミニウム製	ＡＤ	ＡＷ	ＡＧ	ＡＯＤ			ＡＳ	ａＷ
鋼製	ＳＤ	ＳＷ	ＳＧ	ＳＯＤ			ＳＳ	
鋼製軽量	ＬＤ						ＬＳ	
ステンレス製	ＳＳＤ	ＳＳＷ	ＳＳＧ				ＳＳＳ	
木製	ＷＤ	ＷＷ	ＷＧ		Ｐ	Ｈ		

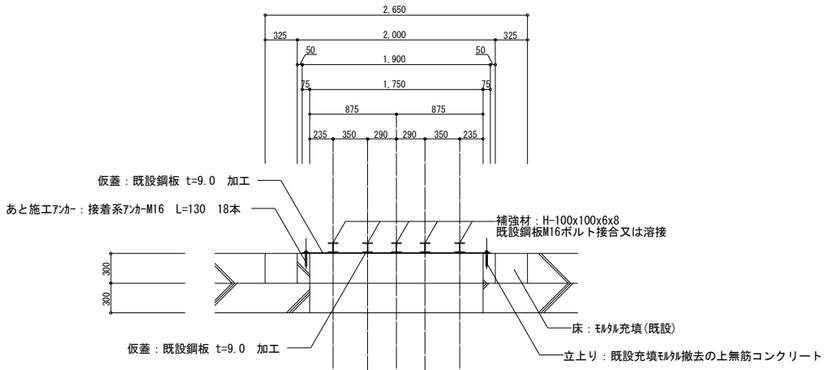
ガラス略号

Ｆ	型板ガラス
Ｐ	フロート板ガラス
Ｎ	網入型板ガラス
ＮＰ	網入みがき板ガラス

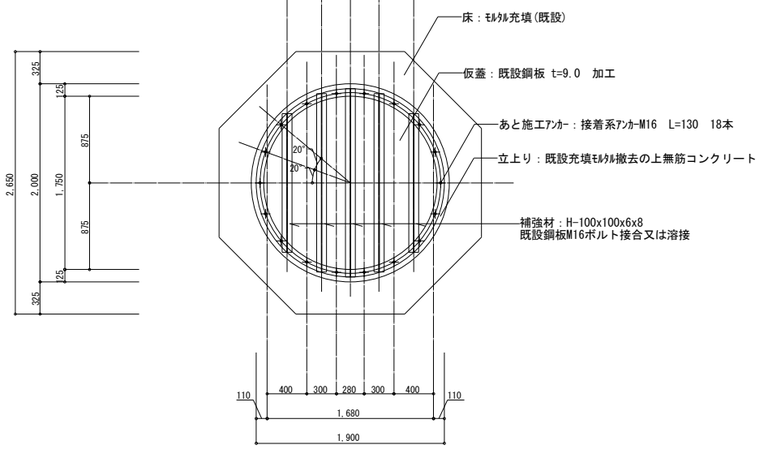
金物略号

ＤＣ	ドアクローザー
ＡＨ	オートヒンジ
ＦＨ	フロアヒンジ
ＰＨ	ピボットヒンジ

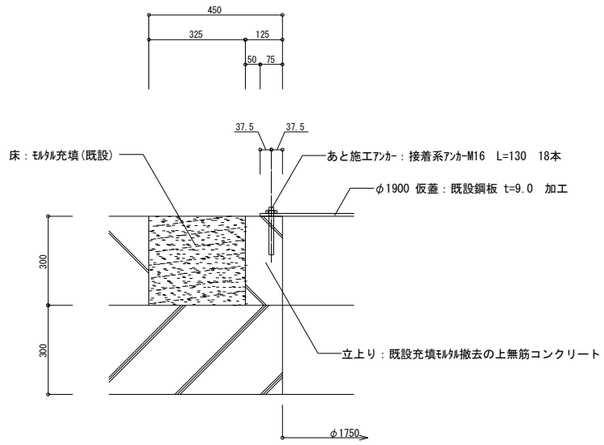
雨水排水ポンプ場耐水化工事(本郷第1雨水ポンプ場)			
事業名	公共下水道事業		
工事場所	三原市　本郷南五丁目		
図面番号	A-36	縮尺	S=1/50
図面名:	建具リスト(改修後)		
三　原　市			



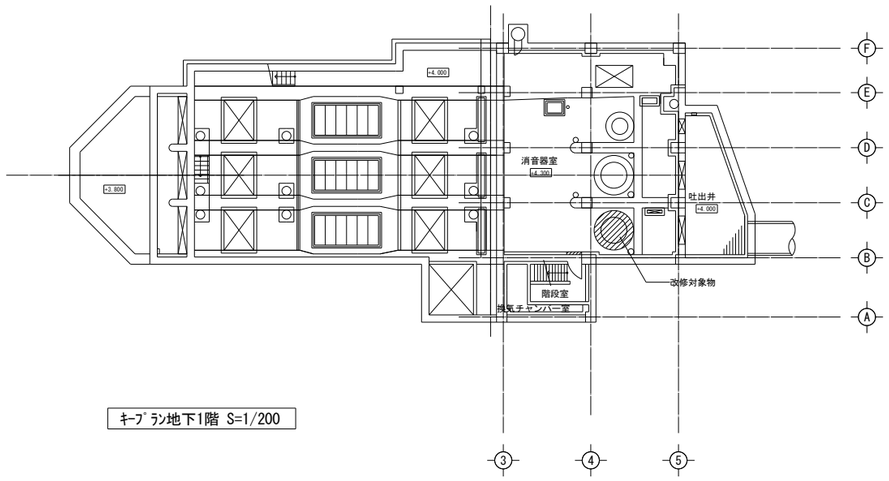
断面詳細図　S=1/30



平面詳細図　S=1/30

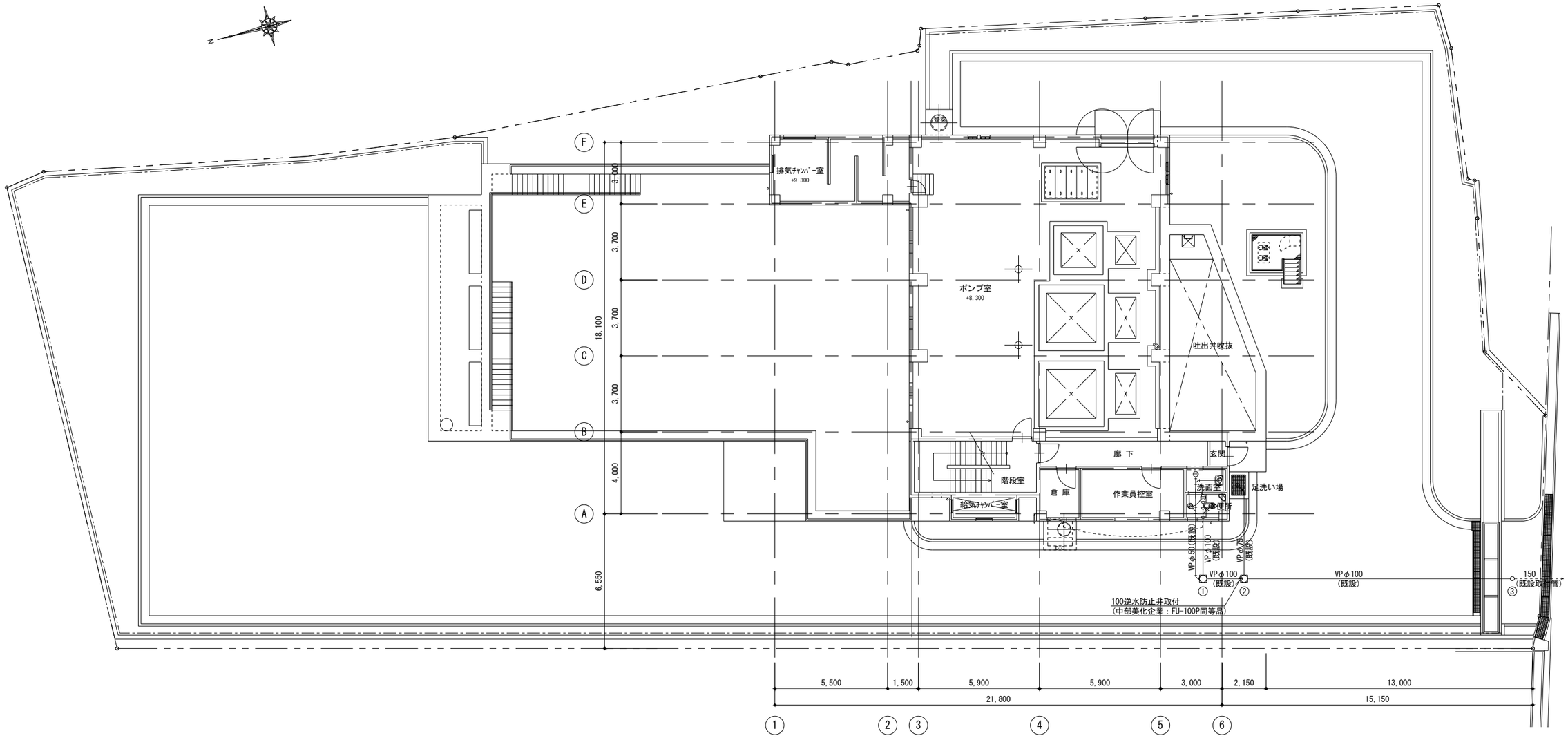


端部詳細図　S=1/10



キープラン地下1階 S=1/200

雨水排水ポンプ場耐水化工事(本郷第1雨水ポンプ場)			
事業名	公共下水道事業		
工事場所	三原市　本郷南五丁目		
図面番号	A-37	縮尺	S=1/30,1/10
図面名：	地下1階ポンプ開口部仮蓋詳細図		
三　原　市			



既設桝リスト

番号	名　称	種　別	管底 (GL-)	蓋種別	備　考
①	既設インバート桝	SC-1	450	MHA-350	
②	〃	〃	570	〃	インバート改修(今回工事)
③	既設塩ビ製取付桝		1500	200φ鋳鉄製防護蓋	

排水設備 改修平面図　S=1:100

雨水排水ポンプ場耐水化工事（本郷第１雨水ポンプ場）			
事 業 名	公共下水道事業		
工事場所	三原市　本郷南五丁目		
図面番号	AM-01	縮尺	S=1/100
図面名：	排水設備 改修平面図		
三　原　市			

雨水排水ポンプ場耐水化工事
（本郷第１雨水ポンプ場）

特　記　仕　様　書

（機械設備）

三原市

第１章　総　　則

第１節　適用範囲

本特記仕様書は、雨水排水ポンプ場耐水化工事（本郷第1雨水ポンプ場）に適用する。

第２節　責任施工

本工事は、受注者による責任施工である。

設計図書に記載なき事項についても技術上あるいは、全設備より見て当然必要と思われることは、職員（以下監督員という）の指示に従い、設計図書の意図する性能、機能を十分満足するよう設計、施工しなければならない。

第３節　施工基準

(1)　本工事に対する施工基準は、下記のものとする。

a　特 記 仕 様 書

b　設計図

c　設計書

d　現場説明事項

(2)　準拠規格

一般仕様書、 特記仕様書において規定して記載されたもの以外は、すべて次の規格及び基準に準拠すること。また、この書基準は、最新版を適用すること。

a　日本産業規格　　ＪＩＳ

b　機械設備標準仕様書　　日本下水道事業団

c　下水道施設計画・設計指針と解説

d　機械設備工事一般仕様書　　日本下水道事業団

e　機械設備工事必携　　日本下水道事業団

f　公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）

g　公共建築設備工事標準図（機械設備工事編）

h　その他関係法規並びに監督員が指示する仕様書、各種基準

(3)　承諾図

受注者は、承諾を受けるために監督員と打合せを行い、施工図面等の工事に必要な図面を２部作成し提出すること。

a　機器の据付配置図

b　機器相互間の配管図

c　施工図

一旦、承諾を受けても実際に施工上不都合があると認められる場合、あるいは設備上、機器の変更、追加等が必要と認められる場合には、監督員の指示に従って訂正図を提出し、再承諾を受けた後に機器等を製作すること。

また、承諾図返却後、決定図を監督員の指示する部数を提出すること。

(4)　疑義等

設計図書に関して疑義が生じた場合は、すべて監督員の解釈による。

設計図書に記載されていない事項であっても施工上当然必要と思われる事項は、受注者の負担においてこれを施工すること。

第４節　関係法規、責務の遵守

受注者は、本工事の施工に当り、諸官庁の命令指示、建設業法、労働基準法、労働安全衛生法、職業安定法、道路交通法、電気事業法その他関係法規、並びに工事施工に関する協定事項に違反しないこと。

第５節　手続きの代行

受注者は本工事施工に当り、諸官公庁及び当該電気供給者の検査を受ける必要があるものについては、すべての手続きを代行し、常に連絡を密にして、設備使用開始に際し支障のないようにすること。

ただし、手続書類は提出前に監督員の承諾を受けること。

第６節　現場の管理

受注者は，工事現場内において監理技術者，主任技術者(下請を含む。)に工事名，工期，顔写真，所属会社名及び証明印の入った名札を着用すること。

第７節　検査

三原市工事検査規程の定めるところによる。

第８節　主任（監理）技術者の配置等

(1)　主任（監理）技術者の専任期間等

本工事に配置される技術者については，工場製作のみが行われている期間は専任を要しない。

なお，当該工場製作過程において，同一工場内で他の同種工事に係る製作と一元的な管理体制のもとで製作を行うことが可能である場合は，同一の技術者がこれらの製作を一括して管理することができる。

(2)　主任（監理）技術者の変更の特例

本工事に配置される技術者については，工場から現地への工事の現場が移行する時点において変更ができる。

なお，発注者と受注者の協議により，交代の時期は工程上一定の区切りと認められる時点とするほか，交代前後における技術者の技術力が同等以上に確保されるとともに，一定期間重複して工事現場に設置し，工事の継続性，品質等を確保すること。

第９節　工事カルテの作成および登録

受注者は，工事実績情報サービス（CORINS）に基づき「工事カルテ」を作成し，監督職員の確認を受けた後に(財)日本建設情報総合センターに登録し，「工事カルテ」の写しを監督職員

に提出すること。

第10節　完成図書の提出

施設引渡しの際，下記の完成図書を提出すること。

完成図書はＡ４版，取外し可能な折り込み製本とし表紙，背表紙は金文印刷したものを３部納入のこと。

(1)　完成図面
(2)　各種検討書，計算書
(3)　各種配管図
(4)　付属品，予備品リスト
(5)　各種試験，検査成績書
(6)　各種官庁手続き書類
(7)　取扱説明書
(8)　運転操作説明書
(9)　故障時連絡一覧表
(10)　その他必要なもの

第11節　かし担保期間

完成検査に合格した日から２年間とする。

かし担保期間終了時，請負人は技術者を派遣し異常の有無を確認後，監督員と協議し承認を得ること。

保証期間内に請負人の責任に帰すべき原因による事故が発生した場合，監督員の指示する期間内に無償で改造，補修または新品と取替えた後，検査に合格しなければならない。

第12節　契約内容の変更

本工事の内容に著しい影響を与える事情が生じたときは，協議の上，契約内容を変更することができる。

ただし，監督員が特段の理由があると認めたときを除き，契約内容の変更は行わない。

第13節　その他

(1)　責任施工

受注者は既設構造物その他に損傷を与えないよう，または機能を阻害しないよう適切な保護を行うこと。これらに損傷または損失を与えた場合，受注者の負担において復旧すること。

本工事の施工にあたって本仕様書，添付図面，別紙設計書に明示していないものがあっても，設備の性能発揮に当然必要なものは監督員の指示に従い，受注者の費用をもって施工しなければならない。また，重要寸法についてはあらかじめ現地実測の上決定し，万一数量寸

法等に誤記があった場合は，監督員と打ち合わせ善処しなければならない。

(2)　耐震設計

耐震を十分考慮した構造および施工とすること。

(3)　工事保険等

受注者は，本工事において第三者に与えた損害を補填する保険又はその他必要とする建設工事に関連する保険等に加入しなければならない。また，加入した保険等については，保険証券の写し（保険以外の場合はそれに代わるもの）を監督員に提出すること。なお，加入に必要な保険料等は，設計で現場管理費に見込んでいる。

(4)　工事損失等

本工事の施工に伴い，通常避けることのできない地盤沈下，振動等により建物等に損害等（以下「工事損失」という。）が発生した場合においては，次のとおりとする。なお，工事損失に伴う補償費用は，設計で現場管理費に見込んでいる。

a　原因調査　　監督員と協力して行うこと。

b　補償交渉　　監督員と協力して処理解決に当ること。

c　応急措置　　監督員から応急措置を講じる必要があると指示された場合は、直ちに応急措置を講じること。

d　補償費用負担割合　　発注者は，工事損失に伴う補償費用のうち請負代金の 100 分の１を超える額を負担すること。

第２章　本郷第１雨水ポンプ場

第１節　耐水化対策

本工事は、場内に設置された燃料移送ポンプ現場操作盤及び燃料貯蔵タンク液位計変換器が、河川の氾濫等などにより水没しポンプ場の運転に支障が生じる恐れがあるため、本工事で設置する架台等に移設するものである。

第２節　移設設備

(1) 燃料移送ポンプ　　２　台

(2) 燃料移送ポンプ点検架台（新設）　　１　台

(3) その他発注図面のとおり

第３章　機　械　工　事

第１節　一般事項

(1) 本工事の施工にあたっては、監督員の指示に従い、本仕様書及び設計図書に基づき、関係法令、規定、基準に準拠し、責任を持って施工しなければならない。また、作業の安全及び通行人等第三者への災害防止等についても十分に配慮し、安全対策を講じること。

(2) 機器の搬入、据付の際は機器本体、構造物に対して損傷を与えることのないように注意すること。

(3) 工事の施工にあたっては、施工図を提出のうえ監督員の指示によること。また、実施に当たっては安全かつ効率的に行うこと。

(4) 電力会社等への諸手続きは、受託者が自らの費用において行うこと。

(5) 槽内作業の場合は、酸素欠乏及び硫化水素危険作業に該当するため、法令・規則等を遵守し安全に行うこと。

第２節　各種工事

(1) 点検架台の据付工事

1)　点検架台は、所要の強度を確保し、燃料移送ポンプを強固に取付けること。

材質　SS400　屋外塗装（溶融亜鉛メッキ）

(2) 油水分離槽据付工事

1)　油水分離槽は本郷第１ポンプ場の燃料移送ポンプ下部に設ける防液堤からの排水を行うものであり、三原市火災予防条例第42条対象品とすること。

参考）　600角直列型３槽式　寸法　2,080×740×1,100

工事数量総括表

費目・工種明細など	規格1・規格2	単位		数量	備考
本工事費					
設備工（機器費）		式		1	レベル1
ポンプ設備工		式		1	レベル2
ポンプ設備工		式		1	レベル3
設計技術費対象外		式		1	レベル4
＊＊機器費＊＊					
設備工		式		1	レベル1
ポンプ設備工		式		1	レベル2
材料費		式		1	レベル3
直接材料費		式		1	レベル4
補助材料費		式		1	レベル4
労務費		式		1	レベル3
一般労務費		式		1	レベル4
機械設備据付労務費		式		1	レベル4
複合工費		式		1	レベル3
撤去工		式		1	レベル4
土工		式		1	レベル4
コンクリート工		式		1	レベル4

工事数量総括表

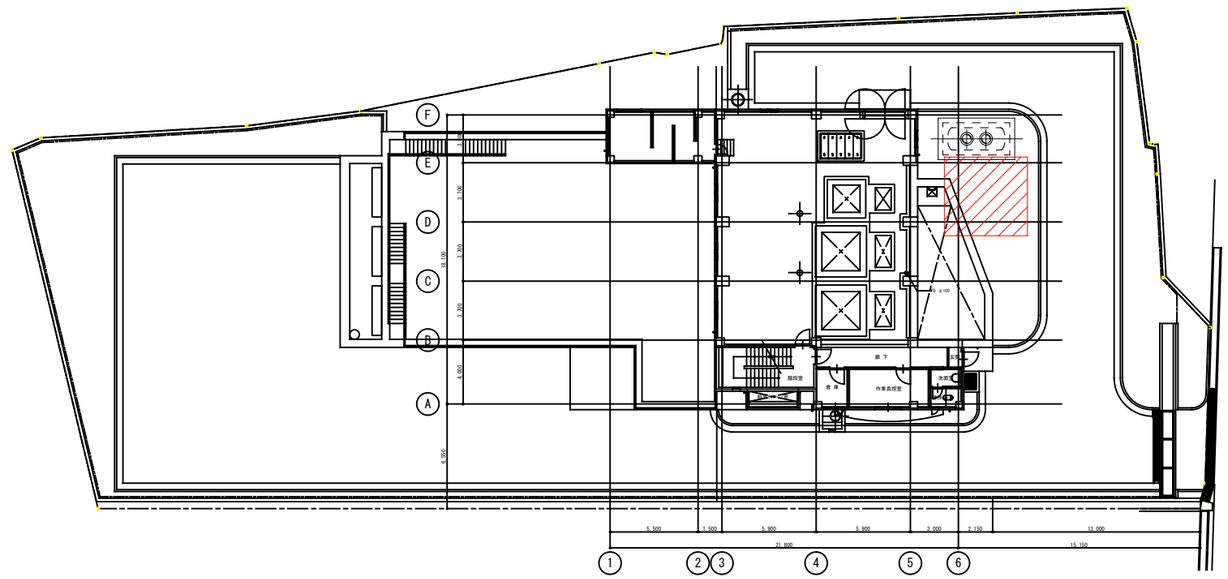
費目・工種明細など	規格1・規格2	単位		数量	備考
＊＊直接工事費＊＊					
共通仮設費率分					
＊＊共通仮設費＊＊					
＊＊純工事費＊＊					
現場管理費					
＊＊据付工事原価＊＊					
設計技術費					
＊＊工事原価＊＊					
一般管理費率分額					
契約保証費					
＊＊一般管理費計＊＊					
＊＊工事価格計＊＊					
消費税相当額					
＊＊請負工事費計＊＊					

図　面　目　録

（本郷第1雨水ポンプ場　機械工事編）

番　号	図　面　名　称	縮　尺
PM － 1	全　体　配　置　図	1/2000,1/200
PM － 2	フ　ロ　ー　シ　ー　ト	NONE
PM － 3	屋　外　配　置　配　管　図　（　更　新　）	1/100
PM － 4	屋　外　配　置　配　管　図　（　撤　去　）	1/100
PM － 5	制　御　盤　架　台　詳　細　図　（　1　）　（　参　考　）	1/10,1/30
PM － 6	制　御　盤　架　台　詳　細　図　（　2　）　（　参　考　）	1/30

位　置　図　　1／2000

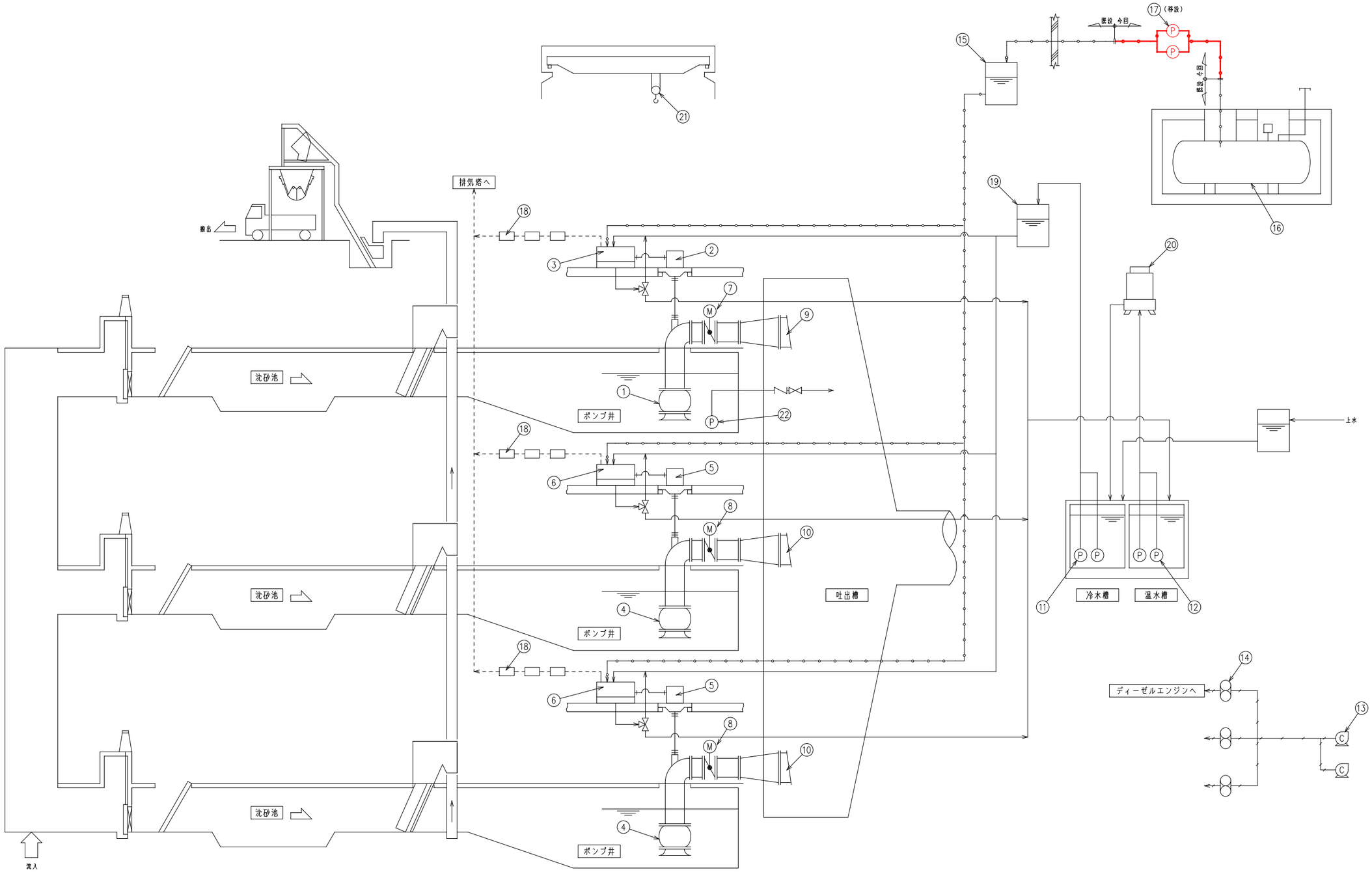


配置図　　S=1/200

凡例

：今回工事範囲

雨水排水ポンプ場耐水化工事（本郷第1雨水ポンプ場）			
事 業 名	公共下水道事業		
工事場所	三原市　本郷南五丁目		
図面番号	PM-1	縮尺	S=1/2000,1/200
図面名：	全体配置図		
三　原　市			



凡例

記号	名称
	温度調節弁
	排気配管系統
	空気配管系統
	燃料油配管系統
	冷却水配管系統

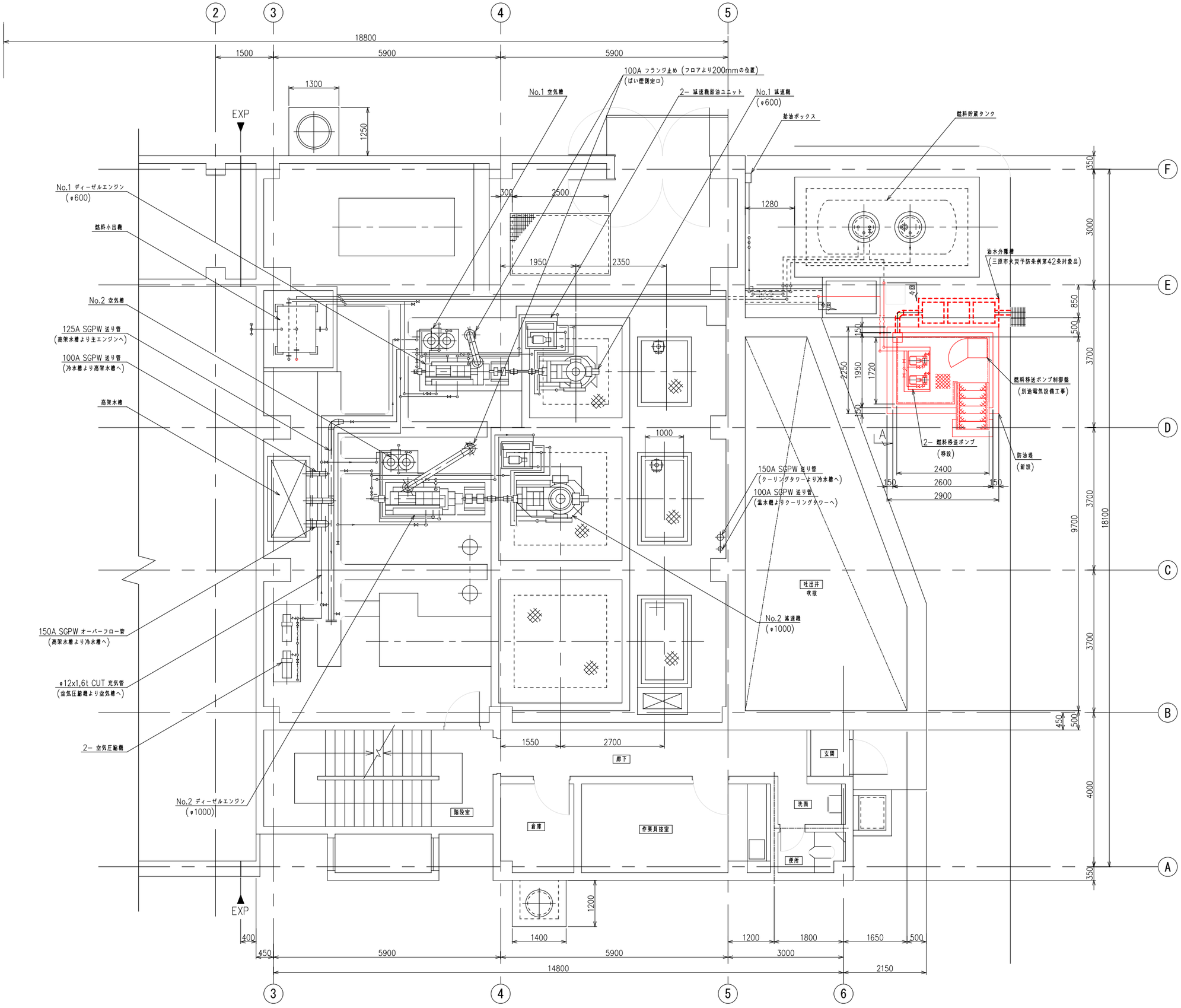
機器番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
機器名称	No1雨水ポンプ	No1減速機	No1ディーゼルエンジン	No2,3雨水ポンプ	No2,3減速機	No2,3ディーゼルエンジン	No1吐出弁	No1吐出弁	No1逆流防止弁	No2,3逆流防止弁	No1,2冷却水ポンプ	No1,2クーリングタワー揚水ポンプ
型式	立軸斜流ポンプ（二床式）	直交軸かさ歯車減速機	空気式始動4サイクル	立軸斜流ポンプ（二床式）	直交軸かさ歯車クラッチ内蔵型（1段減速）	空気式始動4サイクル	電動バタフライ弁（二床式）	電動バタフライ弁（二床式）	フラップ弁	フラップ弁	水中渦巻ポンプ	水中渦巻ポンプ
仕様	φ600×45m3/分×8.4m×約733.3rpm	伝達動力 ：140PS 減速比 ：約1.636	140PS×1,200rpm 6気筒,水冷式	φ1,000×146m3/分×8.4m×396.6rpm	伝達動力 ：410PS 減速比 ：約2.522	410PS×1,000rpm 6気筒,水冷式	φ600	φ1000	φ800	φ1,350	φ80×1.0m3/分×18m×5.5kw	φ80×1.0m3/分×20m×5.5kw
付属品		油圧クラッチ内臓			油圧クラッチ内臓							
KW/台	――	0.75	0.4	――	0.75	0.75	0.4	1.5	――	――	5.5	5.5
台数 全体	1台	1台	1台	2台	2台	2台	1台	2台	1台	2台	2台（1）	2台（1）
台数 今回												

機器番号	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒		
機器名称	No1,2空気圧縮機	No1,2,3空気槽	燃料小出槽	燃料貯蔵タンク	No1,2燃料移送ポンプ	消音器	高架水槽	クーリングタワー	天井クレーン	ポンプ井排水ポンプ		
型式	立形空冷式	立形円筒式	鋼製角形地上定置式タンク	地下式横置円筒タンク	横軸歯車式ポンプ	床置式3連消音器（150A,250A）	角形パネルFRP製	FRP製丸形冷却塔（超低騒音形）	手動式天井クレーン	水中汚水ポンプ（工事用）		
仕様	12.9m3/h×30Kgf/cm2	150L×2連式×2組 100L×2連式×1組 30Kgf/cm2	800L	4,000L	φ20×35L/分×2.5Kgf/cm2×1,800rpm	消音器出口1mで55dB（A）以下	3m3	80冷却トン 冷却水量950L/分	10ton×スパン約10.5m	φ50×0.2m3/分×30m		
付属品			架台				架台					
KW/台	2.2	――	――	――	0.4	――	――	1.5	――	3.7		
台数 全体	2台（1）	3組	1基	1基	2台（1）	3組	1基	1台	1基	1台		
台数 今回					2台（1）移設							

凡例

―― ：今回工事範囲

雨水排水ポンプ場耐水化工事（本郷第１雨水ポンプ場）			
事業名	公共下水道事業		
工事場所	三原市　本郷南五丁目		
図面番号	PM-2	縮尺	NONE
図面名：	フローシート		
三　原　市			



1階 平面図

S=1/50

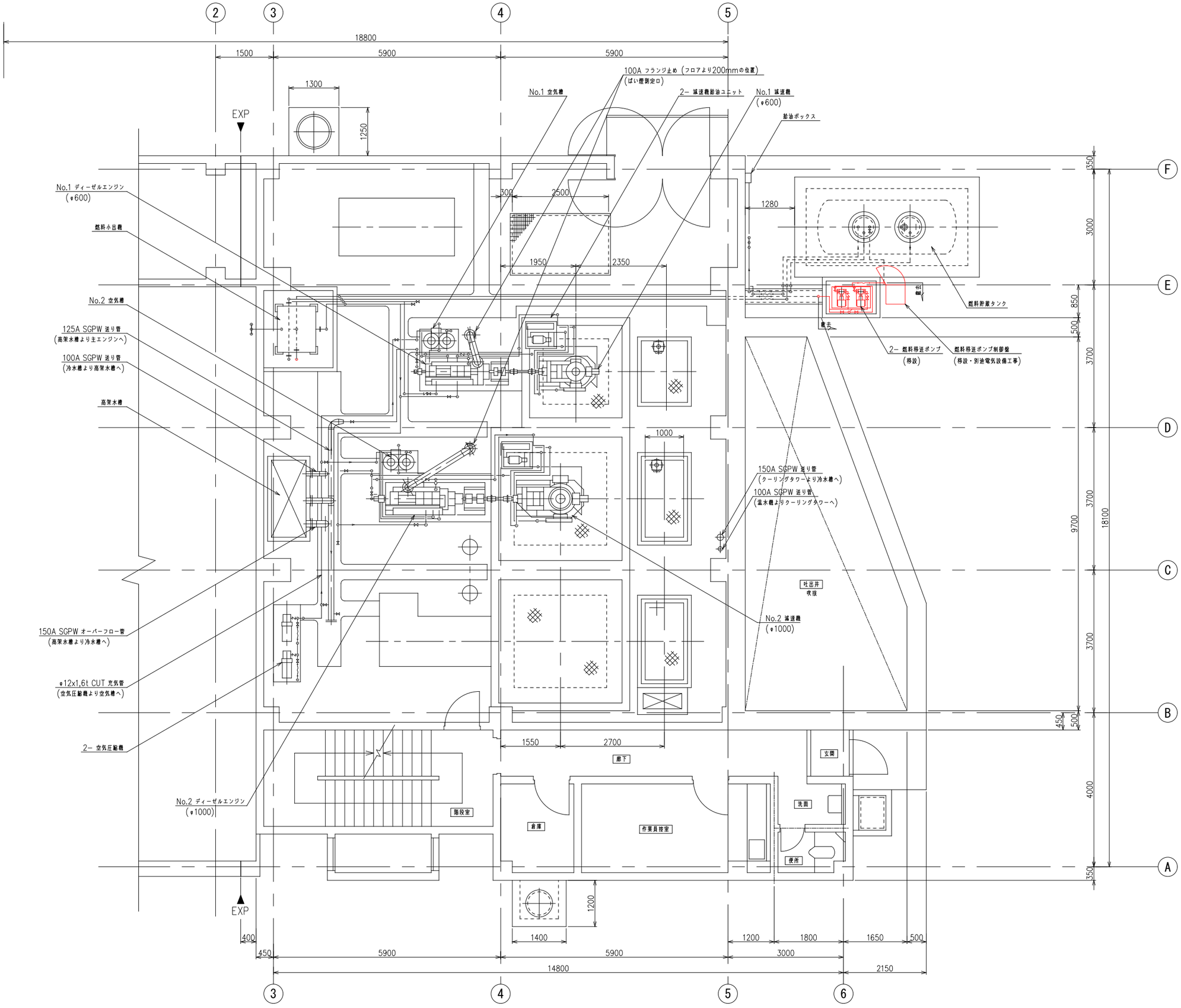
備考：

1. 外部に漏油することなく、油分離槽に速やかに流出するよう架台や防液堤内部に適切な勾配等を設けること。

凡例

□：今回工事範囲

雨水排水ポンプ場耐水化工事（本郷第１雨水ポンプ場）			
事 業 名	公共下水道事業		
工事場所	三原市　本郷南五丁目		
図面番号	PM-3	縮尺	S=1/100
図面名：	屋外配置配管図（更新）		
三　　原　　市			



1階 平面図

S=1/50

凡例

□：今回工事範囲

雨水排水ポンプ場耐水化工事（本郷第１雨水ポンプ場）			
事 業 名	公共下水道事業		
工事場所	三原市　本郷南五丁目		
図面番号	PM-4	縮尺	S=1/100
図面名：	屋外配置配管図（撤去）		
三　　原　　市			

雨水排水ポンプ場耐水化工事
（本郷第１雨水ポンプ場）

特　記　仕　様　書

（電気設備）

三原市

第１章　総　　則

第１節　適用範囲

本特記仕様書は、雨水排水ポンプ場耐水化工事（本郷第1雨水ポンプ場）に適用する。

第２節　責任施工

本工事は、受注者による責任施工である。

設計図書に記載なき事項についても技術上あるいは、全設備より見て当然必要と思われることは、職員（以下監督員という）の指示に従い、設計図書の意図する性能、機能を十分満足するよう設計、施工しなければならない。

第３節　施工基準

(1)　本工事に対する施工基準は、下記のものとする。

a　特 記 仕 様 書

b　設計図

c　設計書

d　現場説明事項

(2)　準拠規格

一般仕様書、 特記仕様書において規定して記載されたもの以外は、すべて次の規格及び基準に準拠すること。また、この書基準は、最新版を適用すること。

a	日本産業規格	ＪＩＳ
b	電気規格調査会標準規格	ＪＥＣ
c	日本電機工業会標準規格	ＪＥＭ
d	電線技術委員会標準資料	ＪＣＳ
e	電気設備技術基準	経済産業省令
f	内線規程	ＪＥＡＣ
g	電気用品取締法	
h	下水道施設計画・設計指針と解説	
I	電気設備工事一般仕様書	日本下水道事業団
j	電気設備工事必携	日本下水道事業団
k	公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編）	
l	公共建築設備工事標準図（電気設備工事編）	
m	その他関係法規並びに監督員が指示する仕様書、各種基準	

(3)　承諾図

受注者は、承諾を受けるために監督員と打合せを行い、施工図面等の工事に必要な図面を２部作成し提出すること。

a　機器の据付配置図

b　機器相互間の配管図、配線図

c　施工図

一旦、承諾を受けても実際に施工上不都合があると認められる場合、あるいは設備上、機器の変更、追加等が必要と認められる場合には、監督員の指示に従って訂正図を提出し、再承諾を受けた後に機器等を製作すること。

また、承諾図返却後、決定図を監督員の指示する部数を提出すること。

(4)　疑義等

設計図書に関して疑義が生じた場合は、すべて監督員の解釈による。

設計図書に記載されていない事項であっても施工上当然必要と思われる事項は、受注者の負担においてこれを施工すること。

第４節　関係法規、責務の遵守

受注者は、本工事の施工に当り、諸官庁の命令指示、建設業法、労働基準法、労働安全衛生法、職業安定法、道路交通法、電気事業法その他関係法規、並びに工事施工に関する協定事項に違反しないこと。

第５節　手続きの代行

受注者は本工事施工に当り、諸官公庁及び当該電気供給者の検査を受ける必要があるものについては、すべての手続きを代行し、常に連絡を密にして、設備使用開始に際し支障のないようにすること。

ただし、手続書類は提出前に監督員の承諾を受けること。

第６節　現場の管理

受注者は，工事現場内において監理技術者，主任技術者（下請を含む。）に工事名，工期，顔写真，所属会社名及び証明印の入った名札を着用すること。

第７節　検査

三原市工事検査規程の定めるところによる。

第８節　主任（監理）技術者の配置等

(1)　主任（監理）技術者の専任期間等

本工事に配置される技術者については，工場製作のみが行われている期間は専任を要しない。

なお，当該工場製作過程において，同一工場内で他の同種工事に係る製作と一元的な管理体制のもとで製作を行うことが可能である場合は，同一の技術者がこれらの製作を一括して管理することができる。

(2)　主任（監理）技術者の変更の特例

本工事に配置される技術者については，工場から現地への工事の現場が移行する時点において変更ができる。

なお，発注者と受注者の協議により，交代の時期は工程上一定の区切りと認められる時点とするほか，交代前後における技術者の技術力が同等以上に確保されるとともに，一定期間

重複して工事現場に設置し，工事の継続性，品質等を確保すること。

第９節　工事カルテの作成および登録

受注者は，工事実績情報サービス（CORINS）に基づき「工事カルテ」を作成し，監督職員の確認を受けた後に(財)日本建設情報総合センターに登録し，「工事カルテ」の写しを監督職員に提出すること。

第10節　完成図書の提出

施設引渡しの際，下記の完成図書を提出すること。

完成図書はＡ４版，取外し可能な折り込み製本とし表紙，背表紙は金文印刷したものを３部納入のこと。

(1)　完成図面
(2)　各種検討書，計算書
(3)　各種結線，接続図
(4)　付属品，予備品リスト
(5)　各種試験，検査成績書
(6)　各種官庁手続き書類
(7)　取扱説明書
(8)　運転操作説明書
(9)　故障時連絡一覧表
(10)　その他必要なもの

第11節　かし担保期間

完成検査に合格した日から２年間とする。

かし担保期間終了時，請負人は技術者を派遣し異常の有無を確認後，監督員と協議し承認を得ること。

保証期間内に請負人の責任に帰すべき原因による事故が発生した場合，監督員の指示する期間内に無償で改造，補修または新品と取替えた後，検査に合格しなければならない。

第12節　契約内容の変更

本工事の内容に著しい影響を与える事情が生じたときは，協議の上，契約内容を変更することができる。

ただし，監督員が特段の理由があると認めたときを除き，契約内容の変更は行わない。

第13節　その他

(1)　責任施工

受注者は既設構造物その他に損傷を与えないよう，または機能を阻害しないよう適切

な保護を行うこと。これらに損傷または損失を与えた場合，受注者の負担において復旧すること。

本工事の施工にあたって本仕様書，添付図面，別紙設計書に明示していないものがあっても，設備の性能発揮に当然必要なものは監督員の指示に従い，受注者の費用をもって施工しなければならない。また，重要寸法についてはあらかじめ現地実測の上決定し，万一数量寸法等に誤記があった場合は，監督員と打ち合わせ善処しなければならない。

(2)　耐震設計

耐震を十分考慮した構造および施工とすること。

(3)　工事保険等

受注者は，本工事において第三者に与えた損害を補填する保険又はその他必要とする建設工事に関連する保険等に加入しなければならない。また，加入した保険等については，保険証券の写し（保険以外の場合はそれに代わるもの）を監督員に提出すること。なお，加入に必要な保険料等は，設計で現場管理費に見込んでいる。

(4)　工事損失等

本工事の施工に伴い，通常避けることのできない地盤沈下，振動等により建物等に損害等（以下「工事損失」という。）が発生した場合においては，次のとおりとする。なお，工事損失に伴う補償費用は，設計で現場管理費に見込んでいる。

a　原因調査　　監督員と協力して行うこと。

b　補償交渉　　監督員と協力して処理解決に当ること。

c　応急措置　　監督員から応急措置を講じる必要があると指示された場合は、直ちに応急措置を講じること。

d　補償費用負担割合　　発注者は，工事損失に伴う補償費用のうち請負代金の 100 分の１を超える額を負担すること。

第２章　本郷第１雨水排水ポンプ場

第１節　耐水化対策

本工事は、場内に設置された燃料移送ポンプ現場操作盤及び燃料貯蔵タンク液位計変換器が、河川の氾濫等などにより水没しポンプ場の運転に支障が生じる恐れがあるため、機械設備工事で設置する架台等に移設するものである。

第２節　移設設備

(1) 燃料移送ポンプ現場操作盤　　１　面

(2) 燃料貯蔵タンク液位計変換器　　１　台

(3) その他発注図面のとおり

第３章　電　気 工 事

第１節　一般事項

(1) 本工事の施工にあたっては、監督員の指示に従い、本仕様書及び設計図書に基づき、関係法令、規定、基準に準拠し、責任を持って施工しなければならない。また、作業の安全及び通行人等第三者への災害防止等についても十分に配慮し、安全対策を講じること。

(2) 機器の搬入、据付の際は機器本体、構造物に対して損傷を与えることのないように注意すること。

(3) 工事の施工にあたっては、施工図を提出のうえ監督員の指示によること。また、実施に当たっては安全かつ効率的に行うこと。

(4) 電力会社等への諸手続きは、受託者が自らの費用において行うこと。

(5) 槽内作業の場合は、酸素欠乏及び硫化水素危険作業に該当するため、法令・規則等を遵守し安全に行うこと。

第２節　各種工事

(1) 盤等の据付工事

1)　自立盤は、所要の強度を持つ金具で架台等に強固に取付けること。

2)　装柱盤は、所定の金具で柱に強固に取付けること。

(2) 電線管工事

1)　電線管は施工場所により、次の管を使用すること。

a)　露出配管　　耐衝撃性硬質ビニル電線管又は厚鋼電線管

b)　地中配管　　波付硬質合成樹脂管

c)　接地線用　　硬質ビニル電線管（露出、地中とも）

2)　地中電線管部は、ケーブル埋設シートを敷設すること。

(3) 配線工事

1)　配線は使用目的により次の電線またはケーブルを使用すること。

a)　電源回路　　架橋ポリエチレン絶縁耐熱性ポリエチレンシースケーブル（EM-CE）

b)　制御回路　　制御用ポリエチレン絶縁耐熱性ポリエチレンシースケーブル（EM-CEE）

c)　接地回路　　耐燃性ポリエチレン絶縁電線（EM-IE）

2)　端子への接続

各端子への接続は圧着端子（丸型）で行うこと。

(4) 接地工事

接地工事の接地極は、連結式接地棒を使用し各種接地抵抗値の基準値内になるように施工すること。

工事数量総括表

費目・工種明細など	規格1・規格2	単位		数量	備考
本工事費					
設備工		式		1	レベル1
電気設備工		式		1	レベル2
材料費		式		1	レベル3
直接材料費		式		1	レベル4
補助材料費		式		1	レベル4
労務費		式		1	レベル3
一般労務費		式		1	レベル4
技術労務費		式		1	レベル4
複合工費		式		1	レベル3
防火区画処理補修工		式		1	レベル4
削孔工		式		1	レベル4
土工		式		1	レベル4
基礎工		式		1	レベル4
＊＊直接工事費＊＊					
共通仮設費率分					
＊＊共通仮設費＊＊					
＊＊純工事費＊＊					

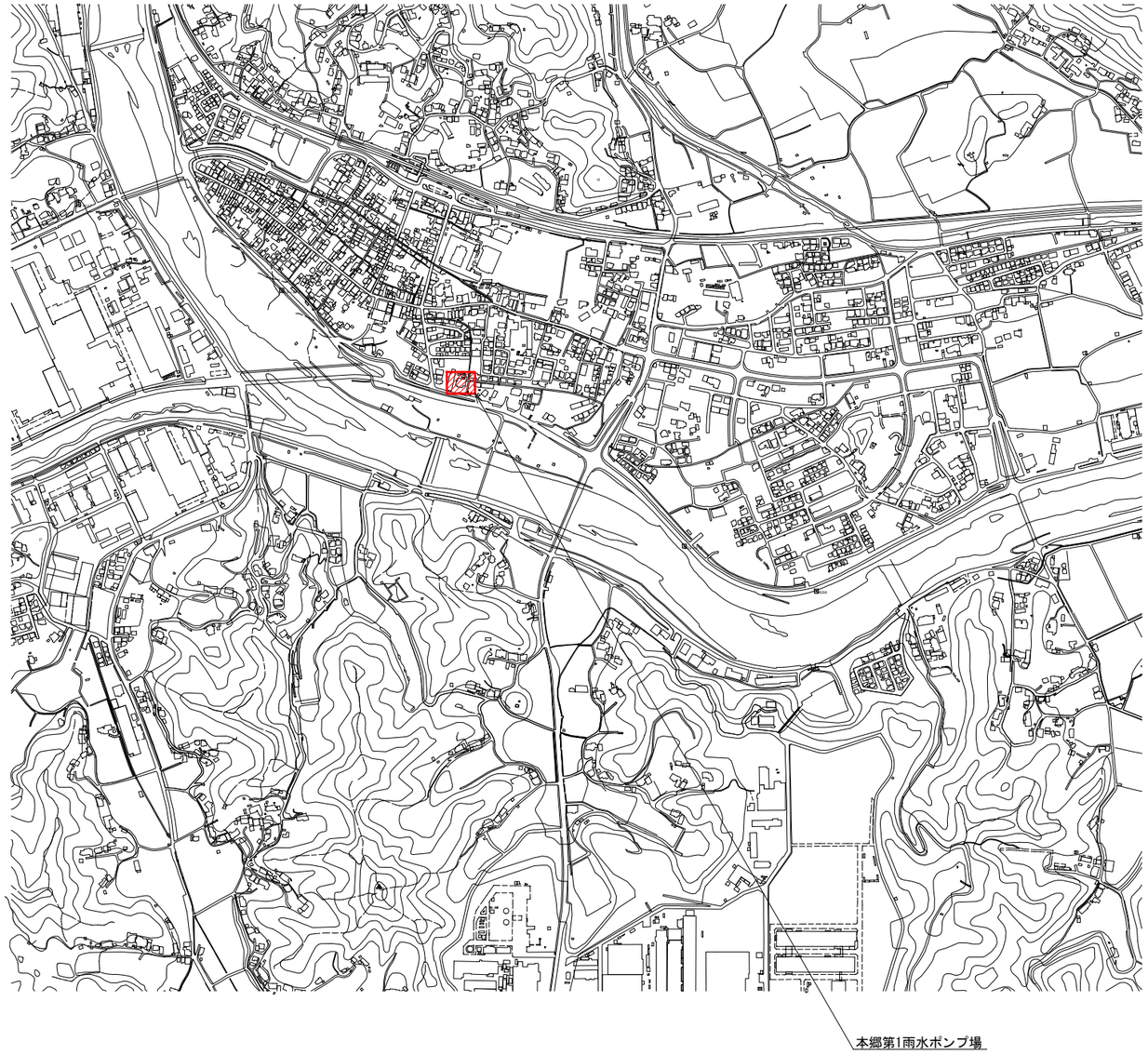
工事数量総括表

費目・工種明細など	規格1・規格2	単位		数量	備考
現場管理費					
＊＊据付工事原価＊＊					
設計技術費					
＊＊工事原価＊＊					
一般管理費率分額					
契約保証費					
＊＊一般管理費計＊＊					
＊＊工事価格計＊＊					
消費税相当額					
＊＊請負工事費計＊＊					

図　面　目　録

（本郷第１雨水ポンプ場　電気工事編）

番　号	図　面　名　称	縮尺
Ｅ － 1	位　置　図	1/6000
Ｅ － 2	全　体　平　面　図　（　今　回　）	1/200
Ｅ － 3	地　下　１　階　平　面　図　（　今　回　）	1/50
Ｅ － 4	１　階　平　面　図　（　今　回　）	1/50
Ｅ － 5	２　階　平　面　図　（　今　回　）	1/50
Ｅ － 6	地　下　１　階　平　面　図　（　撤　去　）	1/50
Ｅ － 7	１　階　平　面　図　（　撤　去　）	1/50
Ｅ － 8	２　階　平　面　図　（　撤　去　）	1/50



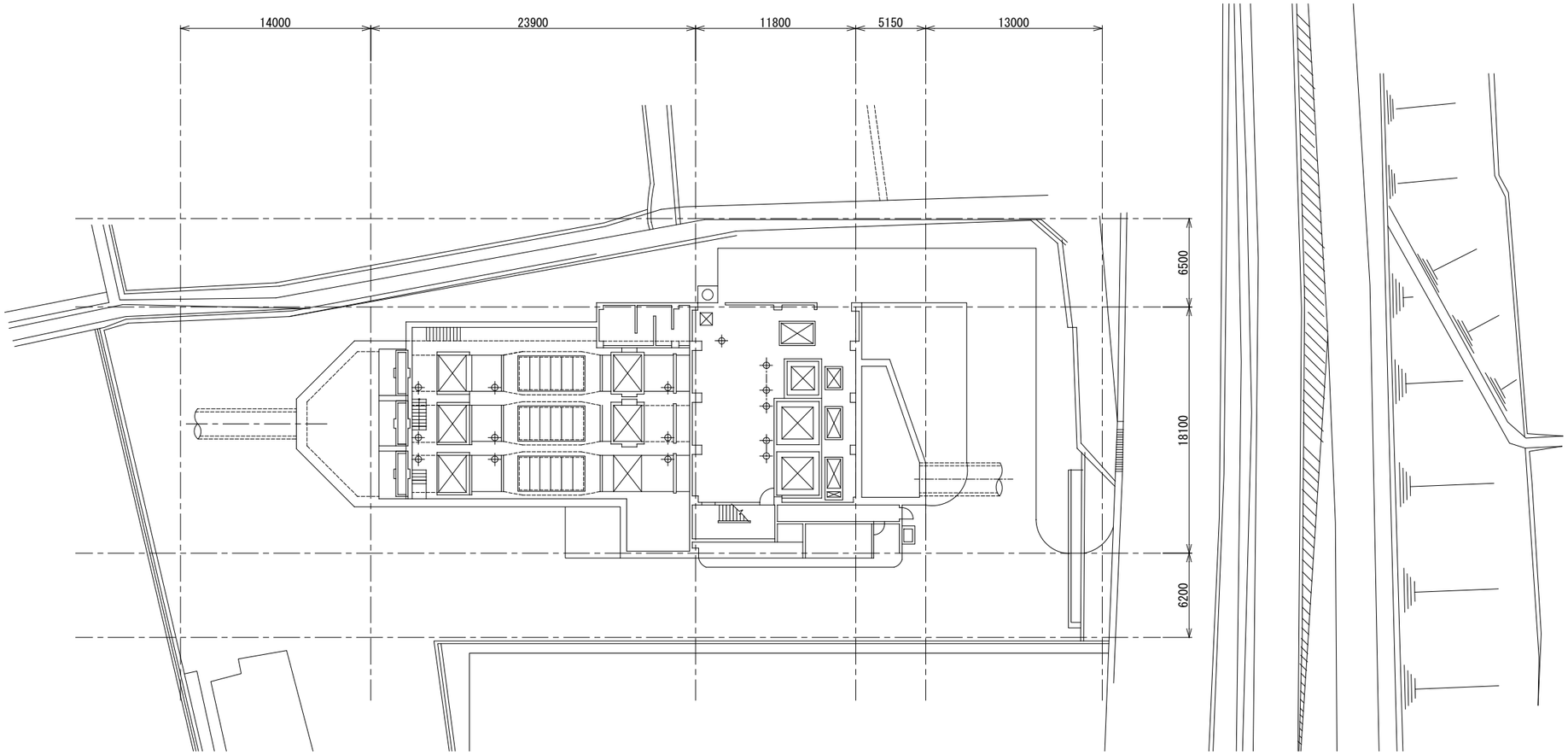
位 置 図 S=1/6000

備考

1. ▨ は、施工場所を示す。

A1：100%　A3：50%

工 事 名	雨水排水ポンプ場耐水化工事（本郷第1雨水ポンプ場）		
工事場所	三原市　本郷南五丁目		
図面番号	E-1	縮尺	S=1/6000
図面名：	位置図		
三　原　市			



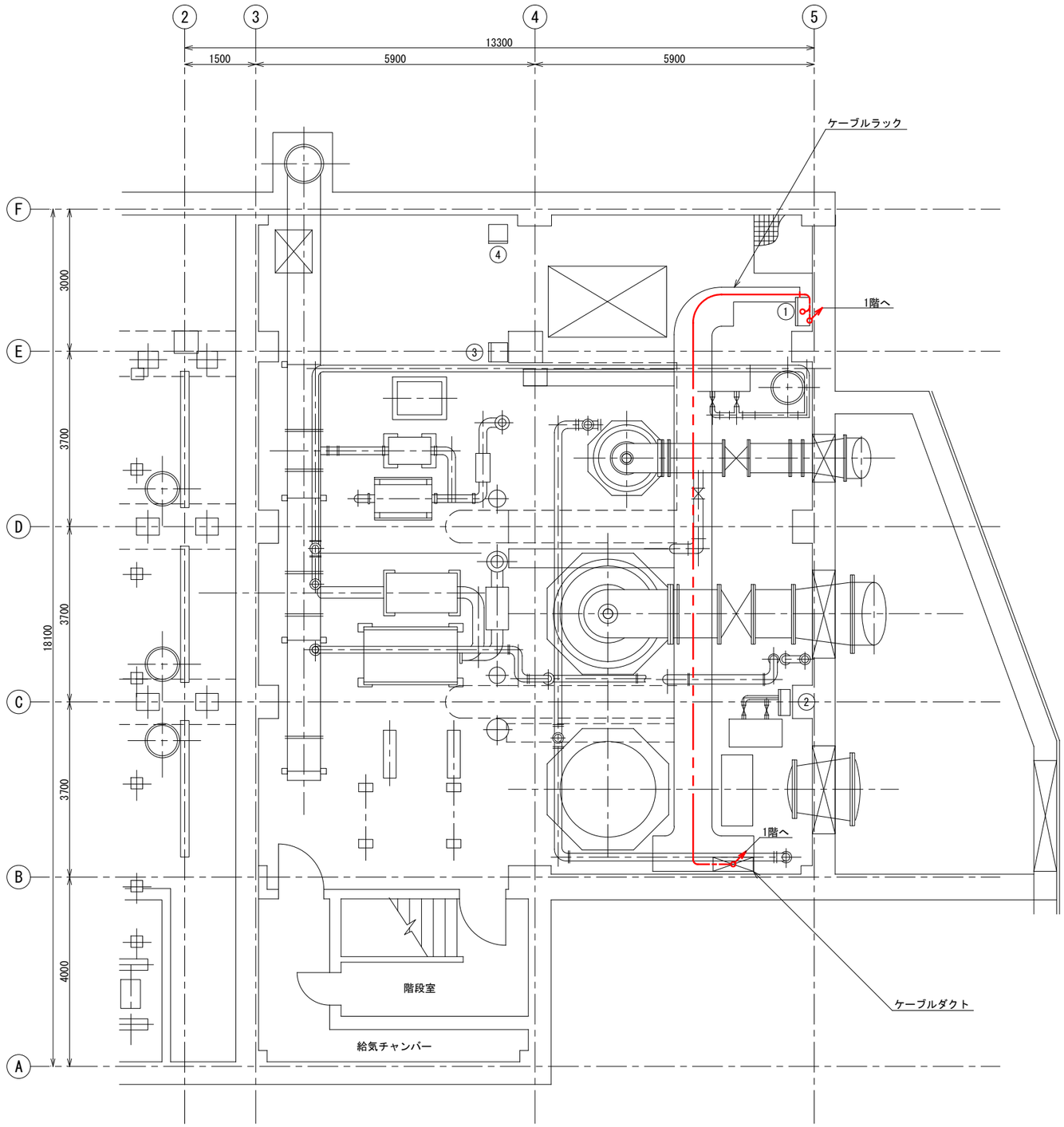
本郷第１雨水ポンプ場 全体平面図　S=1/200

備考

1. ▭ は、今回を示す。
2. ▭ は、既設を示す。

A1：100%　A3：50%

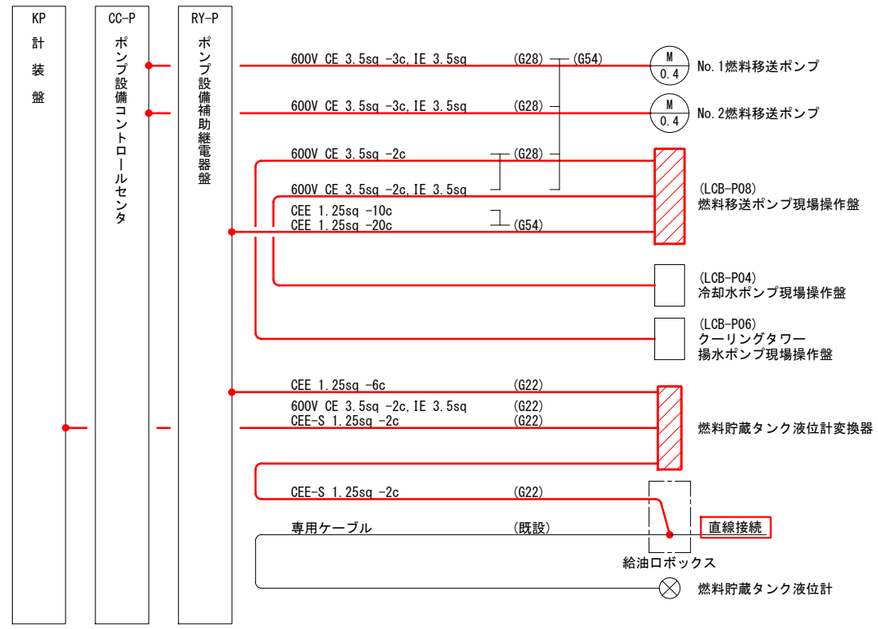
工 事 名	雨水排水ポンプ場耐水化工事（本郷第１雨水ポンプ場）		
工事場所	三原市　本郷南五丁目		
図面番号	E-2	縮尺	S=1/200
図面名：	全体平面図（今回）		
三　原　市			



本郷第１雨水ポンプ場 地下1階 平面図 S=1/50

機器一覧表

番号	番号	機器名称	備考
①	LCB-P04	冷却水ポンプ現場操作盤	
②	LCB-P05	クーリングタワー揚水ポンプ現場操作盤	
③	LCB-2	作業用電源-2盤	
④	PM2	排気ファン用MCCBボックス	



配 線 系 統 図 S=NON

備考

1. ▭ は、今回を示す。
2. ▨ は、移設を示す。
3. ▭ は、既設を示す。
4. 直線接続は防水性のある工法とする。

凡例

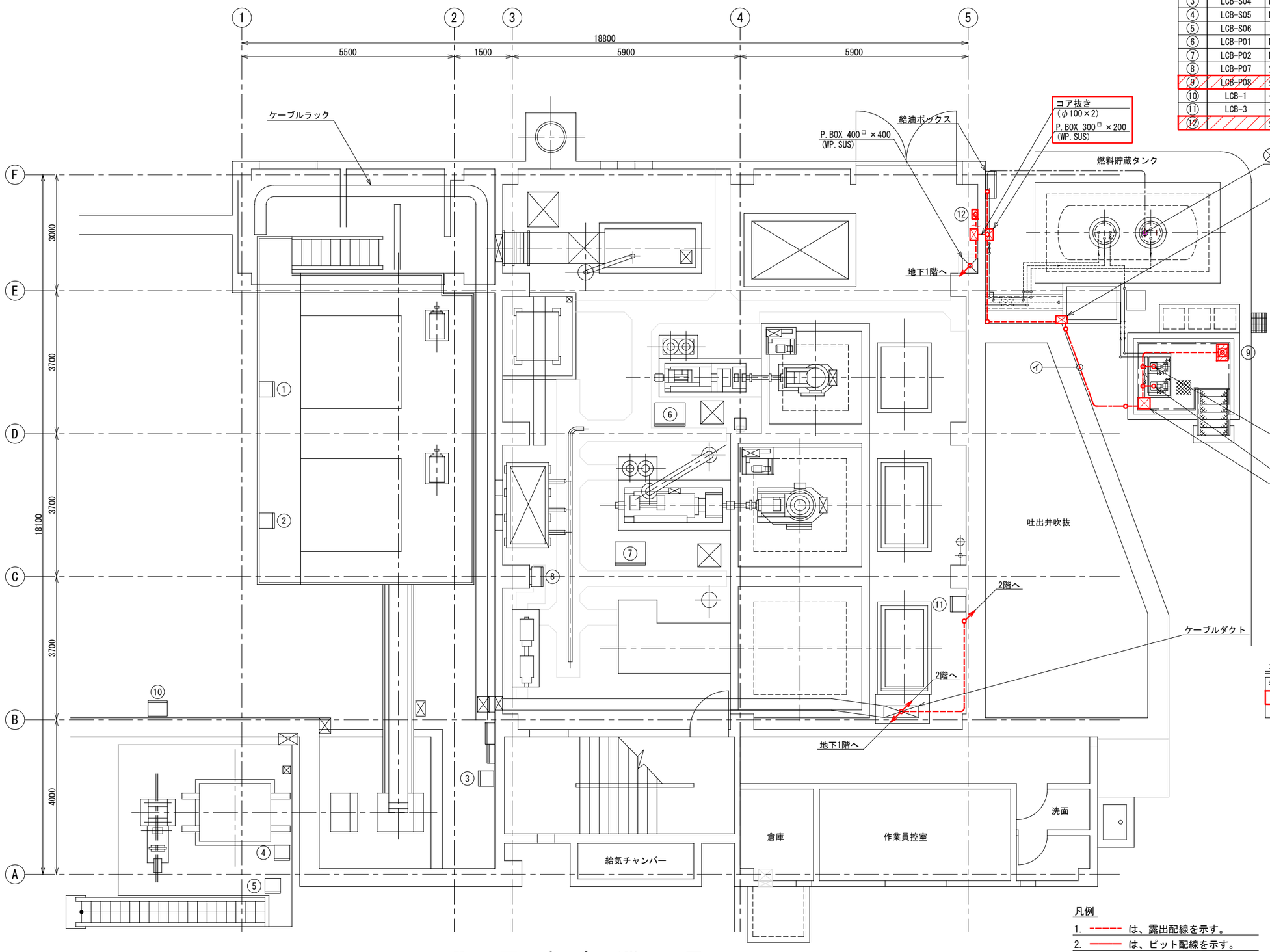
1. ------ は、露出配線を示す。
2. ——— は、ピット配線を示す。
3. —·—·— は、ラック配線を示す。
4. —··—··— は、地中埋設配線を示す。

A1：100% A3：50%

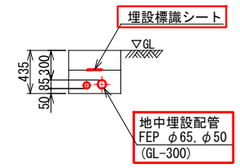
工事名	雨水排水ポンプ場耐水化工事（本郷第１雨水ポンプ場）		
工事場所	三原市 本郷南五丁目		
図面番号	E-3	縮尺	S=1/50
図面名：	地下1階平面図（今回）		
三 原 市			

機器一覧表

番号	番号	機器名称	備考
①	LCB-S01	No.1細目自動除塵機現場操作盤	
②	LCB-S02	No.2細目自動除塵機現場操作盤	
③	LCB-S04	No.1し渣搬出機現場操作盤	
④	LCB-S05	No.2し渣搬出機現場操作盤	
⑤	LCB-S06	し渣貯留ホッパ現場操作盤	
⑥	LCB-P01	No.1雨水ポンプ現場操作盤	
⑦	LCB-P02	No.2雨水ポンプ現場操作盤	
⑧	LCB-P07	空気圧縮機現場操作盤	
⑨	LCB-P08	燃料移送ポンプ現場操作盤	移　設
⑩	LCB-1	作業用電源盤-1盤	
⑪	LCB-3	作業用電源盤-3盤	
⑫		燃料貯蔵タンク液位計変換器	移　設



本郷第１雨水ポンプ場 1階 平面図 S=1/50



埋設管路要領図 S=1/30

埋設管路一覧表

番号	低圧	制御	備考
㋑	FEPφ50	FEPφ65	GL-300

備考

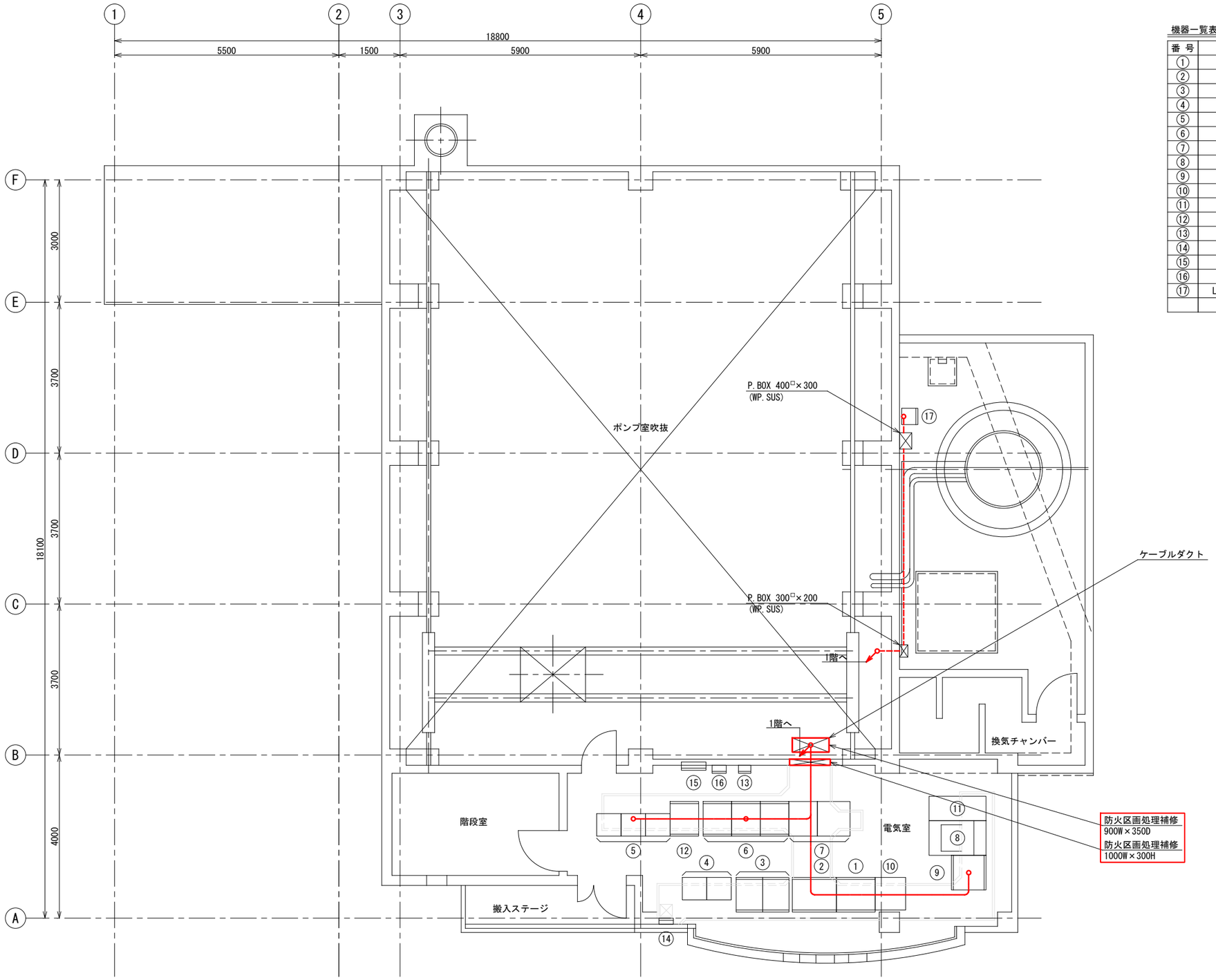
1. ▭ は、今回を示す。
2. ▨ は、移設を示す。
3. ▭ は、既設を示す。
4. 直線接続は防水性のある工法とする。

凡例

1. ------ は、露出配線を示す。
2. ——— は、ピット配線を示す。
3. -·-·- は、ラック配線を示す。
4. —·—·— は、地中埋設配線を示す。

A1：100%　A3：50%

工事名	雨水排水ポンプ場耐水化工事（本郷第１雨水ポンプ場）		
工事場所	三原市　本郷南五丁目		
図面番号	E-4	縮尺	S=1/50
図面名：	1階平面図（今回）		
三　原　市			



機器一覧表

番号	番号	機器名称	備考
①	LC	引込受電盤	
②	DC	直流電源盤	
③	RY-S	沈砂池設備補助継電器盤	
④	CC-S	沈砂池設備コントロールセンタ	
⑤	CC-P	ポンプ設備コントロールセンタ	
⑥	RY-P	ポンプ設備補助継電器盤	
⑦		遠方監視制御装置	
⑧	MGP	監視操作卓	
⑨	KP	計装盤	
⑩		ITV制御盤	
⑪		ITV操作卓	
⑫	CONT	コントローラ盤	
⑬		非常通報装置	
⑭		接地端子箱	
⑮	LM-1	電灯動力盤	
⑯		火報受信機	
⑰	LCB-P06	クーリングタワー冷却ファン現場操作盤	

備考

1. ▭ は、今回を示す。
2. ▭ は、既設を示す。

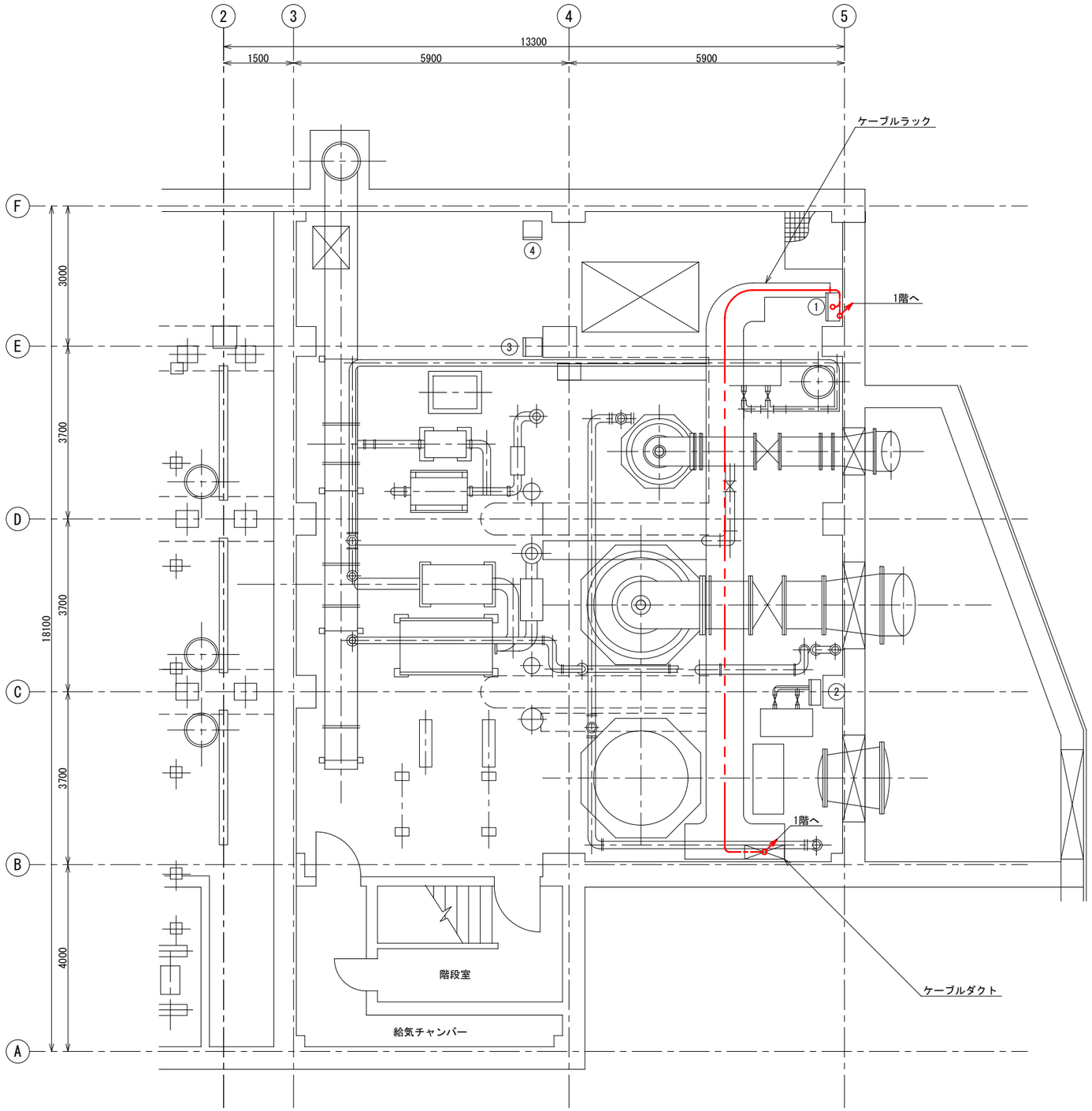
A1：100%　A3：50%

本郷第１雨水ポンプ場 2階 平面図 S=1/50

凡例

1. ------ は、露出配線を示す。
2. ——— は、ピット配線を示す。
3. —-—- は、ラック配線を示す。
4. —·— は、地中埋設配線を示す。

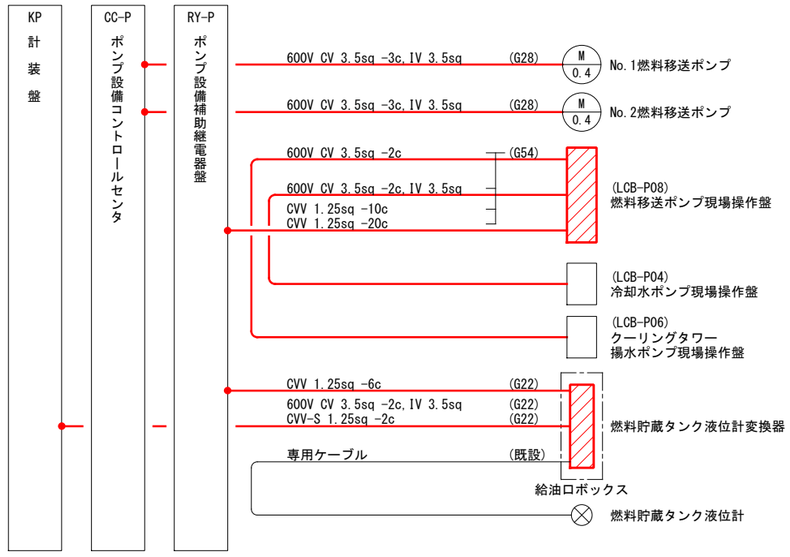
工事名	雨水排水ポンプ場耐水化工事（本郷第１雨水ポンプ場）		
工事場所	三原市　本郷南五丁目		
図面番号	E-5	縮尺	S=1/50
図面名：	2階平面図（今回）		
三　原　市			



本郷第１雨水ポンプ場 地下1階 平面図 S=1/50

機器一覧表

番号	番号	機器名称	備考
①	LCB-P04	冷却水ポンプ現場操作盤	
②	LCB-P05	クーリングタワー揚水ポンプ現場操作盤	
③	LCB-2	作業用電源-2盤	
④	PM2	排気ファン用MCCBボックス	



配線系統図 S=NON

備考

1. ▨ は、撤去を示す。
2. ▨ は、移設を示す。
3. □ は、既設を示す。

凡例

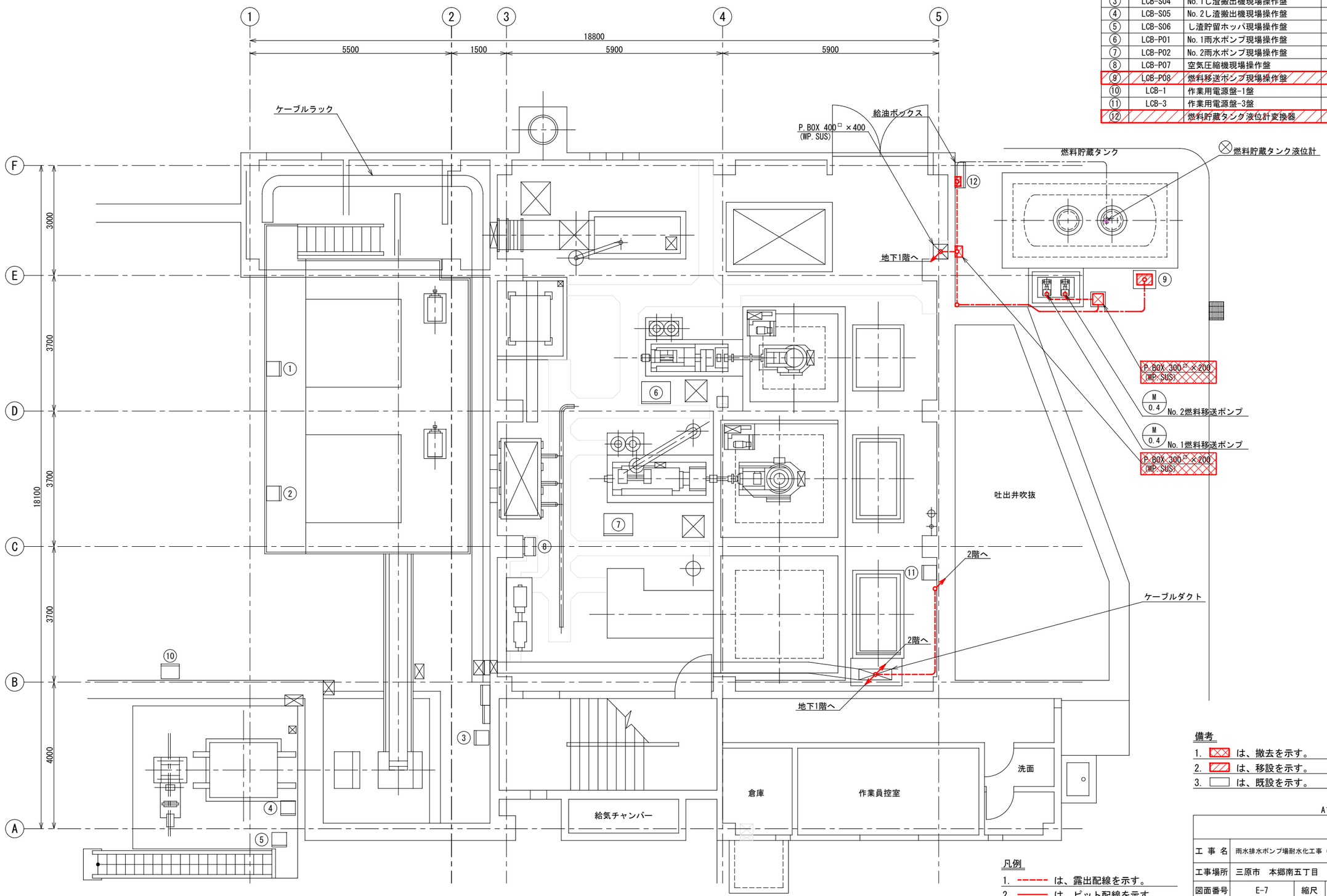
1. ------ は、露出配線を示す。
2. ——— は、ピット配線を示す。
3. —-—- は、ラック配線を示す。
4. —-—- は、地中埋設配線を示す。

A1：100% A3：50%

工事名	雨水排水ポンプ場耐水化工事（本郷第１雨水ポンプ場）		
工事場所	三原市 本郷南五丁目		
図面番号	E-6	縮尺	S=1/50
図面名：	地下1階平面図（撤去）		
三原市			

機器一覧表

番号	番号	機器名称	備考
①	LCB-S01	No.1細目自動除塵機現場操作盤	
②	LCB-S02	No.2細目自動除塵機現場操作盤	
③	LCB-S04	No.1し渣搬出機現場操作盤	
④	LCB-S05	No.2し渣搬出機現場操作盤	
⑤	LCB-S06	し渣貯留ホッパ現場操作盤	
⑥	LCB-P01	No.1雨水ポンプ現場操作盤	
⑦	LCB-P02	No.2雨水ポンプ現場操作盤	
⑧	LCB-P07	空気圧縮機現場操作盤	
⑨	LCB-P08	燃料移送ポンプ現場操作盤	移　設
⑩	LCB-1	作業用電源盤-1盤	
⑪	LCB-3	作業用電源盤-3盤	
⑫		燃料貯蔵タンク液位計変換器	移　設



本郷第１雨水ポンプ場 1階 平面図 S=1/50

凡例

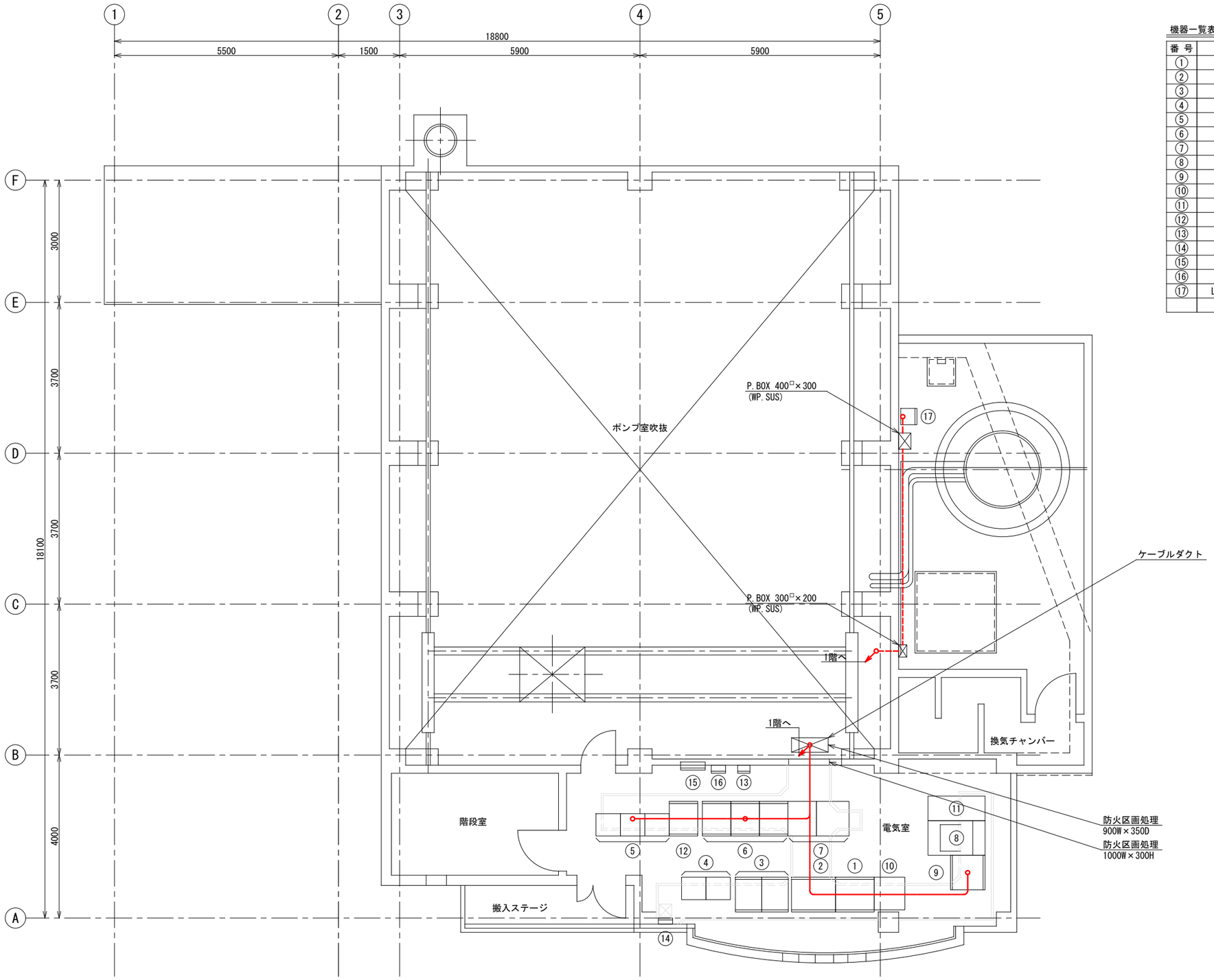
1. ------ は、露出配線を示す。
2. ——— は、ピット配線を示す。
3. ------ は、ラック配線を示す。
4. —·—·— は、地中埋設配線を示す。

備考

1. ▨ は、撤去を示す。
2. ▨ は、移設を示す。
3. □ は、既設を示す。

A1：100%　A3：50%

工事名	雨水排水ポンプ場耐水化工事（本郷第１雨水ポンプ場）		
工事場所	三原市　本郷南五丁目		
図面番号	E-7	縮尺	S=1/50
図面名：	1階平面図（撤去）		
三　原　市			



機器一覧表

番号	番号	機器名称	備考
①	LC	引込受電盤	
②	DC	直流電源盤	
③	RY-S	沈砂池設備補助継電器盤	
④	CC-S	沈砂池設備コントロールセンタ	
⑤	CC-P	ポンプ設備コントロールセンタ	
⑥	RY-P	ポンプ設備補助継電器盤	
⑦		遠方監視制御装置	
⑧	MGP	監視操作卓	
⑨	KP	計装盤	
⑩		ITV制御盤	
⑪		ITV操作卓	
⑫	CONT	コントローラ盤	
⑬		非常通報装置	
⑭		接地端子箱	
⑮	LM-1	電灯動力盤	
⑯		火報受信機	
⑰	LCB-P06	クーリングタワー冷却ファン現場操作盤	

本郷第１雨水ポンプ場 2階 平面図 S=1/50

凡例

1. ------ は、露出配線を示す。
2. ——— は、ピット配線を示す。
3. ------ は、ラック配線を示す。
4. —·—·— は、地中埋設配線を示す。

備考

1. ⊠ は、撤去を示す。
2. □ は、既設を示す。

A1：100% A3：50%

工事名	雨水排水ポンプ場耐水化工事（本郷第１雨水ポンプ場）		
工事場所	三原市　本郷南五丁目		
図面番号	E-8	縮尺	S=1/50
図面名：	2階平面図（撤去）		
三　原　市			

雨水排水ポンプ場耐水化工事
（ 本郷第１雨水排水ポンプ場 ）

参考資料

建　築　工　事

工 事 別 内 訳 書

本郷第1雨水ポンプ場耐水化改修工事

工　　種	種　　別	細　　別	数　　量
1. 直接仮設	養生	40.30	40.3　m2
	整理清掃・後片付け	40.30	40.3　m2
	通路養生	87.91	87.9　m2
	外部足場	枠組足場900枠　手摺先行方式 202.62	203.0　m2
	垂直養生	防音ｼｰﾄ張 202.62	203.0　m2
	内部足場	枠組足場900枠　手摺先行方式 28.69	28.7　m2
	〃	脚立足場 202.62	203.0　m2
	仮設間仕切 (B)	LGS90+GB-Rｔ12.5片面 133.74	134.0　m2
	仮設材運搬費		1.0　式

工 事 別 内 訳 書

本郷第1雨水ポンプ場耐水化改修工事

工　　種	種　　別	細　　別	数　　量
2. 防水改修工事	（撤去）		
	ｼｰﾘﾝｸﾞ	94.93	94.9　m
	（新設）		
	ｼｰﾘﾝｸﾞ	PU-2　15×10　外壁　70.50	70.5　m
	〃	MS-2　20×10　止水板取合　5.20	5.2　m

工 事 別 内 訳 書

工　　種	種　　別	細　　別	数　　量
3. 外壁改修工事	（撤去）		
	竪樋　撤去	VPφ75　上下端切断共　2.60	2.6　m
	鋳鉄製ﾏﾝﾎｰﾙφ600　撤去	枠共	1.0　ヶ所
	（新設）		
	壁　ﾓﾙﾀﾙ塗	t 20　0.72	0.7　m2
	ｺﾝｸﾘｰﾄ直均し仕上	1.32	1.3　m2
	壁　下地調整	27.82	27.8　m2
	壁　複層塗材RE	27.82	27.8　m2
	竪樋	ｶﾗｰVPφ75　上下端接続共　2.60	2.6　m
	耐水型鋳鉄製ﾏﾝﾎｰﾙφ600　新設		1.0　ヶ所
	抱き部ﾓﾙﾀﾙ塗	46.37	46.4　m

工 事 別 内 訳 書

工　　種	種　　別	細　　別	数　　量
4. 建具改修工事	（撤去）		
	ｽﾃﾝﾚｽ製建具　撤去	SSD-1　900×2685	1.0　ヶ所
	ｱﾙﾐ製建具　撤去	AW-1　400×1600　額縁共	2.0　ヶ所
	〃	AW-2　1600×1600　額縁共	1.0　ヶ所
	〃	AW-3　410×1610　額縁共	11.0　ヶ所
	〃	AG-1　600×3000　額縁共	2.0　ヶ所
	〃	AG-2　1500×2500　額縁共	1.0　ヶ所
	ｶﾞﾗｽ撤去	14.16	14.2　m2
	建具周囲はつり	89.22	89.2　m
	（ステンレス製建具新設）		
	ｽﾃﾝﾚｽ製建具　新設	SSD-N1　900×2655　耐水扉・排煙窓900×585共	1.0　ヶ所
	取付工事費		1.0　式
	運搬費		1.0　式
	法定福利費		1.0　式

工 事 別 内 訳 書

工　　種	種　　別	細　　別	数　　量
	（アルミ製建具新設）		
	ｱﾙﾐ製建具　新設	AW-N1　410×1210	4.0　ヶ所
	〃	AG-N1　600×2300	2.0　ヶ所
	〃	AG-N2　1500×2200	1.0　ヶ所
	〃	AG-N3　750×1300	1.0　ヶ所
	〃	AG-N4　800×800	1.0　ヶ所
	取付工事費		1.0　式
	運搬費		1.0　式
	法定福利費		1.0　式
	（ガラス）		
	ｶﾞﾗｽﾌﾞﾛｯｸ	190×190×95　1.98	2.0　m2
	網入り型板ｶﾞﾗｽ	ｔ6.8　0.53	0.5　m2
	ｶﾞﾗｽｼｰﾘﾝｸﾞ	SR-1　10×10　18.95	19.0　m

工 事 別 内 訳 書

工　　種	種　　別	細　　別	数　　量
	（その他）		
	ｼｰﾘﾝｸﾞ	MS-2　15×10　ｱﾙﾐ製建具取合　35.67	35.7　m
	〃	MS-2　20×10　SUS製建具取合　8.91	8.9　m
	建具周囲モルタル充填	外部建具　防水ﾓﾙﾀﾙ　46.37	46.4　m

工 事 別 内 訳 書

工　　種	種　　別	細　　別	数　　量
5. 内装改修工事	（撤去）		
	床　磁器質ﾀｲﾙ張　撤去	下地ﾓﾙﾀﾙ共　0.15	0.2　m2
	壁　ﾓﾙﾀﾙ塗　撤去	10.92	10.9　m2
	壁　陶器質ﾀｲﾙ張　撤去	下地ﾓﾙﾀﾙ共　1.20	1.2　m2
	壁　ｸﾞﾗｽｳｰﾙ吸音板　撤去	6.33	6.3　m2
	天井　ﾎﾞｰﾄﾞ　撤去	下地残し　1.52	1.5　m2
	（新設）		
	ｺﾝｸﾘｰﾄ直均し仕上	0.50	0.5　m2
	床　下地調整	仕上面目荒し　0.94	0.9　m2
	床　ﾓﾙﾀﾙ塗	ｔ30　0.94	0.9　m2
	床　長尺ﾋﾞﾆｰﾙ床ｼｰﾄ張	0.94	0.9　m2
	床　防水ﾓﾙﾀﾙ塗	ｔ60（ｔ30×2数量）　1.35	1.4　m2
	壁　ﾓﾙﾀﾙ塗	ｔ20　16.00	16.0　m2
	壁　陶器質ﾀｲﾙ張	下地ﾓﾙﾀﾙ共　1.26	1.3　m2

工 事 別 内 訳 書

本郷第1雨水ポンプ場耐水化改修工事

工　　種	種　　別	細　　別	数　　量
	壁　ｸﾞﾗｽｳｰﾙ吸音板張	ｔ25　5.88	5.9　m2
	天井　ﾎﾞｰﾄﾞ張	GB-D　ｔ9.5　1.28	1.3　m2
	〃	ｹｲｶﾙ板　ｔ6.0　0.24	0.2　m2
	止水板　新設	ｱﾙﾐ製既製品 2850ｘ1300　中間(SUS製)ｻﾎﾟｰﾄ共	1.0　ヶ所

工 事 別 内 訳 書

工　　種	種　　別	細　　別	数　　量
6. 塗装改修工事	（内部）		
	素地ごしらえ	ﾓﾙﾀﾙ面　16.00-0.39-2.29=　13.32	13.3　m2
	〃	ﾎﾞｰﾄﾞ面　0.24	0.2　m2
	合成ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ塗	EP塗　13.56	13.6　m2

工 事 別 内 訳 書

工　　種	種　　別	細　　別	数　　量
7. 躯体改修工事	（撤去）		
	ｺﾝｸﾘｰﾄｶｯﾀｰ入	169.23	169.0　m
	ﾓﾙﾀﾙｶｯﾀｰ入	6.96	7.0　m
	ｺﾝｸﾘｰﾄ　撤去	3.63	3.6　m3
	躯体目荒し	2.29	2.3　m2
	鉄筋切断	D10	54.0　ヶ所
	（新設）		
	（鉄筋）		
	異形鉄筋	SD295　D10　ロス込 0.25	0.3　t
	〃	SD295　D13　ロス込 0.14	0.1　t
	〃	SD345　D19　ロス込 0.05	0.1　t
	鉄筋加工組立	ＲＣラーメン構造　一般　NET 0.42	0.4　t
	スクラップ控除	H2　（【ロス込】-【NET】）×0.7 0.01	0.1　t
	鉄筋運搬費	4ｔ車　NET 0.42	0.4　t

工　種	種　別	細　別	数　量
	ﾌﾚｱ溶接	D13 (両面5d＋1d×2)以上	472.0　ヶ所
	(コンクリート)		
	普通ｺﾝｸﾘｰﾄ	Fc=21　S=18　躯体　5.04	5.0　m3
	〃	Fc=18　S=15　無筋　0.08	0.1　m3
	打設手間	ポンプ打設(躯体)　5.04	5.0　m3
	〃	ポンプ打設(無筋)　0.08	0.1　m3
	ﾎﾟﾝﾌﾟ圧送	打設量30m3未満(躯体)　5.04	5.0　m3
	〃	打設量30m3未満(無筋)　0.08	0.1　m3
	ﾎﾟﾝﾌﾟ圧送基本料金	打設量30m3未満(躯体)	1.0　回
	〃	打設量30m3未満(無筋)	1.0　回
	無収縮ﾓﾙﾀﾙ	Fm=30　0.35	0.4　m3
	(型枠)		
	打放合板型枠	B種　43.79	43.8　m2
	型枠運搬費	4ｔ車　43.79	43.8　m2

工 事 別 内 訳 書

工　　種	種　　別	細　　別	数　　量
	打放し面補修	B種　ｺｰﾝ処理　43.79	43.8　m2
	ﾎﾞｲﾄﾞ型枠	φ600　0.28	0.3　m2
	圧入型枠	無収縮ﾓﾙﾀﾙ圧入型枠　両面　10.18	10.2　m
	型枠目地材	15ｘ10　35.67	35.7　m
	（その他）		
	あと施工ｱﾝｶｰ	D19　下方向　接着系ｱﾝｶｰ	8.0　ヶ所
	〃	D19　横方向　接着系ｱﾝｶｰ	18.0　ヶ所
	〃	M12　下方向　金属系ｱﾝｶｰ	8.0　ヶ所
	（仮蓋補強）		
	補強材	H-100ｘ100ｘ6ｘ8　ロス込　147.28　0.15	0.2　t
	あと施工ｱﾝｶｰ	M16　下向き　接着系ｱﾝｶｰ　18.00	18.0　本

工 事 別 内 訳 書

工　　種	種　　別	細　　別	数　　量
8. 運搬・処分費	(積込)		
	ｺﾝｸﾘｰﾄ類	ｺﾝｸﾘｰﾄがら・がれき類　3.63+0.45=　4.08	4.1　m3
	ﾎﾞｰﾄﾞ・木材類	上記以外　3.97	4.0　m3
	(運搬)		
	ｺﾝｸﾘｰﾄがら	3.63	3.6　m3
	がれき類	0.45	0.5　m3
	ﾎﾞｰﾄﾞくず	0.04	0.1　m3
	金属くず	1.57	1.6　m3
	ｶﾞﾗｽくず	0.79	0.8　m3
	廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ	1.57	1.6　m3

工 事 別 内 訳 書

工　　種	種　　別	細　　別	数　　量
	（処分）		
	ｺﾝｸﾘｰﾄがら	8.53	8.5　t
	がれき類	0.63	0.6　t
	ﾎﾞｰﾄﾞくず	0.02	0.1　t
	金属くず	0.39	0.4　t
	ｶﾞﾗｽくず	0.80	0.8　t
	廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ	0.01	0.1　t

躯 体 集 計 表

本郷第1雨水ポンプ場

No. 5

部 位	コンクリート				型 枠	鉄 筋 (m)								圧 接			
記 号	Fc	S	打設(回)	(m3)	(m2)	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	計	D19	D22	D25	D29
雑	21	18	1	5.04	43.79	431.94	132.79		20.49				585.22				
無筋	18	15	2	0.08													
計				5.12	43.79	431.94	132.79		20.49				585.22				

C強度別	(m3)	C打設別	(m3)		鉄筋重量換算							(t)				
Fc=24， S=18		1 回	5.04	〈単 重〉 kg/m	0.56	0.995	1.56	2.25	3.04	3.98	5.04					
Fc=24， S=15		2 回	0.08	〈NET〉	0.24	0.13		0.05				0.42				
Fc=21， S=18	5.04			〈ﾛｽ率〉	4.0 %											
Fc=18， S=15	0.08			〈ﾛｽ込〉	0.25	0.14		0.05				0.44				
				〈ｽｸﾗｯﾌﾟ控除〉	70.0 %	×（ﾛｽ込−NET）						0.01				
合 計	5.12			43.79	0.25	0.14		0.05				0.44				

躯 体 関 係 計 算 書

本郷第1雨水ポンプ場

No. 1

名称	コンクリート (m3)					型枠 (m2)				鉄筋 (m)												圧接				備考
記号	寸法			箇所	計	寸法		箇所	計	形状	径	長さ	本数	箇所	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D19	D22	D25	D29	
部位（ 雑 ）																										
1-2	0.80	1.80	0.21	1	0.30	0.80	1.80	2	2.88	タテ筋	D10	2.00	4	4	32.00											
										ヨコ筋	D10	0.80	10	4	32.00											
										巾止筋	D10	0.21	2	2	0.84											
1-3	2.00	1.80	0.21	1	0.76	2.00	1.80	2	7.20	タテ筋	D10	2.00	10	2	40.00											
										ヨコ筋	D10	2.00	10	2	40.00											
										巾止筋	D10	0.21	6	1	1.26											
1-4	0.90	1.00	0.21	2	0.38	0.90	1.00	4	3.60	タテ筋	D10	0.85	4	4	13.60											
	0.60	0.15	0.21	-2	-0.04	0.60	0.15	-4	-0.36	ヨコ筋	D10	0.90	4	4	14.40											
										巾止筋	D10	0.21	1	2	0.42											
1-5	1.15	1.50	0.21	1	0.36	1.15	1.50	2	3.45	開口補強筋タテ	D13	2.34	2	4		18.72										1.30+0.52*2
	0.85	1.35	0.21	-1	-0.24	0.85	1.35	-2	-2.30	〃 ヨコ	D13	1.79	2	4		14.32										0.75+0.52*2
										〃 ナナメ	D13	1.04	2	8		16.64										0.52*2
1-6	0.81	1.81	0.28	1	0.41	0.81	1.81	2	2.93	タテ筋	D10	2.01	4	2	16.08											
										ヨコ筋	D10	0.81	10	2	16.20											
										巾止筋	D10	0.28	2	1	0.56											
頁計					1.93				17.40						207.36	49.68										

躯 体 関 係 計 算 書

本郷第1雨水ポンプ場

名称	コンクリート (m3)					型枠 (m2)				鉄筋 (m)													圧接				備考
記号	寸法			箇所	計	寸法		箇所	計	形状	径	長さ	本数	箇所	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D19	D22	D25	D29		
部位（ 雑 ）																											
1-7	1.42	1.81	0.21	3	1.62	1.42	1.81	6	15.42	タテ筋	D10	2.01	7	6	84.42												
										ヨコ筋	D10	1.42	10	6	85.20												
										巾止筋	D10	0.21	4	3	2.52												
1-8	1.20	1.20	0.21	1	0.30	1.20	1.20	2	2.88	開口補強筋タテ	D13	1.84	2	2		7.36											0.80+0.52*2
	0.80	0.80	0.21	-1	-0.13	0.80	0.80	-2	-1.28	〃 ヨコ	D13	1.84	2	2		7.36											〃
										〃 ナナメ	D13	1.04	2	4		8.32											0.52*2
1-9	1.90	0.60	0.21	1	0.24	1.90	0.60	2	2.28	タテ筋	D10	0.60	2	2	2.40												
	1.50	0.10	0.21	-1	-0.03	1.50	0.10	-2	-0.30	〃	D10	0.50	8	2	8.00												
										ヨコ筋	D10	1.90	2	2	7.60												
1-10	1.42	0.65	0.21	2	0.39	1.42	0.65	4	3.69	タテ筋	D10	0.65	6	2	7.80												
	0.41	0.05	0.21	-4	-0.02	0.41	0.05	-8	-0.16	〃	D10	0.60	8	2	9.60												
										ヨコ筋	D10	1.42	6	2	17.04												
1-11	0.20	0.74	1.60	1	0.24	0.74	1.60	1	1.18	タテ筋	D13	1.30	3	2		7.80											
4通側						0.20	1.60	1	0.32	ヨコ筋	D13	0.74	8	2		11.84											
						0.32	1.60	1	0.51	端部補強筋	D13	2.04	2	1		4.08											1.30+0.74
										差し筋タテ	D19	0.91	4	1				3.64									0.76+0.019*8
										〃	D19	0.95	1	1				0.95									0.76+0.019*10
頁計					2.61				24.54						224.58	46.76		4.59									

躯 体 関 係 計 算 書

本郷第1雨水ポンプ場

名称	コンクリート (m3)					型枠 (m2)				鉄筋 (m)												圧接				備考
記号	寸法			箇所	計	寸法		箇所	計	形状	径	長さ	本数	箇所	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D19	D22	D25	D29	
部位（ 雑 ）																										
										差し筋ヨコ	D19	0.84	8	1				6.72								0.69+0.019*8
										〃	D19	0.88	1	1				0.88								0.69+0.019*10
1-11	0.46	0.32	1.30	1	0.19	0.46	1.30	1	0.60	タテ筋	D13	1.30	2	2		5.20										
5通側						0.32	1.30	1	0.42	ヨコ筋	D13	0.45	8	2		7.20										
										端部補強筋	D13	1.76	2	1		3.52										0.46+1.30
										差し筋タテ	D19	0.91	2	1				1.82								0.76+0.019*8
										〃	D19	0.95	1	1				0.95								0.76+0.019*10
										差し筋ヨコ	D19	0.61	8	1				4.88								0.46+0.019*8
										〃	D19	0.65	1	1				0.65								0.46+0.019*10
1-12	1.60	1.00	0.23	1	0.37	1.60	0.23	1	0.37	主筋	D13	1.23	9	1		11.07										1.00+0.23
	0.36	0.79	0.23	-1	-0.06	1.00	0.23	2	0.46	配力筋	D13	2.06	6	1		12.36										1.60+0.23*2
										開口控除	D13	0.60	-1	2		-1.20										
										〃	D13	0.45	-2	2		-1.80										
頁計					0.50				1.85							36.35		15.90								
合計					5.04				43.79						431.94	132.79		20.49								

躯 体 関 係 計 算 書

本郷第1雨水ポンプ場

No. 4

名称	コンクリート (m3)					型枠 (m2)				鉄筋 (m)												圧接				備考
記号	寸法			箇所	計	寸法		箇所	計	形状	径	長さ	本数	箇所	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D19	D22	D25	D29	
部位（ 無筋 ）																										
1-11	0.38	0.84	0.30	1	0.10																					
	0.20	0.74	0.30	-1	-0.04																					
	0.10	0.42	0.30	-1	-0.01																					
	0.52	0.42	0.30	1	0.07																					
	0.45	0.32	0.30	-1	-0.04																					
頁計					0.08																					
合計					0.08																					

建 具 関 係 計 算 書

本郷第1ポンプ場耐水化改修工事

No. 1

建具						ガラス							塗装					モルタル				シーリング		
	符号	箇所	W × H	単面	面積	単面	GB 190*190*95	P3	P 5	N6.8	N P6.8	ガラスシーリング	係数	単面	SOP	枠SOP	DP	単長	外	内	木造	単長	外 20W	外 15W
	SSD / N1	1	0.90 × 2.66	2.39	2.39	0.53					0.53	2.97						7.11	7.11			8.91	8.91	
																						dai1		
	AG / N1	2	0.60 × 2.30	1.38	2.76													5.80	11.60			6.40		3.84
	AG / N2	1	1.500 × 2.20	3.30	3.30													7.40	7.40			8.90		13.35
	AG / N3	1	0.750 × 1.30	0.98	0.98													4.10	4.10			4.85		3.64
	AG / N4	1	0.800 × 0.800	0.64	0.64													3.20	3.20			4.00		13.35
											0.00	3.02												
	AW / N1	4	0.41 × 1.210	0.50	2.00	0.50	1.98					12.96						3.24	12.96			3.65		1.50
										(0.41+1.21)x2x4=														
	合 計						1.98				0.53	18.95							46.37				8.91	35.67
												SR-1 10*10											MS-2 20*10	MS-2 15*10

仕 上 集 計 表

項 目		摘 要	単位	1－1	1－2	1－3	1-4,1-5	1－6	1－7	1-8,1-9	1－10	1－11	1－12	計
本郷第1雨水ポンプ場				内外部										
撤去	ｺﾝｸﾘｰﾄｶｯﾀｰ入		m	7.68	11.20	14.00	31.40	11.28	41.16	20.20	25.00	7.31		169.23
	ﾓﾙﾀﾙｶｯﾀｰ入		m									6.96		6.96
	コンクリートはつり		m3	0.15	0.40	0.30	0.75	0.28	0.60	0.47	0.36	0.19	0.13	3.63
	鉄筋切断 D10		ヶ所				22.00			32.00				54.00
	躯体目荒し		m2									2.29		2.29
	建具周囲はつり		m	7.18	8.80	6.40	14.40	4.04	24.24	8.00	16.16			89.22
	ｶﾞﾗｽ撤去		m2	2.42	1.92	2.56		0.66	3.96		2.64			14.16
	床ﾀｲﾙ 撤去		m2	0.15										0.15
	壁ﾓﾙﾀﾙ 撤去		m2	0.81		1.04		0.97	4.13		1.68	2.29		10.92
	壁ﾀｲﾙ 撤去		m2		1.20									1.20
	壁ｸﾞﾗｽｳｰﾙ吸音板 撤去		m2				3.59		0.47	2.27				6.33
	天井ボード 撤去		m2	0.48	0.24	0.80								1.52
	シーリング 撤去		m	8.08	4.80	8.00	15.60	4.45	26.70	9.50	17.80			94.93
	竪樋 VPΦ75 撤去		m				2.60							2.60
	鋳鉄製ﾏﾝﾎｰﾙ φ600 撤去		ヶ所										1.00	1.00
	SUS製建具 900x2685 撤去		ヶ所	1.00										1.00
	ｱﾙﾐ製建具 400x1600 撤去		ヶ所		2.00									2.00
	ｱﾙﾐ製建具 1600x1600 撤去		ヶ所			1.00								1.00
	ｱﾙﾐ製建具 600x3000 撤去		ヶ所				2.00							2.00
	ｱﾙﾐ製建具 410x1610 撤去		ヶ所					1.00	6.00		4.00			11.00
	ｱﾙﾐ製建具 1500x2500 撤去		ヶ所							1.00				1.00

仕 上 集 計 表

項 目		摘 要	単位	1－1	1－2	1－3	1-4,1-5	1－6	1－7	1-8,1-9	1－10	1－11	1－12	計
本郷第1雨水ポンプ場				内外部										
運・処	ｺﾝｸﾘｰﾄがら 運搬		m3	0.15	0.40	0.30	0.75	0.28	0.60	0.47	0.36	0.19	0.13	3.63
	ｺﾝｸﾘｰﾄがら 処分		kg	352.50	940.00	705.00	1,762.50	658.00	1,410.00	1,104.50	846.00	446.50	305.50	8,530.50
	がれき類 運搬		m3	0.03	0.04	0.02	0.11	0.02	0.08	0.07	0.03	0.05		0.45
	がれき類 処分		kg	60.00	80.00	40.00	53.85	40.00	160.00	34.05	60.00	100.00		627.90
	ﾎﾞｰﾄﾞくず 運搬		m3	0.01	0.01	0.02								0.04
	ﾎﾞｰﾄﾞくず 処分		kg	3.36	1.08	11.20								15.64
	金属くず 運搬		m3	0.16	0.09	0.16	0.49	0.03	0.15	0.41	0.05		0.03	1.57
	金属くず 処分		kg	120.45	21.86	32.51	60.45	8.08	48.48	43.56	16.16		38.00	389.55
	ｶﾞﾗｽくず 運搬		m3	0.02	0.01	0.03		0.07	0.40		0.26			0.79
	ｶﾞﾗｽくず 処分		kg	41.16	21.76	43.52		63.37	380.22		253.48			803.51
	廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ 運搬		m3	0.02	0.02	0.01	0.83	0.66	0.01	0.01	0.01			1.57
	廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ 処分		kg	0.16	0.18	0.16	6.03	5.81	0.53	0.19	0.36			13.42

仕 上 集 計 表

項 目		摘 要	単位	1－1	1－2	1－3	1-4,1-5	1－6	1－7	1-8,1-9	1－10	1－11	1－12	計
本郷第1雨水ポンプ場				外 部										
新設	ﾌﾚｱ溶接 5d		ヶ所		56.00	40.00	24.00	56.00	204.00	28.00	64.00			472.00
	あと施工ｱﾝｶｰ M12 下方向(金属系)		ヶ所										8.00	8.00
	無収縮ﾓﾙﾀﾙ 圧入		m3		0.07	0.08	0.04	0.05	0.06	0.05				0.35
	圧入型枠(両側)		m		1.60	4.00	1.15	0.81	1.42	1.20				10.18
	ﾎﾞｲﾄﾞ型枠 φ600		m2										0.28	0.28
	外壁ｼｰﾘﾝｸﾞ PU-2 15x10		m		11.20	8.00	12.10	5.64	20.58	3.50	9.48			70.50
	壁 ﾓﾙﾀﾙ塗 t20		m2	0.72										0.72
	ｺﾝｸﾘｰﾄ直均し仕上		m2										1.32	1.32
	複層塗材(RE)		m2		3.20	4.00	3.17	1.63	8.56	2.08	5.18			27.82
	竪樋 ｶﾗｰVP φ75		m				2.60							2.60
	耐水型鋳鉄製ﾏﾝﾎｰﾙφ600		ヶ所										1.00	1.00

仕 上 集 計 表

項 目		摘 要	単位	1－1	1－2	1－3	1-4,1-5	1－6	1－7	1-8,1-9	1－10	1－11	1－12	計
本郷第1雨水ポンプ場				内 部										
新設	あと施工ｱﾝｶｰ D19 下方向(接着系)		ヶ所									8.00		8.00
	あと施工ｱﾝｶｰ D19 横方向(接着系)		ヶ所									18.00		18.00
	ｺﾝｸﾘｰﾄ直均し仕上		m2									0.50		0.50
	床 長尺ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ張		m2	0.94										0.94
	床下地調整 床ﾓﾙﾀﾙ塗t30		m2	0.94										0.94
	床 防水ﾓﾙﾀﾙ t60		m2									1.35		1.35
	壁 ﾓﾙﾀﾙ塗 t20		m2	0.39		3.60		1.63	8.09		2.29			16.00
	壁 陶器質ﾀｲﾙ張		m2		1.26									1.26
	壁 ｸﾞﾗｽｳｰﾙ吸音板 t25		m2				3.17		0.47	2.24				5.88
	天井 GB-D t9.5張		m2	0.48		0.80								1.28
	天井 ｹｲｶﾙ板 t6.5張		m2		0.24									0.24
	取合ｼｰﾘﾝｸﾞ MS-2 20x10		m									5.20		5.20
	EP塗		m2		0.24	3.60		1.63	8.09					13.56
	止水板 ｱﾙﾐ製既製品2850x1300	中間ｻﾎﾟｰﾄ共	ヶ所									1.00		1.00

仕 上 計 算 書

本郷第1雨水ポンプ場

位置	仕上名称	備考	計算式	箇所	数量 小計	数量 合計
	〔 仮 設 〕 1F					
内部	養生・清掃後片付け	F通側	1.000 × 3.040	1	3.04	
	内部足場 脚立足場		1.620 × 1.000	1	1.62	
			3.000 × 1.000	1	3.00	
			3.470 × 1.300	1	4.51	
			1.000 × 2.300	1	2.30	
		3通側	1.000 × 11.200	1	11.20	
			0.720 × 0.600	-2	-0.86	
		A通側	2.300 × 1.000	1	2.30	
			3.020 × 0.970	1	2.93	
			1.900 × 1.000	1	1.90	
			4.950 × 1.000	1	4.95	
			1.900 × 1.140	1	2.17	
			1.000 × 1.240	1	1.24	40.30 m2
	通路養生	F通側	1.520 × 2.040	1	3.10	
			2.700 × 3.040	1	8.21	
			1.300 × 2.000	1	2.60	
			3.870 × 2.000	1	7.74	
			2.000 × 2.600	1	5.20	
			3.900 × 2.000	1	7.80	
			3.000 × 0.380	-1	-1.14	
		3通側	2.770 × 2.000	1	5.54	
			2.000 × 11.200	1	22.40	
		A通側	2.100 × 1.180	1	2.48	
			1.450 × 2.500	1	3.63	
			7.940 × 1.240	1	9.85	
			1.900 × 1.240	1	2.36	
			4.950 × 1.240	1	6.14	
			1.900 × 1.050	1	2.00	87.91 m2

位置	仕上名称	備考	計算式	箇所	数量 小計	数量 合計
	〔 仮 設 〕 1F					
内部	仮設間仕切(B)	F通側	2.040 × 3.050	1	6.22	
			1.520 × 3.050	1	4.64	
			3.000 × 2.910	1	8.73	
			1.000 × 2.910	2	5.82	
			3.000 × 1.000	1	3.00	
			1.820 × 2.910	1	5.30	
			3.470 × 2.910	1	10.10	
			1.000 × 2.910	1	2.91	
			0.380 × 2.910	1	1.11	
			3.470 × 1.300	1	4.51	
			1.000 × 2.300	1	2.30	
		3通側	0.380 × 2.910	1	1.11	
			11.200 × 2.910	1	32.59	
			1.000 × 11.200	1	11.20	
			0.720 × 0.600	-2	-0.86	
		A通側	2.300 × 4.250	1	9.78	
			1.000 × 4.250	1	4.25	
			1.900 × 2.600	1	4.94	
			4.950 × 2.600	1	12.87	
			1.240 × 2.600	1	3.22	133.74 m2
	内部足場 脚立足場	養生	40.300	1	40.30	
		給気ﾁｬﾝﾊﾞｰ	3.020 × 0.970	-1	-2.93	37.37 m2
	内部足場 枠組足場900枠		3.020 × 9.500	1	28.69	28.69 m2
	内部足場 安全手摺		3.020	1	3.02	3.02 m2

仕 上 計 算 書

本郷第1雨水ポンプ場

位置	仕上名称	備考	計算式	箇所	数量 小計	数量 合計
	〔仮設〕 1F					
外部	枠組足場 900枠		3.350 × 3.900	1	13.07	
	養生シート		4.500 × 3.900	1	17.55	
			3.600 × 3.000	2	21.60	
			10.800 × 7.200	1	77.76	
			2.400 × 3.900	1	9.36	
			14.840 × 3.900	1	57.88	
			1.800 × 3.000	1	5.40	202.62 m2
	外部足場 安全手摺		3.350	1	3.35	
			4.500	1	4.50	
			3.600	2	7.20	
			10.800	1	10.80	
			2.400	1	2.40	
			14.840	1	14.84	
			1.800	1	1.80	44.89 m

位置	仕上名称	備考	計算式	箇所	数量 小計	数量 合計
	〔仮設〕 1F					

仕 上 計 算 書

本郷第1雨水ポンプ場

位置	仕上名称	備考	計算式	箇所	数量 小計	数量 合計
	〔 内外部 〕 1－1					
撤去	ｺﾝｸﾘｰﾄｶｯﾀｰ入	たて	2.760	2	5.52	
		よこ	1.140	1	1.14	
		床	1.020	1	1.02	7.68 m
	コンクリートはつり	たて	0.210 × 0.120 × 2.760	2	0.14	
		よこ	0.210 × 0.070 × 0.900	1	0.01	0.15 m3
	床ﾀｲﾙ 撤去		0.150 × 1.020	1	0.15	0.15 m2
	壁ﾓﾙﾀﾙ 撤去		0.150 × 2.690	2	0.81	0.81 m2
	天井ボード 撤去		0.400 × 1.200	1	0.48	0.48 m2
	SUS製建具 900x2685 撤去		1.000	1	1.00	1.00 ヶ所
	シーリング 撤去		0.900	3	2.70	
			2.690	2	5.38	8.08 m
	建具周囲はつり		0.900	2	1.80	
			2.690	2	5.38	7.18 m
	ｶﾞﾗｽ撤去		0.900 × 2.690	1	2.42	2.42 m2

位置	仕上名称	備考	計算式	箇所	数量 小計	数量 合計
	〔 内外部 〕 1－1					
運・処	ｺﾝｸﾘｰﾄがら 運搬	CONﾊﾂﾘ	0.150	1	0.15	0.15 m3
	ｺﾝｸﾘｰﾄがら 処分		0.150 × 2,350.000	1	352.50	352.50 kg
	がれき類 運搬	床ﾀｲﾙ	0.150 × 1.020 × 0.030	1	0.01	
		壁ML	0.150 × 2.690 × 0.020	2	0.02	0.03 m3
	がれき類 処分		0.030 × 2,000.000	1	60.00	60.00 kg
	ﾎﾞｰﾄﾞくず 運搬	GB-D	0.400 × 1.200 × 0.010	1	0.01	0.01 m3
	ﾎﾞｰﾄﾞくず 処分	GB-D	0.400 × 1.200 × 7.000	1	3.36	3.36 kg
	金属くず 運搬	枠・額縁	0.900 × 0.005	2	0.01	
			2.690 × 0.005	4	0.05	
		戸	0.900 × 2.690 × 0.040	1	0.10	0.16 m3
	金属くず 処分	枠・額縁	0.900 × 4.000	2	7.20	
			2.690 × 4.000	4	43.04	
		戸	0.900 × 2.690 × 29.000	1	70.21	120.45 kg
	ｶﾞﾗｽくず 運搬		0.900 × 2.690 × 0.010	1	0.02	0.02 m3
	ｶﾞﾗｽくず 処分		0.900 × 2.690 × 17.000	1	41.16	41.16 kg

仕 上 計 算 書

本郷第1雨水ポンプ場

位置	仕上名称	備考	計算式	箇所	数量 小計	数量 合計
	〔 内外部 〕 1－1					
運・処	廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ 運搬		0.900 × 0.015 × 0.010	3	0.01	
			2.690 × 0.015 × 0.010	2	0.01	0.02 m3
	廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ 処分		0.900 × 0.020	3	0.05	
			2.690 × 0.020	2	0.11	0.16 kg

位置	仕上名称	備考	計算式	箇所	数量 小計	数量 合計
	〔 内 部 〕 1－1					
新設	床 長尺ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ張		0.780 × 1.200	1	0.94	0.94 m2
	床下地調整 床ﾓﾙﾀﾙ塗t30					
	壁 ﾓﾙﾀﾙ塗 t20		1.020 × 2.730	1	2.78	
			0.900 × 2.660	-1	-2.39	0.39 m2
	天井 GB-D t9.5張		0.400 × 1.200	1	0.48	0.48 m2

仕 上 計 算 書

本郷第1雨水ポンプ場

No. 5

位置	仕上名称	備考	計算式	箇所	数量 小計	数量 合計
	〔 外 部 〕 1－1					
新設	壁 モルタル塗 t20		1.140 × 2.730	1	3.11	
			0.900 × 2.660	-1	-2.39	0.72 m2

位置	仕上名称	備考	計算式	箇所	数量 小計	数量 合計
	〔 内外部 〕 1－2					
撤去	コンクリートカッター入	たて	0.800	4	3.20	
		よこ	2.000	4	8.00	11.20 m
	コンクリートはつり		0.800 × 2.000 × 0.210	2	0.67	
			0.400 × 1.600 × 0.210	-2	-0.27	0.40 m3
	壁タイル 撤去	便所	0.600 × 2.000	1	1.20	1.20 m2
	天井ボード 撤去	便所	0.400 × 0.600	1	0.24	0.24 m2
	アルミ製建具 400x1600 撤去		2.000	1	2.00	2.00 ヶ所
	シーリング 撤去		0.400	6	2.40	
			0.600	4	2.40	4.80 m
	建具周囲はつり		0.600	4	2.40	
			1.600	4	6.40	8.80 m
	ガラス撤去		0.600 × 1.600	2	1.92	1.92 m2

仕 上 計 算 書

本郷第1雨水ポンプ場

位置	仕上名称	備考	計算式	箇所	数量 小計	数量 合計
	〔 内外部 〕 1－2					
運・処	ｺﾝｸﾘｰﾄがら 運搬	CONﾊﾂﾘ	0.400	1	0.40	0.40 m3
	ｺﾝｸﾘｰﾄがら 処分		0.400 × 2,350.000	1	940.00	940.00 kg
	がれき類 運搬	壁ﾀｲﾙ	0.600 × 2.000 × 0.030	1	0.04	0.04 m3
	がれき類 処分		0.040 × 2,000.000	1	80.00	80.00 kg
	ﾎﾞｰﾄﾞくず 運搬	ｹｲｶﾙ板	0.400 × 0.600 × 0.010	1	0.01	0.01 m3
	ﾎﾞｰﾄﾞくず 処分	ｹｲｶﾙ板	0.400 × 0.600 × 4.500	1	1.08	1.08 kg
	金属くず 運搬	枠・額縁	0.400 × 0.003	6	0.01	
			1.600 × 0.003	6	0.03	
		戸	0.400 × 1.600 × 0.040	2	0.05	0.09 m3
	金属くず 処分	枠・額縁	0.400 × 1.000	6	2.40	
			1.600 × 1.000	6	9.60	
		戸	0.400 × 1.600 × 7.700	2	9.86	21.86 kg
	ｶﾞﾗｽくず 運搬		0.400 × 1.600 × 0.010	2	0.01	0.01 m3
	ｶﾞﾗｽくず 処分		0.400 × 1.600 × 17.000	2	21.76	21.76 kg

位置	仕上名称	備考	計算式	箇所	数量 小計	数量 合計
	〔 内外部 〕 1－2					
運・処	廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ 運搬		0.400 × 0.015 × 0.010	6	0.01	
			1.600 × 0.015 × 0.010	4	0.01	0.02 m3
	廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ 処分		0.400 × 0.020	6	0.05	
			1.600 × 0.020	4	0.13	0.18 kg

仕 上 計 算 書

本郷第1雨水ポンプ場

位置	仕上名称	備考	計算式	箇所	数量 小計	数量 合計
	〔内部〕 1－2					
新設	壁 陶器質ﾀｲﾙ張		0.700 × 1.800	1	1.26	1.26 m2
	天井 ｹｲｶﾙ板 t6.5張		0.400 × 0.600	1	0.24	0.24 m2
	EP塗					

位置	仕上名称	備考	計算式	箇所	数量 小計	数量 合計
	〔外部〕 1－2					
新設	ﾌﾚｱ溶接 5d	縦筋	4.000	4	16.00	
		横筋	10.000	4	40.00	56.00 ヶ所
	無収縮ﾓﾙﾀﾙ 圧入		0.800 × 0.200 × 0.210	2	0.07	0.07 m3
	圧入型枠(両側)		0.800	2	1.60	1.60 m
	複層塗材(RE)		0.800 × 2.000	2	3.20	3.20 m2
	外壁ｼｰﾘﾝｸﾞ PU-2 15x10		0.800	4	3.20	
			2.000	4	8.00	11.20 m

仕 上 計 算 書

本郷第1雨水ポンプ場

位置	仕上名称	備考	計算式	箇所	数量 小計	数量 合計
	〔 内外部 〕 1－3					
撤去	ｺﾝｸﾘｰﾄｶｯﾀｰ入	たて	2.000	4	8.00	
		よこ	2.000	3	6.00	14.00 m
	ｺﾝｸﾘｰﾄはつり		2.000 × 2.000 × 0.210	1	0.84	
			1.600 × 1.600 × 0.210	-1	-0.54	0.30 m3
	壁ﾓﾙﾀﾙ 撤去		2.000 × 1.800	1	3.60	
			1.600 × 1.600	-1	-2.56	1.04 m2
	天井ボード 撤去		0.400 × 2.000	1	0.80	0.80 m2
	ｱﾙﾐ製建具 1600x1600 撤去		1.000	1	1.00	1.00 ヶ所
	ｼｰﾘﾝｸﾞ 撤去		1.600	5	8.00	8.00 m
	建具周囲はつり		1.600	4	6.40	6.40 m
	ｶﾞﾗｽ撤去		1.600 × 1.600	1	2.56	2.56 m2

位置	仕上名称	備考	計算式	箇所	数量 小計	数量 合計
	〔 内外部 〕 1－3					
運・処	ｺﾝｸﾘｰﾄがら 運搬	CONﾊﾂﾘ	0.300	1	0.30	0.30 m3
	ｺﾝｸﾘｰﾄがら 処分		0.300 × 2,350.000	1	705.00	705.00 kg
	がれき類 運搬	壁ML	1.040 × 0.020	1	0.02	0.02 m3
	がれき類 処分		0.020 × 2,000.000	1	40.00	40.00 kg
	ﾎﾞｰﾄﾞくず 運搬	GB-D	0.800 × 2.000 × 0.010	1	0.02	0.02 m3
	ﾎﾞｰﾄﾞくず 処分	GB-D	0.800 × 2.000 × 7.000	1	11.20	11.20 kg
	金属くず 運搬	枠・額縁	1.600 × 0.005	8	0.06	
		戸	1.600 × 1.600 × 0.040	1	0.10	0.16 m3
	金属くず 処分	枠・額縁	1.600 × 1.000	8	12.80	
		戸	1.600 × 1.600 × 7.700	1	19.71	32.51 kg
	ｶﾞﾗｽくず 運搬		1.600 × 1.600 × 0.010	1	0.03	0.03 m3
	ｶﾞﾗｽくず 処分		1.600 × 1.600 × 17.000	1	43.52	43.52 kg
	廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ 運搬		1.600 × 0.015 × 0.010	5	0.01	0.01 m3
	廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ 処分		1.600 × 0.020	5	0.16	0.16 kg

仕 上 計 算 書

本郷第1雨水ポンプ場

位置	仕上名称	備考	計算式	箇所	数量 小計	数量 合計
	〔内部〕 1－3					
新設	壁 モルタル塗 t20		2.000 × 1.800	1	3.60	3.60 m2
	EP塗					
	天井 GB-D t9.5張		0.400 × 2.000	1	0.80	0.80 m2

位置	仕上名称	備考	計算式	箇所	数量 小計	数量 合計
	〔外部〕 1－3					
新設	フレア溶接 5d	縦筋	10.000	2	20.00	
		横筋	10.000	2	20.00	40.00 ヶ所
	無収縮モルタル 圧入		2.000 × 0.200 × 0.210	1	0.08	0.08 m3
	圧入型枠(両側)		2.000	2	4.00	4.00 m
	複層塗材(RE)		2.000 × 2.000	1	4.00	4.00 m2
	外壁シーリング PU-2 15x10		2.000	4	8.00	8.00 m

仕 上 計 算 書

本郷第1雨水ポンプ場

位置	仕上名称	備考	計算式	箇所	数量 小計	数量 合計
	〔 内外部 〕 1-4,1-5					
撤去	ｺﾝｸﾘｰﾄｶｯﾀｰ入	1-4	2.450	4	9.80	
			0.700	2	1.40	
			0.300	4	1.20	
			0.900	4	3.60	
			1.000	4	4.00	
			1.150	4	4.60	
		1-5	1.700	4	6.80	31.40 m
	コンクリートはつり	1-4	0.900 × 1.000 × 0.210	2	0.38	
			0.700 × 2.450 × 0.210	2	0.72	
		1-5	0.600 × 3.000 × 0.210	-2	-0.76	
			1.150 × 1.700 × 0.210	1	0.41	0.75 m3
	壁ｸﾞﾗｽｳｰﾙ吸音板 撤去	1-4	0.900 × 1.000	2	1.80	
			0.700 × 2.450	2	3.43	
			0.600 × 3.000	-2	-3.60	
		1-5	1.150 × 1.700	1	1.96	3.59 m2
	ｱﾙﾐ製建具 600x3000 撤去		2.000	1	2.00	2.00 ヶ所
	シーリング 撤去		0.600	6	3.60	
			3.000	4	12.00	15.60 m
	建具周囲はつり		0.600	4	2.40	
			3.000	4	12.00	14.40 m
	竪樋 VPΦ75 撤去		2.600	1	2.60	2.60 m

位置	仕上名称	備考	計算式	箇所	数量 小計	数量 合計
	〔 内外部 〕 1-4,1-5					
撤去	鉄筋切断 D10	縦筋	4.000	2	8.00	
		横筋	7.000	2	14.00	22.00 ヶ所

仕 上 計 算 書

本郷第1雨水ポンプ場

位置	仕上名称	備考	計算式	箇所	数量 小計	数量 合計
	〔 内外部 〕 1-4,1-5					
運・処	ｺﾝｸﾘｰﾄがら 運搬	CONﾊﾂﾘ	0.750	1	0.75	0.75 m3
	ｺﾝｸﾘｰﾄがら 処分		0.750 × 2,350.000	1	1,762.50	1,762.50 kg
	がれき類 運搬	ｸﾞﾗｽｳｰﾙ	3.590 × 0.030	1	0.11	0.11 m3
	がれき類 処分		3.590 × 15.000	1	53.85	53.85 kg
	金属くず 運搬	枠・額縁	0.600 × 0.003	8	0.01	
			3.000 × 0.003	8	0.07	
		戸	0.600 × 3.000 × 0.070	2	0.25	
		D10	1.400 × 0.007	8	0.08	
			0.850 × 0.007	14	0.08	0.49 m3
	金属くず 処分	枠・額縁	0.600 × 1.000	8	4.80	
			3.000 × 1.000	8	24.00	
		戸	0.600 × 3.000 × 5.200	2	18.72	
		D10	1.400 × 0.560	8	6.27	
			0.850 × 0.560	14	6.66	60.45 kg
	廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ 運搬	ｼｰﾘﾝｸﾞ	15.600 × 0.015 × 0.010	1	0.01	
		竪樋	2.600 × 0.100 × 3.140	1	0.82	0.83 m3
	廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ 処分	ｼｰﾘﾝｸﾞ	15.600 × 0.020	1	0.31	
		竪樋	2.600 × 2.200	1	5.72	6.03 kg

位置	仕上名称	備考	計算式	箇所	数量 小計	数量 合計
	〔 内 部 〕 1-4,1-5					
新設	壁 ｸﾞﾗｽｳｰﾙ吸音板 t25	1-4	0.900 × 1.000	2	1.80	
			0.700 × 2.250	2	3.15	
			0.600 × 2.300	-2	-2.76	
		1-5	1.150 × 1.700	1	1.96	
			0.750 × 1.300	-1	-0.98	3.17 m2

仕 上 計 算 書

本郷第1雨水ポンプ場

位置	仕上名称	備考	計算式	箇所	数量 小計	数量 合計
	〔 外 部 〕 1-4,1-5					
新設	ﾌﾚｱ溶接 5d	縦筋	4.000	2	8.00	
		横筋	4.000	4	16.00	24.00 ヶ所
	無収縮ﾓﾙﾀﾙ 圧入		1.150 × 0.200 × 0.210	1	0.05	
			0.750 × 0.050 × 0.210	-1	-0.01	0.04 m3
	圧入型枠(両側)		1.150	1	1.15	1.15 m
	複層塗材(RE)	1-4	0.900 × 1.000	2	1.80	
			0.700 × 2.250	2	3.15	
			0.600 × 2.300	-2	-2.76	
		1-5	1.150 × 1.700	1	1.96	
			0.750 × 1.300	-1	-0.98	3.17 m2
	外壁ｼｰﾘﾝｸﾞ PU-2 15x10	1-4	0.900	2	1.80	
			0.200	2	0.40	
			0.100	2	0.20	
			1.000	4	4.00	
		1-5	1.150	2	2.30	
			1.700	2	3.40	12.10 m
	竪樋 ｶﾗｰVP φ75		2.600	1	2.60	2.60 m

位置	仕上名称	備考	計算式	箇所	数量 小計	数量 合計
	〔 内外部 〕 1－6					
撤去	ｺﾝｸﾘｰﾄｶｯﾀｰ入	たて	0.810	4	3.24	
		よこ	2.010	4	8.04	11.28 m
	コンクリートはつり		0.810 × 2.010 × 0.280	1	0.46	
			0.410 × 1.610 × 0.280	-1	-0.18	0.28 m3
	壁ﾓﾙﾀﾙ 撤去		0.810 × 2.010	1	1.63	
			0.410 × 1.610	-1	-0.66	0.97 m2
	ｱﾙﾐ製建具 410x1610 撤去		1.000	1	1.00	1.00 ヶ所
	シーリング 撤去		0.410	3	1.23	
			1.610	2	3.22	4.45 m
	建具周囲はつり		0.410	2	0.82	
			1.610	2	3.22	4.04 m
	ｶﾞﾗｽ撤去		0.410 × 1.610	1	0.66	0.66 m2

仕 上 計 算 書

本郷第1雨水ポンプ場

位置	仕上名称	備考	計算式	箇所	数量 小計	数量 合計
	〔 内外部 〕 1－6					
運・処	ｺﾝｸﾘｰﾄがら 運搬	CONﾊﾂﾘ	0.280	1	0.28	0.28 m3
	ｺﾝｸﾘｰﾄがら 処分		0.280 × 2,350.000	1	658.00	658.00 kg
	がれき類 運搬	壁ML	0.970 × 0.020	1	0.02	0.02 m3
	がれき類 処分		0.020 × 2,000.000	1	40.00	40.00 kg
	金属くず 運搬	枠・額縁	0.410 × 0.003	4	0.01	
			1.610 × 0.003	4	0.02	0.03 m3
	金属くず 処分	枠・額縁	0.410 × 1.000	4	1.64	
			1.610 × 1.000	4	6.44	8.08 kg
	ｶﾞﾗｽくず 運搬	GB	0.410 × 1.610 × 0.100	1	0.07	0.07 m3
	ｶﾞﾗｽくず 処分	GB	0.410 × 1.610 × 96.000	1	63.37	63.37 kg
	廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ 運搬	ｼｰﾘﾝｸﾞ	4.450 × 0.015 × 0.010	1	0.01	
		竪樋	2.600 × 0.080 × 3.140	1	0.65	0.66 m3
	廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ 運搬	ｼｰﾘﾝｸﾞ	4.450 × 0.020	1	0.09	
		竪樋	2.600 × 2.200	1	5.72	5.81 kg

位置	仕上名称	備考	計算式	箇所	数量 小計	数量 合計
	〔 内 部 〕 1－6					
新設	壁 ﾓﾙﾀﾙ塗 t20		0.810 × 2.010	1	1.63	1.63 m2
	EP塗					

仕 上 計 算 書

本郷第1雨水ポンプ場

位置	仕上名称	備考	計算式	箇所	数量 小計	数量 合計
	〔 外 部 〕 1－6					
新設	ﾌﾚｱ溶接 5d	縦筋	4.000	4	16.00	
		横筋	10.000	4	40.00	56.00 ヶ所
	無収縮ﾓﾙﾀﾙ 圧入		0.810 × 0.200 × 0.280	1	0.05	0.05 m3
	圧入型枠(両側)		0.810	1	0.81	0.81 m
	複層塗材(RE)		0.810 × 2.010	1	1.63	1.63 m2
	外壁ｼｰﾘﾝｸﾞ PU-2 15x10		0.810	2	1.62	
			2.010	2	4.02	5.64 m

位置	仕上名称	備考	計算式	箇所	数量 小計	数量 合計
	〔 内外部 〕 1－7					
撤去	ｺﾝｸﾘｰﾄｶｯﾀｰ入		1.420 × 4.000	3	17.04	
			2.010 × 4.000	3	24.12	41.16 m
	コンクリートはつり		1.420 × 2.010 × 0.210	1	0.60	0.60 m3
	壁ﾓﾙﾀﾙ 撤去		1.420 × 1.900	3	8.09	
			0.410 × 1.610	-6	-3.96	4.13 m2
	壁ｸﾞﾗｽｳｰﾙ吸音板 撤去		1.420 × 0.110	3	0.47	0.47 m2
	ｱﾙﾐ製建具 410x1610 撤去		2.000	3	6.00	6.00 ヶ所
	シーリング 撤去		0.410 × 3.000	6	7.38	
			1.610 × 2.000	6	19.32	26.70 m
	建具周囲はつり		0.410	12	4.92	
			1.610	12	19.32	24.24 m
	ｶﾞﾗｽ撤去		0.410 × 1.610	6	3.96	3.96 m2

仕 上 計 算 書

本郷第1雨水ポンプ場

位置	仕上名称	備考	計算式	箇所	数量 小計	数量 合計
	〔 内外部 〕 1－7					
運・処	ｺﾝｸﾘｰﾄがら 運搬	CONﾊﾂﾘ	0.600	1	0.60	0.60 m3
	ｺﾝｸﾘｰﾄがら 処分		0.600 × 2,350.000	1	1,410.00	1,410.00 kg
	がれき類 運搬	壁ML	4.130 × 0.020	1	0.08	0.08 m3
	がれき類 処分		0.080 × 2,000.000	1	160.00	160.00 kg
	金属くず 運搬	枠・額縁	0.410 × 0.003 × 4.000	6	0.03	
			1.610 × 0.003 × 4.000	6	0.12	0.15 m3
	金属くず 処分	枠・額縁	0.410 × 1.000 × 4.000	6	9.84	
			1.610 × 1.000 × 4.000	6	38.64	48.48 kg
	ｶﾞﾗｽくず 運搬	GB	0.410 × 1.610 × 0.100	6	0.40	0.40 m3
	ｶﾞﾗｽくず 処分	GB	0.410 × 1.610 × 96.000	6	380.22	380.22 kg
	廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ 運搬	ｼｰﾘﾝｸﾞ	26.700 × 0.015 × 0.010	1	0.01	0.01 m3
	廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ 運搬	ｼｰﾘﾝｸﾞ	26.700 × 0.020	1	0.53	0.53 kg

位置	仕上名称	備考	計算式	箇所	数量 小計	数量 合計
	〔 内 部 〕 1－7					
新設	壁 ﾓﾙﾀﾙ塗 t20		1.420 × 1.900	3	8.09	8.09 m2
	EP塗					
	壁 ｸﾞﾗｽｳｰﾙ吸音板 t25		1.420 × 0.110	3	0.47	0.47 m2

仕 上 計 算 書

本郷第1雨水ポンプ場

位置	仕上名称	備考	計算式	箇所	数量 小計	数量 合計
	〔 外 部 〕 1－7					
新設	ﾌﾚｱ溶接 5d	縦筋	14.000 × 2.000	3	84.00	
		横筋	20.000 × 2.000	3	120.00	204.00 ヶ所
	無収縮ﾓﾙﾀﾙ 圧入		1.420 × 0.200 × 0.210	1	0.06	0.06 m3
	圧入型枠(両側)		1.420	1	1.42	1.42 m
	複層塗材(RE)		1.420 × 2.010	3	8.56	8.56 m2
	外壁ｼｰﾘﾝｸﾞ PU-2 15x10		1.420 × 2.000	3	8.52	
			2.010 × 2.000	3	12.06	20.58 m

位置	仕上名称	備考	計算式	箇所	数量 小計	数量 合計
	〔 内外部 〕 1-8,1-9					
撤去	ｺﾝｸﾘｰﾄｶｯﾀｰ入	1-8	1.200	8	9.60	
		1-9	1.600	1	1.60	
			2.150	2	4.30	
			0.200	4	0.80	
			0.600	4	2.40	
			1.500	1	1.50	20.20 m
	コンクリートはつり	1-8	1.200 × 1.200 × 0.210	1	0.30	
		1-9	1.600 × 2.150 × 0.210	1	0.72	
			1.900 × 0.600 × 0.210	1	0.24	
			1.500 × 2.500 × 0.210	-1	-0.79	0.47 m3
	壁ｸﾞﾗｽｳｰﾙ吸音板 撤去	1-8	1.200 × 1.200	1	1.44	
		1-9	1.600 × 2.150	1	3.44	
			1.900 × 0.600	1	1.14	
			1.500 × 2.500	-1	-3.75	2.27 m2
	ｱﾙﾐ製建具 1500x2500 撤去		1.000	1	1.00	1.00 ヶ所
	ｼｰﾘﾝｸﾞ 撤去		1.500	3	4.50	
			2.500	2	5.00	9.50 m
	建具周囲はつり		1.500	2	3.00	
			2.500	2	5.00	8.00 m
	鉄筋切断 D10	縦筋	8.000	2	16.00	
		横筋	8.000	2	16.00	32.00 ヶ所

仕 上 計 算 書

本郷第1雨水ポンプ場

位置	仕上名称	備考	計算式	箇所	数量 小計	数量 合計
	〔 内外部 〕 1-8,1-9					
運・処	ｺﾝｸﾘｰﾄがら 運搬	CONﾊﾂﾘ	0.470	1	0.47	0.47 m3
	ｺﾝｸﾘｰﾄがら 処分		0.470 × 2,350.000	1	1,104.50	1,104.50 kg
	がれき類 運搬	ｸﾞﾗｽｳｰﾙ	2.270 × 0.030	1	0.07	0.07 m3
	がれき類 処分		2.270 × 15.000	1	34.05	34.05 kg
	金属くず 運搬	枠・額縁	1.500 × 0.003	4	0.02	
			2.500 × 0.003	4	0.03	
		戸	1.500 × 2.500 × 0.070	1	0.26	
		D10	0.900 × 0.007	16	0.10	0.41 m3
	金属くず 処分	枠・額縁	1.500 × 1.000	4	6.00	
			2.500 × 1.000	4	10.00	
		戸	1.500 × 2.500 × 5.200	1	19.50	
		D10	0.900 × 0.560	16	8.06	43.56 kg
	廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ 運搬	ｼｰﾘﾝｸﾞ	9.500 × 0.015 × 0.010	1	0.01	0.01 m3
	廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ 処分	ｼｰﾘﾝｸﾞ	9.500 × 0.020	1	0.19	0.19 kg

位置	仕上名称	備考	計算式	箇所	数量 小計	数量 合計
	〔 内 部 〕 1-8,1-9					
新設	壁 ｸﾞﾗｽｳｰﾙ吸音板 t25	1-8	1.200 × 1.200	1	1.44	
			0.800 × 0.800	-1	-0.64	
		1-9	1.600 × 2.250	1	3.60	
			1.900 × 0.600	1	1.14	
			1.500 × 2.200	-1	-3.30	2.24 m2

仕 上 計 算 書

本郷第1雨水ポンプ場

位置	仕上名称	備考	計算式	箇所	数量 小計	数量 合計
	〔 外 部 〕 1-8,1-9					
新設	ﾌﾚｱ溶接 5d	縦筋	10.000	2	20.00	
		横筋	4.000	2	8.00	28.00 ヶ所
	無収縮ﾓﾙﾀﾙ 圧入	1-8	1.200 × 0.200 × 0.210	1	0.05	0.05 m3
	圧入型枠(両側)	1-8	1.200	1	1.20	1.20 m
	複層塗材(RE)	1-8	1.200 × 1.200	1	1.44	
			0.800 × 0.800	-1	-0.64	
		1-9	1.600 × 2.150	1	3.44	
			1.900 × 0.600	1	1.14	
			1.500 × 2.200	-1	-3.30	2.08 m2
	外壁ｼｰﾘﾝｸﾞ PU-2 15x10	1-9	0.200	2	0.40	
			0.600	2	1.20	
			1.900	1	1.90	3.50 m

位置	仕上名称	備考	計算式	箇所	数量 小計	数量 合計
	〔 内外部 〕 1－10					
撤去	ｺﾝｸﾘｰﾄｶｯﾀｰ入		1.210 × 4.000	2	9.68	
			0.510 × 2.000	2	2.04	
			0.200 × 6.000	2	2.40	
			0.650 × 4.000	2	5.20	
			1.420 × 2.000	2	5.68	25.00 m
	コンクリートはつり		0.510 × 1.210 × 0.210	4	0.52	
			1.420 × 0.650 × 0.210	2	0.39	
			0.410 × 1.610 × 0.210	-4	-0.55	0.36 m3
	壁ﾓﾙﾀﾙ 撤去		0.510 × 1.210	4	2.47	
			1.420 × 0.650	2	1.85	
			0.410 × 1.610	-4	-2.64	1.68 m2
	ｱﾙﾐ製建具 410x1610 撤去		4.000	1	4.00	4.00 ヶ所
	シーリング 撤去		0.410 × 3.000	4	4.92	
			1.610 × 2.000	4	12.88	17.80 m
	建具周囲はつり		0.410	8	3.28	
			1.610	8	12.88	16.16 m
	ｶﾞﾗｽ撤去		0.410 × 1.610	4	2.64	2.64 m2

仕 上 計 算 書

本郷第1雨水ポンプ場

位置	仕上名称	備考	計算式	箇所	数量 小計	数量 合計
	〔 内外部 〕 1－10					
運・処	ｺﾝｸﾘｰﾄがら 運搬	CONﾊﾂﾘ	0.360	1	0.36	0.36 m3
	ｺﾝｸﾘｰﾄがら 処分		0.360 × 2,350.000	1	846.00	846.00 kg
	がれき類 運搬	壁ML	1.680 × 0.020	1	0.03	0.03 m3
	がれき類 処分		0.030 × 2,000.000	1	60.00	60.00 kg
	金属くず 運搬	枠・額縁	0.410 × 0.003 × 4.000	2	0.01	
			1.610 × 0.003 × 4.000	2	0.04	0.05 m3
	金属くず 処分	枠・額縁	0.410 × 1.000 × 4.000	2	3.28	
			1.610 × 1.000 × 4.000	2	12.88	16.16 kg
	ｶﾞﾗｽくず 運搬	GB	0.410 × 1.610 × 0.100	4	0.26	0.26 m3
	ｶﾞﾗｽくず 処分	GB	0.410 × 1.610 × 96.000	4	253.48	253.48 kg
	廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ 運搬	ｼｰﾘﾝｸﾞ	17.800 × 0.015 × 0.010	1	0.01	0.01 m3
	廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ 処分	ｼｰﾘﾝｸﾞ	17.800 × 0.020	1	0.36	0.36 kg

位置	仕上名称	備考	計算式	箇所	数量 小計	数量 合計
	〔 内 部 〕 1－10					
新設	壁 ﾓﾙﾀﾙ塗 t20		0.500 × 1.210	4	2.42	
			1.420 × 0.650	2	1.85	
			0.410 × 1.210	-4	-1.98	2.29 m2

仕 上 計 算 書

本郷第1雨水ポンプ場

位置	仕上名称	備考	計算式	箇所	数量 小計	数量 合計
	〔 外 部 〕 1－10					
新設	ﾌﾚｱ溶接 5d	縦筋	7.000 × 2.000	2	28.00	
			3.000 × 2.000	2	12.00	
		横筋	6.000 × 2.000	2	24.00	64.00 ヶ所
	複層塗材(RE)		0.510 × 1.210	4	2.47	
			1.420 × 1.650	2	4.69	
			0.410 × 1.210	-4	-1.98	5.18 m2
	外壁ｼｰﾘﾝｸﾞ PU-2 15x10		0.200 × 3.000	2	1.20	
			0.650 × 2.000	2	2.60	
			1.420 × 2.000	2	5.68	9.48 m

位置	仕上名称	備考	計算式	箇所	数量 小計	数量 合計
	〔 内外部 〕 1－11					
撤去	ｺﾝｸﾘｰﾄｶｯﾀｰ入		0.840	1	0.84	
			0.400	1	0.40	
			0.110	2	0.22	
			2.650	2	5.30	
			0.550	1	0.55	7.31 m
	ﾓﾙﾀﾙｶｯﾀｰ入		1.300	4	5.20	
			0.270	1	0.27	
			0.420	1	0.42	
			0.140	1	0.14	
			0.530	1	0.53	
			0.400	1	0.40	6.96 m
	コンクリートはつり	t300	0.400 × 0.840 × 0.300	1	0.10	
			0.120 × 0.420 × 0.300	-1	-0.02	
			0.550 × 0.420 × 0.300	1	0.07	
		t60	2.650 × 0.250 × 0.060	1	0.04	0.19 m3
	壁ﾓﾙﾀﾙ 撤去		0.270 × 1.300	1	0.35	
	躯体目荒し		0.420 × 1.300	1	0.55	
			0.140 × 1.300	1	0.18	
			0.530 × 1.300	1	0.69	
			0.400 × 1.300	1	0.52	2.29 m2

仕 上 計 算 書

本郷第1雨水ポンプ場

位置	仕上名称	備考	計算式	箇所	数量 小計	数量 合計
	〔 内外部 〕 1－11					
運・処	ｺﾝｸﾘｰﾄがら 運搬	CONﾊﾂﾘ	0.190	1	0.19	0.19 m3
	ｺﾝｸﾘｰﾄがら 処分		0.190 × 2,350.000	1	446.50	446.50 kg
	がれき類 運搬	壁ML	2.290 × 0.020	1	0.05	0.05 m3
	がれき類 処分		0.050 × 2,000.000	1	100.00	100.00 kg

位置	仕上名称	備考	計算式	箇所	数量 小計	数量 合計
	〔 内 部 〕 1－11					
新設	あと施工ｱﾝｶｰ D19 下方向(接着系)		4.000	1	4.00	
			1.000	1	1.00	
			2.000	1	2.00	
			1.000	1	1.00	8.00 ヶ所
	あと施工ｱﾝｶｰ D19 横方向(接着系)		8.000	2	16.00	
			1.000	2	2.00	18.00 ヶ所
	ｺﾝｸﾘｰﾄ直均し仕上		0.380 × 0.840	1	0.32	
			0.090 × 0.420	-1	-0.04	
			0.520 × 0.420	1	0.22	0.50 m2
	床 防水ﾓﾙﾀﾙ t60	t30x2	2.700 × 0.250	2	1.35	1.35 m2
	止水板 ｱﾙﾐ製既製品2850x1300		1.000	1	1.00	1.00 ヶ所
	中間ｻﾎﾟｰﾄ共					
	取合ｼｰﾘﾝｸﾞ MS-2 20x10		1.300	4	5.20	5.20 m

仕 上 計 算 書

本郷第1雨水ポンプ場

位置	仕上名称	備考	計算式	箇所	数量 小計	数量 合計
	〔 内外部 〕 1－12					
撤去	コンクリートはつり	t80	1.600 × 1.000 × 0.080	1	0.13	0.13 m3
	鋳鉄製ﾏﾝﾎｰﾙ φ600 撤去		1.000	1	1.00	1.00 ヶ所
運・処	ｺﾝｸﾘｰﾄがら 運搬	CONﾊﾂﾘ	0.130	1	0.13	0.13 m3
	ｺﾝｸﾘｰﾄがら 処分		0.130 × 2,350.000	1	305.50	305.50 kg
	金属くず 運搬	MH	0.360 × 0.785 × 0.100	1	0.03	0.03 m3
	金属くず 処分		38.000	1	38.00	38.00 kg

位置	仕上名称	備考	計算式	箇所	数量 小計	数量 合計
	〔 外 部 〕 1－12					
新設	ｺﾝｸﾘｰﾄ直均し仕上		1.600 × 1.000	1	1.60	
			0.600 × 0.600 × 0.785	-1	-0.28	1.32 m2
	ﾎﾞｲﾄﾞ型枠 φ600		0.600 × 0.600 × 0.785	1	0.28	0.28 m2
	あと施工ｱﾝｶｰ M12 下方向(金属系)		8.000	1	8.00	8.00 ヶ所
	耐水型鋳鉄製ﾏﾝﾎｰﾙ φ600		1.000	1	1.00	1.00 ヶ所

仕 上 計 算 書

本郷第1雨水ポンプ場

位置	仕上名称	備考	計算式	箇所	数量 小計	数量 合計
	〔 内部 〕 その他の耐水(仮蓋補強)					
仮蓋	補強材					
	H-100x100x6x8		1.4×2	1	2.80	
			1.8×2	1	3.60	
			1.9×1	1	1.90	
			計		8.30	
			ロス込 8.30×16.9kg/m×1.05		147.28	147.00 kg
	あと施工ｱﾝｶｰ M16 下向き(接着系)		18	1	18.00	18.00 ヶ所

位置	仕上名称	備考	計算式	箇所	数量 小計	数量 合計

（弁・ダンパー類）　令和4年度 雨水排水ポンプ場耐水化計画詳細設計業務 集計-　1

工事種目		種類		図番	
階　別		系統		本郷第1ポンプ場	

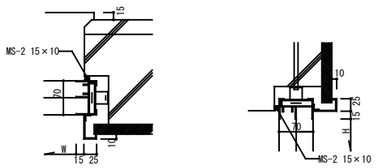
冷水・冷温水（65A以上）	A
給水（65A以上）	B

屋内露出	1			ｶﾗｰ亜鉛鉄板	カ	保温無し	ナ
屋外露出	2			ｽﾃﾝﾚｽ鋼板	ス		
天井隠蔽	3			ｱﾙﾐｶﾞﾗｽｸﾛｽ	ア		
床下、暗渠	4			着色ｱﾙﾐｶﾞﾗｽｸﾛｽ	着		

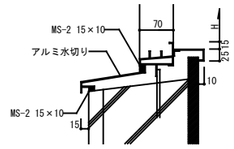
弁・ダンパー寸法	保温施行区分	個数（個）																		計（個）	保温			塗装		
逆水防止弁　100		1																		1						
既設インバート桝(SC-1)																										
インバート改修		1																		1						
計																				2						

建具枠廻り詳細図

アルミ製建具

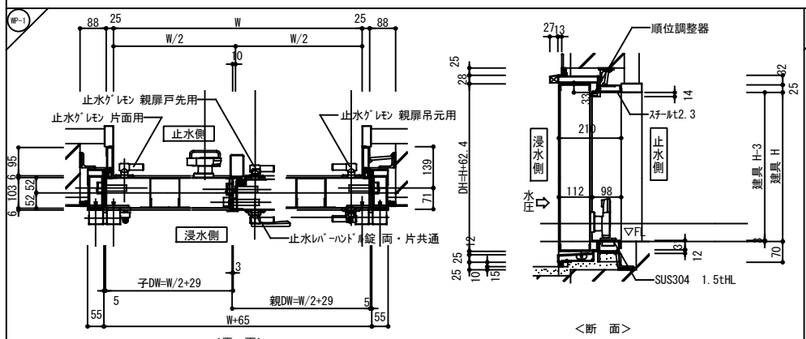


＜平　面＞　＜断　面＞



＜断　面＞

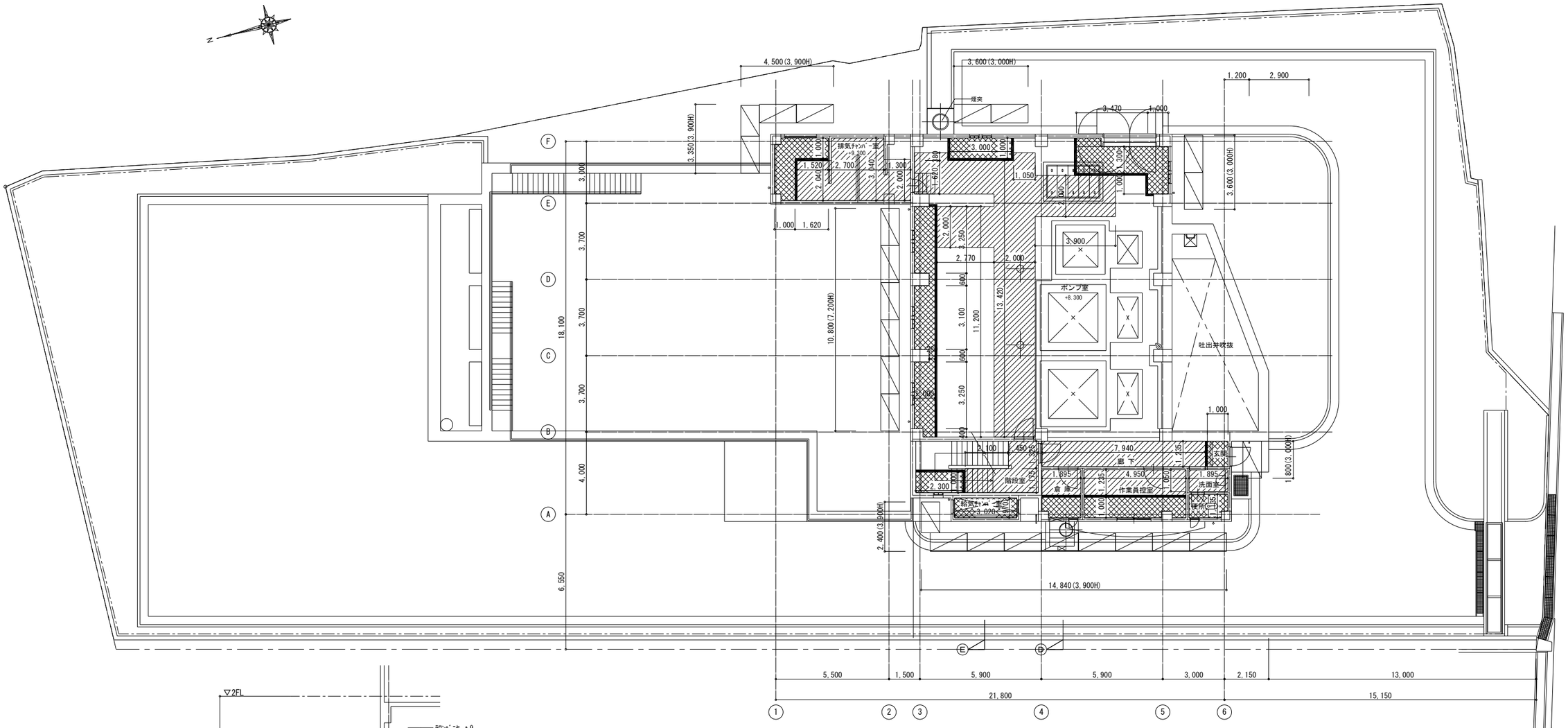
鋼製建具（耐水）

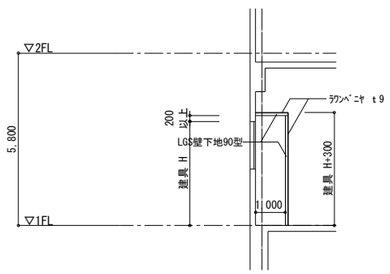


＜平　面＞

＜断　面＞

雨水排水ポンプ場耐水化工事（本郷第1雨水ポンプ場）			
事 業 名	公共下水道事業		
工事場所	三原市　本郷南五丁目		
図面番号	A-38	縮尺	―
図面名：	建具枠廻り詳細及び記号(参考図)		
三　原　市			





仮設間仕切断面図　S=1：100

凡 例

- 外部足場を示す
- 養生範囲を示す
- 通路養生範囲を示す
- 仮設間仕切(B)を示す

雨水排水ポンプ場耐水化工事(本郷第1雨水ポンプ場)			
事 業 名	公共下水道事業		
工事場所	三原市　本郷南五丁目		
図面番号	A-39	縮尺	S=1/100
図面名：	仮設計画図(参考図)		
三　原　市			

第１号　　直接仮設　　内訳明細書

名　　称	形　状　寸　法	単位	数　量	単　価	金　　額	平均価格(円)
養生		m2	40.3			
整理清掃・後片付け		m2	40.3			
通路養生		m2	87.9			
外部足場	枠組足場900枠　手摺先行方式	m2	203.0			
垂直養生	防音ｼｰﾄ張	m2	203.0			
内部足場	枠組足場900枠　手摺先行方式	m2	28.7			
〃	脚立足場	m2	203.0			
仮設間仕切(B)	LGS90	m2	134.0			
〃	GB-Rt12.5片面	m2	134.0			
仮設材運搬費		式	1.0			
項　目　計						

第２号　　防水改修　　内訳明細書

名　　称	形　状　寸　法	単位	数　量	単　価	金　　額	摘　　要
(撤去)						
ｼｰﾘﾝｸﾞ		m	94.9			
(新設)						
ｼｰﾘﾝｸﾞ	PU-2　15×10 外壁	m	70.5			
〃	MS-2　20×10 止水板取合	m	5.2			
項　目　計						

第３号　　外壁改修　　内訳明細書

名　　称	形　状　寸　法	単位	数　量	単　価	金　　額	摘　　要
(撤去)						
竪樋　撤去	VPφ75　上下端切断共	m	2.6			
鋳鉄製ﾏﾝﾎｰﾙφ600　撤去	枠共	ヶ所	1.0			
(新設)						
壁　ﾓﾙﾀﾙ塗	t20	m2	0.7			
ｺﾝｸﾘｰﾄ直均し仕上		m2	1.3			
壁　下地調整		m2	27.8			
壁　複層塗材RE		m2	27.8			
竪樋	ｶﾗｰVPφ75　上下端接続共	m	2.6			
耐水型鋳鉄製ﾏﾝﾎｰﾙφ600　新設		ヶ所	1.0			
抱き部ﾓﾙﾀﾙ塗		m	46.4			
項　目　計						

第４号　　建具改修　　内訳明細書

名　　称	形　状　寸　法	単位	数　量	単　価	金　　額	摘　　要
(撤去)						
ｽﾃﾝﾚｽ製建具　撤去	SSD-1　900×2685	ヶ所	1.0			
ｱﾙﾐ製建具　撤去	AW-1　400×1600 額縁共	ヶ所	2.0			
〃	AW-2　1600×1600 額縁共	ヶ所	1.0			
〃	AW-3　410×1610 額縁共	ヶ所	11.0			
〃	AG-1　600×3000 額縁共	ヶ所	2.0			
〃	AG-2　1500×2500 額縁共	ヶ所	1.0			
ｶﾞﾗｽ撤去		m2	14.2			
建具周囲はつり		m	89.2			
(新設) (ステンレス製建具)						
ｽﾃﾝﾚｽ製建具　新設	SSD-N1　900×2655 耐水扉・排煙窓900×585共	ヶ所	1.0			
取付工事費		式	1.0			
運搬費		式	1.0			
小　計						

第４号　　建具改修　　内訳明細書

名　　称	形　状　寸　法	単位	数　量	単　価	金　　額	摘　　要
(アルミ製建具新設)						
ｱﾙﾐ製建具　新設	AW-N1　410×1210	ヶ所	4.0			
〃	AG-N1　600×2300	ヶ所	2.0			
〃	AG-N2　1500×2200	ヶ所	1.0			
〃	AG-N3　750×1300	ヶ所	1.0			
〃	AG-N4　800×800	ヶ所	1.0			
取付工事費		式	1.0			
運搬費		式	1.0			
(ガラス)						
ｶﾞﾗｽﾌﾞﾛｯｸ	190×190×95	m2	2.0			
網入り型板ｶﾞﾗｽ	t6.8	m2	0.5			
ｶﾞﾗｽｼｰﾘﾝｸﾞ	SR-1　10×10	m	19.0			
(その他)						
ｼｰﾘﾝｸﾞ	MS-2　15×10 ｱﾙﾐ製建具取合	m	35.7			
小　計						

第４号　　建具改修　　内訳明細書

名　　称	形　状　寸　法	単位	数　量	単　価	金　　額	摘　　要
ｼｰﾘﾝｸﾞ	MS-2　20×10 SUS製建具取合	m	8.9			
建具周囲モルタル充填	外部建具　防水ﾓﾙﾀﾙ	m	46.4			
小　計						
項　目　計						

第５号　　内装改修　　内訳明細書

名　　称	形　状　寸　法	単位	数　量	単　価	金　額	摘　　要
(撤去)						
床　磁器質ﾀｲﾙ張　撤去	下地ﾓﾙﾀﾙ共	m2	0.2			
壁　ﾓﾙﾀﾙ塗　撤去		m2	10.9			
壁　陶器質ﾀｲﾙ張　撤去	下地ﾓﾙﾀﾙ共	m2	1.2			
壁　ｸﾞﾗｽｳｰﾙ吸音板　撤去		m2	6.3			
天井　ﾎﾞｰﾄﾞ　撤去	下地残し	m2	1.5			
(新設)						
ｺﾝｸﾘｰﾄ直均し仕上		m2	0.5			
床　下地調整	仕上面目荒し	m2	0.9			
床　ﾓﾙﾀﾙ塗	t30	m2	0.9			
床　長尺ﾋﾞﾆｰﾙ床ｼｰﾄ張		m2	0.9			
床　防水ﾓﾙﾀﾙ塗	t60(t30×2数量)	m2	1.4			
壁　ﾓﾙﾀﾙ塗	t20	m2	16.0			
壁　陶器質ﾀｲﾙ張	下地ﾓﾙﾀﾙ共	m2	1.3			
小　計						

第５号　　内装改修　　内訳明細書

名　　称	形　状　寸　法	単位	数　量	単　価	金　　額	摘　　要
壁　ｸﾞﾗｽｳｰﾙ吸音板張	t25	m2	5.9			
天井　ﾎﾞｰﾄﾞ張	GB-D　t9.5	m2	1.3			
〃	ｹｲｶﾙ板　t6.0	m2	0.2			
止水板　新設	ｱﾙﾐ製既製品 2850x1300 中間(SUS製)ｻﾎﾟｰﾄ共	ヶ所	1.0			
取付工事費		式	1.0			
運搬費		式	1.0			
小　計						
項　目　計						

第 6 号　　塗装改修　　内 訳 明 細 書

名　　称	形　状　寸　法	単位	数　量	単　価	金　　額	摘　　要
(内部)						
合成ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ塗	EP塗	m2	13.8			
項 目 計						

第７号　　躯体改修　　内訳明細書

名　　称	形　状　寸　法	単位	数　量	単　価	金　　額	摘　　要
(撤去)						
ｺﾝｸﾘｰﾄｶｯﾀｰ入		m	169.0			
ﾓﾙﾀﾙｶｯﾀｰ入		m	7.0			
ｺﾝｸﾘｰﾄ　撤去		m3	3.6			
躯体目荒し		m2	2.3			
鉄筋切断	D10	ヶ所	54.0			
(新設) (鉄筋)						
異形鉄筋	SD295　D10 ロス込	t	0.3			
〃	SD295　D13 ロス込	t	0.1			
〃	SD345　D19 ロス込	t	0.1			
鉄筋加工組立	RCラーメン構造　一般 NET	t	0.4			
スクラップ控除	H2	t	0.1			
鉄筋運搬費	4t車 NET	t	0.4			
ﾌﾚｱ溶接	D13 (両面5d＋1d×2)以上	ヶ所	472.0			
小　計						

第 7 号　　躯体改修　　内 訳 明 細 書

名　　称	形　状　寸　法	単位	数　量	単　価	金　　額	摘　　要
(ｺﾝｸﾘｰﾄ)						
普通ｺﾝｸﾘｰﾄ	Fc=21　S=18 躯体	m3	5.0			
〃	Fc=18　S=15 無筋	m3	0.1			
打設手間	ﾎﾟﾝﾌﾟ打設(躯体)	m3	5.0			
〃	ﾎﾟﾝﾌﾟ打設(無筋)	m3	0.1			
ﾎﾟﾝﾌﾟ圧送	打設量30m3未満(躯体)	m3	5.0			
〃	打設量30m3未満(無筋)	m3	0.1			
ﾎﾟﾝﾌﾟ圧送基本料金	打設量30m3未満(躯体)	回	1.0			
〃	打設量30m3未満(無筋)	回	1.0			
無収縮ﾓﾙﾀﾙ	Fm=30	m3	0.4			
(型枠)						
打放合板型枠	B種	m2	43.8			
型枠運搬費	4t車	m2	43.8			
打放し面補修	B種　ｺｰﾝ処理	m2	43.8			
ﾎﾞｲﾄﾞ型枠	φ600	m2	0.3			
小　計						

第７号　　躯体改修　　内訳明細書

名　　称	形　状　寸　法	単位	数　量	単　価	金　　額	摘　　要
圧入型枠	無収縮ﾓﾙﾀﾙ圧入型枠　両面	m	10.2			
水切目地	W15	m	35.7			
(その他)						
あと施工ｱﾝｶｰ	D19　下方向 接着系ｱﾝｶｰ	ヶ所	8.0			
〃	D19　横方向 接着系ｱﾝｶｰ	ヶ所	18.0			
〃	M12　下方向 金属系ｱﾝｶｰ	ヶ所	8.0			
(仮蓋補強)						
補強材	H-100x100x6x8	t	0.2			
あと施工ｱﾝｶｰ	M16　下向き 接着系ｱﾝｶｰ	本	18.0			
小　計						
項　目　計						

第 8 号　　運搬・処分費　　内 訳 明 細 書

名　　称	形　状　寸　法	単位	数　量	単　価	金　　額	摘　　要
(積込)						
ｺﾝｸﾘｰﾄ類	ｺﾝｸﾘｰﾄがら・がれき類	m3	4.1			
ﾎﾞｰﾄﾞ・木材類	上記以外	m3	4.0			
(運搬)						
ｺﾝｸﾘｰﾄがら		m3	3.8			代価表　1号
がれき類		m3	0.5			代価表　2号
ﾎﾞｰﾄﾞくず		m3	0.1			代価表　2号
金属くず		m3	1.6			代価表　3号
ｶﾞﾗｽくず		m3	0.8			代価表　2号
廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ		m3	1.6			代価表　4号
小　計						

第８号　運搬・処分費　内訳明細書

名　称	形状寸法	単位	数量	単価	金額	摘要
(処分)						
ｺﾝｸﾘｰﾄがら		t	8.9			
がれき類		t	0.6			
ﾎﾞｰﾄﾞくず		t	0.1			
金属くず		t	0.4			
ｶﾞﾗｽくず		t	0.8			
廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ		t	0.1			
小計						
項目計						

代 価 表

（1 号）

［名 称］ 撤去材運搬					1 m3 当り
［規格1］ コンクリートがら			［規格2］		
名 称 ・ 規 格 な ど	所要量	単 位	単 価	金 額	備 考
ダンプトラック運転 4t積級	0.03	日			所要量:D/10 D: 2.3 距離: 60km 補正係数: 1.27 DID: あり
採用単価					

（2 号）

［名 称］ 撤去材運搬					1 m3 当り
［規格1］ がれき類・ガラスくず・ボードくず			［規格2］		
名 称 ・ 規 格 な ど	所要量	単 位	単 価	金 額	備 考
ダンプトラック運転 2t積級	0.2	日			所要量:D/10 D: 4.5 距離: 60km 補正係数: 0.44 DID: あり
採用単価					

（3 号）

［名 称］ 撤去材運搬					1 m3 当り
［規格1］ 金属くず			［規格2］		
名 称 ・ 規 格 な ど	所要量	単 位	単 価	金 額	備 考
ダンプトラック運転 2t積級	0.15	日			所要量:D/10 D: 1.5 距離: 7km 補正係数: 1 DID: あり
採用単価					

代 価 表

（4 号）

［名 称］ 撤去材運搬					1 m3 当り
［規格1］ 廃プラスチック			［規格2］		
名 称 ・ 規 格 な ど	所要量	単 位	単 価	金 額	備 考
ダンプトラック運転 2t積級	0.45	日			所要量:D/10 D: 4.5 クリーンエナジー 距離: 60km 補正係数: 1 DID: あり
採用単価					

（5 号）

［名 称］ 撤去機械運転					1 日 当り
［規格1］ ダンプトラック4t車			［規格2］		
名 称 ・ 規 格 な ど	所要量	単 位	単 価	金 額	備 考
一般運転手	1	人			
燃料 軽油	32	ℓ			
ダンプトラック損料 4t車	1.29	供用日			
タイヤ損耗費		供給日			所要量は機械損料による
その他 20-30% 対象:運転手、燃料	1	式			
計	1	式			
採用単価					

代 価 表

（６ 号）

［名 称］ 撤去機械運転　　１ 日　　当り
［規格1］ ダンプトラック 2t積級　　［規格2］

名 称 ・ 規 格 な ど	所要量	単 位	単 価	金 額	備 考
一般運転手	1	人			
燃料 軽油	20.8	ℓ			
ダンプトラック損料 2t車	1.29	供用日			
タイヤ損耗費		供給日			所要量は機械損料による
その他 20-30% 対象:運転手、燃料	1	式			
計	1	式			
採用単価					

機　械　工　事

様式　1

機器一覧表（1／1）

名　　称	型　　式	仕　　様 （形状・寸法）	数　量		備　　考
燃料移送ポンプ	ギヤポンプ	φ20×35L/分×0.4kW	2	台	一時撤去・再据付
油水分離槽	直列型3連式	2080×740×1100	1	式	

様式　2-1

直接材料総集計表（　1　／　1　）

類　　別	項　　目	仕　　様 (形状・寸法)	摘　　要	計上数量		頁
小配管	SGP	20A		4.29	m	
小配管	SGP	25A		6.31	m	
小配管	SGP	32A		5.67	m	
小配管	同上付属材料費	1.70		1	式	
小配管	SUS304TP S20S	100A		1.565	m	
小配管	同上付属材料費	1.25		1	式	
小配管弁類	手動玉形弁	20A (FC/SUS・10KF)		6	個	
小配管弁類	スイング式逆止弁	20A (FC/SUS・10KF)		2	個	
小配管弁類	伸縮継手	32A (SS/ゴム)		2	個	
鋼製加工品	架台類	SS400	加工費含む	829	kg	

様式　2-2

複合工費総集計表（　1　／　1　）

類　　別	項　　目	仕　　様 (形状・寸法)	摘　　要	計上数量		頁
複合工	コンクリート工	無筋		0.05	m3	
複合工	コンクリート工	鉄筋		3.81	m3	
複合工	モルタル仕上工	20mm		27.30	m2	
複合工	型枠工			11.60	m2	
複合工	鉄筋工			114.00	kg	
複合工	掘削工			6.68	m3	
複合工	残土処分工			6.48	m3	
複合工	埋戻し工			0.20	m3	
複合工	砕石工			0.85	m3	
複合工	捨てコン			0.43	m3	
複合工	はつり工	鉄筋		0.01	m3	
複合工	はつりガラ処分工	鉄筋		0.01	m3	

様式　2-3　　【撤去】

スクラップ集計表（1／1）

類　　別	項　　目	仕　　様 （形状・寸法）	単位重量		撤去数量		計上数量		頁
スクラップ集計表									
金属くず	SGP	20A	1.68	kg/m	3.90	m	6.55	kg	
		25A	2.43	kg/m	0.89	m	2.16	kg	
		32A	3.38	kg/m	1.10	m	3.72	kg	
金属くず計							12.40	kg	

様式　3

直接労務費集計表（1／1）

（据付）

項　　目		普通 作業員	設備 機械工	配 管 工	左 官 工	溶 接 工	ダクト工	電　　工	技 術 者	機械設備 据付工
機器等据付工	(P.)	1.01								9.09
電気機器等据付工	(P.)									
鋳鉄管(350φ以下)据付工	(P.)									
鋳鉄管(400φ以下)据付工〈人力〉	(P.)									
同上　〈クレーン類使用〉	(P.)									
大口径鋼管据付工	(P.)									
小配管据付工	(P.)			3.03						
合計人数		1.01		3.03						9.09
設計書計上人工数①		1人		3人						9人

（撤去）

項　　目		普通 作業員	設備 機械工	配 管 工	左 官 工	溶 接 工	ダクト工	電　　工	技 術 者	機械設備 据付工
機器等据付工	(P.)	0.17	1.57							
電気機器等据付工	(P.)									
鋳鉄管(350φ以下)据付工	(P.)									
鋳鉄管(400φ以下)据付工	(P.)									
同上　〈クレーン類使用〉	(P.)									
大口径鋼管据付工	(P.)									
小配管据付工	(P.)			0.32						
合計人数		0.17	1.57	0.32						
設計書計上人工数②		1人	1人	1人						

項　　目		普　通 作業員	設　備 機械工	配 管 工	左 官 工	溶 接 工	ダクト工	電　　工	技 術 者	機械設備 据 付 工
総人工数①＋②		2人	1人	4人						9人

【注】職種別人工数の集計ごとに、有効数字3桁とし、次の位及び小数点以下は切り捨てる。

様式　4-1-1

機器等据付工（1/1）

機器名称	数量	単位重量(TON)	種別	歩掛り 単位当り据付工（人）		割増・低減率	補正歩掛	据付工 第1～第6類	据付工 第7類(直材)	輸送費用重量(TON)	備考
燃料移送ポンプ（再据付）	2	0.05	1	12.2×0.05^0.711	1.45		1	2.9		0.10	
油水分離槽	1	1.5	4	4.8×1.5	7.2		1	7.2		1.50	
鋼製加工品	1	0.829	7	4.9×0.829008	4.06		1		4.06		

計	10.10	4.06	1.6	t
機械設備据付工（×0.9）	9.09人		輸送重量計	
普通作業員（×0.1）	1.01人			
設備機械工（×1）		4.06 人		

<<類別歩係>>

第１類　Y= $12.2X^{0.711}$

第２類　Y= $4.8X^{0.776}$

第３類　Y= $11.7X^{0.712}$

第４類　Y= 4.8X

第５類　Y= 3.5X’（メンブレン散気装置。×’は必要空気量(m^3/min）、単位重量には必要空気量を記載している。また、散気板、散気筒は別途積算。）

第６類　Y= 7.5X

第７類　Y= 4.9X

【注】補正した歩掛りは、標準歩掛りの有効桁数と同一とし、以下は切り捨てる 。

様式　4-1-2　　【撤去】

機器等撤去工（1/1）

機器名称	数量	単位重量(TON)	種別	歩掛り 単位当り据付工(人)		割増・低減率	補正歩掛	据付工 第1～第6類	据付工 第7類(直材)	輸送費用重量(TON)	備考
燃料移送ポンプ（一時撤去）	2	0.05	1	12.2×0.05^0.711	1.45		0.6	1.74		0.10	

様式　8-1-1

鋼管・小配管据付工（1／2）

管種（A-1）：配管用（白、黒）水道用鋼管

呼び径	屋内配管			屋外配管			埋設配管			呼び径
	設計数量	配管工		設計数量	配管工		設計数量	配管工		
mm	(m)	歩掛（人/m）	人員（人）	(m)	歩掛（人/m）	人員（人）	(m)	歩掛（人/m）	人員（人）	mm
15		0.13			0.10			0.06		15
20		0.16		4.290	0.12	0.514		0.07		20
25		0.19		6.310	0.15	0.946		0.09		25
32		0.23		5.670	0.18	1.020		0.11		32
40		0.27			0.21			0.12		40
50		0.33			0.26			0.15		50
65		0.41			0.32			0.19		65
80		0.49			0.39			0.21		80
100		0.60			0.48			0.27		100
125		0.74			0.59			0.32		125
150		0.88			0.70			0.40		150
200		1.16			0.92			0.57		200
250		1.44			1.15			0.77		250
300		1.72			1.37			0.93		300
350		1.99			1.61			1.11		350
小　計						2.480				小　計

（A）計	配 管 工	0+2.48+0	2.480

(A)～(D) 合　計	配 管 工	(A) 2.480 (B) (C) 0.547 (D)	3.027

【注】人員は、小数点第4位切捨て、小数第3位までとする。

様式　8-1-3

鋼管・小配管据付工（2／2）

管種（C-1）：ステンレス鋼々管

呼び径	屋内配管			屋外配管			埋設配管			呼び径
	設計数量	配管工		設計数量	配管工		設計数量	配管工		
mm	(m)	歩掛（人/m）	人員（人）	(m)	歩掛（人/m）	人員（人）	(m)	歩掛（人/m）	人員（人）	mm
15		0.17			0.13			0.07		15
20		0.20			0.16			0.09		20
25		0.24			0.19			0.11		25
32		0.29			0.23			0.12		32
40		0.35			0.28			0.15		40
50		0.42			0.33			0.19		50
65		0.53			0.42			0.21		65
80		0.63			0.50			0.24		80
100		0.78			0.62		1.565	0.35	0.547	100
125		0.96			0.76			0.45		125
150		1.14			0.91			0.54		150
200		1.50			1.20			0.75		200
250		1.86			1.48			1.00		250
300		2.22			1.77			1.27		300
350		2.58			2.20			1.50		350
小　計									0.547	小　計

（C）計	配 管 工	0+0+0.547	0.547

(A)～(D) 合　計	配 管 工	(A) 2.480 (B) (C) 0.547 (D)	3.027

【注】人員は、小数点第4位切捨て、小数第3位までとする。

様式　8-2-1

小配管材料・据付集計表（1／1）

管材：

管種 口径	ｽｹﾙﾄﾝNo. 付属材料率		1	2								計	補完率 (65A以下×1.1倍)	計上数量
SGP 20A	材料	1.70	3.900									3.900	4.290	4.29
		1.35												
		1.00												
	据付	屋内												
		屋外	3.900									3.900	4.290	
		埋設												
		既設												
SGP 25A	材料	1.70	5.740									5.740	6.310	6.31
		1.35												
		1.00												
	据付	屋内												
		屋外	5.740									5.740	6.310	
		埋設												
		既設												
SGP 32A	材料	1.70	5.150									5.150	5.670	5.67
		1.35												
		1.00												
	据付	屋内												
		屋外	5.150									5.150	5.670	
		埋設												
		既設												
SUS304TP S20S 100A	材料	1.70												
		1.25		1.565								1.565		1.565
		1.00												
	据付	屋内												
		屋外												
		埋設												
		既設												

【注】補正した歩掛は、標準歩掛の有効桁数と同一とし、以下は切り捨てる。

様式　8-3

小配管用弁類材料集計表（1／　）

形式・口径 ＼ スケルトンNo.			1														計上
玉形弁	20A	FC/SUS	6														6
逆止弁	20A	FC/SUS	2														2
伸縮継手	32A	ゴム	2														2

様式　8-4-1

小配管弁類材料計算書（１／１）

ｽｹﾙﾄﾝ No.	管種 口径	種別 既設近辺	種別 屋内	種別 屋外 露出	種別 屋外 埋設	種別 サポート 用	種別 サポート 不用	種別 塗装 用	種別 塗装 不用	実数量 計算式	実数量 付属材料率	実数量 (m)	弁類 形式	弁類 数量
1	SGPW 20A			○		○		○		スケルトンに依る。	1.7	3.900	玉形弁(FC/SUS)	6
													逆止弁(FC/SUS)	2
1	SGPW 25A			○		○		○		スケルトンに依る。	1.7	5.740		
1	SGPW 32A			○		○		○		スケルトンに依る。	1.7	5.150	伸縮継手(ゴム)	2
2	SUS304TP S20S				○		○		○	スケルトンに依る。	1.25	1.565		

【注】実数量を記載し、四捨五入はしない。

様式　9-1-1

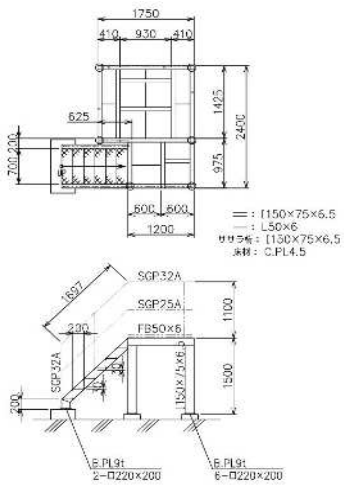
鋼（SS）材料集計表（1／1）

番号	項　　目	鋼材名	26 [150×75×6.5	38 L50×50×6	64 32A SGP 黒	65 25A SGP 黒	46 FB 50×6	16 PL 9t	20 CHP 4.5t					
		単位	m	m	m	m	m	m2	m2					
1	燃料移送ポンプ点検架台		26.719	2.845	13.194	23.094	7.6	0.352	4.75575					
A	数　量　合　計		26.719m	2.845m	13.194m	23.094m	7.600m	0.352m	4.756m2					
B	単　位　重　量		18.6	4.43	3.38	2.43	2.36	70.65	36.99					
C	鋼 材 重 量 計	A×B	496.973	12.603	44.595	56.118	17.936	24.868	175.915				計	829.008　kg
D	計 上 重 量		497.0kg	12.6kg	44.6kg	56.1kg	17.9kg	24.9kg	175.9kg				計上	829　kg
													7類	0.829　t
E	単位塗装面積(m^2/kg)		31.21	43.95	38.46	41.15	47.5	28.3	56.62					
F	塗 装 面 積(m^2)	D×E	15.510	0.553	1.715	2.309	0.852	0.703	9.960				計上	31.602　m2

【注】C,Fは小数点以下第４位を切り捨てとし、第３位までとする 。
【注】Dは有効数字３桁、小数点以下第２位以内とし、次の位を四捨五入する 。
【注】計はD,Fの集計。計上数量は有効数字３桁、小数点以下第２位以内とし次の位を四捨五入する 。

様式　9-2

鋼材料・拾い出し表（1 ／1）

No.　1	燃料移送ポンプ点検架台	屋　外	材質・計算式	値	単位
		設　置	［150×75×6.5		
			1.5*6+1.425*4+1.75*2+0.975*3+1.2+0.6+(0.2+1.697)＊2	26.719	m
			L50×50×6		
			1.425+0.41*2+0.6	2.845	m
			SGP32A		
			1.1*2+1.697*2+1.2+2.4+1.75+1.425+0.625+0.2	13.194	m
			SGP25A		
			1.1*11+1.697*2+1.2+2.4+1.75+1.425+0.625+0.2	23.094	m
			FB50×6		
			1.2+2.4+1.75+1.425+0.625+0.2	7.600	m
			PL9t		
			0.22*0.2*2+0.22*0.2*6	0.352	m2
			C.PL4.5		
			1.2*0.975+1.425*1.75+0.7*(0.2+0.03*2)＊6	4.756	m2

No.			材質・計算式	値	単位

様式　10-1-1

複合工及び仮設工集計表

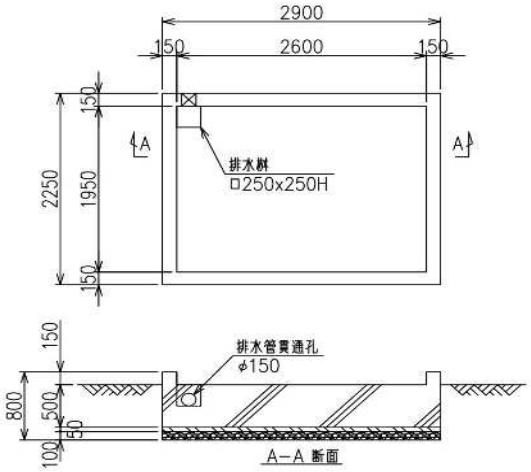
No.	コンクリート工		モルタル仕上工		ﾓﾙﾀﾙ							塗装		はつり工	はつりガ
	無筋 (m^3)	鉄筋 (m^3)	厚20mm (m^2)	厚50mm (m^2)	充填工 (m^3)	型枠工 (m^2)	鉄筋工 (ｋｇ)	掘削工 (m^3)	埋戻工 (m^3)	残土処分 (m^3)	砕石工 (m^2)	防食 (m^2)	捨てコン (m3)	鉄筋 (m^3)	ラ処分工 (m3)
1		3.478	26.175			8.057	104.340	4.241		4.241	0.653		0.326		
2		0.331	1.073			2.100	9.930	0.307		0.307	0.047		0.024		
3	0.054					1.440									
4								2.128	0.195	1.933	0.154		0.077		
5			0.038		0.001	0.038								0.001	0.001
計	0.054	3.809	27.286		0.001	11.635	114.270	6.676	0.195	6.481	0.854		0.427	0.001	0.001
計上	0.05	3.81	27.30		0.00	11.60	114.00	6.68	0.20	6.48	0.85		0.43	0.01	0.01

【注】計上数量は、有効数字3桁、小数点以下2以内とし次の位を四捨五入する。

様式　10-2

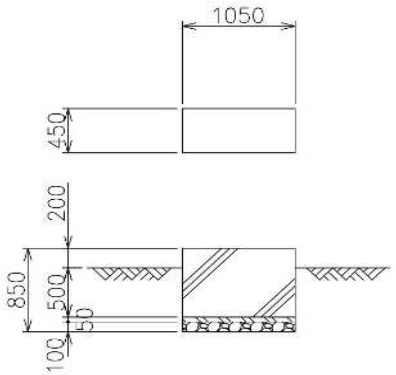
複合工及び仮設工計算書（1 ／1）

No.　1　屋外防油堤



項目・計算式	値	単位
鉄筋コンクリート工		
2.9*2.25*0.5+0.15*0.15*(2.9+1.95)*2-(0.075*0.075*PI())*0.15	3.478	m3
型枠工		
(2.9+2.25)*2*0.65+(2.6+1.95)*2*0.15-0.075*0.075* π	8.057	m2
鉄筋工		
3.478+30kg/m3	104.340	kg
掘削工		
2.9*2.25*(0.8-0.15)	4.241	m3
残土処分工		
2.9*2.25*(0.8-0.15)	4.241	m3
砕石工		
2.9*2.25*0.1	0.653	m3
捨てコン		
2.9*2.25*0.05	0.326	m3
モルタル仕上工（厚20mm）		
2.9*2.25+(2.9+2.25+2.6+1.95)*2+0.25*0.25* 4	26.175	m2

No.　2　燃料移送ポンプ点検架台階段基礎

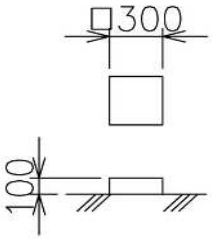


項目・計算式	値	単位
鉄筋コンクリート工		
1.05*0.45*(0.5+0.2)	0.331	m3
型枠工		
(1.05+0.45)*2*(0.5+0.2)	2.100	m2
鉄筋工		
0.331*30kg/m3	9.930	kg
掘削工		
1.05*0.45*(0.85-0.2)	0.307	m3
残土処分工		
1.05*0.45*(0.85-0.2)	0.307	m3
砕石工		
1.05*0.45*0.1	0.047	m3
捨てコン		
1.05*0.45*0.05	0.024	m3
モルタル仕上工（厚20mm）		
1.05*0.45+(1.05+0.45)*2*0.2	1.073	m2

様式　10-2

複合工及び仮設工計算書（1 ／1）

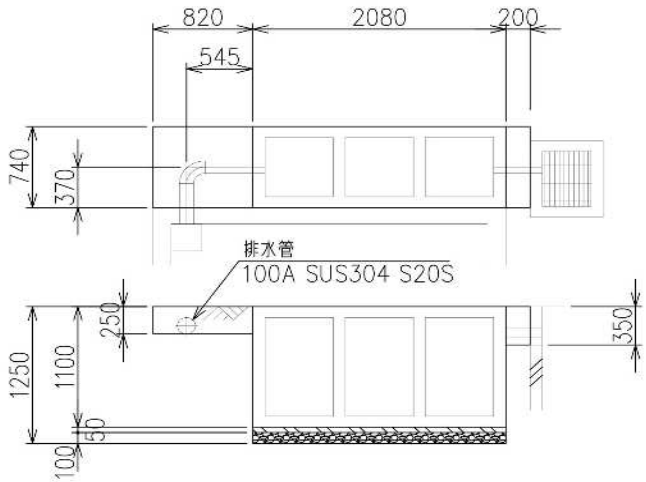
No.　3	燃料移送ポンプ点検架台柱脚根 巻



6ヶ

項目・計算式	値	単位
無筋コンクリート工		
(0.3*0.3*0.1)*6	0.054	m3
型枠工		
(0.3+0.3)*2*0.2*6	1.440	m2

No.　4	油水分離槽廻り土工



項目・計算式	値	単位
掘削工		
2.08*0.74*1.25+0.82*0.74*0.25+0.2*0.74*0.3 5	2.128	m3
残土処分工		
2.128*0.74*1.25+(0.1*0.1*π/4*(0.37+0.545+0.2))	1.933	m3
砕石工		
2.08*0.74*0.1	0.154	m3
捨てコン		
2.08*0.74*0.05	0.077	m3
埋戻工		
2.128-1.933	0.195	m3
※油水分離槽は既製品を別途手配するものとす る		

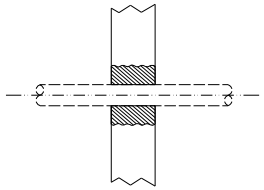
様式　10-3

複合工及び仮設工計算書　(5／5)

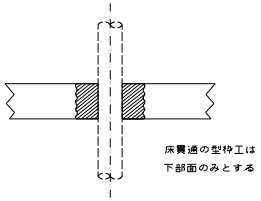
No.　5　油水分離槽排水管貫通

はつり工
　　開口面積×壁　(床)　厚さ
モルタル充填工
　　(開口面積-配管断面積)×壁　(床)　厚さ
モルタル仕上工
　　(開口面積-配管断面積)×　2
型枠工
　　(開口面積-配管断面積)×　2　(壁)　又は1　(床)

壁



床



スケルトンNo.	配管名称	貫通形態 壁	貫通形態 床	はつりの有無	開口寸法 (mm) 角　形	開口寸法 (mm) 丸　形	配管口径 (mm)	箇所数	壁・床厚 (mm)	鉄筋はつり工 (m^3)	鉄筋はつりガラ処分工 (m^3)	モルタル充填工 (m^3)	モルタル仕上工 (厚20mm) (m^2)	型枠工 (m^2)	
2	防油堤排水管	○		無	×	150φ	100φ	1	150			0.001	0.019	0.019	
2	雨水排水工貫通	○		有	×	150φ	100φ	1	100	0.001	0.001		0.019	0.019	
					×										
					×										
					×										
					×										
					×										
					×										
					×										
					×										
					×										
					×										
					×										
					×										
					×										
					×										
					×										
					×										
					×										
					×										
					×										
					×										
					×										
					×										
小計										0.001	0.001	0.001	0.038	0.038	

【注】各積算数量は、小数点以下第４位を切り捨てる 。

様式　8-1-1　　【撤去】

鋼管・小配管据付工（1／1）

管種（A-1）：配管用（白、黒）水道用鋼管

呼び径	屋内配管			屋外配管			埋設配管			呼び径
	設計数量	配管工		設計数量	配管工		設計数量	配管工		
mm	(m)	歩掛（人/m）	人員（人）	(m)	歩掛（人/m）	人員（人）	(m)	歩掛（人/m）	人員（人）	mm
15		0.13			0.10			0.06		15
20		0.16		3.900	0.12	0.468		0.07		20
25		0.19		0.890	0.15	0.133		0.09		25
32		0.23		1.102	0.18	0.198		0.11		32
40		0.27			0.21			0.12		40
50		0.33			0.26			0.15		50
65		0.41			0.32			0.19		65
80		0.49			0.39			0.21		80
100		0.60			0.48			0.27		100
125		0.74			0.59			0.32		125
150		0.88			0.70			0.40		150
200		1.16			0.92			0.57		200
250		1.44			1.15			0.77		250
300		1.72			1.37			0.93		300
350		1.99			1.61			1.11		350
小　計						0.799				小　計

（A）計	配 管 工	0+0.799+0	0.799

(A)～(D) 合　計	配 管 工	(A)　0.799 (B) (C) (D)	0.799

↓

撤去率40%	0.3196

【注】人員は、小数点第4位切捨て、小数第3位までとする。

様式　8-2-2　　【撤去】

小配管材料・据付集計表（1／1）

管材：

管種 口径	付属材料率 ＼ ｽｹﾙﾄﾝNo.		101									計		計上数量
SGP 20A	材料		3.900									3.900		
	据付	屋内												
		屋外	3.900									3.900		
		埋設												
		既設												
SGP 25A	材料		0.890									0.890		
	据付	屋内												
		屋外	0.890									0.890		
		埋設												
		既設												
SGP 32A	材料		1.102									1.102		
	据付	屋内												
		屋外	1.102									1.102		
		埋設												
		既設												
	材料													
	据付	屋内												
		屋外												
		埋設												
		既設												

【注】補正した歩掛は、標準歩掛の有効桁数と同一とし、以下は切り捨てる。

様式　8-4-2

【撤去】

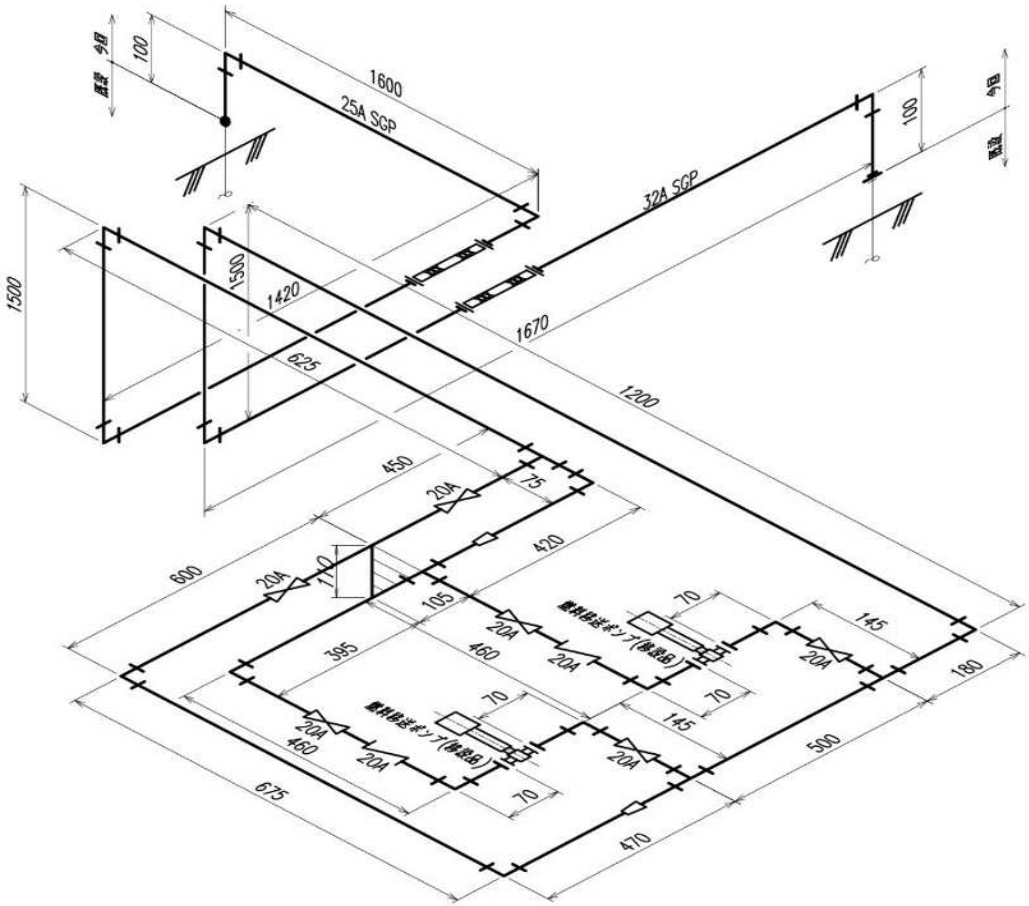
小配管弁類材料計算書（１／１）

ｽｹﾙﾄﾝ No.	管種 口径	種別 既設近辺	屋内	屋外 露出	屋外 埋設	サポート 用	サポート 不用	塗装 用	塗装 不用	実数量 計算式		実数量 (m)	弁類 形式	弁類 数量
101	SGPW 20A									スケルトンに依る。		3.900		
101	SGPW 25A									スケルトンに依る。		0.890		
101	SGPW 32A									スケルトンに依る。		1.102		

【注】実数量を記載し、四捨五入はしない。

スケルトン

No.	管名称
1	更新　燃料移送管



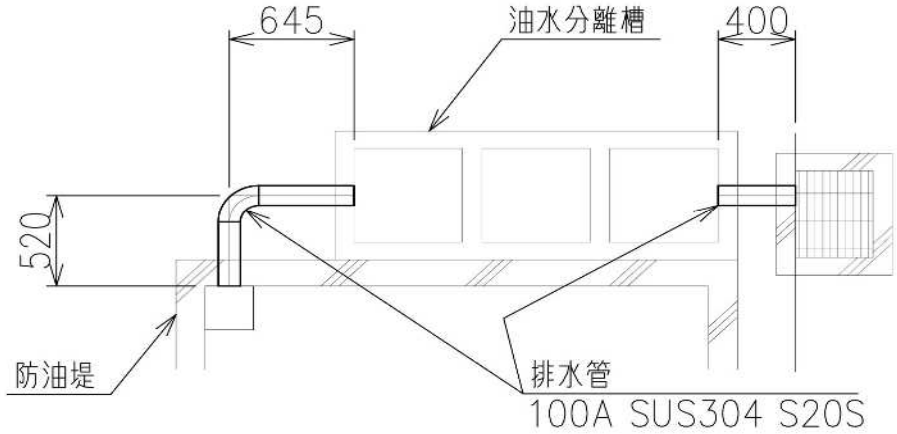
小配管

管種	口径 (mm)	配管場所	区分	支持材	塗装	被覆	錯綜	配管長（m）	
SGP(黒)	20	屋外配管	設置	○	○	－	－	(0.145+0.07*2+0.46)*2+0.11+0.105+0.47+0.675+0.6+0.45	3.900
SGP(黒)	25	屋外配管	設置	○	○	－	－	0.42+0.075+0.625+1.5+1.42+1.6+0.1	5.740
SGP(黒)	32	屋外配管	設置	○	○	－	－	0.1+1.67+1.5+1.2+0.18+0.5	5.150

小配管弁・継手類

型式	口径(mm)	個数
玉型弁(FC/SUS)10K	20	6
逆止弁(FC/SUS)10K	20	2
可とう伸縮継手(ゴム製)200mm偏心	32	2

No.	管名称
1	防油堤排水管



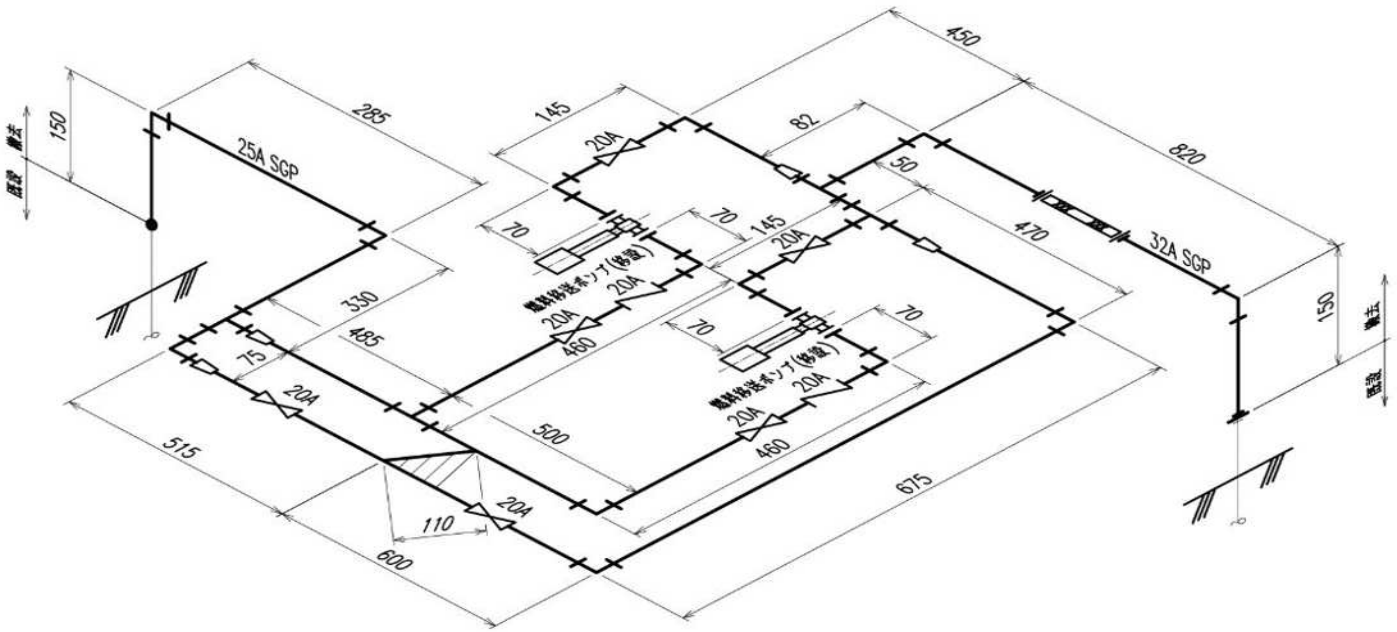
小配管

管種	口径 (mm)	配管場所	区分	支持材	塗装	被覆	錯綜	配管長（m）	
SUS-TP(Sch20)	100	埋設配管	設置	－	－	－	－	0.52+0.645+0.4	1.565

小配管弁・継手類

型式	口径(mm)	個数

No.	管名称
1	撤去　燃料移送管



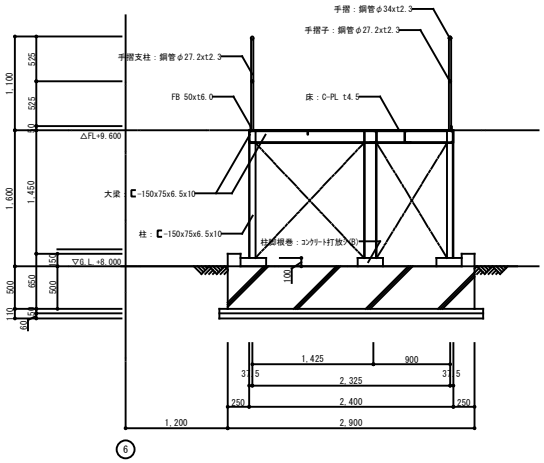
小配管

管種	口径 (mm)	配管場所	区分	支持材	塗装	被覆	錯綜	配管長（m）	
SGP(黒)	20	屋外配管	設置	○	○	－	－	(0.145+0.07*2+0.46)*2+0.11+0.105+0.47+0.675+0.6+0.45	3.900
SGP(黒)	25	屋外配管	設置	○	○	－	－	0.05+0.075+0.33+0.285+0.15	0.890
SGP(黒)	32	屋外配管	設置	○	○	－	－	0.15+0.82+0.082+0.05	1.102

小配管弁・継手類

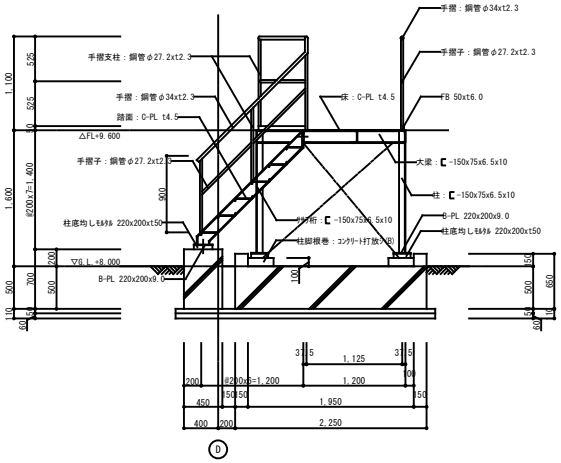
型式	口径(mm)	個数
玉型弁(FC/SUS)10K	20	6
逆止弁(FC/SUS)10K	20	2
可とう伸縮継手(ゴム製)200mm偏心	32	1

参考図



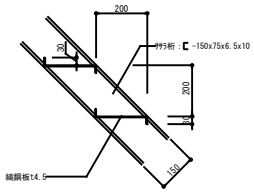
A-A断面図　S=1/30

特記なき限り鋼材の仕上げは溶融亜鉛ﾒｯｷとする



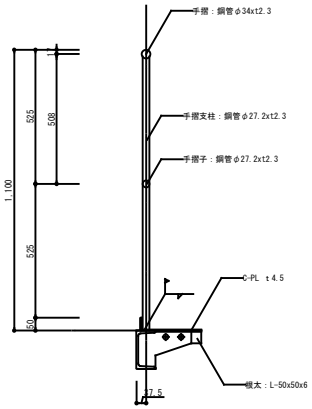
B-B断面図　S=1/30

特記なき限り鋼材の仕上げは溶融亜鉛ﾒｯｷとする



段板詳細図　S=1/10

特記なき限り鋼材の仕上げは溶融亜鉛ﾒｯｷとする

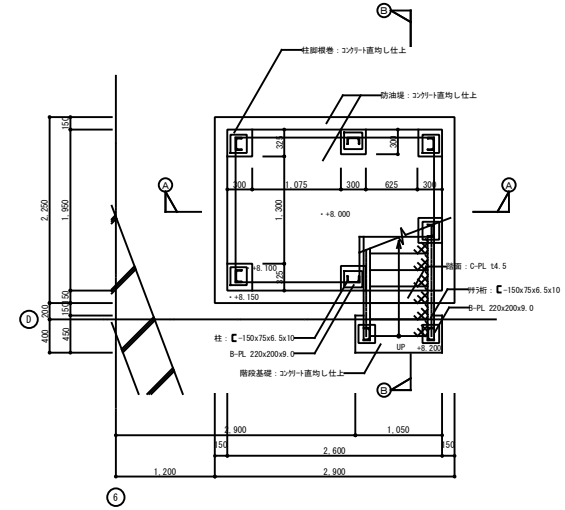


手摺詳細図　S=1/10

特記なき限り鋼材の仕上げは溶融亜鉛ﾒｯｷとする

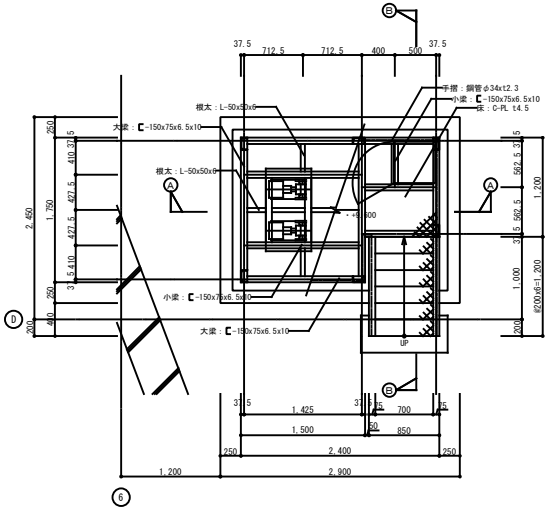
雨水排水ポンプ場耐水化工事（本郷第1雨水ポンプ場）			
事 業 名	公共下水道事業		
工事場所	三原市　本郷南五丁目		
図面番号	PM-6	縮尺	S=1/30,1/10
図面名：	制御盤架台詳細図(2)（参考）		
三　原　市			

参考図



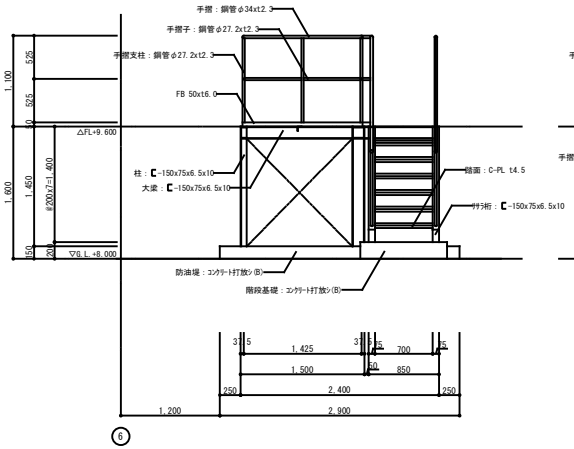
下部平面図　S=1/30

特記なき限り鋼材の仕上げは溶融亜鉛ﾒｯｷとする



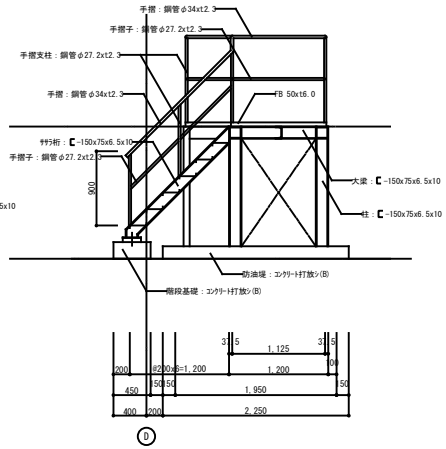
上部平面図　S=1/30

特記なき限り鋼材の仕上げは溶融亜鉛ﾒｯｷとする



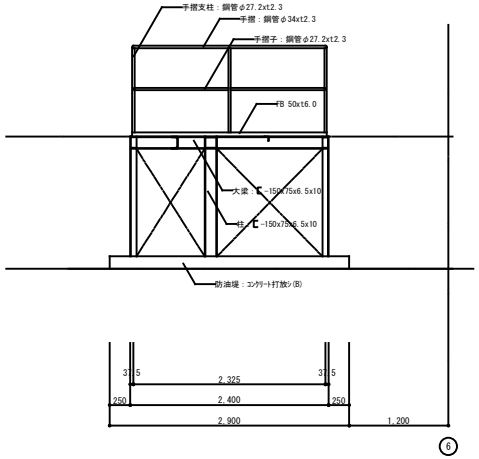
西立面図　S=1/30

特記なき限り鋼材の仕上げは溶融亜鉛ﾒｯｷとする



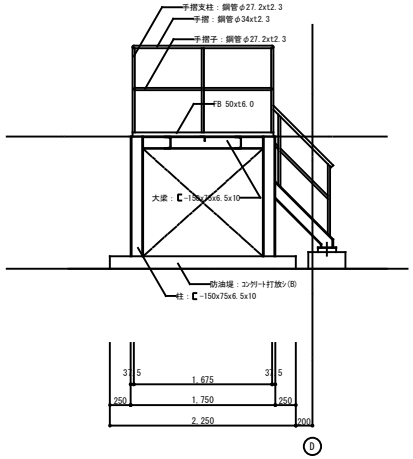
南立面図　S=1/30

特記なき限り鋼材の仕上げは溶融亜鉛ﾒｯｷとする



東立面図　S=1/30

特記なき限り鋼材の仕上げは溶融亜鉛ﾒｯｷとする



北立面図　S=1/30

特記なき限り鋼材の仕上げは溶融亜鉛ﾒｯｷとする

雨水排水ポンプ場耐水化工事(本郷第1雨水ポンプ場)			
事 業 名	公共下水道事業		
工事場所	三原市　本郷南五丁目		
図面番号	PM-5	縮尺	S=1/30
図面名：	制御盤架台詳細図(1)(参考)		
三　原　市			

総括情報表

変更回数 適用単価地区 単価適用日 諸経費体系	0 65 三原市(本郷) 00-06.05.01(0) F　下水道機械設備	≪凡例≫ Co ･･･コンクリート　As ･･･アスファルト DT ･･･ダンプトラック　BH ･･･バックホウ CC ･･･クローラクレーン　TC ･･･トラッククレーン RTC･･･ラフテレーンクレーン

	当世代	前世代
復興補正区分 前払金支出割合区分 週休補正区分 契約保証区分	00　補正なし 00　補正無し 03　４週８休以上 01　金銭的保証(0.04%)	

建設技能労働者や交通誘導員等の現場労働者にかかる経費として，労務費のほか各種経費（法定福利費の事業者負担額，労務管理費，安全訓練等に要する費用等）が必要であり，本積算ではこれらを現場管理費等の一部として率計上している。

本工事費　内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
本工事費					X2000
設備工（機器費）	1	式			Y1800F　レベル1
ポンプ設備工	1	式			Y28003F　レベル2
ポンプ設備工	1	式			Y280031F　レベル3
設計技術費対象外	1	式			Y48003102F　レベル4
単純な部分取替えを行う機器費 設計技術費[対象外]					#0040
油水分離槽	1	基			F0009　00
＊＊機器費＊＊					
設備工	1	式			Y1900F　レベル1

本工事費　内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
ポンプ設備工	1	式			Y29003F　レベル2
材料費	1	式			Y390032F　レベル3
直接材料費	1	式			Y49003201F　レベル4
小配管　SGP	1	式			V0001　00 単第0 -0001　表
小配管　SUS304TP	1	式			V0002　00 単第0 -0002　表
小配管弁類	1	式			V0003　00 単第0 -0003　表
鋼製加工品	1	式			V0004　00 単第0 -0004　表
補助材料費	1	式			Y49003202F　レベル4
補助材料費（率分）	1	式			SY49202F　00 機械設備 単第0 -0005　表

本工事費　内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
労務費	1	式			Y390033F　レベル3
一般労務費	1	式			Y49003301F レベル4
一般労務	1	式			V0005　00 単第0 -0006　表
機械設備据付労務費	1	式			Y49003302F レベル4
機械設備据付工	1	式			V0006　00 単第0 -0007　表
複合工費	1	式			Y390034F　レベル3
撤去工	1	式			Y49003401F レベル4
構造物とりこわし工(鉄筋構造物) 人力施工	0.01	m3			SDT00033　00 単第0 -0008　表
土工	1	式			Y49003403F レベル4

本工事費　内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
機械掘削工(小型バックホウ)	6.68	m3			SG1D0001001 00 単第0 -0009　表
機械投入埋戻工(小型バックホウ)	0.2	m3			SG1D0002002 00 単第0 -0011　表
基礎砕石 砕石の厚さ7.5cmを超え12.5cm以下 RC-40	7	m2			SPK23040034 00 単第0 -0013　表
現場打基礎コンクリート 18-8-25(20)BB 基礎砕石有り	0.4	m3			SPK23040049 00 単第0 -0014　表
諸経費対象外					#0046
発生土受入費	6	m3			F000000100　00
コンクリート工	1	式			Y49003404F レベル4
鉄筋工 SD345_D13 一般構造物 [規]10t未満	0.114	t			SS000099　　00 単第0 -0015　表
型枠 一般型枠 鉄筋・無筋構造物	11.6	m2			SPK23040156 00 単第0 -0016　表

本工事費　内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
コンクリート 無筋・鉄筋構造物 コンクリート(各種) バックホウ(クレーン機能付)打設	3.81	m3			SPK23040154 00 単第0 -0017　表
コンクリート 無筋・鉄筋構造物 コンクリート(各種) バックホウ(クレーン機能付)打設	0.05	m3			SPK23040154 00 単第0 -0018　表
＊＊直接工事費＊＊					
共通仮設費率分					Z0010
計算情報…… 対象額…… 率……					対象額合計…
＊＊共通仮設費＊＊					
＊＊純工事費＊＊					
現場管理費 計算情報…… 対象額…… 率……					対象額合計…
＊＊据付工事原価＊＊					

本工事費　内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
設計技術費 計算情報…… 対象額…… 率……					対象額合計…
＊＊工事原価＊＊					
一般管理費率分額 計算情報…… 対象額…… 率……		機器補正率…			前払補正率… 対象額合計…
契約保証費 計算情報…… 対象額…… 率……					当初請対額 当初対象額
＊＊一般管理費計＊＊					
＊＊工事価格計＊＊					
消費税相当額 計算情報…… 対象額…… 率……					
＊＊請負工事費計＊＊					

施工単価表

小配管　SGP　　V0001　　単第0 -0001　表

1　式　当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
SGP　20A	4.29	m			
SGP　25A	6.31	m			
SGP　32A	5.67	m			
付属材料費	170	%			#01
＊＊＊　単位当たり　＊＊＊	1	式			

施工単価表

小配管　SUS304TP　　V0002　　単第0 -0002　表

1　式　当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
SUS304TP　20S	1.565	m			
付属材料費	125	%			#01
＊＊＊　単位当たり　＊＊＊	1	式			

施工単価表

小配管弁類　　V0003　　単第0 -0003　表

1　式　当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
手動玉形弁 20A (FC/SUS・10K)	6	個			
スイング式逆止弁 20A (FC/SUS・10KF)	2	個			
伸縮継手 32A (SS/ゴム)	2	個			
＊＊＊　単位当たり　＊＊＊	1	式			

施工単価表

鋼製加工品　　V0004　　単第0 -0004　表

1　式　当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
架台類 　溶融亜鉛メッキ含	920	kg			
＊＊＊　単位当たり　＊＊＊	1	式			

施工単価表

補助材料費（率分）　SY49202F　単第0 -0005　表

機械設備　1　式　当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
補助材料費（率分）	1.00	式			
＊＊＊　単位当たり　＊＊＊	1	式			

施工単価表

一般労務　　V0005　　単第0 -0006　表

1　式　当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
普通作業員	2	人			
配管工	4	人			
設備機械工	6	人			
＊＊＊　単位当たり　＊＊＊	1	式			

施工単価表

機械設備据付工　　V0006　　単第0 -0007　表

1　式　当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
機械設備据付工標準賃金	9	人			
＊＊＊　単位当たり　＊＊＊	1	式			

施工単価表

構造物とりこわし工(鉄筋構造物)　SDT00033　単第0 -0008　表

人力施工　1　m3　当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
昼間_鉄筋構造物【手間のみ】 人力施工 時間的制約なし	1.000	m3			
諸雑費	1	式			
＊＊＊　単位当たり　＊＊＊	1	m3			
A=1　昼間施工 D=1　時間的制約なし			B=2　人力施工		

施工単価表

機械掘削工(小型バックホウ)　SG1D0001001　単第0 -0009　表

1　m3　当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役	2.4	人			
普通作業員	6.7	人			
機-18_小型バックホウ運転 113_標準型 排2 山積0.13m3(平積0.10m3)	2.273	日			単第0-0010　表 100/44
諸雑費	1	式			
1m3当り(計/100m3)					
＊＊＊　単位当たり　＊＊＊	1	m3			
A=2　山積0.13m3					

施工単価表

機-18_小型バックホウ運転　SM1802010　単第0 -0010　表

113_標準型 排2　山積0.13m3(平積0.10m3)　1　日　当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
運転手(特殊)	1.00	人			
軽油 パトロール給油,2～4KL積載車給油	23.00	L			
小型バックホウ(クローラ型) 標準型・排2 山積0.13/平積0.10m3	1.78	供用日			
諸雑費	1	式			
＊＊＊　単位当たり　＊＊＊	1	日			
A=3　113_標準型 排2 C=1　運転労務数量(人/日) E=1.78　機械損料数量(供用日/日)			B=13　山積0.13m3(平積0.10m3) D=23　燃料消費量(L/日)		

施工単価表

機械投入埋戻工(小型バックホウ)　SG1D0002002　単第0 -0011　表

1　m3　当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役	2.5	人			
普通作業員	3.8	人			
機-18_小型バックホウ運転 113_標準型 排2 山積0.13m3(平積0.10m3)	1.538	日			単第0-0010　表 100/65
タンパ締固め	100	m3			単第0-0012　表
諸雑費	1	式			
1m3当り(計/100m3)					
＊＊＊　単位当たり　＊＊＊	1	m3			
A=2　山積0.13m3			B=6　材料別途		

施工単価表

タンパ締固め　　SPK23040021　　単第0 -0012　表

1　m3　当り

機械構成比:　1.31%　労務構成比:　96.83%　材料構成比:　1.86%　市場単価構成比:　0.00%　標準単価 :　1,487.20000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
<賃>タンパ(ランマ) 質量60～80kg	1.31%		タンパ及びランマ 質量60～80kg		KTPC00020 KTPT00020
特殊作業員	51.85%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
普通作業員	44.98%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
ガソリン,レギュラー スタンド渡し,スタンド給油	1.86%		ガソリンレギュラースタンド		TTPC00014 TTPT00014
積算単価			積算単価		EP001
A=1　-(全ての費用)					

施工単価表

基礎砕石　SPK23040034　単第0 -0013　表

砕石の厚さ7.5cmを超え12.5cm以下　RC-40　1　m2　当り

機械構成比:　5.88%　労務構成比:　76.10%　材料構成比:　18.02%　市場単価構成比:　0.00%　標準単価 :　1,145.70000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
<賃>バックホウ(クローラ型) 山積0.8m3(平積0.6) 排出ガス対策型(第1,2,3次基準値)低騒音	5.84%		バックホウ クローラ型 山積0.8m3(平積0.6m3)		KTPC00018 KTPT00018
その他(機械)			その他(機械)		EK009
普通作業員	36.47%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
特殊作業員	15.92%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
運転手(特殊)	14.24%		運転手(特殊)		RTPC00006 RTPT00006
土木一般世話役	8.95%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
その他(労務)			その他(労務)		ER009
再生クラッシャラン 40～0mm	12.56%		再生クラッシャーラン RC-40		TTPC00008 TTPT00008
軽油 パトロール給油,2～4KL積載車給油	5.43%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013

施工単価表

基礎砕石　　SPK23040034　　単第0 -0013　表

砕石の厚さ7.5cmを超え12.5cm以下　　RC-40　　1　　m2　　当り

機械構成比:　5.88%　　労務構成比:　76.10%　　材料構成比:　18.02%　　市場単価構成比:　0.00%　　標準単価 :　1,145.70000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
その他(材料)			その他(材料)		EZ009
積算単価			積算単価		EP001
A=2　砕石の厚さ7.5cmを超え12.5cm以下 D=1　-(全ての費用)			B=1　RC-40		

施工単価表

現場打基礎コンクリート　SPK23040049　単第0 -0014　表

18-8-25(20)BB　基礎砕石有り　1　m3　当り

機械構成比:　2.44%　労務構成比:　69.93%　材料構成比:　27.63%　市場単価構成比:　0.00%　標準単価 :　69,862.00000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
<賃>バックホウ(クローラ型クレーン機能付) 山積0.8m3(平積0.6)吊能力2.9t 排1～3,2011,2014	1.72%		バックホウ [クローラ型クレーン付] 排ガス型(第2次)山積0.8m3吊2.9t		KTPC00006 KTPT00006
<賃>バックホウ(クローラ型) 山積0.8m3(平積0.6) 排出ガス対策型(第1,2,3次基準値)低騒音	0.72%		バックホウ クローラ型 山積0.8m3(平積0.6m3)		KTPC00018 KTPT00018
普通作業員	19.26%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
型わく工	18.65%		型わく工		RTPC00010 RTPT00010
特殊作業員	10.81%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
土木一般世話役	10.22%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
その他(労務)			その他(労務)		ER009
レディーミクストコンクリート指定品 呼び強度18,スランプ8,粗骨材20(25) W/C(60%),種別(高炉)	22.66%		生コンクリート 高炉 18-8-25(20) W/C 60%		TTPC00003 TTPT00003
軽油 パトロール給油,2～4KL積載車給油	1.67%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013

施工単価表

現場打基礎コンクリート　SPK23040049　単第0 -0014　表

18-8-25(20)BB　基礎砕石有り　1　m3　当り

機械構成比:　2.44%　労務構成比:　69.93%　材料構成比:　27.63%　市場単価構成比:　0.00%　標準単価 :　69,862.00000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
その他(材料)			その他(材料)		EZ009
積算単価			積算単価		E9999
A=1　18-8-25(20)BB D=1　一般養生・特殊養生(練炭)			C=1　基礎砕石有り E=1　-		

施工単価表

鉄筋工　SS000099　単第0 -0015　表

SD345_D13　一般構造物［規]10t未満　1　t　当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
加工・組立【手間のみ】 一般構造物	1.000	t			
異形棒鋼<JISG3112> SD345,D13 単位質量0.995kg/m	1.030	t			1*1.03
諸雑費	1	式			
＊＊＊　単位当たり　＊＊＊	1	t			
A=1　- D=1　一般構造物 F=2　［規]10t未満			B=5　SD345_D13 E=1　- H=1　-		
I=1　- K=1　-			J=1　-		

施工単価表

型枠　　SPK23040156　　単第0 -0016　表

一般型枠　　鉄筋・無筋構造物　　1　　m2　　当り

機械構成比:　0.00%　　労務構成比:　100.00%　　材料構成比:　0.00%　　市場単価構成比:　0.00%　　標準単価 :　8,890.10000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
型わく工	46.99%		型わく工		RTPC00010 RTPT00010
普通作業員	25.08%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
土木一般世話役	9.24%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
その他(労務)			その他(労務)		ER009
積算単価			積算単価		EP001
A=1　一般型枠 C=1　-(全ての費用)			B=1　鉄筋・無筋構造物		

施工単価表

コンクリート　SPK23040154　単第0 -0017　表

無筋・鉄筋構造物 コンクリート(各種)　バックホウ(クレーン機能付)打設　1　m3　当り

機械構成比:　4.32%　労務構成比:　37.95%　材料構成比:　57.73%　市場単価構成比:　0.00%　標準単価 :　29,669.00000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
<賃>バックホウ(クローラ型クレーン機能付) 山積0.8m3(平積0.6)吊能力2.9t 排1～3,2011,2014	4.08%		バックホウ [クローラ型クレーン付] 排ガス型(第2次)山積0.8m3吊2.9t		KTPC00006 KTPT00006
その他(機械)			その他(機械)		EK009
特殊作業員	11.26%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
普通作業員	10.14%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
土木一般世話役	7.41%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
運転手(特殊)	6.90%		運転手(特殊)		RTPC00006 RTPT00006
その他(労務)			その他(労務)		ER009
レディーミクストコンクリート 24-8-40N　(W/C55%以下)	55.58%		生コンクリート 高炉 24-12-25(20) W/C 55%		F0000000002 TTPT00343
軽油 パトロール給油,2～4KL積載車給油	2.03%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013

施工単価表

コンクリート　SPK23040154　単第0 -0017　表

無筋・鉄筋構造物 コンクリート(各種)　バックホウ(クレーン機能付)打設　1　m3　当り

機械構成比:　4.32%　労務構成比:　37.95%　材料構成比:　57.73%　市場単価構成比:　0.00%　標準単価 :　29,669.00000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
その他(材料)			その他(材料)		EZ009
積算単価			積算単価		E9999
A=1　無筋・鉄筋構造物 C=4　コンクリート(各種) F=2　一般養生 K=1　-(全ての費用)			B=2　バックホウ(クレーン機能付)打設 D=2　【F】コンクリート(m3) J=1　-		

施工単価表

コンクリート　SPK23040154　単第0 -0018　表

無筋・鉄筋構造物 コンクリート(各種)　バックホウ(クレーン機能付)打設　1　m3　当り

機械構成比:　4.32%　労務構成比:　37.95%　材料構成比:　57.73%　市場単価構成比:　0.00%　標準単価 :　29,669.00000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
<賃>バックホウ(クローラ型クレーン機能付) 山積0.8m3(平積0.6)吊能力2.9t 排1～3,2011,2014	4.08%		バックホウ [クローラ型クレーン付] 排ガス型(第2次)山積0.8m3吊2.9t		KTPC00006 KTPT00006
その他(機械)			その他(機械)		EK009
特殊作業員	11.26%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
普通作業員	10.14%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
土木一般世話役	7.41%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
運転手(特殊)	6.90%		運転手(特殊)		RTPC00006 RTPT00006
その他(労務)			その他(労務)		ER009
レディーミクストコンクリート 18-8-40N　(W/C60%以下)	55.58%		生コンクリート 高炉 24-12-25(20) W/C 55%		F0000000001 TTPT00343
軽油 パトロール給油,2～4KL積載車給油	2.03%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013

施工単価表

コンクリート　SPK23040154　単第0 -0018　表

無筋・鉄筋構造物 コンクリート(各種)　バックホウ(クレーン機能付)打設　1　m3　当り

機械構成比:　4.32%　労務構成比:　37.95%　材料構成比:　57.73%　市場単価構成比:　0.00%　標準単価 :　29,669.00000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
その他(材料)			その他(材料)		EZ009
積算単価			積算単価		E9999
A=1　無筋・鉄筋構造物 C=4　コンクリート(各種) F=2　一般養生 K=1　-(全ての費用)			B=2　バックホウ(クレーン機能付)打設 D=1　【F】コンクリート(m3) J=1　-		

電　気　工　事

目　次
本郷第1雨水ﾎﾟﾝﾌﾟ場

1. 人工集計表---------- 1- 1

[本工事]
2. 材料集計表---------- 2- 1
3. 材料内訳表---------- 3-1- 1
4. 拾い出し根拠表---------- 4-1- 1

[移設工事]
5. 据付工集計表---------- 5-1- 1

[再利用]
6. 据付工集計表---------- 6-1- 1

[撤去工事]
7. 材料集計表---------- 7- 1
8. 材料内訳表---------- 8-1- 1
9. 拾い出し根拠表---------- 9-1- 1

物件名：　三原市耐水化設計

集計設備（機材内容）

3.　本郷第1雨水ﾎﾟﾝﾌﾟ場(今回)　　（ケーブル類　材料類　機器類）
4.　本郷第1雨水ﾎﾟﾝﾌﾟ場(撤去)　　（ケーブル類　材料類　機器類）

材 料 数 量　　(*) 印は工量無　　［本郷第1雨水ﾎﾟﾝﾌﾟ場］

(1)	低圧ケーブル	600V EM-CE 3.5 sq- 3 c	m	92.5
(2)	低圧ケーブル	600V EM-CE 3.5 sq- 2 c	m	107
(3)	制御ケーブル	EM-CEE 1.25 sq- 20 c	m	45.2
(4)	制御ケーブル	EM-CEE 1.25 sq- 10 c	m	45.2
(5)	制御ケーブル	EM-CEE 1.25 sq- 6 c	m	34.1
(6)	制御ケーブル	EM-CEE-S 1.25 sq- 2 c	m	40.7
(7)	その他電線	EM-IE 3.5 sq	m	54.2
(8)	電線管類	FEP 65 mm (埋込)	m	2.9
(9)	電線管類	FEP 50 mm (埋込)	m	2.9
(10)	電線管類	CP 54 mm (露出)	m	25.1
(11)	電線管類	CP 28 mm (露出)	m	7.0
(12)	電線管類	CP 22 mm (露出)	m	20.2
(13)	電線管類	異種管接続材 H型FEP 65φ用	個	2 (*)
(14)	電線管類	異種管接続材 H型FEP 50φ用	個	2 (*)
(15)	電線管類	プルボックス (SUS-WP) 300*300*200	個	4
(16)	複合工費	防火区画処理補修 壁1000*300	箇所	1 (*)
(17)	複合工費	防火区画処理補修 床 900*350	箇所	1 (*)
(18)	複合工費	コア抜き 壁 100φ	箇所	2 (*)
(19)	土工事	埋設標識シート ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝｸﾛｽﾀﾞﾌﾞﾙ 150W	m	3.57
(20)	土工事	掘削	m3	2.04 (*)
(21)	土工事	埋戻し	m3	1.50 (*)
(22)	土工事	残土処理	m3	0.42 (*)
(23)	土工事	砂充填	m3	0.52 (*)
(24)	配線工	直線接続 CEE-S 1.25sq 2C(防水熱収縮ﾁｭｰﾌﾞ	個所	1 (*)
(25)	基礎工	鋼材据付重量 (歩掛)	ton	0.01

(26)	基礎工	鋼材加工 (SUS)	kg	9.01 (*)
(27)	基礎工	コンクリートはつり	m3	0.14 (*)
(28)	一般労務費	電　工 (据付)	人	32
(29)	技術労務費	技術者 (据付)	人	2
(30)	技術労務費	技術者 (単体調整)	人	1

機 器 数 量(移設)　　数量・単位は据付入力欄のものとします[本郷第1雨水ﾎﾟﾝﾌﾟ場]

(1)	機　器	(LCB-P08)燃料移送ﾎﾟﾝﾌﾟ現場操作盤	面	1	(屋外ｽﾀﾝﾄﾞ形 500W*400D*800H)
(2)	機　器	燃料貯蔵ﾀﾝｸ液位計変換器	台	1	(変換器)

機 器 数 量(再利用)　　数量・単位は据付入力欄のものとします[本郷第1雨水ﾎﾟﾝﾌﾟ場]

(1)	機　器	(LCB-P08)燃料移送ﾎﾟﾝﾌﾟ現場操作盤	面	1	(屋外ｽﾀﾝﾄﾞ形 500W*400D*800H)
(2)	機　器	燃料貯蔵ﾀﾝｸ液位計変換器	台	1	(変換器)

材 料 数 量(撤去)　　(*) 印は工量無　　［本郷第1雨水ﾎﾟﾝﾌﾟ場］

(1)	低圧ケーブル	600V CV 3.5 sq- 3 c	m	86.1
(2)	低圧ケーブル	600V CV 3.5 sq- 2 c	m	104
(3)	制御ケーブル	CVV 1.25 sq- 20 c	m	40.9
(4)	制御ケーブル	CVV 1.25 sq- 10 c	m	40.9
(5)	制御ケーブル	CVV 1.25 sq- 6 c	m	35.2
(6)	制御ケーブル	CVV-S 1.25 sq- 2 c	m	39.9
(7)	その他電線	IV 3.5 sq	m	46.9
(8)	電線管類	CP 54 mm (露出)	m	6.2
(9)	電線管類	CP 28 mm (露出)	m	16.1
(10)	電線管類	CP 22 mm (露出)	m	21.6
(11)	電線管類	プルボックス (SUS-WP) 300*300*200	個	2

人　工　集　計　表　　［本郷第1雨水ﾎﾟﾝﾌﾟ場］

集計表名称	据付・配線工							単体調整	重量(撤去重量)	試験工				
	技術者	電　工						技術者	(ｔ)	技術者	電　工			
材料集計表－1		8.98												
材料集計表－2		1.17												
材料集計表－3		9.50												
材料集計表－4		1.61												
材料集計表－5		0.04												
(移　設)据付工集計表(S-301)	1.26	3.1						0.56						
(再利用)据付工集計表(S-401)	0.74	1.82						0.33						
(撤　去)材料集計表－1		3.20												
(撤　去)材料集計表－2		0.37												
(撤　去)材料集計表－3		2.21												
(撤　去)材料集計表－4		0.32												
合計	2.00	32.32						0.89						
設計数量	2	32						1						

材　料　集　計　表 － 1　　[本郷第1雨水ﾎﾟﾝﾌﾟ場]

内訳区分	600V EM-CE				600V EM-CE				EM-CEE				EM-CEE				EM-CEE			
	3.5 sq				3.5 sq				1.25 sq				1.25 sq				1.25 sq			
	3 c				2 c				20 c				10 c				6 c			
	P&D	RACK	CP	FEP	P&D	RACK	CP	FEP	P&D	RACK	CP	FEP	P&D	RACK	CP	FEP	P&D	RACK	CP	FEP
CHK (3- 1)	31.4	30.2	25.1	5.8	21.6	30.2	49.2	5.8	12.9	15.1	14.3	2.9	12.9	15.1	14.3	2.9	12.9	15.1	6.1	
合計値　(A)	31.4	30.2	25.1	5.8	21.6	30.2	49.2	5.8	12.9	15.1	14.3	2.9	12.9	15.1	14.3	2.9	12.9	15.1	6.1	
補完率　(B)																				
(C)=(A)×(B)	31.4	30.2	25.1	5.8	21.6	30.2	49.2	5.8	12.9	15.1	14.3	2.9	12.9	15.1	14.3	2.9	12.9	15.1	6.1	
設計数量 (D)=Σ(C)	92.5				106.8 ----> 107				45.2				45.2				34.1			
電工単位工量(E)=(E0)	0.016	0.025	0.021	0.018	0.013	0.020	0.017	0.015	0.050	0.075	0.063	0.056	0.029	0.044	0.037	0.033	0.020	0.030	0.025	0.022
電工量　(C)×(E)	0.50	0.75	0.52	0.10	0.28	0.60	0.83	0.08	0.64	1.13	0.90	0.16	0.37	0.66	0.52	0.09	0.25	0.45	0.15	

C- 1 / 3　　電工量小計＝ 8.98

材　料　集　計　表 － 2　　[本郷第1雨水ﾎﾟﾝﾌﾟ場]

内訳区分	EM-CEE-S				EM-IE															
	1.25 sq				3.5 sq															
	2 c																			
	P&D	RACK	CP	FEP	P&D	RACK	CP	FEP												
CHK (3- 2)	17.6	15.1	8.0				45.5	8.7												
合計値　(A)	17.6	15.1	8.0				45.5	8.7												
補完率　(B)																				
(C)=(A)×(B)	17.6	15.1	8.0				45.5	8.7												
設計数量 (D)=Σ(C)	40.7				54.2															
電工単位工量(E)=(E0)	0.012	0.018	0.015	0.013	0.008	0.013	0.011	0.009												
電工量　(C)×(E)	0.21	0.27	0.12				0.50	0.07												

C- 2 / 3　　電工量小計＝ 1.17

材　料　集　計　表 － 3　　［本郷第1雨水ﾎﾟﾝﾌﾟ場］

内訳区分	FEP				FEP				CP				CP				CP			
	65 mm				50 mm				54 mm				28 mm				22 mm			
	露出	埋込			露出	埋込			露出	埋込			露出	埋込			露出	埋込		
CHK (3- 2)		2.9				2.9			25.1											
CHK (3- 3)													7.0				20.2			
合計値　(A)		2.9				2.9			25.1				7.0				20.2			
補完率　(B)																				
(C)=(A)×(B)		2.9				2.9			25.1				7.0				20.2			
設計数量 (D)=(C)		2.9				2.9			25.1				7.0				20.2			
電工単位工量(E)=(E0)	0.040	0.040			0.035	0.035			0.26	0.22			0.12	0.10			0.096	0.080		
電工量　(C)×(E)		0.11				0.10			6.52				0.84				1.93			

C- 3 / 3　　電工量小計＝ 9.50

材　料　集　計　表 － 4　　[本郷第1雨水ﾎﾟﾝﾌﾟ場]

内訳書番号	電線管類	電線管類	電線管類	複合工費	複合工費	複合工費	土工事	土工事
	異種管接続材	異種管接続材	プルボックス (SUS-WP)	防火区画処理補修	防火区画処理補修	コア抜き	埋設 標識シート	掘削
	H型 FEP 65φ用	H型 FEP 50φ用	300*300*200	壁1000*300	床 900*350	壁 100φ	ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝｸﾛｽ ﾀﾞﾌﾞﾙ 150W	
	個	個	個	箇所	箇所	箇所	m	m3
ZHK (3- 1)	2	2	4	1	1	2	3.40	2.04
合計値 (A)	2	2	4	1	1	2	3.40	2.04
補完率 (B)							1.05	
(C)=(A)×(B)	2	2	4	1	1	2	3.5700	2.04
設計数量 (D)=(C)	2	2	4	1	1	2	3.57	2.04
電工 単位工量 (E)			0.40				0.004	
工 量 (C)×(E)			1.60				0.01	

Z- 1 / 2　　電工量小計=1.61

材　料　集　計　表 － 5　　[本郷第1雨水ﾎﾟﾝﾌﾟ場]

内訳書番号	土工事	土工事	土工事	配線工	基礎工	基礎工	基礎工	
	埋戻し	残土処理	砂充填	直線接続	鋼材据付 重量	鋼材加工	コンクリート はつり	
				CEE-S 1.25sq 2C (防水熱収縮ﾁｭｰﾌﾞ	(歩掛)	(SUS)		
	m3	m3	m3	個所	ton	kg	m3	
ZHK (3- 2)	1.50	0.42	0.52	1	0.01	9.01	0.14	
合計値 (A)	1.50	0.42	0.52	1	0.01	9.01	0.14	
設計数量 (D)=(A)	1.50	0.42	0.52	1	0.01	9.01	0.14	
電工 単位工量 (E)					4.9			
工 量 (A)×(E)					0.04			

Z- 2 / 2　　電工量小計=0.04

本郷第1雨水ﾎﾟﾝﾌﾟ場(今回)　　材　料　内　訳　表

	配線区間		600V EM-CE				600V EM-CE				EM-CEE				EM-CEE				EM-CEE			
			3.5 sq				3.5 sq				1.25 sq				1.25 sq				1.25 sq			
			3 c				2 c				20 c				10 c				6 c			
NO	自	至	P&D	RACK	CP	FEP	P&D	RACK	CP	FEP	P&D	RACK	CP	FEP	P&D	RACK	CP	FEP	P&D	RACK	CP	FEP
3001	CC-P	No.1燃料移送ﾎ	15.7	15.1	12.3	2.9																
3004	CC-P	No.2燃料移送ﾎ	15.7	15.1	12.8	2.9																
3006	LCB-P08	LCB-P06					4.0	15.1	29.2	2.9												
3007	LCB-P08	LCB-P04							13.9	2.9												
3009	RY-P	LCB-P08									12.9	15.1	14.3	2.9								
3010	RY-P	LCB-P08													12.9	15.1	14.3	2.9				
3011	RY-P	燃料貯蔵ﾀﾝｸ液																	12.9	15.1	6.1	
3012	KP	燃料貯蔵ﾀﾝｸ液					17.6	15.1	6.1													
(1/3)	CHK (3- 1)		31.4	30.2	25.1	5.8	21.6	30.2	49.2	5.8	12.9	15.1	14.3	2.9	12.9	15.1	14.3	2.9	12.9	15.1	6.1	

本郷第1雨水ﾎﾟﾝﾌﾟ場(今回)　　材　料　内　訳　表

	配線区間		EM-CEE-S				EM-IE				FEP				FEP				CP			
			1.25 sq				3.5 sq				65 mm				50 mm				54 mm			
			2 c																			
NO	自	至	P&D	RACK	CP	FEP	P&D	RACK	CP	FEP	露出	埋込			露出	埋込			露出	埋込		
3002	CC-P	No.1燃料移送ﾎ							12.3	2.9												
3003	CC-P	No.1燃料移送ﾎ																	10.8			
3005	CC-P	No.2燃料移送ﾎ							12.8	2.9												
3008	LCB-P08	LCB-P04							14.3	2.9												
3009	RY-P	LCB-P08																	14.3			
3012	KP	燃料貯蔵ﾀﾝｸ液							6.1													
3013	KP	燃料貯蔵ﾀﾝｸ液	17.6	15.1	6.1																	
3014	燃料貯蔵ﾀﾝｸ液	給油口ﾎﾞｯｸｽ			1.9																	
3015	地中埋設管路(															2.9						
3016	地中埋設管路(											2.9										
(2/3)	CHK (3- 2)		17.6	15.1	8.0				45.5	8.7		2.9				2.9			25.1			

本郷第1雨水ﾎﾟﾝﾌﾟ場(今回)　　材　料　内　訳　表

	配線区間		CP				CP															
			28 mm				22 mm															
NO	自	至	露出	埋込			露出	埋込														
3001	CC-P	No.1燃料移送ﾎ	1.5																			
3004	CC-P	No.2燃料移送ﾎ	2.0																			
3006	LCB-P08	LCB-P06	3.5																			
3011	RY-P	燃料貯蔵ﾀﾝｸ液					6.1															
3012	KP	燃料貯蔵ﾀﾝｸ液					6.1															
3013	KP	燃料貯蔵ﾀﾝｸ液					6.1															
3014	燃料貯蔵ﾀﾝｸ液	給油口ﾎﾞｯｸｽ					1.9															
(3/3)	CHK (3- 3)		7.0				20.2															

本郷第1雨水ﾎﾟﾝﾌﾟ場(今回)　　材　料　内　訳　表

NO	区分	電線管類	同　左	同　左	複合工費	同　左	同　左	土工事	同　左
		異種管接続材	異種管接続材	プルボックス (SUS-WP)	防火区画処理補修	防火区画処理補修	コア抜き	埋設 標識シート	掘削
		H型 FEP 65φ用	H型 FEP 50φ用	300*300*200	壁1000*300	床 900*350	壁 100φ	ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝｸﾛｽ ﾀﾞﾌﾞﾙ 150W	
		個	個	個	箇所	箇所	箇所	m	m3
1	材料拾い出し表	2	2	4					
2	材料拾い出し表				1	1	2		
5	複合工計算表2								1.26
6	複合工計算表3							3.40	0.78
	(1/2) ZHK (3- 1)	2	2	4	1	1	2	3.40	2.04

本郷第1雨水ﾎﾟﾝﾌﾟ場(今回)　　材　料　内　訳　表

NO	区分	土工事	同　左	同　左	配線工	基礎工	同　左	同　左	
		埋戻し	残土処理	砂充填	直線接続	鋼材据付 重量	鋼材加工	コンクリート はつり	
					CEE-S 1.25sq 2C (防水熱収縮ﾁｭｰﾌﾞ	(歩掛)	(SUS)		
		m3	m3	m3	個所	ton	kg	m3	
3	材料拾い出し表				1				
4	複合工計算表1					0.01	9.01		
5	複合工計算表2	1.14		0.12				0.14	
6	複合工計算表3	0.36	0.42	0.40					
	(2/2) ZHK (3- 2)	1.50	0.42	0.52	1	0.01	9.01	0.14	

Ｎｏ	自	至	種別・サイズ・本数	経路	合計	計　　算
3001	CC-P		600V EM-CE　3.5 sq　－　3 c	P&D	15.7	(1.0)+ 2.8 + 1.6 + 1.8 + (4.5)+ (4.0)
	ﾎﾟﾝﾌﾟ設備ｺﾝﾄﾛｰﾙｾﾝﾀ	No.1燃料移送ﾎﾟﾝﾌﾟ		RACK	15.1	0.8 + 12.0 + 2.3
				CP	12.3	0.2 + 0.4 + 0.2 + (4.0)+ 0.8 + 0.3 + 2.3 + 2.0 + 0.2 + 0.4 + 0.5 + 0.3 + (0.7)
				FEP	2.9	2.1 + 0.8
				CP		
			CP　28 mm	露出	1.5	0.5 + 0.3 + (0.7)
				埋込		
3002	CC-P		EM-IE　3.5 sq	P&D		
	ﾎﾟﾝﾌﾟ設備ｺﾝﾄﾛｰﾙｾﾝﾀ	No.1燃料移送ﾎﾟﾝﾌﾟ		RACK		
				CP	12.3	0.2 + 0.4 + 0.2 + (4.0)+ 0.8 + 0.3 + 2.3 + 2.0 + 0.2 + 0.4 + 0.5 + 0.3 + (0.7)
				FEP	2.9	2.1 + 0.8
				CP		
				露出		
				埋込		
3003	CC-P			P&D		
	ﾎﾟﾝﾌﾟ設備ｺﾝﾄﾛｰﾙｾﾝﾀ	No.1燃料移送ﾎﾟﾝﾌﾟ		RACK		
				CP		
				FEP		
				CP		
			CP　54 mm	露出	10.8	0.2 + 0.4 + 0.2 + (4.0)+ 0.8 + 0.3 + 2.3 + 2.0 + 0.2 + 0.4
				埋込		
3004	CC-P		600V EM-CE　3.5 sq　－　3 c	P&D	15.7	(1.0)+ 2.8 + 1.6 + 1.8 + (4.5)+ (4.0)
	ﾎﾟﾝﾌﾟ設備ｺﾝﾄﾛｰﾙｾﾝﾀ	No.2燃料移送ﾎﾟﾝﾌﾟ		RACK	15.1	0.8 + 12.0 + 2.3
				CP	12.8	0.2 + 0.4 + 0.2 + (4.0)+ 0.8 + 0.3 + 2.3 + 2.0 + 0.2 + 0.4 + 0.5 + 0.5 + 0.3 + (0.7)
				FEP	2.9	2.1 + 0.8
				CP		
			CP　28 mm	露出	2.0	0.5 + 0.5 + 0.3 + (0.7)
				埋込		
3005	CC-P		EM-IE　3.5 sq	P&D		
	ﾎﾟﾝﾌﾟ設備ｺﾝﾄﾛｰﾙｾﾝﾀ	No.2燃料移送ﾎﾟﾝﾌﾟ		RACK		
				CP	12.8	0.2 + 0.4 + 0.2 + (4.0)+ 0.8 + 0.3 + 2.3 + 2.0 + 0.2 + 0.4 + 0.5 + 0.5 + 0.3 + (0.7)
				FEP	2.9	2.1 + 0.8
				CP		
				露出		
				埋込		

Ｎｏ	自	至	種別・サイズ・本数	経路	合計	計　　算
3006	LCB-P08	LCB-P06	600V EM-CE　3.5 sq　－　2 c	P&D	4.0	(4.0)
	燃料移送ﾎﾟﾝﾌﾟ現場操作盤	ｸｰﾘﾝｸﾞﾀﾜｰ揚水ﾎﾟﾝﾌﾟ現場操作盤		RACK	15.1	2.3 + 12.0 + 0.8
				CP	29.2	2.1 + 0.4 + 0.5 + 0.5 + 0.4 + 0.2 + 2.0 + 2.3 + 0.3 + 0.8 + (4.0)+ 0.2 + 0.4 + 0.2 + 1.6 + 2.3 + (4.5)+ 0.7 + 5.0 + 0.8
				FEP	2.9	0.8 + 2.1
				CP		
			CP　28 mm	露出	3.5	2.1 + 0.4 + 0.5 + 0.5
				埋込		
3007	LCB-P08	LCB-P04	600V EM-CE　3.5 sq　－　2 c	P&D		
	燃料移送ﾎﾟﾝﾌﾟ現場操作盤	冷却水ﾎﾟﾝﾌﾟ現場操作盤		RACK		
				CP	13.9	2.1 + 0.4 + 0.5 + 0.5 + 0.4 + 0.2 + 2.0 + 2.3 + 0.3 + 0.8 + (4.0)+ 0.2 + 0.2
				FEP	2.9	0.8 + 2.1
				CP		
				露出		
				埋込		
3008	LCB-P08	LCB-P04	EM-IE　3.5 sq	P&D		
	燃料移送ﾎﾟﾝﾌﾟ現場操作盤	冷却水ﾎﾟﾝﾌﾟ現場操作盤		RACK		
				CP	14.3	2.1 + 0.4 + 0.5 + 0.5 + 0.4 + 0.2 + 2.0 + 2.3 + 0.3 + 0.8 + (4.0)+ 0.2 + 0.4 + 0.2
				FEP	2.9	0.8 + 2.1
				CP		
				露出		
				埋込		
3009	RY-P	LCB-P08	EM-CEE　1.25 sq　－　20 c	P&D	12.9	(1.0)+ 1.6 + 1.8 + (4.5)+ (4.0)
	ﾎﾟﾝﾌﾟ設備補助継電器盤	燃料移送ﾎﾟﾝﾌﾟ現場操作盤		RACK	15.1	0.8 + 12.0 + 2.3
				CP	14.3	0.2 + 0.4 + 0.2 + (4.0)+ 0.8 + 0.3 + 2.3 + 2.0 + 0.2 + 0.4 + 0.5 + 0.5 + 0.4 + 2.1
				FEP	2.9	2.1 + 0.8
				CP		
			CP　54 mm	露出	14.3	0.2 + 0.4 + 0.2 + (4.0)+ 0.8 + 0.3 + 2.3 + 2.0 + 0.2 + 0.4 + 0.5 + 0.5 + 0.4 + 2.1
				埋込		

Ｎｏ	自	至	種別・サイズ・本数	経路	合計	計　　算
3010	RY-P	LCB-P08	EM-CEE　1.25 sq　－　10 c	P&D	12.9	(1.0)+ 1.6 + 1.8 + (4.5)+ (4.0)
	ﾎﾟﾝﾌﾟ設備補助継電器盤	燃料移送ﾎﾟﾝﾌﾟ現場操作盤		RACK	15.1	0.8 + 12.0 + 2.3
				CP	14.3	0.2 + 0.4 + 0.2 + (4.0)+ 0.8 + 0.3 + 2.3 + 2.0 + 0.2 + 0.4 + 0.5 + 0.5 + 0.4 + 2.1
				FEP	2.9	2.1 + 0.8
				露出		
				埋込		
3011	RY-P		EM-CEE　1.25 sq　－　6 c	P&D	12.9	(1.0)+ 1.6 + 1.8 + (4.5)+ (4.0)
	ﾎﾟﾝﾌﾟ設備補助継電器盤	燃料貯蔵ﾀﾝｸ液位計変換器		RACK	15.1	0.8 + 12.0 + 2.3
				CP	6.1	0.2 + 0.4 + 0.2 + (4.0)+ 0.8 + 0.5
				FEP		
				CP		
			CP　22 mm	露出	6.1	0.2 + 0.4 + 0.2 + (4.0)+ 0.8 + 0.5
				埋込		
3012	KP		600V EM-CE　3.5 sq　－　2 c	P&D	17.6	(1.0)+ 0.5 + 3.9 + 1.9 + 1.8 + (4.5)+ (4.0)
	計装盤	燃料貯蔵ﾀﾝｸ液位計変換器		RACK	15.1	0.8 + 12.0 + 2.3
				CP	6.1	0.2 + 0.4 + 0.2 + (4.0)+ 0.8 + 0.5
				FEP		
			EM-IE　3.5 sq	CP	6.1	0.2 + 0.4 + 0.2 + (4.0)+ 0.8 + 0.5
			CP　22 mm	露出	6.1	0.2 + 0.4 + 0.2 + (4.0)+ 0.8 + 0.5
				埋込		
3013	KP		EM-CEE-S　1.25 sq　－　2 c	P&D	17.6	(1.0)+ 0.5 + 3.9 + 1.9 + 1.8 + (4.5)+ (4.0)
	計装盤	燃料貯蔵ﾀﾝｸ液位計変換器		RACK	15.1	0.8 + 12.0 + 2.3
				CP	6.1	0.2 + 0.4 + 0.2 + (4.0)+ 0.8 + 0.5
				FEP		
				CP		
			CP　22 mm	露出	6.1	0.2 + 0.4 + 0.2 + (4.0)+ 0.8 + 0.5
				埋込		
3014			EM-CEE-S　1.25 sq　－　2 c	P&D		
	燃料貯蔵ﾀﾝｸ液位計変換器	給油口ﾎﾞｯｸｽ		RACK		
				CP	1.9	0.5 + 0.3 + 1.1
				FEP		
				CP		
			CP　22 mm	露出	1.9	0.5 + 0.3 + 1.1
				埋込		

Ｎｏ	自	至	種別・サイズ・本数	経路	合計	計　　算
3015	地中埋設管路 (低圧)			P&D		
				RACK		
				CP		
				FEP		
			FEP　　50 mm	露出		
				埋込	2.9	2.1 + 0.8
3016	地中埋設管路 (低圧)			P&D		
				RACK		
				CP		
				FEP		
				CP		
			FEP　　65 mm	露出		
				埋込	2.9	2.1 + 0.8

本郷第1雨水ﾎﾟﾝﾌﾟ場(今回) (1/ 1)　　設 備 材 料 一 覧 表　　[本郷第1雨水ﾎﾟﾝﾌﾟ場]

Ｎｏ	区　　分	明 細 名	材 料 名	形　　状	単　位	数　量
1	材料拾い出し表	電線管類	プルボックス (SUS-WP)	300*300*200	個	4
1	〃	〃	異種管接続材	H型 FEP　65φ用	個	2
1	〃	〃	〃	H型 FEP　50φ用	個	2
2	〃	複合工費	コア抜き	壁 100φ	箇所	2
2	〃	〃	防火区画処理補修	壁1000*300	箇所	1
2	〃	〃	〃	床 900*350	箇所	1
3	〃	配線工	直線接続	CEE-S 1.25sq 2C (防水熱収縮ﾁｭｰﾌﾞ	個所	1
4	複合工 計算表1	基礎工	鋼材加工	(SUS)	kg	9.01
4	〃	〃	鋼材据付 重量	(歩掛)	ton	0.01
5	複合工 計算表2	〃	コンクリート はつり		m3	0.14
5	〃	土工事	掘削		m3	1.26
5	〃	〃	埋戻し		m3	1.14
5	〃	〃	砂充填		m3	0.12
6	複合工 計算表3	〃	掘削		m3	0.78
6	〃	〃	埋戻し		m3	0.36
6	〃	〃	残土処理		m3	0.42
6	〃	〃	砂充填		m3	0.40
6	〃	〃	埋設 標識シート	ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝｸﾛｽ ﾀﾞﾌﾞﾙ　150W	m	3.40

本郷第1雨水ﾎﾟﾝﾌﾟ場(今回) (1/ 1)　　(移　設)据　付　工　集　計　表　　[本郷第1雨水ﾎﾟﾝﾌﾟ場]

機 器 名 称	形　　状	単位	数量	技術者		電　工		技術者単体調整				歩　掛	機器重量(t)		備　　考
				単位工量	工量	単位工量	工量	単位工量	工量	単位工量	工量	ページ	単位重量	重量	
(LCB-P08)燃料移送 ﾎﾟﾝﾌﾟ現場操作盤	屋外ｽﾀﾝﾄﾞ形 500W*400D*800H	面	1		0.88		1.9								配電盤-3 現場操作盤6
燃料貯蔵ﾀﾝｸ 液位計変換器	変換器	台	1		0.38		1.2		0.56						検出端等 変換器類
計 (S-301)				1.26		3.1		0.56							

本郷第1雨水ﾎﾟﾝﾌﾟ場(撤去) (1/ 1)　　(再利用)据　付　工　集　計　表　　[本郷第1雨水ﾎﾟﾝﾌﾟ場]

機 器 名 称	形　　状	単位	数量	技術者		電　工		技術者単体調整				歩　掛	機器重量(t)		備　　考
				単位工量	工量	単位工量	工量	単位工量	工量	単位工量	工量	ページ	単位重量	重量	
(LCB-P08)燃料移送 ﾎﾟﾝﾌﾟ現場操作盤	屋外ｽﾀﾝﾄﾞ形 500W*400D*800H	面	1	0.88*0.6 =0.52	0.52	1.9*0.6 =1.1	1.1								配電盤-3 現場操作盤6
燃料貯蔵ﾀﾝｸ 液位計変換器	変換器	台	1	0.38*0.6 =0.22	0.22	1.2*0.6 =0.72	0.72	0.56*0.6 =0.33	0.33						検出端等 変換器類
計 (S-401)				0.74		1.82		0.33							

(撤　去) 材　料　集　計　表 － 1　　[本郷第1雨水ﾎﾟﾝﾌﾟ場]

内訳区分	600V CV				600V CV				CVV				CVV				CVV			
	3.5 sq				3.5 sq				1.25 sq				1.25 sq				1.25 sq			
	3 c				2 c				20 c				10 c				6 c			
	P&D	RACK	CP	FEP	P&D	RACK	CP	FEP	P&D	RACK	CP	FEP	P&D	RACK	CP	FEP	P&D	RACK	CP	FEP
CRK (4- 1)	31.4	30.2	16.1	8.4	22.1	30.2	36.1	15.2	12.9	15.1	6.8	6.1	12.9	15.1	6.8	6.1	12.9	15.1	7.2	
合計値　(A)	31.4	30.2	16.1	8.4	22.1	30.2	36.1	15.2	12.9	15.1	6.8	6.1	12.9	15.1	6.8	6.1	12.9	15.1	7.2	
補完率　(B)																				
(C)=(A)×(B)	31.4	30.2	16.1	8.4	22.1	30.2	36.1	15.2	12.9	15.1	6.8	6.1	12.9	15.1	6.8	6.1	12.9	15.1	7.2	
撤去数量 (D)=Σ(C)	86.1				103.6 ----> 104				40.9				40.9				35.2			
電工単位工量(E)=(E0)×K	0.006	0.010	0.008	0.007	0.005	0.008	0.006	0.006	0.020	0.030	0.025	0.022	0.011	0.017	0.014	0.013	0.008	0.012	0.010	0.009
電工量　(C)×(E)	0.18	0.30	0.12	0.05	0.11	0.24	0.21	0.09	0.25	0.45	0.17	0.13	0.14	0.25	0.09	0.07	0.10	0.18	0.07	

C- 1 / 3 (K= 0.4)　　電工量小計＝ 3.20

(撤　去) 材　料　集　計　表 － 2　　[本郷第1雨水ﾎﾟﾝﾌﾟ場]

内訳区分	CVV-S				IV															
	1.25 sq				3.5 sq															
	2 c																			
	P&D	RACK	CP	FEP	P&D	RACK	CP	FEP												
CRK (4- 2)	17.6	15.1	7.2				30.9	16.0												
合計値　(A)	17.6	15.1	7.2				30.9	16.0												
補完率　(B)																				
(C)=(A)×(B)	17.6	15.1	7.2				30.9	16.0												
撤去数量 (D)=Σ(C)	39.9				46.9															
電工単位工量(E)=(E0)×K	0.004	0.007	0.006	0.005	0.003	0.005	0.004	0.003												
電工量　(C)×(E)	0.07	0.10	0.04				0.12	0.04												

C- 2 / 3 (K= 0.4)　　電工量小計＝ 0.37

（撤　去）材　　料　　集　　計　　表　－　3　　［本郷第1雨水ﾎﾟﾝﾌﾟ場］

内訳区分	CP				CP				CP											
	54 mm				28 mm				22 mm											
	露出	埋込			露出	埋込			露出	埋込										
CRK (4- 2)	6.2				16.1				21.6											
合計値　(A)	6.2				16.1				21.6											
補完率　(B)																				
(C)=(A)×(B)	6.2				16.1				21.6											
撤去数量 (D)=(C)	6.2				16.1				21.6											
電工単位工量(E)=(E0)×K	0.10	0.088			0.048	0.040			0.038	0.032										
電工量　(C)×(E)	0.62				0.77				0.82											

C- 3 / 3 (K= 0.4)　　電工量小計＝ 2.21

（撤　去）材　　料　　集　　計　　表　－　4　　［本郷第1雨水ﾎﾟﾝﾌﾟ場］

内訳書番号	電線管類							
	プルボックス (SUS-WP)							
	300*300*200							
	個							
ZRK (4- 1)	2							
合計値　(A)	2							
撤去数量 (D)=(A)	2							
電工　使用工量 (E)=(E0)×K	0.16							
工　　量 (A)×(E)	0.32							

Z- 1 / 1　(K= 0.4)　　電工量小計=0.32

本郷第1雨水ﾎﾟﾝﾌﾟ場(撤去)　　(撤　去) 材　料　内　訳　表

	配線区間		600V CV				600V CV				CVV				CVV				CVV			
			3.5 sq				3.5 sq				1.25 sq				1.25 sq				1.25 sq			
			3 c				2 c				20 c				10 c				6 c			
NO	自	至	P&D	RACK	CP	FEP	P&D	RACK	CP	FEP	P&D	RACK	CP	FEP	P&D	RACK	CP	FEP	P&D	RACK	CP	FEP
R 4001	CC-P	No.1燃料移送ﾎ	15.7	15.1	8.3	4.2																
R 4003	CC-P	No.2燃料移送ﾎ	15.7	15.1	7.8	4.2																
R 4005	LCB-P08	LCB-P06					4.5	15.1	21.7	7.6												
R 4006	LCB-P08	LCB-P04							7.2	7.6												
R 4008	RY-P	LCB-P08									12.9	15.1	6.8	6.1								
R 4009	RY-P	LCB-P08													12.9	15.1	6.8	6.1				
R 4010	RY-P	燃料貯蔵ﾀﾝｸ液																	12.9	15.1	7.2	
R 4011	KP	燃料貯蔵ﾀﾝｸ液					17.6	15.1	7.2													
(1/2)	CRK (4- 1)		31.4	30.2	16.1	8.4	22.1	30.2	36.1	15.2	12.9	15.1	6.8	6.1	12.9	15.1	6.8	6.1	12.9	15.1	7.2	

本郷第1雨水ﾎﾟﾝﾌﾟ場(撤去)　　(撤　去) 材　料　内　訳　表

	配線区間		CVV-S				IV				CP				CP				CP			
			1.25 sq				3.5 sq				54 mm				28 mm				22 mm			
			2 c																			
NO	自	至	P&D	RACK	CP	FEP	P&D	RACK	CP	FEP	露出	埋込			露出	埋込			露出	埋込		
R 4001	CC-P	No.1燃料移送ﾎ													8.3							
R 4002	CC-P	No.1燃料移送ﾎ							8.3	4.2												
R 4003	CC-P	No.2燃料移送ﾎ													7.8							
R 4004	CC-P	No.2燃料移送ﾎ							7.8	4.2												
R 4005	LCB-P08	LCB-P06									6.2											
R 4007	LCB-P08	LCB-P04							7.6	7.6												
R 4010	RY-P	燃料貯蔵ﾀﾝｸ液																	7.2			
R 4011	KP	燃料貯蔵ﾀﾝｸ液							7.2										7.2			
R 4012	KP	燃料貯蔵ﾀﾝｸ液	17.6	15.1	7.2														7.2			
(2/2)	CRK (4- 2)		17.6	15.1	7.2				30.9	16.0	6.2				16.1				21.6			

NO	区分	電線管類 プルボックス (SUS-WP) 300*300*200 個							
R1	材料拾い出し表(撤去)	2							
	(1/1)　　ZRK (4- 1)	2							

Ｎｏ	自	至	種別・サイズ・本数	経路	合計	計　　算
R 4001	CC-P		600V CV　3.5 sq　－　3 c	P&D	15.7	(1.0)+ 2.8 + 1.6 + 1.8 + (4.5)+ (4.0)
	ﾎﾟﾝﾌﾟ設備ｺﾝﾄﾛｰﾙｾﾝﾀ	No.1燃料移送ﾎﾟﾝﾌﾟ		RACK	15.1	0.8 + 12.0 + 2.3
				CP	8.3	0.2 + 0.4 + 0.2 + (4.0)+ 0.5 + 1.5 + 0.9 + 0.5 + 0.1
				FEP	4.2	2.0 + 0.3 + 1.6 + 0.3
				CP		
			CP　28 mm	露出	8.3	0.2 + 0.4 + 0.2 + (4.0)+ 0.5 + 1.5 + 0.9 + 0.5 + 0.1
				埋込		
R 4002	CC-P		IV　3.5 sq	P&D		
	ﾎﾟﾝﾌﾟ設備ｺﾝﾄﾛｰﾙｾﾝﾀ	No.1燃料移送ﾎﾟﾝﾌﾟ		RACK		
				CP	8.3	0.2 + 0.4 + 0.2 + (4.0)+ 0.5 + 1.5 + 0.9 + 0.5 + 0.1
				FEP	4.2	2.0 + 0.3 + 1.6 + 0.3
				CP		
				露出		
				埋込		
R 4003	CC-P		600V CV　3.5 sq　－　3 c	P&D	15.7	(1.0)+ 2.8 + 1.6 + 1.8 + (4.5)+ (4.0)
	ﾎﾟﾝﾌﾟ設備ｺﾝﾄﾛｰﾙｾﾝﾀ	No.2燃料移送ﾎﾟﾝﾌﾟ		RACK	15.1	0.8 + 12.0 + 2.3
				CP	7.8	0.2 + 0.4 + 0.2 + (4.0)+ 0.5 + 1.5 + 0.9 + 0.1
				FEP	4.2	2.0 + 0.3 + 1.6 + 0.3
				CP		
			CP　28 mm	露出	7.8	0.2 + 0.4 + 0.2 + (4.0)+ 0.5 + 1.5 + 0.9 + 0.1
				埋込		
R 4004	CC-P		IV　3.5 sq	P&D		
	ﾎﾟﾝﾌﾟ設備ｺﾝﾄﾛｰﾙｾﾝﾀ	No.2燃料移送ﾎﾟﾝﾌﾟ		RACK		
				CP	7.8	0.2 + 0.4 + 0.2 + (4.0)+ 0.5 + 1.5 + 0.9 + 0.1
				FEP	4.2	2.0 + 0.3 + 1.6 + 0.3
				CP		
				露出		
				埋込		
R 4005	LCB-P08	LCB-P06	600V CV　3.5 sq　－　2 c	P&D	4.5	(4.5)
	燃料移送ﾎﾟﾝﾌﾟ現場操作盤	ｸｰﾘﾝｸﾞﾀﾜｰ揚水ﾎﾟﾝﾌﾟ現場操作盤		RACK	15.1	2.3 + 12.0 + 0.8
				CP	21.7	1.5 + 0.5 + (4.0)+ 0.2 + 0.4 + 0.2 + 1.6 + 2.3 + (4.5)+ 0.7 + 5.0 + 0.8
				FEP	7.6	0.9 + 1.3 + 1.6 + 0.3 + 2.0 + 1.5
				CP		
			CP　54 mm	露出	6.2	1.5 + 0.5 + (4.0)+ 0.2
				埋込		

Ｎｏ	自	至	種別・サイズ・本数	経路	合計	計　　算
R 4006	LCB-P08	LCB-P04	600V CV　3.5 sq　－　2 c	P&D		
	燃料移送ﾎﾟﾝﾌﾟ現場操作盤	冷却水ﾎﾟﾝﾌﾟ現場操作盤		RACK		
				CP	7.2	1.5 + 0.5 + 0.8 + (4.0)+ 0.2 + 0.2
				FEP	7.6	0.9 + 1.3 + 1.6 + 0.3 + 2.0 + 1.5
				CP		
				露出		
				埋込		
R 4007	LCB-P08	LCB-P04	IV　3.5 sq	P&D		
	燃料移送ﾎﾟﾝﾌﾟ現場操作盤	冷却水ﾎﾟﾝﾌﾟ現場操作盤		RACK		
				CP	7.6	1.5 + 0.5 + 0.8 + (4.0)+ 0.2 + 0.4 + 0.2
				FEP	7.6	0.9 + 1.3 + 1.6 + 0.3 + 2.0 + 1.5
				CP		
				露出		
				埋込		
R 4008	RY-P	LCB-P08	CVV　1.25 sq　－　20 c	P&D	12.9	(1.0)+ 1.6 + 1.8 + (4.5)+ (4.0)
	ﾎﾟﾝﾌﾟ設備補助継電器盤	燃料移送ﾎﾟﾝﾌﾟ現場操作盤		RACK	15.1	0.8 + 12.0 + 2.3
				CP	6.8	0.2 + 0.4 + 0.2 + (4.0)+ 0.5 + 1.5
				FEP	6.1	2.0 + 0.3 + 1.6 + 1.3 + 0.9
				CP		
				露出		
				埋込		
R 4009	RY-P	LCB-P08	CVV　1.25 sq　－　10 c	P&D	12.9	(1.0)+ 1.6 + 1.8 + (4.5)+ (4.0)
	ﾎﾟﾝﾌﾟ設備補助継電器盤	燃料移送ﾎﾟﾝﾌﾟ現場操作盤		RACK	15.1	0.8 + 12.0 + 2.3
				CP	6.8	0.2 + 0.4 + 0.2 + (4.0)+ 0.5 + 1.5
				FEP	6.1	2.0 + 0.3 + 1.6 + 1.3 + 0.9
				CP		
				露出		
				埋込		
R 4010	RY-P		CVV　1.25 sq　－　6 c	P&D	12.9	(1.0)+ 1.6 + 1.8 + (4.5)+ (4.0)
	ﾎﾟﾝﾌﾟ設備補助継電器盤	燃料貯蔵ﾀﾝｸ液位計変換器		RACK	15.1	0.8 + 12.0 + 2.3
				CP	7.2	0.2 + 0.4 + 0.2 + (4.0)+ 0.5 + 1.9
				FEP		
				CP		
			CP　22 mm	露出	7.2	0.2 + 0.4 + 0.2 + (4.0)+ 0.5 + 1.9
				埋込		

Ｎｏ	自	至	種別・サイズ・本数	経路	合計	計　　算
R 4011	KP		600V CV　3.5 sq　－　2 c	P&D	17.6	(1.0)+ 0.5 + 3.9 + 1.9 + 1.8 + (4.5)+ (4.0)
	計装盤	燃料貯蔵ﾀﾝｸ 液位計変換器		RACK	15.1	0.8 + 12.0 + 2.3
				CP	7.2	0.2 + 0.4 + 0.2 + (4.0)+ 0.5 + 1.9
				FEP		
			IV　3.5 sq	CP	7.2	0.2 + 0.4 + 0.2 + (4.0)+ 0.5 + 1.9
			CP　22 mm	露出	7.2	0.2 + 0.4 + 0.2 + (4.0)+ 0.5 + 1.9
				埋込		
R 4012	KP		CVV-S　1.25 sq　－　2 c	P&D	17.6	(1.0)+ 0.5 + 3.9 + 1.9 + 1.8 + (4.5)+ (4.0)
	計装盤	燃料貯蔵ﾀﾝｸ 液位計変換器		RACK	15.1	0.8 + 12.0 + 2.3
				CP	7.2	0.2 + 0.4 + 0.2 + (4.0)+ 0.5 + 1.9
				FEP		
				CP		
			CP　22 mm	露出	7.2	0.2 + 0.4 + 0.2 + (4.0)+ 0.5 + 1.9
				埋込		

本郷第1雨水ﾎﾟﾝﾌﾟ場(撤去) (1/ 1)　　設 備 材 料 一 覧 表　　[本郷第1雨水ﾎﾟﾝﾌﾟ場]

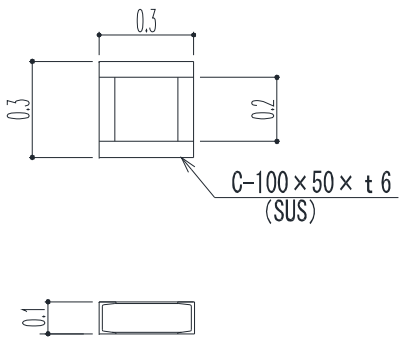
Ｎｏ	区　　分	明 細 名	材 料 名	形　　状	単　位	数　量
R1	材料拾い出し表 (撤去)	電線管類	プルボックス (SUS-WP)	300*300*200	個	2

材料拾い出し表(本郷第1雨水ﾎﾟﾝﾌﾟ場)

区分 / 品名		計	本郷第1雨水ﾎﾟﾝﾌﾟ場									
			1F	2F								
1.電線管類												
P.BOX	300□×200(WP SUS)	4 個	4									
異種管接続材	φ65	2 個	2									
〃	φ50	2 個	2									
2.複合工費												
ｺｱ抜φ100		2 箇所	2									
防火区画処理補修	壁 1000W×300H	1 箇所		1								
〃	床 900W×350H	1 箇所		1								
2.配線工												
直線接続	CEE-S 1.25sq-2c(防水性熱収縮ﾁｭｰﾌﾞ	1 組	1									

複合工計算表(本郷第1雨水ﾎﾟﾝﾌﾟ場)(1 / 3)

No.1	現場盤基礎(他設備架台上据付)	1式

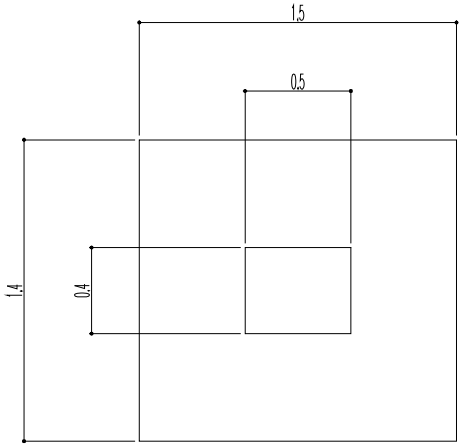


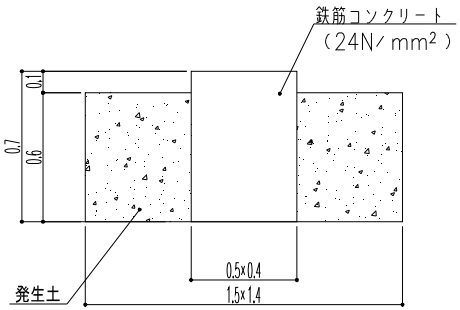
LCB-P08	燃料移送ﾎﾟﾝﾌﾟ現場操作盤

(SUS) 鋼材加工	溝形鋼 C-100×50×t6(SUS) : (9.01kg/m) L= 0.3*2+0.2*2 = 1.00 W= 1.00*9.01(kg/m) = 9.01	9.01 (kg)			
			鋼材据付重量	①/1000 9.36/1000 = 0.01	0.01 (ton)

複合工計算表(参考)(本郷第1雨水ﾎﾟﾝﾌﾟ場)(2 / 3)

No.2	現場盤基礎(撤去)	1式





LCB-P08	燃料移送ﾎﾟﾝﾌﾟ現場操作盤

コンクリートはつり	0.5*0.4*0.7 = 0.1400	0.14 (m3)			
掘削	1.5*1.4*0.6 = 1.260	1.26 (m3)			
埋戻し	1.5*1.4*0.6-0.5*0.4*0.6 = 1.140	1.14 (m3)			
砂充填	掘削-埋戻し = 1.26-1.14 = 0.120	0.12 (m3)			

複合工計算表(参考)(本郷第1雨水ﾎﾟﾝﾌﾟ場)(3 / 3)

No.3	埋設地中管路①	1式

1．条　件

1) 掘削

L：　2.3+1.1

=　　3.4 m

W：　0.528 m

H：　0.435 m

2)砂充填

H：　0.235 m

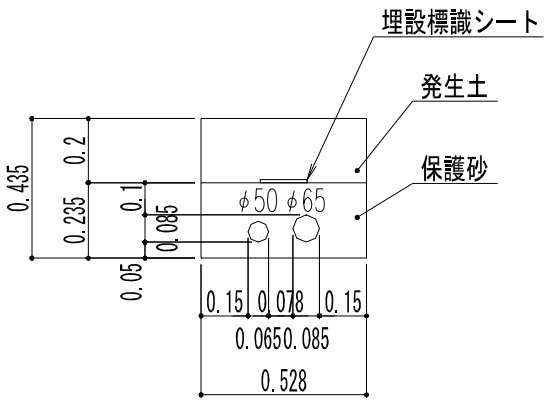
3)掘削土埋戻し

H：　0.2 m

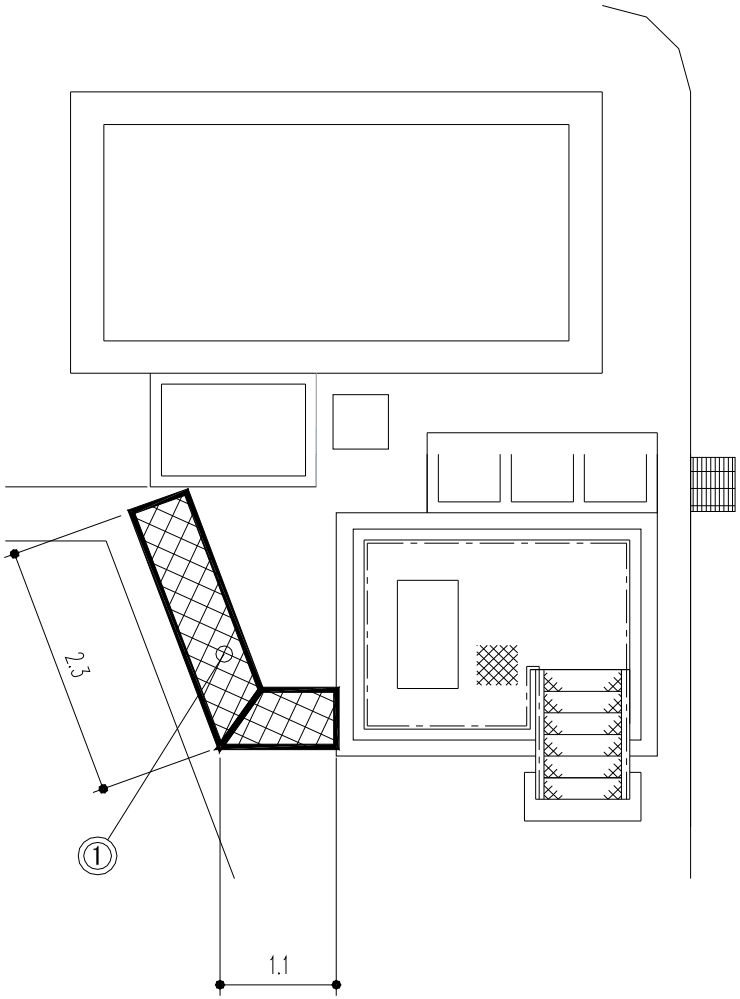
4)埋設管

管種	数量(本)	外径	断面積(m^2/本)	断面積(m^2)	体積(m^3)
FEP φ65	1	85	0.0057	0.0057	0.01938
FEP φ50	1	65	0.0033	0.0033	0.0017424
				合計体積(A)	0.0211

2．根拠図



掘削	0.528*0.435*3.4 = 0.780912	0.78 (m3)			
埋戻し	0.528*0.2*3.4 = 0.35904	0.36 (m3)			
残土処理	掘削 － 埋戻し 0.78-0.36 = 0.42	0.42 (m3)			
砂充填	(0.528*0.235*3.4) － (A) = 0.400772	0.40 (m3)			
			埋設標識シート	ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝｸﾛｽ　150W,ﾀﾞﾌﾞﾙ = 3.40	3.40 m



地中管拾い出し根拠図(参考)

スクラップ・コンクリートがら重量表

項　目	重量（Ｋｇ）							備　考
	鉄スクラップ 鉄ヘビーＨ１	鉄スクラップ 鉄ヘビーＨ２	鉄スクラップ 鉄ヘビーＨ３	非鉄スクラップ（１号銅線）		非鉄スクラップ（２号銅線）		
				ｹｰﾌﾞﾙ重量	銅重量	ｹｰﾌﾞﾙ重量	銅重量	
機器・盤類								
電　線　管		84.3						
プルボックス			5.0					
ケーブ ル・電線類 －１								
ケーブ ル・電線類 －２						258.1	29.2	
合　　計		84.3	5.0			258.1	29.2	

電　線　管

NO	名　　称	数 量 (m)	単位重量 (kg/m) 重　量		重　量 (kg) 重　量		備　　考
1	PE 82	6.2	3.907		24.2234		積算資料 G54 14.3÷3.66
2	PE 28	16.1	1.898		30.5578		積算資料 G28 6.95÷3.66
3	PE 22	21.6	1.368		29.5488		積算資料 G22 5.01÷3.66
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25	計				84.33		
	合　　計				84.3		鉄くずＨ１

ケーブ ル・電線類－２

NO	名　　称	数 量 (m)	単位重量 (kg/m) ｹｰﾌﾞﾙ重量	銅重量	重　量 (kg) ｹｰﾌﾞﾙ重量	銅重量	備　　考
1	600V CV 3.5 sq- 3 c	86.1	0.7	0.097	60.27	8.3517	積算資料 ｹｰﾌﾞﾙ：210÷300, 銅：29.3÷300
2	600V CV 3.5 sq- 2 c	104	0.4	0.036	41.6	3.744	積算資料 ｹｰﾌﾞﾙ：120÷300, 銅：11÷300
3	CVV 1.25 sq- 20 c	40.9	1.716	0.206	70.184	8.4254	積算資料 ｹｰﾌﾞﾙ：515÷300, 銅：61.8÷300
4	CVV 1.25 sq- 10 c	40.9	1.033	0.103	42.25	4.2127	積算資料 ｹｰﾌﾞﾙ：310÷300, 銅：30.9÷300
5	CVV 1.25 sq- 6 c	35.2	0.666	0.061	23.443	2.1472	積算資料 ｹｰﾌﾞﾙ：200÷300, 銅：18.5÷300
6	CVV-S 1.25 sq- 2 c	39.9	0.333	0.02	13.287	0.798	積算資料 ｹｰﾌﾞﾙ：100÷300, 銅：6.2÷300
7	IV 3.5 sq	46.9	0.15	0.032	7.035	1.5008	積算資料 ｹｰﾌﾞﾙ：45÷300, 銅：9.6÷300
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25	計				258.069	29.1798	
	合　　計				258.1	29.2	２号銅線くず

コンクリートがら

NO	名　　称	数 量 (個)	単位重量 (kg/個) 重　量		重　量 (kg) 重　量		備　　考
1	300×300×200H(SUS-WP)	1	4.998		4.998		板厚：1.5mm, 11.90kg/m2 0.3*0.3*2+0.3*0.2*4=0.42m2/個
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25	計				4.998		
	合　　計				5.0		コンクリートがら

総括情報表

変更回数 適用単価地区 単価適用日 諸経費体系	0 65 三原市(本郷) 00-06.05.01(0) G 下水道電気設備	≪凡例≫ Co ･･･コンクリート　As ･･･アスファルト DT ･･･ダンプトラック　BH ･･･バックホウ CC ･･･クローラクレーン　TC ･･･トラッククレーン RTC･･･ラフテレーンクレーン

	当世代	前世代
復興係数区分 前払金支出割合区分 週休補正区分 契約保証区分	00 補正なし 00 補正無し 03 ４週８休以上 01 金銭的保証(0.04%)	

建設技能労働者や交通誘導員等の現場労働者にかかる経費として，労務費のほか各種経費（法定福利費の事業者負担額，労務管理費，安全訓練等に要する費用等）が必要であり，本積算ではこれらを現場管理費等の一部として率計上している。

本工事費　内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
本工事費					X1000
設備工	1	式			Y1900G　レベル1
電気設備工	1	式			Y29001G　レベル2
材料費	1	式			Y390012G　レベル3
直接材料費	1	式			Y49001201G　レベル4
低圧ケーブル	1	式			V0001　00 単第0 -0001　表
制御ケーブル	1	式			V0002　00 単第0 -0002　表
その他電線	1	式			V0003　00 単第0 -0003　表
電線管類	1	式			V0004　00 単第0 -0004　表

本工事費　内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
補助材料費	1	式			Y49001202G レベル4
補助材料費（率分）	1	式			SY49202G 00 電気設備 単第0 -0005 表
労務費	1	式			Y390013G レベル3
一般労務費	1	式			Y49001301G レベル4
電工	1	式			V0005 00 単第0 -0006 表
技術労務費	1	式			Y49001302G レベル4
技術者（据付）	1	式			V0006 00 単第0 -0007 表
技術者（単体調整）	1	式			V0007 00 単第0 -0008 表
複合工費	1	式			Y390014G レベル3

本工事費　内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
防火区画処理補修工	1	式			Y49001401G レベル4
防火区画処理補修	1	式			V0008 00 単第0 -0009 表
削孔工	1	式			Y49001402G レベル4
コンクリート削孔(コンクリート穿孔機) 削孔径100mm以上110mm未満 削孔深さ200mm以上400mm以下	2	箇所			SPK23040120 00 単第0 -0010 表
土工	1	式			Y49001403G レベル4
埋設標識シート ポリエチレンクロスダブル150W	3.57	m			V0009 00 単第0 -0011 表
機械掘削工(小型バックホウ)	2.04	m3			SG1D0001001 00 単第0 -0012 表
機械投入埋戻工(小型バックホウ)	1.5	m3			SG1D0002002 00 単第0 -0014 表
砂基礎工(機械施工)	0.52	m3			SG1D0019002 00 単第0 -0016 表

本工事費　内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
再生砂	0.65	m3			T0249　　00
基礎工	1	式			Y49001404G レベル4
鋼材据付工	1	式			V000000100　00 単第0 -0017　表
構造物とりこわし工(無筋構造物) 人力施工	0.14	m3			SDT00031　　00 単第0 -0018　表
＊＊直接工事費＊＊					
共通仮設費率分					Z0010
計算情報…… 対象額…… 率……					対象額合計…
＊＊共通仮設費＊＊					
＊＊純工事費＊＊					

本工事費　内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
現場管理費 計算情報…… 対象額…… 率……					対象額合計…
＊＊据付工事原価＊＊					
設計技術費 計算情報…… 対象額…… 率……					対象額合計…
＊＊工事原価＊＊					
一般管理費率分額 計算情報…… 対象額…… 率……					前払補正率… 対象額合計…
契約保証費 計算情報…… 対象額…… 率……					当初請対額 当初対象額
＊＊一般管理費計＊＊					
＊＊工事価格計＊＊					
消費税相当額 計算情報…… 対象額…… 率……					

本工事費　内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
＊＊請負工事費計＊＊					

施工単価表

低圧ケーブル　　V0001　　単第0 -0001　表

1　式　当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
低圧ケーブル 600V　EM-CE3.5sq-3c	92.5	m			
低圧ケーブル 600V　EM-CE3.5sq-2c	107	m			
雑材料	1.5	%			#01
＊＊＊　単位当たり　＊＊＊	1	式			

施工単価表

制御ケーブル　　V0002　　単第0 -0002　表

1　式　当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
制御ケーブル EM-CEE1.25sq-20c	45.2	m			
制御ケーブル EM-CEE1.25sq-10c	45.2	m			
制御ケーブル 600V　EM-CEE1.25sq-6c	34.1	m			
制御ケーブル EM-CEE1.25sq-2c	40.7	m			
雑材料	1.5	%			#01
＊＊＊　単位当たり　＊＊＊	1	式			

施工単価表

その他電線　　V0003　　単第0 -0003　表

1　式　当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
その他電線 EM-IE3.5sq	54.2	m			
雑材料	1.5	%			#01
＊＊＊　単位当たり　＊＊＊	1	式			

施工単価表

電線管類　　V0004　　単第0 -0004　表

1　式　当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
電線管類 FEP65mm（埋込）	2.9	m			
電線管類 FEP50mm（埋込）	2.9	m			
電線管類 CP 54 mm（露出）	25.1	m			
電線管類 CP 28 mm（露出）	7	m			
電線管類 CP 22 mm（露出）	20.2	m			
電線管類 異種管接続材 H型FEP　65φ用	2	個			
電線管類 異種管接続材 H型FEP 50φ用	2	個			
電線管類 プルボックス（SUS-WP）300*300*200	4	個			
雑材料	1.75	%			#02
＊＊＊　単位当たり　＊＊＊	1	式			

施工単価表

補助材料費（率分）　SY49202G　単第0 -0005　表

電気設備　1　式　当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
補助材料費（率分）	1.00	式			
＊＊＊　単位当たり　＊＊＊	1	式			

施工単価表

電工　　V0005　　単第0 -0006　表

1　式　当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
電工	32	人			
＊＊＊　単位当たり　＊＊＊	1	式			

施工単価表

技術者（据付）　V0006　単第0 -0007　表

1　式　当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
電気通信技術者	2	人			
＊＊＊　単位当たり　＊＊＊	1	式			

施工単価表

技術者（単体調整）　V0007　単第0 -0008　表

1　式　当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
電気通信技術者	1	人			
＊＊＊　単位当たり　＊＊＊	1	式			

施工単価表

防火区画処理補修　　V0008　　単第0 -0009　表

1　式　当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
防火区画処理補修 壁1000*300	1	箇所			
防火区画処理補修 床900*350	1	箇所			
＊＊＊　単位当たり　＊＊＊	1	式			

施工単価表

コンクリート削孔(コンクリート穿孔機)　SPK23040120　単第0 -0010　表

削孔径100mm以上110mm未満　削孔深さ200mm以上400mm以下　1　箇所　当り

機械構成比:　3.26%　労務構成比:　63.51%　材料構成比:　33.23%　市場単価構成比:　0.00%　標準単価 :　6,488.00000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
コンクリート穿孔機 電動式コアボーリングマシン 簡易仕様型最大穿孔径φ25cm	1.71%		コンクリート穿孔機 電動式コアボーリングマシン 簡易仕様型最大穿孔径φ25cm		MTPC00093 MTPT00093
<賃>発動発電機(ガソリン発電機) 定格容量3kVA 低騒音	1.01%		<賃>発動発電機(ガソリン発電機) 定格容量3kVA 低騒音		KTPC00042 KTPT00042
その他(機械)			その他(機械)		EK009
特殊作業員	38.08%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
普通作業員	9.96%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
土木一般世話役	4.90%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
その他(労務)			その他(労務)		ER009
ダイヤモンドビット 外径110.0mm,一般用 コンクリート削孔用	29.83%		ダイヤモンドビット φ110mm		TTPC00235 TTPT00235
ガソリン,レギュラー スタンド渡し,スタンド給油	2.84%		ガソリンレギュラースタンド		TTPC00014 TTPT00014

施工単価表

コンクリート削孔(コンクリート穿孔機)　SPK23040120　単第0 -0010　表

削孔径100mm以上110mm未満　削孔深さ200mm以上400mm以下　1　箇所　当り

機械構成比:　3.26%　労務構成比:　63.51%　材料構成比:　33.23%　市場単価構成比:　0.00%　標準単価 :　6,488.00000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
その他(材料)			その他(材料)		EZ009
積算単価			積算単価		EP001
A=5　削孔径100mm以上110mm未満			B=6　削孔深さ200mm以上400mm以下		

施工単価表

埋設標識シート　V0009　単第0 -0011　表

ポリエチレンクロスダブル150W　50　m　当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
埋設標識シート 　ポリエチレンクロス　150*50　2倍	1	巻			
＊＊＊　合計　＊＊＊	50	m			
＊＊＊　単位当たり　＊＊＊	1	m			

施工単価表

機械掘削工(小型バックホウ)　SG1D0001001　単第0 -0012　表

1　m3　当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役	2.4	人			
普通作業員	6.7	人			
機-18_小型バックホウ運転 113_標準型 排2 山積0.13m3(平積0.10m3)	2.273	日			単第0-0013　表 100/44
諸雑費	1	式			
1m3当り(計/100m3)					
＊＊＊　単位当たり　＊＊＊	1	m3			
A=2　山積0.13m3					

施工単価表

機-18_小型バックホウ運転　SM1802010　単第0 -0013　表

113_標準型 排2　山積0.13m3(平積0.10m3)　1　日　当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
運転手(特殊)	1.00	人			
軽油 パトロール給油,2～4KL積載車給油	23.00	L			
小型バックホウ(クローラ型) 標準型・排2 山積0.13/平積0.10m3	1.78	供用日			
諸雑費	1	式			
＊＊＊　単位当たり　＊＊＊	1	日			
A=3　113_標準型 排2 C=1　運転労務数量(人/日) E=1.78　機械損料数量(供用日/日)			B=13　山積0.13m3(平積0.10m3) D=23　燃料消費量(L/日)		

施工単価表

機械投入埋戻工(小型バックホウ)　SG1D0002002　単第0 -0014　表

1　m3　当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役	2.5	人			
普通作業員	3.8	人			
機-18_小型バックホウ運転 113_標準型 排2 山積0.13m3(平積0.10m3)	1.538	日			単第0-0013　表 100/65
タンパ締固め	100	m3			単第0-0015　表
諸雑費	1	式			
1m3当り(計/100m3)					
＊＊＊　単位当たり　＊＊＊	1	m3			
A=2　山積0.13m3			B=6　材料別途		

施工単価表

タンパ締固め　　SPK23040021　　単第0 -0015　表

1　m3　当り

機械構成比:　1.31%　労務構成比:　96.83%　材料構成比:　1.86%　市場単価構成比:　0.00%　標準単価 :　1,487.20000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
<賃>タンパ(ランマ) 質量60～80kg	1.31%		タンパ及びランマ 質量60～80kg		KTPC00020 KTPT00020
特殊作業員	51.85%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
普通作業員	44.98%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
ガソリン,レギュラー スタンド渡し,スタンド給油	1.86%		ガソリンレギュラースタンド		TTPC00014 TTPT00014
積算単価			積算単価		EP001
A=1　-(全ての費用)					

施工単価表

砂基礎工(機械施工)　　SG1D0019002　　単第0 -0016　表

1　m3　当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
砂基礎設置【手間のみ】 機械施工	1	m3			
＊＊＊　単位当たり　＊＊＊	1	m3			
A=3　材料別途 F=1　-			D=2　[規]10m3未満		

施工単価表

鋼材据付工　　V000000100　　単第0 -0017　表

1　式　当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
設備機械工	0.049	人			
鋼材（SUS） C-100*50*t6	1	式			
＊＊＊　単位当たり　＊＊＊	1	式			

施工単価表

構造物とりこわし工(無筋構造物)　SDT00031　単第0 -0018　表

人力施工　1　m3　当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
昼間_無筋構造物【手間のみ】 人力施工 時間的制約なし	1.000	m3			
諸雑費	1	式			
＊＊＊　単位当たり　＊＊＊	1	m3			
A=1　昼間施工 D=1　時間的制約なし			B=2　人力施工		